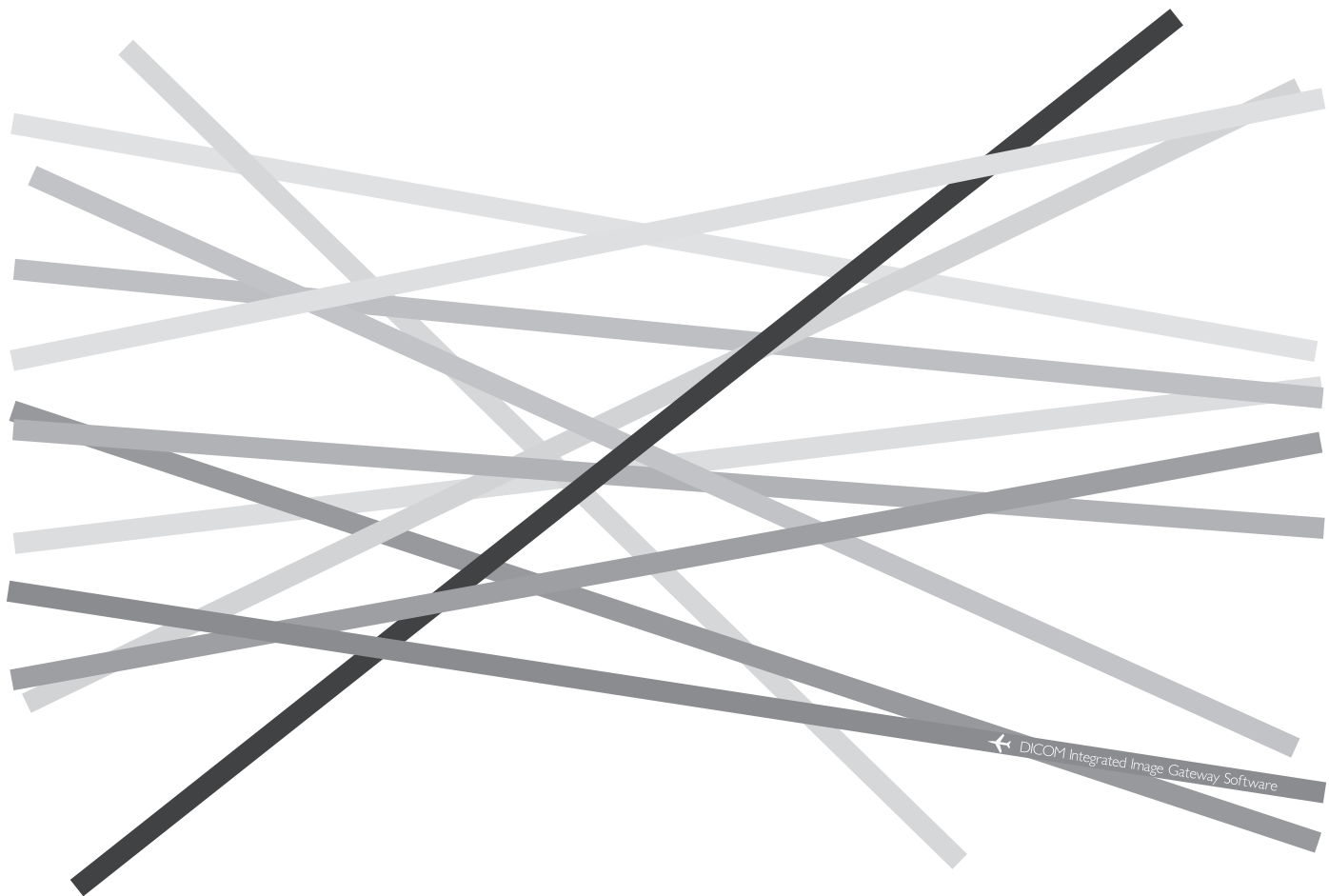
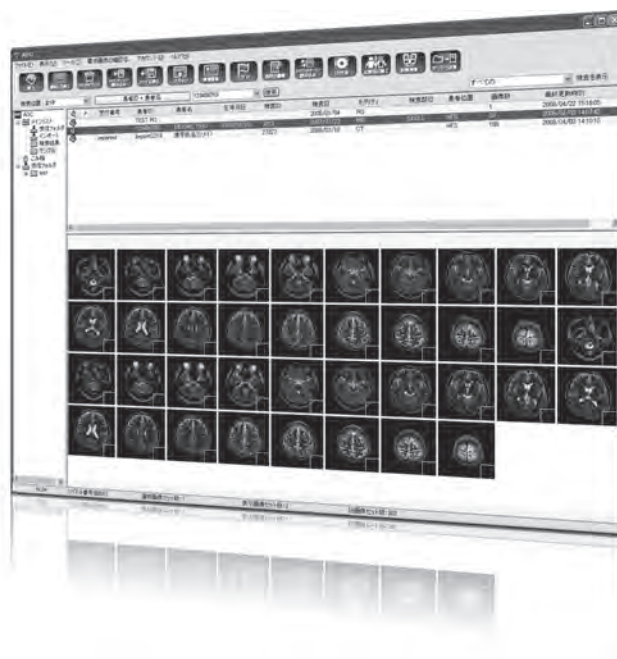


Array AOC 1.5 ユーザーズガイド



DICOM Integrated Image Gateway Software

DICOM
Integrated Image Gateway Software



© Array Corporation 2001-2017 All rights reserved. Printed in Japan.

RIMAGEは米国におけるRimage Corporationの商標です。
EPSON®、Disc Producer™はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。
Primeraは米国におけるPrimera Technology, Inc.の商標です。

このガイドに記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

このガイドは情報の提供を目的として作成されています。正確に記述するよう努めましたが、製品がすべての点で、ここに述べられたとおり動作することを保証するものではありません。また、製品の仕様や機能は予告なしに変更する場合があります。

1.5.203-02J February.2017

このガイドで使われているアイコン



注意：

正しく安全に使うために気をつけるポイントについて説明しています。



参考：

本文の内容の補足事項や便利な使いかたなどについて説明しています。



参照：

本文や参考で説明されている内容の詳細や、関連する操作の章・節が掲載されています。

目次

第1章	はじめに.....	1
1.1	AOCとは・AOCでできること.....	2
1.2	AOCのオプション.....	3
1.3	システム構成.....	4
第2章	起動と終了.....	5
2.1	AOCの起動.....	6
2.2	AOCの終了.....	6
第3章	基本操作.....	7
3.1	画像を大きく表示させる(ビューする).....	8
3.2	画像をプリントする.....	9
3.3	画像をDICOMイメージサーバーに送信する.....	10
3.4	検査情報(DICOM属性)を編集する.....	11
3.4.1	画像セットや画像の検査情報(DICOM属性)を編集する.....	11
3.4.2	他の画像セットの検査情報(DICOM属性)をコピーして貼り付ける.....	14
3.4.3	DICOMワークリストサーバーに検査の情報を問い合わせる(ワークリストオプション).....	14
3.5	画像ファイルを読み込む.....	16
3.6	DICOMファイルを書き出す.....	18
3.7	バックアップを作成する.....	19
3.8	ビューワつきCD/DVDを作成する(CD/DVD書き出しオプション).....	20
第4章	画像セットの操作・リストウィンドウ.....	21
4.1	リストウィンドウの構成.....	22
4.1.1	フォルダエリア(画像セットの管理エリア).....	22
4.1.2	リストエリア(画像セットの操作エリア).....	23
4.1.3	プレビューエリア(画像の操作エリア).....	23
4.1.4	ツールバー.....	23
4.1.5	検索バー.....	24
4.1.6	フィルタ.....	24
4.2	フォルダ.....	25
4.2.1	フォルダの中身を表示する.....	25
4.2.2	新規フォルダを作成する/名前を変更する.....	25
4.2.3	画像セットをフォルダごとに分類する.....	26
4.2.4	フォルダを移動する.....	27
4.3	リスト.....	28
4.3.1	リストを並べ替える.....	28
4.3.2	リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する.....	28
4.3.3	ある日付(範囲)の検査だけ見えるように設定する(フィルタ表示).....	30
4.4	画像セット.....	31
4.4.1	空の画像セットを新規作成する.....	31
4.4.2	画像セットに画像を追加する.....	31
4.4.3	画像セットをコピー(複製)する.....	32

4.4.4	画像セットを分割する.....	32
4.4.5	画像セットを結合する.....	33
4.4.6	画像セットを手動削除する.....	34
4.4.7	画像セットから画像を削除する.....	36
4.4.8	画像セットに説明文を付ける.....	37
4.4.9	フラグ(目印)を付ける.....	37
4.4.10	操作したことにする/未操作に戻す(操作・未操作のステータスを変更する).....	38
4.5	画像の選択.....	40
4.6	画像セットを検索する.....	41
4.6.1	キーボードのキーを押して検索する(ワンキーサーチ).....	41
4.6.2	画像セットの検査情報で簡単に検索する(簡易検索).....	42
4.6.3	検索バーで検索する(検索バー).....	43
4.6.4	条件を詳しく設定して検索する(詳細検索).....	44
4.7	検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション).....	48
4.7.1	「DICOM属性編集」の項目設定.....	48
4.7.2	画像セットや画像の検査情報(DICOM属性)を編集する.....	52
4.7.3	他の画像セットの検査情報(DICOM属性)をコピーして貼り付ける.....	56
4.7.4	DICOMワークリストサーバーに検査の情報を問い合わせる(ワークリストオプション).....	56
第5章	ビューワ(AOC View)の概要・基本操作.....	59
5.1	画像を開く.....	60
5.2	複数の画像セットを一緒に開く(連結して開く).....	60
5.3	複数の画像を開いて比較する(ビューポート).....	61
5.3.1	比較画像の表示位置の設定.....	62
5.3.2	ビューポートの連動.....	62
5.4	ビューワの概要.....	63
5.4.1	ツールバー.....	64
5.4.2	インフォメーションパレット.....	64
5.4.3	タイムライン.....	65
5.4.4	オーバービューウィンドウ.....	65
5.4.5	スカウト画像ウィンドウ.....	66
5.4.6	ビューエリア.....	66
5.4.7	サムネイルエリア.....	66
5.4.8	セレクトエリア.....	66
5.5	画像のなかのある領域を選択する・切り抜く.....	67
5.5.1	画像のなかのある領域を選択する(「領域指定」「全体を指定」).....	67
5.5.2	選択した領域を解除する(「領域解除」ボタン).....	67
5.5.3	画像の一部を切り抜く(「切り抜き」ボタン).....	68
5.6	画像の移動・拡大・縮小.....	68
5.6.1	画像を移動する.....	68
5.6.2	画像を拡大・縮小する.....	69
5.7	画像の明るさ・コントラスト(トーン)を変える.....	71
5.7.1	明るさ(Center値)とコントラスト(Width値)を変更する.....	71

5.7.2	トーンをS字にカーブさせる(β 値)	71
5.7.3	γ 値・ γ カーブを変更する	72
5.7.4	トーンカーブを変更する・白黒反転する	72
5.7.5	よく使うトーンカーブを登録する・適用する(「トーン1」から「トーン6」ボタン)	73
5.7.6	開いたときの表示状態に戻す(「リセット」ボタン)	74
5.8	操作する画像を選ぶ・他の画像も一緒に操作する(連動)	74
5.8.1	画像を選択する	74
5.8.2	複数の画像を選択する	74
5.8.3	すべての画像を選択する	75
5.8.4	選択を解除する	75
5.8.5	他の画像も一緒に操作する(「連動」ボタン)	75
5.8.6	連動の操作対象の設定	75
5.9	ビューワの表示設定	76
5.9.1	画像の表示コマ数を変える	76
5.9.2	画像の並び順を変える(ソート)	76
5.9.3	検査情報(DICOM属性) やスケールの表示・非表示を切り替える	77
5.9.4	画像の補間表示方法やビューワの表示設定を変える	77
5.10	タイムラインを使う	79
5.10.1	画像の経過をアイコンで確認する	79
5.10.2	検査日の異なる画像セットを比較する	79
5.11	ビューワを閉じる	80
5.10.3	タイムライン表示の設定をする	80
第6章	ビューワ(AOC View) の機能詳細	81
6.1	画像を分析する・アノテーション	82
6.1.1	画像を回転・反転する(「右回転」「左回転」「左右反転」「上下反転」ボタン)	82
6.1.2	長さを測る(「距離」「曲線の長さ」ボタン)	83
6.1.3	角度を測る(「3点角度」「4点角度」ボタン)	84
6.1.4	面積を測る(「多角形面積」「閉曲線面積」ボタン)	85
6.1.5	長さの比を測る(「長さの比」「心胸郭比」ボタン)	86
6.1.6	矢印を作成する(「矢印」ボタン)	88
6.1.7	注釈つき矢印を作成する(「矢印+文字」ボタン)	88
6.1.8	オブジェクトを表示する/一時的に見えなくする(「注釈表示」ボタン)	88
6.1.9	注釈などのオブジェクトを消す(「注釈削除」ボタン)	88
6.1.10	文字や数値をコピーする・書き出す	89
6.1.11	対象領域の濃淡の変化をグラフで表示する(水平プロファイル・垂直プロファイル)	90
6.1.12	画像・動画をシネ表示する(「シネ再生」ボタン)	90
6.1.13	簡易シネ表示	91
6.1.14	複数枚の画像を貼り合わせる(スティッチング)	92
6.2	計測の基準となる長さの設定	95
6.3	マルチスライス画像を見る・スカウト画像	95
6.3.1	スカウト画像の設定	95
6.3.2	シリーズ画像をシネ表示する	96

6.4	ツールバーを編集する.....	96
6.5	特別な画像にしるしを付ける(キー画像の設定).....	97
第7章	画像データの送受信(DICOMイメージサーバーとの接続).....	99
7.1	DICOMイメージサーバーから画像データを受信する(Query/Retrieve).....	100
7.2	画像データをDICOMイメージサーバーに送信する.....	102
7.2.1	画像データを送信する.....	102
7.2.2	検査情報(DICOM属性)を編集して送信する.....	104
7.2.3	フォルダ内の画像セットをすべて送信する(一括送信).....	105
7.2.4	送信に失敗したデータを再送信する・削除する.....	106
第8章	画像ファイルの読み込み/書き出し.....	109
8.1	画像ファイルを読み込む.....	110
8.1.1	メディアインポーター機能オプションをご利用の場合.....	110
8.1.2	Preludioオプションをご利用の場合.....	112
8.1.3	どちらのオプションもご利用でない場合.....	118
8.1.4	オプションに関係なく使用できる方法.....	119
8.2	画像ファイルを書き出す.....	120
8.2.1	リストウィンドウからDICOMファイルを書き出す.....	120
8.2.2	ビューワから書き出す.....	121
第9章	ビューワつきCD/DVDの作成.....	123
9.1	ビューワつきCD/DVDを作成する.....	124
9.1.1	登録されている画像データをCD/DVDに書き込む.....	124
9.1.2	検索した画像データをCD/DVDに書き込む.....	127
9.1.3	受信した画像データをCD/DVDに書き込む.....	128
9.2	CD/DVD作成の設定.....	130
9.2.1	CD/DVD書き込みの設定を登録する.....	130
9.2.2	自動書き込みの設定をする.....	134
9.2.3	ラベル印刷の設定をする.....	135
9.2.4	Rimageの設定をする.....	136
9.2.5	エプソン Disc producerの設定をする.....	137
9.2.6	その他の設定をする.....	139
9.2.7	レポート連携の設定をする.....	141
9.2.8	Primeraの設定をする.....	142
9.3	CD/DVDに書き込まれた画像を見る.....	143
9.3.1	専用ビューワで見る.....	143
9.3.2	Webブラウザで見る.....	145
9.3.3	レポートを見る.....	146
9.3.4	終了する.....	147
第10章	画像のプリント.....	149
10.1	画像のDICOMプリント.....	150

10.1.1	リストウィンドウからプリントする	150
10.1.2	ビューワからプリントする	154
10.2	画像のWindowsプリント	156
10.2.1	リストウィンドウからプリントする	156
10.2.2	ビューワからプリントする	159
第11章	データのバックアップ/復元	161
11.1	AOC内のバックアップを行う	162
11.1.1	バックアップの種類と手順	162
11.2	バックアップをもとにAOC内のデータを復元する(リストア)	165
第12章	エクスポートとインポート	167
12.1	画像セットを関連情報と一緒に保存する(エクスポート)	168
12.1.1	エクスポートとは	168
12.1.2	エクスポートの手順	168
12.2	画像セットを関連情報と一緒に読み込む(インポート)	170
12.2.1	インポートとは	170
12.2.2	インポートの手順	170
第13章	ユーザー認証・セキュリティの管理	173
13.1	ユーザー認証・アカウントを管理する	174
13.1.1	ユーザーを追加する	174
13.1.2	ユーザー情報を変更する(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)	175
13.1.3	ユーザーを削除する(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)	176
13.1.4	自分のパスワードを変更する(全ユーザー)	176
13.1.5	ユーザー認証を使用する/使用しない(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)	177
13.2	操作ログを表示する	178
第14章	DICOMデータの受信(Storage SCPオプション)	179
第15章	AOC Server (オプション)	181
15.1	AOC Serverが動作するコンピュータの設定	182
15.1.1	ユーザーの登録	182
15.1.2	データベースフォルダの共有の設定	184
15.2	クライアントのAOCの設定	187
15.3	画像を手動で取得する(クライアント)	190
15.4	画像データが自動取得で要求された場合	190
付録A	インストール・更新・アンインストール	191
A.1	AOCのインストール	192
A.1.1	ハードウェアキー (タイプA) でのインストール	192
A.1.2	ハードウェアキー (タイプB) でのインストール	193
A.2	AOCの更新	195

A.3	AOCのアンインストール.....	196
付録B	各種設定	197
B.1	DICOM通信の設定.....	198
B.1.1	プリントサーバーの設定.....	199
B.1.2	イメージサーバーの設定	203
B.1.3	ワークリストサーバーの設定(オプション)	206
B.1.4	Q/R SCPの設定(オプション)	208
B.1.5	AOCのStorage SCP設定(オプション)	210
B.1.6	MPPSの設定(オプション)	212
B.1.7	AOCのクライアント設定	214
B.2	画像データの管理設定	215
B.2.1	「DICOM属性編集」の項目設定.....	215
B.2.2	画像のまとめかたを選択する	219
B.2.3	氏名の表記法の設定.....	220
B.2.4	終了時にごみ箱の画像セットを削除する	221
B.2.5	ある条件で自動的にデータを消す(自動削除)	222
B.2.6	消したデータを自動的に読み込む(自動取得)	224
B.3	Preludioの設定	226
B.3.1	読み込みに使用するドライブやフォルダの設定	226
B.3.2	非DICOM画像の読み込み処理の設定	228
B.3.3	患者情報の設定.....	230
B.3.4	ワークリストサーバーの設定.....	232
B.3.5	PDSの設定	234
B.3.6	送信の設定.....	236
B.3.7	動作と画面表示の設定	239
B.4	その他の設定.....	240
B.4.1	よく使う機能をファンクションキーに登録する	240
B.4.2	モダリティタイプごとに、プリントやビューワで画像を開くときの初期設定を登録する	242
B.4.3	作業用ディレクトリの設定	247
B.4.4	スキヤンの設定	248
B.4.5	Windowsプリンタの設定	248
B.4.6	ログファイルの保存.....	249
付録C	CD/DVD作成ログの参照・書き出し	251
付録D	リストの書き出し・印刷	257
付録E	用語解説.....	261
付録F	エラーコード表.....	265
付録G	索引.....	269

エンドユーザーソフトウェア使用許諾契約書

本製品をご使用になる前に必ずこの契約書をよくお読みください。この契約書はお客様とアレイ株式会社(以下アレイと表記します)との間で、本製品をお客様がご使用になる場合の条件を規定するものです。お客様が本製品を使用した場合、この契約書のすべての条項に同意されたものとさせていただきます。下記の条項に同意されない場合は、本製品を使用することはできません。

1 定義

- 1.1 「本ソフトウェア」とは、本製品に含まれるアプリケーションプログラム(実行ファイル、ライブラリ等) およびその実行に使用する設定ファイル、データファイル、画像ファイル、文書ファイルなどを意味します。またこれらのソフトウェアがアップデートされた場合、アップデート後の各ファイル、追加されたファイルなどを含みます。
- 1.2 「本ソフトウェアの使用」とは、本ソフトウェアのインストール、起動、ファイルへのアクセスなどを行い、本ソフトウェアの機能を利用することをいいます。

2 使用条件

お客様は本ソフトウェアをコンピューター 1台でのみ使用することができます。

3 権利の制限

- 3.1 お客様は本ソフトウェアを貸与、レンタル、リース、再配布、再使用許諾などを行うことはできません。
- 3.2 お客様は本ソフトウェアに関する本契約にもとづくお客様の権利は第三者に譲渡することはできません。
- 3.3 お客様は本ソフトウェアについて、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、また他の方法でソースコードやアルゴリズムを解明しようと試みることはできません。
- 3.4 お客様は、本ソフトウェアを変更、修正、改変、翻訳、その他本ソフトウェアの内容または構成などが変化する可能性のある行為はできません。また本ソフトウェアをもとにした二次的著作物の作成を行うことはできません。

4 コピーの禁止

お客様は、本ソフトウェアのコピーを作成したり、保管したり、第三者に譲渡することはできません。またお客様は、本製品の全部または一部を第三者に容易にコピーされる可能性がある状態に置くことはできません。

5 権利の帰属

5.1 本ソフトウェアの一部に、第三者が著作権、知的財産権、所有権を持つソフトウェアが含まれることがありますが、それ以外の部分について、アレイは本ソフトウェアに関する著作権、その他の一切の知的財産権および所有権を有しています。

5.2 本ソフトウェアの内部仕様、構造、コードはアレイおよび著作権を保有する各社の業務上の重要な機密事項にあたります。

6 サポート

アレイは本ソフトウェアに関してお客様のご購入後1年間、webサイト経由でのお問い合わせに回答するサポートを提供します。ただし、この期間のすべてのお問い合わせに回答することを約束するものではありません。

7 保証範囲

7.1 アレイは、お客様が本ソフトウェアをアレイが指定した環境、方法で使用した場合、本製品ご購入日から60日間、実質的な意味でユーザーズガイドに従って動作することを保証します。実質的な意味でユーザーズガイドに従って動作しない場合、ご購入後60日間に限り、アレイの判断により本製品の修正、交換または返品のいずれかに応じます。ただしその場合には、本製品のご購入日とご購入金額を証明する書類の提示が必要です。また本製品を返品した場合、お客様は本ソフトウェアをコンピューターから完全にアンインストールし、また本製品を完全に廃棄しなくてはなりません。

7.2 アレイは、本ソフトウェアが第三者の権利を侵害していないこと、本ソフトウェアが特定の目的に適合すること、本ソフトウェアが商品性を有することについて、一切の保証をいたしません。

7.3 アレイは、本製品に関して、本契約書で定めた保証を除き、その他の一切の保証をいたしません。

8 責任の制限

8.1 本ソフトウェアは現状有姿の状態でお客様に提供されます。アレイは本ソフトウェアの仕様、性能に関して瑕疵担保責任を負いません。

8.2 アレイは、本ソフトウェアのご使用および本契約に起因する、または関連する付随的損害および逸失利益について一切の責任を負いません。損害の発生の可能性についてアレイが事前に認識していた場合も同様とします。

8.3 アレイは、本ソフトウェアの使用に関連して、お客様に直接的または間接的に発生する一切の損害(ハードウェア、他のソフトウェアやコンピューターシステムの破損、不具合の発生等を含みます)および第三者からの請求について、一切の責任を負いません。

9 使用環境の整備

9.1 お客様は、本ソフトウェアを適切に使用するために必要なコンピューターやオペレーティングシステムなどの環境を、自らの責任と負担で整備しなければなりません。

9.2 アレイは、お客様が整備した環境と本ソフトウェアの整合性について一切保証いたしません。

10 準拠法および雑則

10.1 本契約は日本国法を準拠法とします。お客様は本製品を日本国の輸出管理法、その他の関連法令・規則で禁止されている国へ持ち出し、送信、輸出することはできません。また、本製品を日本国の法令で禁止されている状態で使用することはできません。

10.2 アレイの理事が署名した書面によってアレイが同意しない限り、本契約条項のいかなる変更もできません。ただし、アレイが本製品ソフトウェアのアップデート製品をお客様に使用許諾する場合は、アレイはそのアップデート製品の使用に関して、本契約の条項を変更できるものとします。

10.3 お客様が本契約の条項および条件に違反した場合、またはお客様が本契約を継続することができない重大な事由があった場合、アレイは催告なく、また他の権利を侵害することなく本契約を終了することができます。その場合、お客様は本ソフトウェアをコンピューターから完全にアンインストールし、また本製品を廃棄しなければなりません。

10.4 本契約または本製品に関連して発生した紛争については、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とします。

第1章

はじめに

1.1 AOCとは・AOCでできること

Array AOC (以下、AOC) は、デジタル医用画像を管理・編集するソフトウェアです。
AOCを使うと、以下のことができます。(*印の機能はオプションです。)

検査の画像データの管理

検査の画像データを、DICOM規格に準拠した医用画像診断装置(モダリティ) から受信*したり、DICOMイメージサーバーにあるDICOM画像を検索して受信したりできます。
受信した画像データはリストウィンドウで登録・管理され、患者名や検査日などの検査情報がリスト表示されます。
また、DICOM画像以外の画像を登録・管理することもできます。

画像データの編集

登録・管理している画像データの検査情報(DICOM属性) などの編集、画像データの結合や分割ができます。
IRWFオプションにより、IHEのIRWFに準拠した形式で編集前のデータおよび変更履歴を保存できます。
また、IRWFオプションをご利用の場合に限り、MPPSオプション、Storage Commitmentオプションが利用できます。
MPPSオプションにより、インポートの進捗を管理できます。
Storage Commitmentオプションにより、PACSサーバーへの格納を再確認できます。

画像のビュー

リストウィンドウで選択した画像は、ビューを開いてビューできます。
ビューでは、画像の濃淡(トーン)を調節したり拡大・縮小を変更するなど、画像の表示状態を変更して詳しく見られます。
また、角度や長さ、心胸郭比を測ったり、矢印やコメントを付けたりできます。
CTなどのマルチスライス画像や、動画も見られます。

画像の送信・プリント

リストウィンドウで管理している画像をDICOMイメージサーバーに送信*したり、DICOMイメージャやWindowsプリンタでプリントしたりできます。

画像の読み込み・書き出し

DICOM画像や、TIFF・JPEGなどDICOM以外の画像ファイルを、AOCに手動で読み込んだり、画像の書き出しができます。
また、AOCで管理している画像データのバックアップもできます。

パスワードを使ったセキュリティ管理

ユーザーアカウント機能を使うと、パスワードを知っているユーザーだけがAOCを使用するように設定できます。
操作ログも保存されるので、どのユーザーがいつ、どのデータを閲覧したのかなどを確認できます。

1.2 AOCのオプション

AOCの主なオプションは、以下のとおりです。

AOC Scanオプション

アレイのレーザーフィルムデジタイザーでスキャンし、画像をAOCに登録するオプションです。スキャンしたフィルムの画像をDICOMイメージャにプリントしてデュプ(複製)を作ることができます。

ワークリストオプション

DICOMワークリストサーバーに、検査情報を問い合わせることで取得することにより、画像の検査情報を簡単な操作で変更できます。

CD/DVD 作成オプション

AOCで管理している画像を、ビューワと一緒にCD/DVDに書き出します。

ビューワがインストールされていないコンピュータでも、CD/DVD内のビューワを使用して画像を開けます。

CD/DVD ラベルオプション

CD/DVD 作成オプションで作成したCD/DVDのラベルを作成できます。

DICOM画像受信(Storage SCP) オプション

DICOM接続で、モダリティやビューワなどのクライアントから送信される画像データを受信できます。

AOC Server オプション

DICOM接続を使用せず、AOC間でデータを共有できます。

Rimageオプション

Rimage社のディスクパブリッシャーを使ってCD/DVDが作成できます。

エプソンディスク作成オプション

エプソンのDisc producer™を使ってCD/DVDが作成できます。

Primeraオプション

Primera社のディスクパブリッシャーを使ってCD/DVDが作成できます。

メディアインポーター機能オプション

任意のディレクトリからDICOMおよび非DICOM画像ファイルをAOCに読み込み、登録できます。

Rimageオプションをご利用の場合は、Rimage社のMedical Disc System™を使って読み込みと登録ができます。

Preludioオプション

CD/DVDや任意のディレクトリからの画像の読み込みとPACSへの送信が、簡単な操作で、メディアインポーター機能オプション以上に効率的に実現できます。

IRWFオプション

IHEのIRWFに準拠した形式で編集前のデータおよび変更履歴を保存できます。



ご利用されているオプションは、AOCの「ヘルプ」メニューから「AOCのバージョン情報」を選択して確認できます。



エクスポートとインポートについて詳しくは、167ページの「第12章 エクスポートとインポート」、123ページの「第9章 ビューワつきCD/DVDの作成」を参照してください。

MPPS オプション

MPPS (エム・ピー・ピー・エス) とは、DICOM 規格で、検査の進捗状況を伝達するもののことです。MPPS サーバーが検査の開始、実施中、完了、中止といった検査状況を受信するときに使用します。AOC には、MPPS サーバーに検査の進捗状況を送信する機能(MPPS SCU) があります。

Storage Commitment オプション

DICOM イメージサーバーに送信した画像がサーバーに保管されたかどうかを確認できます。IRWF オプションが設定されているときのみ有効です。

Web CD オプション

ブラウザを利用し、AOC がインストールされていない PC から、クライアントとして AOC へ接続し、画像データの検索・CD/DVD の作成指示を出すことができます。

1.3 システム構成

AOC を使用するには、以下の条件を満たすコンピュータが必要です。

OS	: Windows 7 (32bit 版、64bit 版) Windows Vista SP1以降(32bit 版)、Windows XP SP3 (32bit 版)
CPU	: Core 2 Duo 1.8GHz (相当含む) 以上
メモリ	: 2GB 以上
ハードディスク	: 10GB 以上(インストールするのに必要な容量) 格納する画像データの大きさにより異なりますが100GB 以上を推奨。 Rimage™を使用する場合はさらに32GB 以上の空きが必要です。 エプソンの Disc producer™を使用する場合は、さらに1GB +書き込むデータサイズの1.5倍以上の空きが必要です。 インストールドライブとデータドライブは同一ドライブです。
USB ポート	: 1つ以上の空き

なお、オプションや動作や使用状況によっては、上記以外の条件を満たす必要がある場合があります。詳しくはお買い上げの販売店またはアレイ株式会社にお問い合わせください。

第2章

起動と終了



「スタート」メニューの「プログラム」に登録されている「AOC」を選択しても起動できます。



ユーザー認証については、173ページの「第13章 ユーザー認証・セキュリティの管理」を参照してください。



ユーザー IDまたはパスワードに誤りがある場合、エラーメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックするとログイン画面に戻りますので、再入力してください。

ログインを中止してAOCを終了するには、「終了」ボタンをクリックしてください。



画面各部の名称とはたらしについては、22ページの「4.1 リストウィンドウの構成」を参照してください。




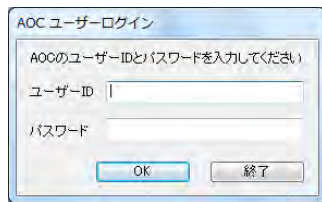
Storage SCPオプション、Storage Commitmentオプション、Q/R SCPオプションのいずれか、もしくは複数をご利用の場合は、初めて起動すると、Windowsの警告のダイアログボックスが開きます。「ブロックを解除する」ボタンをクリックして閉じます。



リストウィンドウの「ファイル」メニューから「アプリケーションの終了」を選択してもAOCが終了します。

2.1 AOCの起動

- 1 デスクトップにあるAOCのショートカットアイコン() をダブルクリックします。ユーザー認証を設定している場合は、「AOC ユーザーログイン」ダイアログボックスが開きます。




- 2 ユーザー IDとパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。「終了」ボタンをクリックすると、「AOC ユーザーログイン」ダイアログボックスが閉じ、AOCは起動しないで終了します。

AOCが起動し、リストウィンドウが開き、AOCに登録されている画像セット情報が、リストエリアに表示されます。



2.2 AOCの終了

- リストウィンドウの右上の閉じるボタン() をクリックします。リストウィンドウが閉じ、AOCが終了します。

AOCでは、終了する前に、データの削除が行われる場合があります。このため、終了に時間がかかる場合がありますが、処理が終わると自動的に終了します。

第3章

基本操作



詳しくは60ページの「5.1 画像を開く」を参照してください。



ビューワの機能に関しては81ページの「第6章 ビューワの機能詳細」を参照してください。

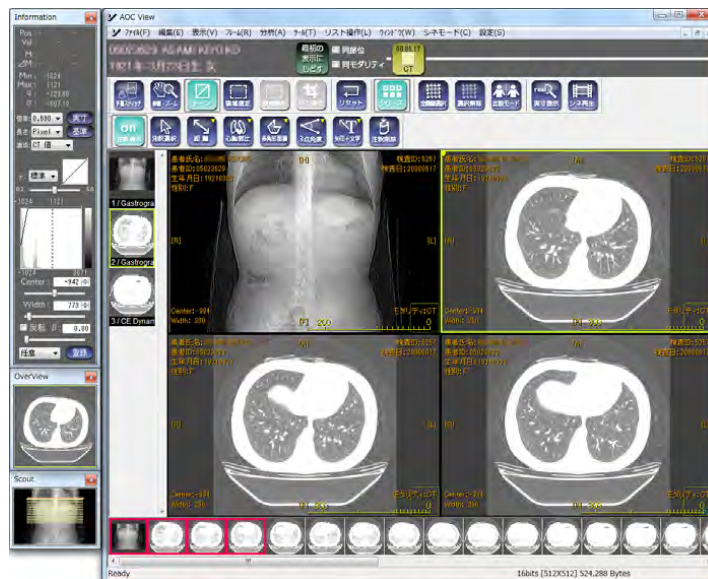
3.1 画像を大きく表示させる(ビューする)

リストウィンドウで選択した画像セットをビューワで大きく表示させる(ビューする)ことができます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアから、ビューしたい画像セットを選択します。



- 2 画像を選択した状態で、ツールバーから「開く」ボタンを選択します。ビューワが起動し、画像が大きく表示されます。

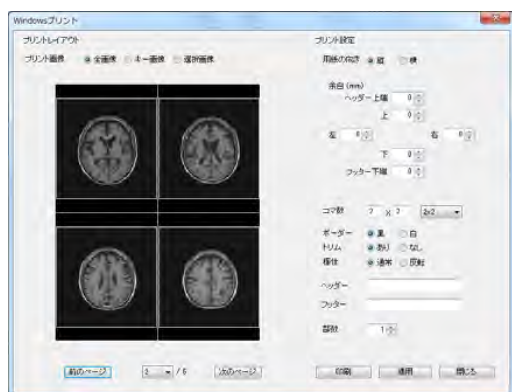


設定によって、AOC ViewまたはAOC Stackatoのどちらかが起動します。ここではAOC Viewについて説明します。起動するビューワの設定方法、およびAOC Stackatoについては、別冊の「AOC Stackato ユーザーズガイド」を参照してください。

3.2 画像をプリントする

リストウィンドウで選択した画像をWindowsプリンタでプリントできます。

- 1 リストウィンドウで、印刷したい画像を選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「Windowsでプリント」を選択します。
「Windowsプリント」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「プリント設定」グループで、用紙の向きやコマ数などを指定し、「印刷」ボタンをクリックします。
印刷が開始されます。



詳しくは150ページの「10.2 画像のWindowsプリント」を参照してください。



詳しくは102ページの「7.2 画像データをDICOMイメージサーバーに送信する」を参照してください。

3



「インポート」フォルダのなかの画像セットは、送信が完了すると削除されます。



送信に失敗した画像はエラーフォルダに移動します。

3.3 画像をDICOMイメージサーバーに送信する

リストウィンドウで選択した画像セットをDICOMイメージサーバーに送信できます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、イメージサーバーに送信したい画像セットを選択します。
- 2 ツールバーから「サーバーへ送信」ボタンをクリックします。
「ストレージサーバーへ送信」ダイアログボックスが開きます。



- 3 送信先リストボックスで送信先のDICOMイメージサーバーを選択し、「OK」ボタンをクリックします。
画像データの送信が開始されます。

3.4 検査情報(DICOM属性)を編集する

画像セットのDICOM属性を編集できます。

検査・シリーズの構成を変更したり、「DICOM属性編集」ダイアログボックスから自動的に画像データをDICOMイメージサーバーに送信できます。

ここでは、IRWFオプションをご利用でない場合の操作を説明します。IRWFオプションをご利用の場合は、48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」を参照してください。

ただし、画像セットの分割/結合(31ページの「4.4 画像セット」)、ドラッグ&ドロップによる画像の読み込み(31ページの「4.4.2 画像セットに画像を追加する」)、119ページの「8.1.4 オプションに関係なく使用できる方法」を行う場合は、「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きますので、以下の説明を参照してください。

3.4.1 画像セットや画像の検査情報(DICOM属性)を編集する

手順の概要

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、DICOM属性を編集したい画像セットを選択します。
複数の画像セットを選択すると、選択した画像セットのDICOM属性をまとめて編集できます。
- 2 ツールバーの「情報編集」ボタンをクリックします(またはツールメニューの「DICOM属性編集」を選択します)。
「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。「DICOM属性」グループには、選択した画像セットの情報が表示されています。



- 3 画像セットの情報を編集します。
編集項目の詳細は、手順の後の説明(「編集項目の詳細」)を参照してください。

DICOM属性

「DICOM属性」グループに、患者名や検査日などの情報を手動で入力します。

検査/シリーズの構成

検査/シリーズの構成を変更したり、新しい検査/シリーズを生成します。

DICOMイメージサーバーに送信する/しない

設定したらそのままDICOMイメージサーバーに画像を送信できます。

初期状態では送信しない設定になっています。



DICOM属性の編集は、以下のときにも行います。

- ・ AOCに画像ファイルをドラッグ&ドロップして読み込んだ場合
- ・ 複数の画像セットを連結した場合



設置時の設定によっては、複数画像セットのDICOM属性をまとめて編集できない場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店またはアレイ株式会社にお問い合わせください。



キーボードのCtrlキーを押しながら複数の画像セットをクリックすると、クリックした複数の画像セットを選択できます。

Shiftキーを押しながら隣り合っていない2つの画像セットをクリックすると、選択した2つの画像セットを含む、その画像セットの間にあるすべての画像セットを選択できます。

Ctrlキーを押しながらAキーを押すと、すべての画像セットが選択されます。



画像セットを結合しても、自動的にDICOM属性を編集するダイアログボックスが開き、複数の画像セットをまとめて編集できます。画像セットの結合については、33ページの「4.4.5 画像セットを結合する」を参照してください。



複数の画像ファイルをドラッグ&ドロップして登録したときや、結合した画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集するときなど、複数のDICOM属性の情報が混在している場合、情報が異なるファイルの検査情報(DICOM属性)をまとめて編集することもできます。



画像ファイルをドラッグ&ドロップでAOCに読み込んだときに、すべての画像ファイルを一緒に編集する場合は、「全ての画像に適用する」チェックボックスをチェックします。チェックボックスのチェックを外した場合は、検査情報(DICOM属性)をそれぞれの画像について入力します。



設定によっては、画像セットをDICOMイメージサーバーに送信できないなどのエラーが起こる可能性があります。設定するときは、システムの管理者に確認してください。



検査情報(DICOM属性)を変更した場合、「取得元」の情報が消えます。



複数の画像セットを選択したとき、ドラッグ&ドロップで画像セットを登録したとき、結合した画像セットのDICOM属性を編集するときなど、情報が異なる画像セットのDICOM属性をまとめて編集する場合、個々の項目に何か情報を入力すると、すべての画像のDICOM属性が、入力した内容に書き換わります。個々の画像のDICOM属性をそのまま保持したい場合は、「*」（アスタリスク）を入力し、性別は「元のまま」ラジオボタンを選択します。



「施設名」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで「施設名」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。



「照会医師名」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで、「照会医師名」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。



「読影医師名」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで、「読影医師名」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。

4 「OK」ボタンをクリックします。

画像セットの検査情報(DICOM属性) が更新され、リストの表示が変わります。

編集項目の詳細

DICOM 属性編集

患者ID

患者IDを入力します。

患者氏名

患者名を入力します。

生年月日

生年月日を、「YYYYMMDD」の形式で入力します。

例) 1980年5月22日の場合は「19800522」と入力します。

性別

性別を選択します。

検査日

検査日を「YYYYMMDD」の形式で入力します。

例) 2006年8月11日の場合は「20060811」と入力します。

検査時刻

検査時刻「hhmmss」(時分秒) の形式で入力します。

例) 12時45分00秒の場合は「124500」と入力します。

施設名

入力ボックスに直接入力するか、ボックスの右端にあるドロップダウンボタン(▼) をクリックして選択します。

照会医師名

入力ボックスに直接入力するか、ボックスの右端にあるドロップダウンボタン(▼) をクリックして選択します。

検査ID

検査IDを入力します。

受付番号

受付番号を入力します。

検査記述

検査記述を入力します。

読影医師名

入力ボックスに直接入力するか、ボックスの右端にあるドロップダウンボタン(▼) をクリックして選択します。

モダリティ

リストボックスを開いて選択します。

検査部位

リストボックスを開いて選択します。

患者位置

リストボックスを開いて選択します。

左右

リストボックスを開いて選択します。

検査・シリーズの構成

画像セットの検査/シリーズの構成を設定できます。

「検査シリーズの構成を現在のままにする」チェックボックス

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの検査およびシリーズの構成を変更しないまま登録します。

「検査を1個にまとめ、シリーズは現在の構成のままにする」チェックボックス

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの、シリーズの構成はそのままにしますが、それらを1個の検査としてまとめて登録します。

「検査・シリーズを1個にまとめる」チェックボックス

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの検査およびシリーズを1個にまとめて登録します。

高度な設定

「SOP Instance UIDを維持する」チェックボックス

チェックすると画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集しても、SOP Instance UIDを維持したままにします。

「新しいスタディを生成する」チェックボックス

チェックすると、新しいStudy Instance UIDが付きます。チェックを外すとStudy Instance UIDは変更されません。

「新しいシリーズを生成する」チェックボックス

チェックすると、新しいSeries Instance UIDが付きます。チェックを外すとSeries Instance UIDは変更されません。「新しいスタディを生成する」チェックボックスをチェックすると、チェックされた状態でグレイアウトされ、Series Instance UIDも新しいものになります。

DICOMイメージサーバーに送信する/しない

DICOMイメージサーバーに画像データを送信するには、「DICOMサーバーに送信」チェックボックスをチェックします。

「送信先」ドロップダウンリストボックスで、DICOMイメージサーバーを選択します。

「送信が完了した画像セットを、現在のフォルダから削除する」チェックボックス

チェックすると送信された画像データが自動的に削除されるようになります。



「モダリティ」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで、「モダリティ」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。



「検査部位」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで、「検査部位」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。



「患者位置」は、「DICOM属性設定の編集」メニューで、「患者位置」コンボボックスで選択できる内容を編集できます。



「DICOM属性編集」ダイアログボックスを開き、「コピー」ボタンをクリックしても、検査情報(DICOM属性)をコピーできません。コピーしたあとは、「キャンセル」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じてください。



DICOM属性をコピーしたあとも、手動でDICOM属性を編集できません。



検査/シリーズの構成を設定できます。



DICOM属性を編集した画像データを自動的にDICOMイメージサーバーに送信できます。



検索に使う項目の設定など、詳しくは206ページの「B.1.3 ワークリストサーバーの設定(オプション)」を参照してください。



「クリア」チェックボックスをチェックして「クリア」ボタンをクリックすると、その項目に設定されている検査情報(DICOM属性)が消去されます。「クリア」ボタンをクリックするだけで、検索キーとして使わない名称や値を消去することができ、便利です。「全てクリア」ボタンをクリックすると、「クリア」チェックボックスのチェックに関わらず、すべての項目を消去できます。

3.4.2 他の画像セットの検査情報(DICOM属性)をコピーして貼り付ける

- 1 リストウィンドウで、コピー元の画像セットのリストを右クリックして表示されるメニューから「DICOM属性のコピー」を選択します。
- 2 リストウィンドウでコピー先の画像セットを選択し、「情報編集」ボタンをクリックします。「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。
- 3 「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「貼り付け」ボタンをクリックします。表示されているDICOM属性のそれぞれの項目に、コピーした情報が貼り付けられます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。「DICOM属性編集」ダイアログボックスが閉じます。コピー先の画像セットの検査情報(DICOM属性)が、コピー元の検査情報(DICOM属性)に書き変わります。

3.4.3 DICOMワークリストサーバーに検査の情報を問い合わせる(ワークリストオプション)

ワークリストオプションをご利用の場合は、検査情報をDICOMワークリストサーバーに問い合わせ、その情報をDICOM属性にセットできます。

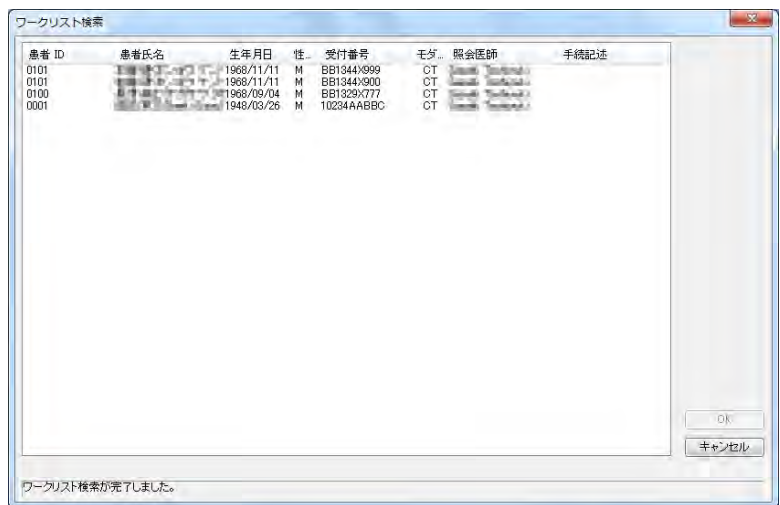
- 1 リストウィンドウのリストエリアでDICOM属性を変更したい画像セットを選択します。「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。



- 2 検索条件を設定します。入力ボックスの右に「+」(プラス)マークがついている項目は、検索に使われる検査情報の項目です。AOCは、「+」マークがついている項目の情報をキーにして、DICOMワークリストサーバーに情報を問い合わせます。
- 3 DICOMワークリストサーバーを、リストボックスから選択します。

4 「ワークリスト検索」ボタンをクリックします。

「ワークリスト検索」ダイアログボックスが開き、検索結果が表示されます。



5 DICOM属性にセットしたいリストを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

「ワークリスト検索」ダイアログボックスが閉じ、「DICOM属性編集」ダイアログボックスに、選択したリストの情報がセットされます。



DICOMワークリストサーバーに情報を検索した後も、手動でDICOM属性を編集できます。



DICOM属性を編集した画像データを自動的にDICOMイメージサーバーに送信できます。



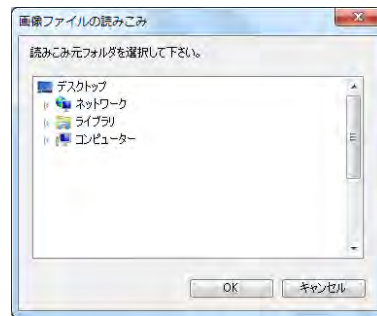
詳しくは110ページの「8.1 画像ファイルを読み込む」を参照してください。
オプションの確認方法については3ページの「1.2 AOCのオプション」を参照してください。

3.5 画像ファイルを読み込む

メディアインポーター機能オプションをご利用でない場合

DICOM ファイルを手動で読み込み、AOCに登録できます。

- 1 リストウィンドウのツールバーから「ファイル読み込」ボタンをクリックします。
「DICOM ファイルの読みこみ」ダイアログボックスが開きます。



- 2 読み込みたいDICOMファイルがあるフォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、読み込みが開始されます。

読み込みが終わると「読み込みが終了しました」というメッセージが表示されます。
メッセージが表示されるまでは、読み込みの動作が継続しています。

- 3 「OK」ボタンをクリックします。

メッセージボックスが閉じ、リストウィンドウに、ファイルの検査情報の一覧が表示されます。

メディアインポーター機能オプションをご利用の場合

メディアインポーター機能を使用して、画像ファイルをまとめて読み込みます。詳しくは、110ページの「8.1.1 メディアインポーター機能オプションをご利用の場合」を参照してください。

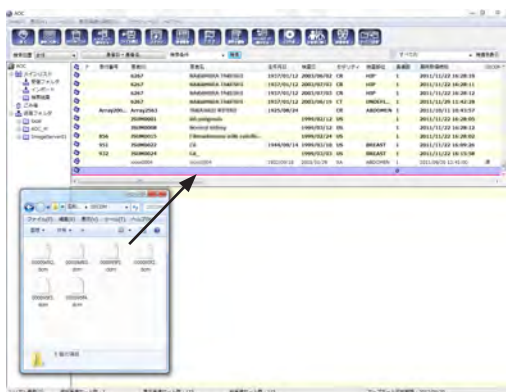
Preludio オプションをご利用の場合

Preludio を使用して、画像ファイルをまとめて読み込み、PACSへ送信できます。詳しくは、112ページの「8.1.2 Preludio オプションをご利用の場合」を参照してください。

オプションに関係なく使用できる方法

画像ファイルを選択して読み込みます。

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「新規画像セットの作成」を選択します。
空の画像セットの行が追加されます。
- 2 追加された画像セットの行に画像ファイルをドラッグ&ドロップします。



「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。



- 3 必要に応じて、DICOM属性を編集し、「OK」ボタンをクリックします。

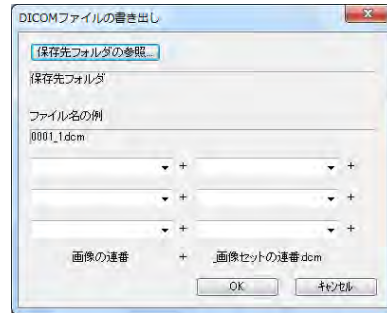


詳しくは120ページの「8.2.1 リストウィンドウからDICOMファイルを書き出す」を参照してください。

3.6 DICOMファイルを書き出す

リストウィンドウでは、登録されている画像セットごとに、画像セットのすべての画像をDICOM形式で書き出すことができます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアでファイルに書き出したい画像セットを選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「DICOMファイルの書き出し」を選択します。
「DICOMファイルの書き出し」ダイアログボックスが開きます。

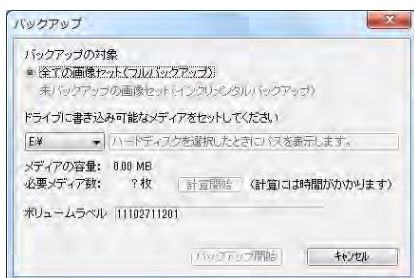


- 3 「保存先フォルダの参照」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。
- 4 ファイルの書き出し先のフォルダを選択します。
- 5 「フォルダの参照」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じ、選択したフォルダのパスが「保存先フォルダの参照」ボタンの下に表示されます。
- 6 ファイル名に使用する項目を設定します。
- 7 「OK」ボタンをクリックします。
「DICOMファイルの書き出し」ダイアログボックスが閉じ、選択したフォルダに画像ファイルが書き出されます。

3.7 バックアップを作成する

AOCに登録されているすべての画像セットを、フォルダ構成などの関連情報と一緒にバックアップファイルとして保存できます。

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「バックアップ」を選択します。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。
- 2 バックアップファイルを保存する場所を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じ、続いて「バックアップ」ダイアログボックスが開きます。
「バックアップ」ダイアログボックスに、指定した保存先が表示されます。



- 3 「すべての画像セット(フルバックアップ)」か、「未バックアップの画像セット(インクリメンタルバックアップ)」どちらかのラジオボタンをチェックします。
- 4 ファイル容量を確認したい場合は、バックアップファイルを選択した保存場所に保存できるか、「計算開始」ボタンをクリックします。
- 5 「バックアップ開始」ボタンをクリックします。
バックアップが始まり、進行状況が表示されます。

バックアップが終了すると、「バックアップが終了しました」というメッセージボックスが表示されます。

- 6 「OK」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
「AOC_DATA」という名前のフォルダが作成され、そのなかにバックアップデータが保存されます。



詳しくは162ページの「11.1 AOC内のバックアップを行う」を参照してください。



計算には時間がかかることがあります。また、「計算開始」ボタンをクリックし、ファイル容量を確認しなくとも、バックアップ作業を行うことができます。

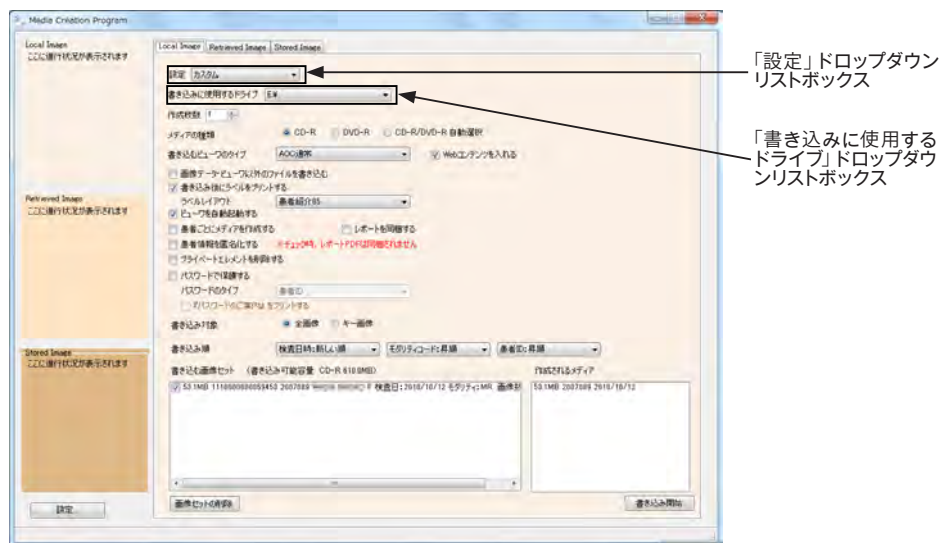


詳しくは123ページの「第9章 ビューワつきCD/DVDの作成」を参照してください。

3.8 ビューワつきCD/DVDを作成する(CD/DVD書き出しオプション)

AOCで登録している画像を、画像ビューワと一緒にCD/DVDに書き出します。ビューワがインストールされていないコンピュータでも、CD/DVD内のビューワを使用して画像を開けます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、CD/DVDに書き出したい画像セットを選択します。
- 2 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 3 「Local Image」タブを選択します。



- 4 「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックスから、書き出しを行うドライブを選択します。
- 5 「設定」ドロップダウンリストボックスから、使用する設定を選択します。
「カスタム」を選ぶと、「Media Creation Program」画面上で「作成枚数」や「メディアの種類」などの項目がアクティブになり、CD/DVD作成の設定ができるようになります。
「カスタム」を選んで変更された設定は、AOCを終了しても保存されます。
- 6 「Media Creation Program」画面の下部にある「書き込む画像セット」欄から、CD/DVDに書き込まない画像セットがある場合は、チェックボックスのチェックを外してください。
「作成されるメディア」欄には、作成されるメディアごとに、容量、患者ID、検査日が表示されます。
- 7 「書き込み開始」ボタンをクリックします。
CD/DVDへの書き込みが開始されます。
書き込みの進行状況は、「Media Creation Program」画面の左側にある「local Image」エリアに表示されます。
CD/DVDへの書き込みが終了すると、進行状況の表示が消えます。



Rimageオプションをご利用の場合、Rimageを書き出しに使うときは「Rimage」を選択してください。
エプソンディスク作成オプションをご利用の場合、Disc producerを書き出しに使うときは、EPSON Total Disc Setupで登録したディスクパブリッシャー名を選択してください。
ディスクパブリッシャー名の登録について詳しくは、エプソン Disc producerのユーザーズガイドまたはEPSON Total Disc Setupのヘルプをご覧ください。
Primeriaオプションをご利用の場合、Primeriaを書き出しに使うときは「Disc Publisher SE」を選択してください。



「設定」に関しては、130ページの「9.2.1 CD/DVD書き込みの設定を登録する」を参照してください。

第4章

画像セットの操作・リストウィンドウ

AOCで扱う画像データは、画像セットとしてリストウィンドウで管理されます。

画像セットとは、AOCが画像を管理するときの基本単位です。通常は同じ患者の1つの検査や、検査のなかの1つのシリーズを、1つの画像セットとして扱います。

また、画像データの管理以外に、検査情報(DICOM属性)の編集などもリストウィンドウで行います。

4.1 リストウィンドウの構成

画像セットは、「フォルダエリア」の「メインリスト」フォルダ内に登録されます。

目的のフォルダをクリックして選択すると、フォルダ内の画像セットの一覧が「リストエリア」に表示されます。

リストエリアで画像セットを選択すると、画像セットに含まれる画像のサムネイルが「プレビューエリア」に表示されます。

画像データをビューワで開いたり、情報の編集やプリントなどのよく使う機能を実行するには「ツールバー」の「ツールボタン」を使用します。また、「検索バー」や「フィルタ」を使用することで、閲覧したい画像を検索したり絞り込むことができます。



フォルダごとに最後に選択されていた画像セット・並び順・フィルタなどは記憶され、他のフォルダに移動後、再び戻ってきて、最後に表示された状態でリストウィンドウが表示されます(AOC終了後も、設定は記憶され再度AOCを起動した際も、最後に表示された状態でリストウィンドウが表示されます)。



4.1.1 フォルダエリア(画像セットの管理エリア)

すべての画像セットが登録されている「メインリスト」フォルダ、受信した画像データを保管する「受信フォルダ」、CD/DVDなどから読み込んだ画像データを保管する「インポート」フォルダ、検索結果をまとめる「検索結果」フォルダがあります。

また、ユーザーが新規にフォルダを作成することもできます。

AOCでは、「メインリスト」フォルダに登録されている画像セットの登録のリンクを、それ以外のフォルダに分類して画像セットを管理します。



「インポート」フォルダは、メディアインポーター機能オプションをご利用のときのみ表示されます。



4.1.2 リストエリア(画像セットの操作エリア)

選択したフォルダに登録されている画像セットの一覧がリスト形式で表示されます。
リストエリアから画像セットを選択し、画像セットを操作できます。

4.1.3 プレビューエリア(画像の操作エリア)

リストエリアで選択した画像セットに含まれる画像のサムネイルが表示されます。
各サムネイルは、クリックして選択し、ビューワで画像を見たり情報を編集できます。
また、サムネイルは、画像セットに含まれる画像数によって自動的に最適なコマ数でプレビューエリアに表示されます。

4.1.4 ツールバー

よく使う機能のボタンが表示されています。これらのボタンをクリックして各機能を実行できます。



「開く」ボタン

選択した画像セットもしくは画像をビューワで開きます。

「連結して開く」ボタン

複数の画像セットを連結して同一のビューポートで開きます。

「DICOMプリント」ボタン

DICOMイメージャで画像をプリントします。

「AOCサーバー読み込み」ボタン

システム上にAOCサーバー (AOC Serverオプションのみ) がある場合、AOCサーバーからデータを取得します。

「ファイル読込」ボタン

DICOMファイルを読み込み、AOCに画像データを登録します。

「スキャン」ボタン(AOC Scanオプションのみ)

アレイのレーザーフィルムデジタイザーでフィルムをスキャンし、AOCに画像データを登録します。

「情報編集」ボタン

画像セットの検査情報(DICOM属性) を編集します。

「フラグ」ボタン

画像セットにフラグ(目印) を付けたり、フラグの名前を設定します。



説明文は検査情報(DICOM属性)の検査記述(Study Description)ではありません。

「説明の編集」ボタン

画像セットに説明文を付けます。

「DICOMサーバー読み込み」ボタン

DICOMサーバーの画像を検索して、条件にあてはまる画像を取得します。

「CD作成」ボタン(CD/DVD作成オプションのみ)

AOCに登録している画像を、画像ビューワと一緒にCD/DVDに書き出します。
この機能を使って画像を書き出すと、ビューワがインストールされていないコンピュータでも、CD/DVD内のビューワを使用して画像を見られます。

「比較用を開く」ボタン

選択した画像セットを2つのビューポートで並べて表示します。

「詳細検索」ボタン

条件を詳しく設定して、画像セットを検索します。

「サーバーへ送信」ボタン

選択している画像セットすべてをDICOMイメージサーバーに送信します。

4.1.5 検索バー

登録されている画像セットを患者IDなどの検査情報(DICOM属性)で検索して、条件にあうものだけを表示できます。

フィルタと組み合わせると、見たい画像セットを簡単に探せます。



詳しくは43ページの「4.6.3 検索バーで検索する(検索バー)」を参照してください。



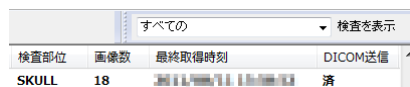
4.1.6 フィルタ

検査日がある日付の範囲の画像セットだけをフィルタリングして表示できます。

リストの画像セットの数が非常に多くなったときなどに、この機能を使うことでリストウィンドウに表示される画像セットの数を絞ることができ、動作が速くなります。



詳しくは30ページの「4.3.3 ある日付(範囲)の検査だけ見えるように設定する(フィルタ表示)」を参照してください。



4.2 フォルダ

AOCでは、登録されているすべてのデータが、画像セットごとにフォルダエリアの「メインリスト」フォルダに格納され、それらの画像セットへのリンクを、それ以外のフォルダに分類して管理します。

「受信フォルダ」には、「メインリスト」フォルダに画像セットが保存された時点で、その画像セットへのリンクが作成されます。

「検索結果」フォルダには、検索を行なった際に条件に適合した画像セットのリンクが作成されます。

新規にフォルダを作成することも可能です。フォルダを移動することもできます。

4.2.1 フォルダの中身を表示する

フォルダのなかにある画像セットを表示します。

フォルダエリアで、中身を表示させたいフォルダを選択します。

選択したフォルダに格納されている画像セットがリストエリアに表示されます。

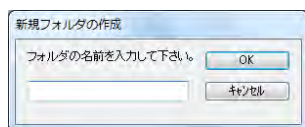
また、フォルダの下にフォルダがある場合、上のフォルダアイコンに開閉切り替えボタンが表示されます。ボタンは、開いているときはマイナス(⊖)になり、下のフォルダがツリー状態で表示されます。閉じているときは、プラス(⊕)になります。下のフォルダの表示/非表示が、開閉ボタンをクリックするごとに切り替わります。

4.2.2 新規フォルダを作成する/名前を変更する

「フォルダエリア」では、「メインリスト」フォルダの下に、フォルダを自由に作成できます。作成したフォルダの下に新規にフォルダを作成することもできます。

新規フォルダの作成

- 1 フォルダエリアで、新規にフォルダを追加、作成したいフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「新規フォルダの作成」を選択するか、フォルダエリアで右クリックして表



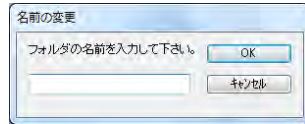
示されるメニューから、「新規フォルダの作成」を選択します。

「新規フォルダの作成」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 入力ボックスに、新規に作成するフォルダの名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、選択したフォルダの下に、入力した名前のフォルダが作成されます。

フォルダの名称の変更

- 1 名称を変更したいフォルダを右クリックして表示されるメニューから「名前の変更」を選択します。「名前の変更」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「名前の変更」ダイアログボックスには、現在のフォルダ名が表示されていますので、名前を変更し「OK」ボタンをクリックします。「名前の変更」ダイアログボックスが閉じ、フォルダ名が変更されます。

4.2.3 画像セットをフォルダごとに分類する

AOCが取り込んだ画像データはすべて「メインリスト」フォルダに格納されますが、フォルダエリアに新規にフォルダを作成し、リストエリアから画像セットをドラッグ&ドロップすることで分類して管理できます。

フォルダへの分類には2種類の方法があります。

元のフォルダに画像セットのデータを残したまま、そこから別のフォルダへの登録情報だけを作成する「リンク」と、元のフォルダから別のフォルダへとリンクを移動する「移動」です。

- 1 フォルダエリアで分類先のフォルダが表示されている状態にします。
下位フォルダに分類したい場合などは、そのフォルダの上位フォルダを開き、分類先のフォルダが表示されている状態にしてください。
- 2 「メインリスト」、または分類したい画像セットがリンクされているフォルダを選択します。
リストエリアにフォルダ内の画像セットが表示されます。
- 3 リストエリアで、別のフォルダに分類したい画像セットを選択します。
- 4 選択した画像セット(複数の画像セットが選択されている場合は、そのうちの1つ)を、フォルダエリアの分類したいフォルダにドラッグします。



Ctrlキーを押しながら選択すると、画像セットを個々に選択できます。Shiftキーを押しながら隣り合わない2つの画像を選択すると、選択した画像セットを含む、その間にある画像セットがすべて選択されます。



「メインリスト」以外のフォルダ内の画像セットはすべてリンクです。

マウスの左ボタンを押してドラッグした場合

「メインリスト」フォルダから他のフォルダへはリンクが作成されます。

「メインリスト」以外のフォルダから他のフォルダへはリンクが移動します。

マウスの右ボタンを押してドラッグした場合

マウスのポインタを分類先のフォルダに重ねてマウスボタンを離すと以下のメニューが表示されます。

「リンク」

「メインリスト」フォルダから他のフォルダへはリンクが作成されます。

「メインリスト」以外のフォルダから他のフォルダへはリンクが移動します。

「移動」

分類先のフォルダへ登録のリンクが移動します。

「メインリスト」フォルダから他のフォルダへの移動の操作はできません。

「キャンセル」

画像セットのフォルダへの分類の操作をキャンセルします。

4.2.4 フォルダを移動する

フォルダエリアでは、「メインリスト」フォルダの下にある「受信フォルダ」以外のすべてのフォルダを移動し、ツリー構造を自由に編集できます。

- 1 フォルダエリアで移動先のフォルダが表示されている状態にします。
下位フォルダに移動したい場合などは、そのフォルダの上位フォルダを開き、移動先のフォルダが表示されている状態にしてください。
- 2 移動させたいフォルダをドラッグし、移動先のフォルダに重ね(フォルダ名が反転表示されます)、マウスボタンを離します。
ドラッグしたフォルダが、重ねたフォルダの下に移動します。



漢字で記載されている項目は、ふりがながある場合はふりがなの五十音順に、ふりがながない場合は漢字コード順に並べ替えられます。



各項目名を右クリックして表示されるメニューから「(ヘッダーの項目)の昇順」「(ヘッダーの項目)の降順」を選択してもソートできます。



過去のソート結果は保持されます。たとえば、検査日でソートしたあと、患者IDでソートした場合、同じ患者IDのデータは、検査日順になります。



リストの項目のヘッダー部分を右クリックして表示されるメニューから「表示項目の設定」を選択しても「リストの表示項目の設定」ダイアログボックスを開くことができます。

4.3 リスト

登録された画像セットは、リストエリアに1行ずつリスト表示されます。

各行には、登録されている画像セットの患者名や検査日などの情報が表示されます。

リストは並べ替えたり、表示項目を整理できます。

4.3.1 リストを並べ替える

リストエリアに登録されている画像セットを、表示されている検査情報の項目でフォルダごとに並べ替える(ソートする)ことができます。

並べ替えるには、並べ替えたい項目の項目名をクリックします。

並べ替えた項目の項目名には、小さい方から大きい方へ並べられる場合には昇順(▲)、逆に大きい方から小さい方へ並べられる場合には降順(▼)のマークが表示されます。

たとえば、患者名でソートする場合、リストエリアの「患者名」という項目名をクリックします。クリックするごとに、

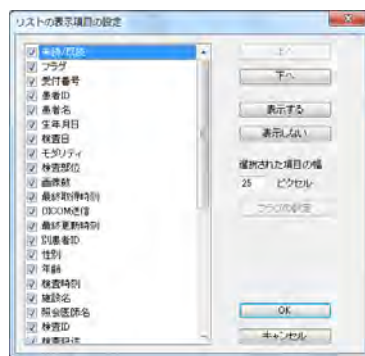
数字→アルファベット→あいうえお

またはその逆順に、画像セットがソートされます。

4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する

リストエリアの表示項目を変更できます。

この操作は、「表示」メニューから「リストの表示項目の設定」を選択して表示される「リストの表示項目の設定」ダイアログボックスで行います。



各項目を選択して、表示/非表示を設定します。

各項目のチェックボックスをチェックすると、その項目がリストエリアのヘッダーに追加され、各画像セットの内容がリストエリアに表示されます。

設定できる項目

- ・未読/既読
- ・生年月日
- ・検査部位
- ・画像数
- ・施設名
- ・モダリティ
- ・作成時刻
- ・シリーズ数
- ・DICOM送信(操作/未操作)
- ・エクスポート(操作/未操作)
- ・Windowsプリント(操作/未操作) (リストウィンドウからのWindowsプリントのみ)
- ・DICOMプリント(操作/未操作) (リストウィンドウからのDICOMプリントのみ)
- ・フラグ
- ・性別
- ・年齢
- ・検査ID
- ・照会医師名
- ・患者位置
- ・最終参照時刻
- ・画像データ(有り/無し)
- ・患者ID
- ・検査日
- ・取得元
- ・受付番号
- ・検査記述
- ・左右
- ・最終更新時刻
- ・属性編集(操作/未操作)
- ・バックアップ(操作/未操作)
- ・患者名
- ・検査時刻
- ・最終取得時刻
- ・別患者ID
- ・読影医師名
- ・シリーズ番号
- ・説明

「上へ」ボタン、「下へ」ボタン

選択されている項目のリストボックス内の順番を変更します。リストボックス内の順番が、リストウィンドウでの表示順です。

「表示する」ボタン

選択されている項目を表示するようにします。チェックボックスがチェックされます。

「表示しない」ボタン

選択されている項目を表示しないようにします。チェックボックスのチェックが外れます。

「選択された項目の幅」入力ボックス

リストエリア上での、選択した属性の表示幅をピクセル数で指定します。

「フラグの設定」ボタン

項目で「フラグ」が選択されているときにクリックすると、「フラグの設定」ダイアログボックスが開き、フラグの名称を設定できます。設定できるフラグは7種類です。



詳しくは37ページの「4.4.9 フラグ (目印) を付ける」を参照してください。

4.3.3 ある日付(範囲)の検査だけ見えるように設定する(フィルタ表示)

フォルダ内の画像数が多くなるとAOCの動作が遅くなります。そのような場合、フィルタ表示機能を使い、検査日がある範囲に入っている画像セットだけに絞り表示することで動作を速くできます。

フィルタコンボボックスから日付の条件を選択して簡単に設定するか、条件を手入力して詳しく設定できます。

フィルタ表示はフォルダごとにします。

条件を選択して簡単に設定する

フィルタコンボボックスをクリックして、以下のリストから条件を選択します。

- | | |
|----------------|------------------|
| ・すべての | ・今日の |
| ・昨日の | ・昨日以降の |
| ・今週の | ・今月の |
| ・今年の | ・今年度の |
| ・昨年以降の | ・昨年度以降の |
| ・(一昨年の西暦) 年以降の | ・(一昨年の西暦) 年4月以降の |

条件を詳しく設定する

フィルタコンボボックスに、条件を入力し、Enterキーを押します。

日付は以下の形式で入力します。

- ・YYYYMMDD : YYYY年MM月DD日
- ・YYYYMM : YYYY年MM月からYYYY年MM月の月末まで
- ・YYYY : YYYY年1月1日からYYYY年12月31日まで
- ・MMDD : 今年のMM月DD日
- ・DD : 今月のDD日

- (ハイフン) で区切ることで、範囲を指定できます。

例)

「2005年1月1日から12月31日まで」に行われた検査の画像セットを表示したい場合
フィルタコンボボックスに「2005」と入力しEnterキーを押す。

「2004年9月以降」に行われた検査の画像セットを表示したい場合
フィルタコンボボックスに「200409-」と入力しEnterキーを押す。

「今年の1月15日まで」に行われた検査の画像セットを表示したい場合
フィルタコンボボックスに「-0115」と入力しEnterキーを押す。

「2004年9月から今月の8日まで」に行われた検査の画像セットを表示したい場合
フィルタコンボボックスに「200409-08」と入力しEnterキーを押す。

4.4 画像セット

画像セットをAOCに登録すると、画像セットの検査情報(患者名や検査日などのDICOM属性)がリストエリアに表示されます。

リストエリアで操作したい画像セットを選択し、AOCのいろいろな機能を実行できます。

4.4.1 空の画像セットを新規作成する

リストエリアに空の画像セットを作成できます。

- 1 フォルダエリアで画像セットを新規に作成したいフォルダを選択します。
- 2 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「新規画像セットの作成」を選択するか、リストエリアでマウスを右クリックして表示されるメニューから「新規画像セットの作成」を選択します。
リストエリアに画像数0の画像セットが新規に作成されます。

「メインリスト」と「受信フォルダ」以外のフォルダに作成した場合、「メインリスト」フォルダには画像セットが作成されますが、「受信フォルダ」にはリンクが作成されません。

4.4.2 画像セットに画像を追加する

コンピュータのローカルディスク内にある画像ファイルを、ドラッグ&ドロップで既存の画像セットに追加できます。

追加できる画像ファイルの形式は以下のとおりです。

- BMP • DICOM • JPEG
- JPEG2000 • PGM • TIFF

(データの構造によっては、上記のファイル形式でも追加できないものがあります。)

- 1 追加したい画像ファイルが置いてあるフォルダを開きます。
- 2 リストエリアで、画像ファイルを追加したい画像セットが見えるようにします。
- 3 フォルダから画像ファイルをリストエリアの追加したい画像セットの行の上にドラッグ&ドロップします。
「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。
- 4 検査情報(DICOM属性)の内容を確認します。
編集する場合は「DICOM属性編集」ダイアログボックスで編集します。
- 5 複数の画像ファイルをドラッグ&ドロップする場合、すべての画像を同じ属性にするには、「全ての画像について適用する」チェックボックスをチェックします。
チェックを外すと、1画像ごとに検査情報(DICOM属性)を設定できます。



新規作成した空の画像セットに画像を追加する手順は31ページの「4.4.2 画像セットに画像を追加する」を参照してください。



複数の画像ファイルを選択して1度にまとめて追加することもできます。



詳しくは48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」を参照してください。



追加した画像のDICOM属性が画像セットのDICOM属性と異なる場合、リストエリアの表示は画像セットの最初の画像の検査情報(DICOM属性)が表示されます。



複製された画像セットはリストエリア上では、複製されたことを示す表示は何もないため、まったく同じ画像セットが1つ増えるように見えますが、Study Instance UID、Series Instance UID、SOP Instance UIDは新しくなり、別のデータとして扱われます。

- 6 検査情報(DICOM属性)の編集が完了したら、「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックします。
「DICOM属性編集」ダイアログボックスが閉じ、検査情報が更新され、画像セットに画像が追加されます。

4.4.3 画像セットをコピー(複製)する

画像セットをコピー(複製)できます。

複製は、元の画像セットと同じ検査情報(DICOM属性)を持ち、AOCで管理・操作できます。

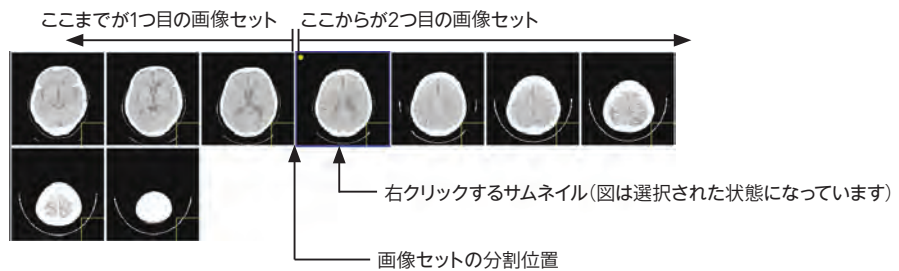
リストエリアで複製したい画像セットを右クリックして表示されるメニューから「画像セットの複製」を選択します。

選択した画像セットの下に複製された画像セットがリスト表示されます。

4.4.4 画像セットを分割する

画像セットは、検査(Study)またはシリーズ(Series)単位で分割できます。プレビューエリアでサムネイルを選択し、それより前とそれ以降の2つに分割します。1つの画像セットを複数の検査、またはシリーズに分割したい場合は、分割の操作を繰り返してください。

- 1 リストエリアで分割したい画像セットを選択します。
プレビューエリアに画像のサムネイルが表示されます。
- 2 プレビューエリアで、下図に示すように画像セットの分割位置の次のサムネイルを右クリックして、メニューを表示します。



- 3 検査単位で分割したい場合は「検査の分割」、シリーズ単位で分割したい場合は「シリーズの分割」を選択します。
分割後の2つ目の画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集するために、「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。



1つ目の画像セットの検査情報(DICOM属性)は変更されません。編集する場合は、分割の操作終了後に検査情報(DICOM属性)の編集をしてください(48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」参照)。



図 「検査の分割」を選択した場合



図 「シリーズの分割」を選択した場合

- 4 検査情報(DICOM属性)を編集します。
編集する必要がない場合は、手順5に進みます。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
画像セットが2つに分割され、ダイアログボックスが閉じます。

4.4.5 画像セットを結合する

複数の画像セットを1つの画像セットに結合できます。

- 1 リストエリア上で結合したい複数の画像セットを選択します。
- 2 選択した画像セットを右クリックして表示されるメニューから、「画像セットの結合」を選択します。
選択した画像セットを結合するかどうかを確認するメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。
結合後の画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集するために「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。
- 3 検査情報(DICOM属性)を編集します。
編集する必要がない場合は、手順5に進みます。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
画像セットが結合され、ダイアログボックスが閉じます。



画像セットを検査単位で分割した場合、分割後の2つの画像セットには、それぞれに新しいStudy Instance UID、Series Instance UIDが付き、別のデータとして扱われます。



画像セットをシリーズ単位で分割した場合、分割後の2つの画像セットには、それぞれに新しいSeries Instance UIDが付きますが、Study Instance UIDは分割前と同じものになります。



Ctrlキーを押しながら選択すると、画像セットを個々に選択できます。Shiftキーを押しながら隣り合わないふたつの画像を選択すると、選択した画像セットを含む、その間にある画像セットがすべて選択されます。

4.4.6 画像セットを手動削除する

画像セットを手動で削除できます。

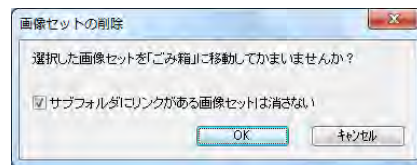
画像セットの削除には、「メインフォルダ」からのリンクの削除と、登録の削除があります。また、登録は残したまま、画像データのみを削除することもできます。

画像セットを削除する

「メインリスト」フォルダで画像セットの登録を削除すると、画像セットの登録は「ごみ箱」に移動します。「ごみ箱」に移動すると、その画像セットの他のフォルダのリンクは削除されます。その状態で「ごみ箱」を空にすることで、その画像セットの画像データは削除されます。

- 1 フォルダエリアで「メインリスト」フォルダを選択します。
- 2 リストエリアで削除したい画像セットを選択します。
- 3 以下のいずれかの操作をします。
 - ・ キーボードの Delete キーを押す。
 - ・ 選択した画像セット(複数の場合はそのうちの1つ) を右クリックして表示されるメニューから「画像セットの削除」を選択する。
 - ・ 削除したい画像セットをリストエリアから「ごみ箱」にドラッグ & ドロップする。

「画像セットの削除」ダイアログボックスが表示されます。



- 4 「メインリスト」以外のフォルダにリンクがある画像セットを削除しない場合は、「サブフォルダにリンクがある画像セットは消さない」チェックボックスをチェックします。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
画像セットの登録が「ごみ箱」に移動します。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、操作が中止されます。
- 6 以下のいずれかの操作で、画像データを削除します。

画像セットごとに画像データを削除する場合

フォルダエリアで「ごみ箱」を選択し、リストエリアで削除したい画像データ(複数の場合はそのうちの1つ) を右クリックして表示されるメニューから「画像セットの削除」を選択します。

「ごみ箱」のなかの画像セットの画像データをすべて削除する場合

フォルダエリアで「ごみ箱」を右クリックして表示されるメニューから「ごみ箱を空にする」を選択します。

画像セットごとに「メインリスト」フォルダに戻す場合

フォルダエリアで「ごみ箱」を選択し、リストエリアで「メインリスト」に戻したい画像データを右クリックして表示されるメニューから「画像セットを元の場所に戻す」を選択します。



AOC 終了時にごみ箱のなかの画像セットを削除する場合は、221ページの「B.24 終了時にごみ箱の画像セットを削除する」を参照してください。



ごみ箱のなかの画像セットを「メインリスト」フォルダに戻すには、以下のいずれかの操作をします。

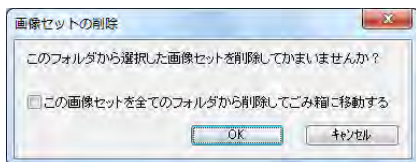
「ごみ箱」のなかの画像セットをすべて「メインリスト」フォルダに戻す場合

フォルダエリアで「ごみ箱」を右クリックして表示されるメニューから「ごみ箱の中身を元の場所に戻す」を選択します。

リンクの削除

「メインリスト」以外のフォルダの画像セットへのリンクを削除します。

- 1 フォルダエリアで、削除したい画像セットのリンクがあるフォルダを選択します。
- 2 リストエリアで削除したい画像セットを選択します。
- 3 キーボードの Delete キーを押すか、選択した画像セット(複数の場合はそのうちの1つ)を右クリックして表示されるメニューから「画像セットの削除」を選択します。
「画像セットの削除」ダイアログボックスが表示されます。



- 4 選択したフォルダへのリンクだけでなく、選択した画像セットのすべてのフォルダへのリンクと、メインリストの登録も削除したい場合は「この画像セットを全てのフォルダから削除してごみ箱に移動する」チェックボックスをチェックします。
- 5 「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、選択した画像セットのリンクが削除されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、リンクは削除されません。

画像セットから画像データを削除する

画像セットから、登録だけを残して画像データを削除します。

- 1 リストエリアで画像データを削除したい画像セットを選択します。
- 2 選択した画像セット(複数の場合は、そのうちの1つ)を右クリックして表示されるメニューから「画像データの削除」を選択します。
「画像データの削除」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 削除する場合は「OK」ボタンをクリックします。

1943/05/12	2006/10/05	CR
1932/12/20	2004/11/01	CT
1989/02/03		MR

選択した画像セットの画像データが削除され、リストエリアの表示が斜体字になります。



画像データが削除された画像セットを開いたり、プリントするなど、画像データが必要な操作をすると、画像データを自動的に探しにいきます。リムーバブルメディアなどにエクスポートした場合は、メディアをセットする画面が表示されることがあります(224ページの「B.2.6 消したデータを自動的に読み込む(自動取得)」参照)。



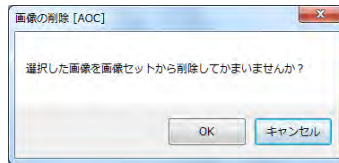
DICOMイメージサーバーから取得した画像セットの画像データを削除する場合は、DICOMイメージサーバーからは自動取得されないので、エクスポートまたはバックアップしておきます(161ページの「第11章 データのバックアップ/復元」、167ページの「第12章 エクスポートとインポート」参照)。

4.4.7 画像セットから画像を削除する

画像セットに含まれる画像データから任意の画像を削除できます。

特定の画像を削除する

- 1 リストエリアから削除したい画像を含む画像セットを選択します。
- 2 プレビューエリアから削除したい画像を選択します。
- 3 右クリックして表示されるメニューから「選択画像の削除」を選択します。
「画像の削除」ダイアログボックスが表示されます。

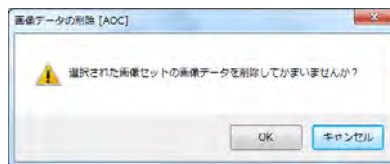


- 4 「OK」ボタンをクリックします。
選択した画像が画像セットから削除されます。

特定の画像の画像データだけを削除する

AOCへの画像セットの登録情報を残したまま、画像セットに含まれる画像データだけを削除します。

- 1 リストエリアから削除したい画像データを含む画像セットを選択します。
- 2 プレビューエリアから削除したい画像を選択します。
- 3 右クリックして表示されるメニューから「選択画像の画像データの削除」を選択します。
「画像データの削除」ダイアログボックスが表示されます。



- 4 「OK」ボタンをクリックします。
選択した画像データが画像セットから削除されます。

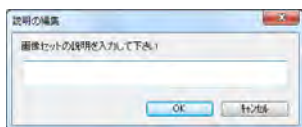


画像データが削除された画像セットを開いたり、プリントするなど、画像データが必要な操作をすると、画像データを自動的に探しにいけます。リムーバブルメディアなどにエクスポートした場合は、メディアをセットする画面が表示されることがあります(224ページの「B.2.6 消したデータを自動的に読み込む(自動取得)」参照)。

4.4.8 画像セットに説明文を付ける

画像セットに80文字までの説明文を付けられます。

- 1 リストエリアで説明文を付けたい画像セットを選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューから「説明の編集」を選択します。
「説明の編集」ダイアログボックスが開きます。



- 3 説明文を入力します。
80文字まで入力できます。
- 4 入力が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
入力した説明文が登録され、ダイアログボックスが閉じます。
1度入力した説明文を編集する場合も、同様の操作をします。

4.4.9 フラグ(目印)を付ける

画像セットにはフラグと呼ばれる目印を付けられます。
フラグは7種類あり、各フラグにわかりやすく名前を付けられます。

フラグを付ける/外す

フラグを付ける

フラグを付けたい画像セットを選択し、右クリックして表示されるメニューの「フラグ」から、付けたいフラグを選択します。

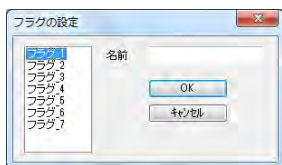
フラグを外す(取り消す)

フラグを外したい画像セットを選択し、右クリックして表示されるメニューの「フラグ」から「フラグの取り消し」を選択します。

フラグの名前の設定

AOCのリストウィンドウで設定できるフラグは7種類あります。
出荷時、各フラグには「フラグ_1」から「フラグ_7」までの名前がついていますが、それらは自由に変更でき、わかりやすい名前を付けられます。

- 1 リストウィンドウの「表示」メニューから「フラグの設定」を選択します。
「フラグの設定」ダイアログボックスが開きます。



ここでの説明文は、DICOM属性の検査記述(Study Description)とは違い、AOCが独自に管理する情報です。画像データのDICOM属性には影響ありません。



リスト上にフラグ(🚩)の項目が見当たらないときは、リストにフラグの項目が表示されない設定になっている可能性があります。28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照し、リストにフラグの項目を表示してください。



フラグの名前はバックアップ時点のものに変わりません。リストアするAOCで最後に設定したものが使用されます。




リストエリアのヘッダー部分を右クリックして表示されるメニューから「フラグの設定」を選択することもできます。


- 2 名前を付けたいフラグを選択し、「名前」入力ボックスに名前を入力します。
20文字まで入力できます。
- 3 「OK」ボタンをクリックして閉じます。

次回より、フラグを付けるメニューに、「フラグ_1」などの番号のかわりに名前が表示されるようになります。

4.4.10 操作したことにする/未操作に戻す(操作・未操作のステータスを変更する)

リストエリアでは、その画像セットで何の操作をしたか確認できます。

たとえば、まだ画像を開いていない画像セットは太字で表示され、未読/既読の項目の表示が未読になります。

画像を開くと太字から通常の文字に変わり、未読/既読の項目が既読になります。

また、手動で操作・未操作のステータスを変更できます。

実際には操作していなくても操作済みにしたたり、逆に操作していても未操作にできます。

操作/未操作のステータスを確認できるのは、以下の操作です。

- ・画像を開く
- ・画像セットをDICOMイメージサーバーに送信
- ・Windowsプリンタでプリント
- ・検査情報(DICOM属性)の編集
- ・画像セットを関連情報と一緒に保存する(エクスポート)
- ・DICOMイメージャで画像をプリント(DICOMプリント)
- ・データのバックアップ

- 1 操作/未操作のステータスを変更したい画像セットのリストの上で右クリックして表示されるメニューからステータスを選択します。

操作済みにする場合

目的の画像セットを右クリックして表示されるメニューから「操作済みにする」を選択し、操作済みになりたいステータスを選択します。

未操作に戻す場合

目的の画像セットを右クリックして表示されるメニューから「未操作にする」を選択し、未操作に戻すステータスを選択します。


ステータスを変更すると、リストの表示が変わります。

ショートカットメニューの項目・操作/未操作の機能・リストのステータス表示の変化は以下のとおりです。

「操作済み」メニューの中身・操作済みにする機能・リストのステータス表示の変化

「既読」：画像を開く

太字で表示されていたリストが通常の文字に変わります。

封筒(未読/既読ステータス)の項目が既読()に変わります。

「送信済み」：画像セットをDICOMイメージサーバーに送信

「DICOM送信」の項目に「済」と表示されます。

「エクスポート済み」：画像セットを関連情報と一緒に保存(エクスポート)

「エクスポート」の項目に「済」と表示されます。

「プリント済み(Windows)」：Windowsプリンタでプリント

「Windowsプリント」の項目に「済」と表示されます。

「プリント済み(DICOM)」：DICOMイメージャでプリント

「DICOMプリント」の項目に「済」と表示されます。

「編集済み」：検査情報(DICOM属性)の編集

「属性編集」の項目に「済」と表示されます。


「バックアップ済み」：データのバックアップ

「バックアップ」の項目に「済」と表示されます。

「未操作にする」メニューの中身・未操作に戻す機能・リストのステータス表示の変化

「未読」：画像を開く

リストが太字で表示されます。

封筒(未読/既読ステータス)の項目が未読()に変わります。

「未送信」：画像セットをDICOMイメージサーバーに送信

「DICOM送信」の項目の「済」が消えます。

「未エクスポート」：画像セットを関連情報と一緒に保存(エクスポート)

「エクスポート」の項目の「済」が消えます。

「未プリント(Windows)」：Windowsプリンタでプリント

「Windowsプリント」の項目の「済」が消えます。

「未プリント(DICOM)」：DICOMイメージャでプリント

「DICOMプリント」の項目の「済」が消えます。

「未編集」：検査情報(DICOM属性)の編集

「属性編集」の項目の「済」が消えます。

「未バックアップ」：データのバックアップ

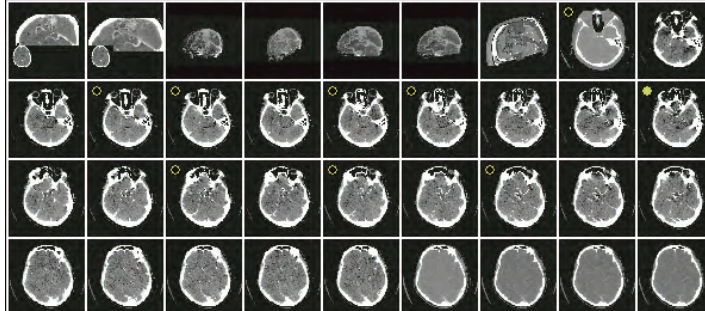
「バックアップ」の項目の「済」が消えます。



リストにステータスの項目が見当たらない場合、そのステータスの項目が表示されない設定になっている可能性があります。28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照して表示するように設定してください。

4.5 画像の選択

画像セット内の画像に対して操作するには、プレビューエリアのサムネイルを選択します。



画像の選択状態は、3種類のマークによって表示されます。

選択されたカレント画像 (●)

黄色で塗りつぶされた丸いマークが左上に付きます。サムネイルをクリック、または右クリックすると、そのサムネイルの画像が選択されたカレント画像(現在選択されている画像)になります。

選択画像 (●)

枠が黄色で黒く塗りつぶされた丸いマークが左上に付きます。Ctrlキーを押しながら複数のサムネイルをクリック、または右クリックすると、それまで選択されたカレント画像だったサムネイルが、選択画像の状態になります。Shiftキーを押しながらサムネイルをクリックすると、カレント画像からその画像までのサムネイルが連続して選択されます。

選択されていないカレント画像 (●)

黄色の影のついた、黒く塗りつぶされた丸いマークが左上についているサムネイルです。選択されたカレント画像、選択画像をCtrlキーを押しながらクリック、または右クリックすると、その画像が選択されていないカレント画像になります。選択されていないカレント画像は操作の対象になりません。

選択の解除

Ctrlキーを押しながら選択されている画像のサムネイルをクリック、右クリックします(クリックされた直後の画像は選択されていないカレント画像になります)。すべての画像の選択を解除するには、サムネイル以外の白地の部分をクリックします。

特別な画像にしるしを付ける(キー画像の設定)

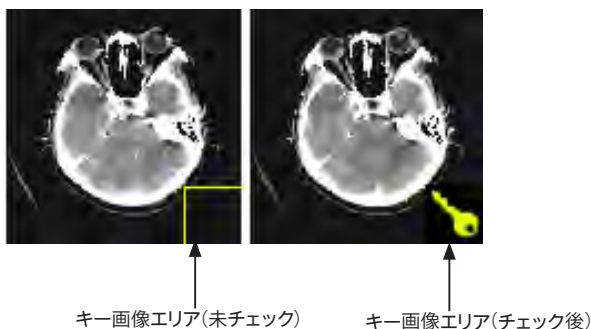
リストウィンドウのプレビューエリアで開いている画像のなかから、重要な画像にしるしを付け、キー画像として扱うことができます。

キー画像として扱うことによって、重要な画像に目印を付けておくだけでなく、キー画像のみをプリントするなどの操作もできます。

プレビューエリアで表示している画像のなかから、キー画像として選択したい画像の右下にある黄色く囲まれた場所をクリックします。

黄色く囲まれている範囲に、鍵の絵がしるしとして付けられます。

キー画像を解除したい場合は、プレビューエリアで右下の黄色く囲まれている範囲にある鍵の絵をクリックします。鍵の絵がなくなり普通の画像として扱われます。



4.6 画像セットを検索する

リストウィンドウで、管理している画像セットを検索できます。

検索にはワンキーサーチや簡易検索のように簡単にできるものから、細かい検索条件を設定して検索する詳細検索などがあります。

4.6.1 キーボードのキーを押して検索する(ワンキーサーチ)

キーボードのキーを押すと、そのキーの文字で始まる属性の画像セットのなかで1番上にあるものを検索して自動的に選択します。

- 1 ワンキーサーチを使いたい検査情報の項目(例:「患者名」)を選択し、画像セットを並べ替えます。
- 2 ワンキーサーチしたい文字のキーを押します。

たとえば、リストが患者名で並んでいるとき、「K」キーを押すと、患者名が「K」で始まる画像セット(日本語の場合はイニシャルが「K」の「か」「き」「く」「け」「こ)のうち、1番上にあるものが選択されます。押したキーの文字で始まる画像セットがない場合は何も起こりません。

リストの並び順が昇順の場合はアルファベット→日本語の順に、降順の場合は日本語→アルファベットの順に検索して選択されます。

同じキーを2回以上押した場合は、検索される文字が押すごとに、アルファベット→日本語の50音の順序で切り替わります。

たとえば、Kキーの場合、キーを押すごとに検索される文字が「K」「か」「き」「く」「け」「こ」の順序に切り替わります。「こ」のあとは「K」に戻り、以後、同じ順序を繰り返します。



ビューアのビューエリアの画像にも、上記と同じ操作をしてキー画像を設定できます。



ワンキーサーチでは、「検索結果」フォルダは作られません。



アルファベットは大文字小文字を区別しません。



日本語はふりがなが入力されている場合にワンキーサーチできません。



検索した結果から、ある日付(範囲)の画像セットだけをさらにフィルタ表示することで、すばやく操作できます。



次に検索すると「検索結果」フォルダの中身が上書きされます。検索結果を保存しておきたいときは、「検索結果」フォルダの名前を変えてください。

4.6.2 画像セットの検査情報で簡単に検索する(簡易検索)

画像セットの検査情報を検索条件にして、簡単に画像セットを検索できます。

たとえば、今表示されている画像セットと同じ患者のデータを検索したり、同じ検査日のデータを検索するのに便利です。

また、簡易検索の検索対象範囲は、現在選択しているフォルダからと、登録してある画像セット全体からの2種類のなかから選択できます。

- 1 リストエリアで、検索条件にしたい画像セットの条件とする検査項目の上で右クリックし、メニューを開きます。

たとえば、モダリティがMRの画像セットを検索したい場合は、リストエリアの「MR」を右クリックします。

生年月日	検査日	モダリティ	検査部位	画像数	最終取得時刻
1970/05/07	2010/10/12	MR	CHEST	06	2011/10/11 10:45:14
1970/05/07	2010/10/12	MR			
	2007/09/25	MR			
1932/09/18	2001/10/29	XA			
	2002/01/23	MR			
1955/01/22	2010/03/17	CT			
1971/09/15	1999/01/25	MR			
1910/11/06	2002/01/28	CT			

- 2 現在選択しているフォルダのなかから検索する場合は、「簡易検索(現在のフォルダ) :[(検索条件にした検査情報)]」を、登録してある画像セットすべてから検索する場合は、「簡易検索(全体) [(検索条件にした検査情報)]」を選択します。

検索が開始され、「検索結果」という名前のフォルダが作成され、そこに検索された画像セットのリンクが作成されます。

4.6.3 検索バーで検索する(検索バー)

検索バーで細かい検索条件を設定せずに画像セットを検索できます。

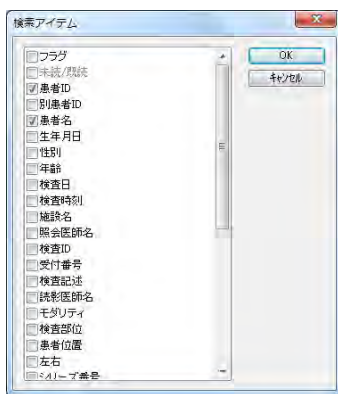


検索アイテムボタン

検索アイテムを選択する

検索の対象にする項目(検索アイテム)を選択するには、以下のように操作します。

- 1 検索アイテムボタンをクリックします。
「検索アイテム」ダイアログボックスが開きます。



- 2 チェックボックスをチェックして検索アイテムを選択します。
複数選択することもできます。複数選択した場合は、検索条件にすべてあてはまるものを検索します。
- 3 「OK」ボタンをクリックしてダイアログボックス閉じます。
チェックした項目が検索アイテムとして登録され、検索アイテムボタンに選択した項目が表示されます。

検索バーで検索する

設定した検索アイテムをもとに検索するには、以下のように操作します。

- 1 検索バーの「検索位置」リストボックスで検索範囲を指定します。
「全体」
登録されているすべての画像セットを検索します。

「現在のフォルダ」
いま選択されているフォルダにリンクがある画像セットを検索します。
- 2 「検索条件」コンボボックスに、検索条件を入力します。
- 3 「検索」ボタンをクリックします。
検索が開始し、選択されているフォルダの下に、「検索結果」フォルダが作成され、そこに検索された画像セットのリンクが作成されます。



検索した結果から、ある日付(範囲)の画像セットだけをさらにフィルタ表示することで、すばやく操作できます。



検索アイテムが多い場合、すべて表示されないことがあります。



検索条件は、過去10回分の履歴が残されていますので、ドロップダウンボタン(▼)をクリックして表示される過去の履歴から検索条件を選択することもできます。



次に検索すると「検索結果」フォルダの中身が上書きされます。検索結果を保存しておきたいときは、フォルダの名前を変えてください。



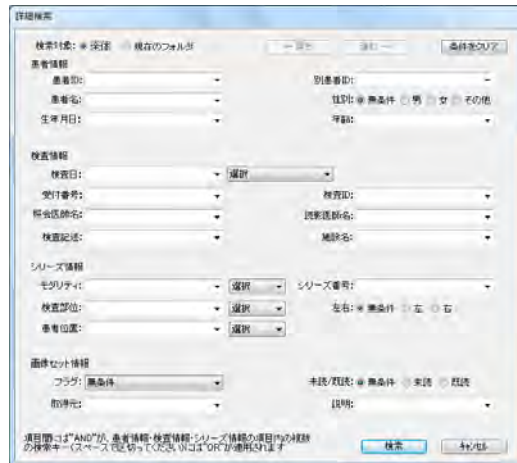
検索した結果から、ある日付(範囲)の画像セットだけをさらにフィルタ表示して、すばやく操作できます。

4.6.4 条件を詳しく設定して検索する(詳細検索)

フォルダエリアの各フォルダ内の画像セットを、患者名、患者IDなどを細かく設定して検索できます。「メインリスト」フォルダを検索すれば、すべての画像セットのなかから検索できます。

検索手順

- 1 開いているフォルダ内の画像セットを検索したい場合は、あらかじめ検索するフォルダを選択します。
- 2 リストウィンドウの「ツール」メニューから「詳細検索」を選択します。
「詳細検索」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「検索対象」ラジオボタンから、検索するフォルダを指定します。
「全体」ラジオボタンをクリックして選択すると、「メインリスト」フォルダが指定されます。
手順1で選択したフォルダにリンクがある画像セットだけを検索するときは「現在のフォルダ」ラジオボタンをクリックして選択します。
- 4 検索条件を設定します。
- 5 「検索」ボタンを選択します。
検索が開始され、選択されているフォルダの下に、「検索結果」フォルダが作成され、そこに、検索された画像セットのリンクが作成されます。



次に検索すると「検索結果」フォルダの中身が上書きされます。検索結果を保存しておきたいときは、「検索結果」フォルダの名前を変えてください。

検索条件の詳しい設定内容

「詳細検索」ダイアログボックスでは、検索の詳しい条件が設定できます。

検索条件の便利な設定方法

検索条件を複数設定すると、すべての条件にあてはまる画像セットを検索します。

1つの項目に2つ以上の検索条件をスペースで区切って入力すると、いずれかにあてはまる画像セットを検索します。

たとえば「モダリティ」コンボボックスに「CT MR」と入力すると、CTの画像とMRの画像を検索します。

検索条件は、過去10回分の履歴がそれぞれに残されています。

コンボボックスで、過去の履歴から検査条件を選択することもできます。

「*」（ワイルドカード）を使用して、部分一致検索ができます。

たとえば、患者氏名に「山田*」と入力して検索すると、「山田」で始まる患者氏名の画像セットがすべて検索されます。

「*山田*」や「*山田」といった検索もできます。

「/」を使用して、完全一致検索ができます。

たとえば、患者IDを検索したい際、「025」と入力して検索した場合は、患者IDに「025」を含む「1025」や「0257」などの全データが検索されますが、「/025」と入力して検索すると、患者IDが「025」のデータだけを検索します。

患者の情報で検索する（「患者情報」グループ）

患者ID

患者IDを入力します。完全一致検索する場合は「/」を付けて「/025」のようにします。

患者名

患者名を入力します。部分一致検索する場合は「*」（ワイルドカード）を使用します。たとえば、「山田*」と入力して検索すると、「山田」で始まる画像セットがすべて検索されます。「*山田*」や「*山田」といった検索もできます。

生年月日

生年月日を入力します。以下の形式で、手動で入力します。

- ・YYYYMMDD : YYYY年MM月DD日
- ・YYYYMM : YYYY年MM月からYYYY年MM月の月末まで
- ・YYYY : YYYY年1月1日からYYYY年12月31日まで
- ・mmdd : 今年のMM月DD日
- ・DD : 今月のDD日

範囲を指定することもできます。

たとえば、「20010801-20010810」と入力して検索すると、日付が2001年8月1日から2001年8月10日までの画像セットがすべて検索されます。

「*」（ワイルドカード）での設定はできません。



ダイアログボックス内のすべての入力内容を削除するには「条件をクリア」ボタンをクリックします。

別患者ID

別患者IDを入力します。完全一致検索する場合は「/」を付けて「/025」のようにします。

性別

ラジオボタンで性別を選択します。「無条件」ラジオボタンを選択すると、性別をとくに指定しないで検索します。

年齢

検査日現在の年齢を入力します。

検査の情報で検索する（「検査情報」グループ）**検査日**

検査日を入力します。「選択」リストボックスを開き、以下のメニューを選択して簡単に設定することもできます。

- ・すべての
- ・今日の
- ・昨日の
- ・昨日以降の
- ・今週の
- ・今月の
- ・今年の
- ・今年度の
- ・去年の
- ・去年以降の
- ・(一昨年) 以降の
- ・(一昨年の年度) 以降の

以下の形式で、手動で入力することもできます。

- ・YYYYMMDD : YYYY年MM月DD日
- ・YYYYMM : YYYY年MM月からYYYY年MM月の月末まで
- ・YYYY : YYYY年1月1日からYYYY年12月31日まで
- ・MMDD : 今年のMM月DD日
- ・DD : 今月のDD日

手動で範囲を指定することもできます。たとえば、「20010801-20010810」と入力して検索すると、日付けが2001年8月1日から2001年8月10日までの画像セットがすべて検索されます。「*」（ワイルドカード）での設定はできません。

受付番号

受付番号を入力します。完全一致検索する場合は「/」を付けて「/025」のようにします。

照会医師名

照会医師名を入力します。部分一致検索する場合は「*」（ワイルドカード）を使用します。たとえば、「山田*」と入力して検索すると、「山田」で始まる画像セットがすべて検索されます。「*山田*」や「*山田」といった検索もできます。

検査記述

DICOM属性の検査記述(Study Description)を入力します。



説明文ではありません。

シリーズの情報で検索する（「シリーズ情報」グループ）

モダリティ

「選択」ドロップダウンリストボックスでモダリティを選択するか、「モダリティ」コンボボックスに手動でモダリティを入力します。

「選択」ドロップダウンリストボックスからは、現在登録されている画像セットのモダリティが選択できます。

検査部位

「選択」ドロップダウンリストボックスで検査部位を選択するか、「検査部位」コンボボックスに手動で検査部位を入力します。

「選択」ドロップダウンリストボックスからは、現在登録されている画像セットの検査部位が選択できます。

患者位置

「選択」ドロップダウンリストボックスで患者位置を選択するか、「患者位置」コンボボックスに手動で患者位置を入力します。

「選択」ドロップダウンリストボックスからは、現在登録されている患者位置の検査部位が選択できます。

シリーズ番号

シリーズ番号を入力します。

左右

ラジオボタンで左右を選択します。

「無条件」ラジオボタンをクリックして選択すると、左右をとくに指定しないで検索します。

画像セットの情報で検索する（「画像セット情報」グループ）

フラグ

「フラグ」リストボックスでフラグを選択します。初期状態では「無条件」に設定されています。

取得元

画像データを読み込んだ際の取得元を入力します。

未読/既読

「未読(未操作)」または「既読(操作済)」ラジオボタンをクリックして選択します。

未読/既読をとくに指定しないで検索したい場合は「無条件」ラジオボタンをクリックして選択します。

説明

説明を入力します。ここに入力された情報は、DICOM属性ではなく、AOCのローカルデータベースで管理される情報となります。



DICOM属性の検査記述(Study Description)ではありません。



IRWFオプションをご利用でない場合は、11ページの「3.4 検査情報(DICOM属性)を編集する」を参照してください。



オプションの確認方法については3ページの「1.2 AOCのオプション」を参照してください。

4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)

IRWFオプションをご利用の場合、画像セットのDICOM属性をIHEのIRWF統合プロファイルに準拠した形式で編集できます。これによりCD/DVDを使ってインポートされた画像をPACSで管理する場合などに信頼性が向上します。

4.7.1 「DICOM属性編集」の項目設定

画像データのDICOM属性を編集する「DICOM属性編集」ダイアログボックスの表示項目などを設定できます。IRWFオプションなしの場合に加え、別患者ID、シリーズ記述の属性を設定できます。さらに3つまでの任意の属性を自由に追加できます。

DICOM属性編集については、52ページの「4.7.2 画像セットや画像の検査情報(DICOM属性)を編集する」を参照してください。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「拡張DICOM属性編集の設定」を選択します。「拡張DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「患者ID」から「C3」までの各属性について、以下の内容を設定します。

「編集可」チェックボックス

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスに表示させる属性をチェックします。表示させない項目はチェックボックスのチェックを外します。

「Group」「Elmt.」入力ボックス

各属性に対応するDICOMタグが表示されています。入力できる属性は「C1」「C2」「C3」のみです。他の属性の「Group」「Elmt.」入力ボックスからコピー＆ペーストで入力することもできます。

「必須」チェックボックス

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスで、項目の変更を必須にしたい属性はチェックします。チェックした属性は、「DICOM属性編集」ダイアログボックスで、変更しないと警告のメッセージが表示され、編集を完了できなくなります。

変更を任意にする項目は、チェックボックスのチェックを外します。



DICOM属性の「C1」「C2」「C3」は、任意に設定できる属性です。利用する場合は、属性名とDICOMタグ(グループ、エレメント)を入力してください。その他の「編集可」チェックボックスや「必須」チェックボックスの設定方法は他の属性と同じです。ただし、「内容設定」ボタンについては、「内容設定」ボタンを参照してください。

「検索キー」ドロップダウンリストボックス（「患者ID」「患者名」「生年月日」「性別」「検査日」「照会医師名」「受付番号」「モダリティ」のみ）

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスでワークリスト検索を行うときの検索キーをドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択します。選択できる検索キーは以下のとおりです。

- 「元の値」： 該当する画像のオリジナルの値が入力された状態にします。
- 「空欄」： 空欄の入力ボックスを設けて、検索キーを自由に入力できるようにします。
- 「非表示」： 該当する属性を検索キーとして使えないようにします。

「設定値1」「設定値2」「設定値3」コンボボックス

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスでの初期値をドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択するか、または、入力ボックスに直接入力します。

ドロップダウンボタンで選択できる値は以下のとおりです。

- 「ワークリスト」： ワークリストから取得された値を自動的に入力します。
- 「元の値」： 該当する画像のオリジナルの値を自動的に入力します。
- 「設定なし」： 属性が何も入力されていない状態(空) になります。

各コンボボックスの番号は、設定値が適用される優先順位を示します。

たとえば、「設定値1」が「ワークリスト」に設定されていた場合、ワークリストから取得された値が適用されます。ただし、ワークリストから取得された値が空のときは「設定値2」が適用されます。さらに、「設定値2」が「元の値」に設定されていて、その値が空の場合は、「設定値3」が適用されます。

「手動編集」チェックボックス

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスで、項目の値をキーボードから直接入力するように設定したい場合はチェックします。項目の値をキーボードから入力できないようにする場合は、チェックボックスのチェックを外します。

「内容設定」ボタン（「施設名」「照会医師名」「読影医師名」「モダリティ」「検査部位」「患者位置」「C1」「C2」「C3」のみ）

クリックして「設定値1」「設定値2」「設定値3」で選択できる項目を登録しておくことができます。

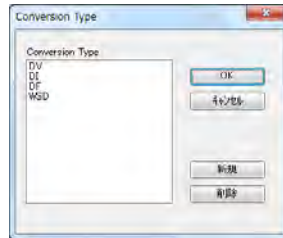
- ・「施設名」「照会医師名」「読影医師名」については、215ページの「B.2.1「DICOM属性編集」の項目設定」の「施設名、照会医師名、読影医師名を登録するには」を参照してください。
- ・「モダリティ」「検査部位」「患者位置」については、215ページの「B.2.1「DICOM属性編集」の項目設定」の「モダリティ、検査部位、患者位置を登録するには」を参照してください。



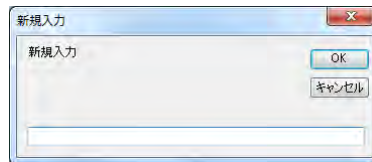
以下の書式を組み合わせることで、自動入力値を自由に設定できます。(AAAAはDICOMタグのグループを、BBBBはエレメントを示します。)
・%(AAAA,BBBB):
元DICOM情報
・&(AAAA,BBBB):
ワークリストの検索結果
たとえば、「%(0010,0010)&(0010,0030)」は、「(元のDICOM情報の患者氏名)\(ワークリストの検索結果での患者生年月日)」となります。

「C1」「C2」「C3」で設定される属性についても、以下の操作で、選択できる項目をあらかじめ登録しておくことができます。

- 1) 「内容設定」ボタンをクリックします。
内容設定のダイアログボックスが開きます。(以下の画面例は、属性名を「Conversion Type」にした場合です。)



- 2) 「新規」ボタンをクリックします。
「新規入力」ダイアログボックスが開きます。



- 3) 入力ボックスに登録したい項目名を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
- 4) 続けて他の項目名を登録する場合は、手順2から3を繰り返します。
登録した項目の名前を変更したい場合は、変更したい項目を右クリックして表示されるメニューから「名前の変更」を選択すると、編集可能な状態になります。
- 5) 登録が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、リストボックスに登録されます。

- 3) 以下の各属性共通の設定を行います。
「プロシジャー ID (検索キーとして設定する)」チェックボックス
プロシジャー ID を検索キーとして設定する場合はチェックします。

「「予約済み処理手順記述」のワークリストの結果を表示する」チェックボックス
メディアの廃棄の方法など、ワークリストサーバーに含まれる予約済みDICOM属性についての処理方法を表示する場合はチェックします。

「「予約済みプロトコルシーケンス」のワークリスト結果を表示する」チェックボックス
予約済みプロトコルシーケンスのワークリスト結果を表示する場合はチェックします。

「ワークリスト結果の表示」チェックボックス
ワークリスト検索の結果を表示する場合はチェックします。

「IHE の IRWF に従って元の情報と変更履歴を保存する」チェックボックス
画像セットの属性に編集前と編集後の情報、および変更履歴を含める場合はチェックします。

「DICOM サーバーに送信する」 チェックボックス

チェックすると「DICOMサーバーに送信」チェックボックスがチェックされた状態で「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスが開くようになります。

「サーバーを設定に含める」 チェックボックス

チェックすると、送信先のDICOMイメージサーバーが設定できる状態で「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスが開くようになります。送信先サーバーの初期値はドロップダウンリストのドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択または直接入力します。ドロップダウンリストに含まれるサーバーについては198ページの「B.1 DICOM通信の設定」を参照してください。

「検査・シリーズの構成を現在のままにする」 ラジオボタン (「SOP Instance UID を維持する」 チェックボックス)、「検査を1個にまとめ、シリーズは現在の構成のままにする」 ラジオボタン、「検査・シリーズを1個にまとめる」 ラジオボタン

選択した項目が有効になった状態で「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスが開くようになります。

「新しいシリーズを生成する」 チェックボックス

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスの「新しいシリーズを生成する」チェックボックスがチェックされた状態でダイアログボックスが開くようになります。

「Study Instance UID の扱い方法」

Study Instance UIDの扱いについて、「変更しない」「新しく生成する」「MWMで取得した情報で上書きする」のいずれかのラジオボタンをクリックして選びます。

「送信が完了した画像セットを、現在のフォルダから削除する」 チェックボックス

チェックすると、DICOMイメージサーバーに送信された画像がフォルダから削除されます。

「作業状況を PPS サーバーに送信する」 チェックボックス

作業の進捗をMPPSに送信する場合はチェックします。送信先はドロップダウンリストのドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択または直接入力します。ドロップダウンリストに含まれるサーバーについては198ページの「B.1 DICOM通信の設定」を参照してください。

「送信後に Storage Commitment で確認する」 チェックボックス

Storage Commitment サービスクラスを使い、DICOMイメージサーバーが画像を受け取ったかどうかを確認する場合はチェックします。問い合わせ先サーバーはドロップダウンリストのドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択または直接入力します。ドロップダウンリストに含まれるサーバーについては「4.1 DICOMサーバーの設定」を参照してください。

「インポートフォルダでは初期状態をこの設定にロックする」 チェックボックス

チェックすると、現在の「拡張DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスの設定が、「インポート」フォルダ内の画像セットに反映されたうえで固定されます。チェックを外すと、設定が「インポート」フォルダ内の画像セットに反映されません。

「他のフォルダでも初期状態をこの設定にロックする」 チェックボックス

チェックすると、現在の「拡張DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスの設定が、「インポート」フォルダ以外の画像セットに反映されたうえで固定されます。チェックを外すと、設定が「インポート」フォルダ内の画像セットに反映されません。



設置時の設定によっては、複数画像セットのDICOM属性をまとめて編集できない場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店またはアレイ株式会社に問い合わせてください。



キーボードのCtrlキーを押しながら複数の画像セットをクリックすると、クリックした複数の画像セットを選択できます。Shiftキーを押しながら隣り合っていない2つの画像セットをクリックすると、選択した2つの画像セットを含む、その画像セットの間にあるすべての画像セットを選択できます。Ctrlキーを押しながらAキーを押すと、すべての画像セットが選択されます。

「IRWF の標準的な設定にする」ボタン

「拡張DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスの設定をIRWFで用いられる標準的な設定にします。

4 「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、ダイアログボックスが閉じます。

設定を破棄してダイアログボックスを閉じるには「キャンセル」ボタンをクリックします。

4.7.2 画像セットや画像の検査情報(DICOM属性)を編集する

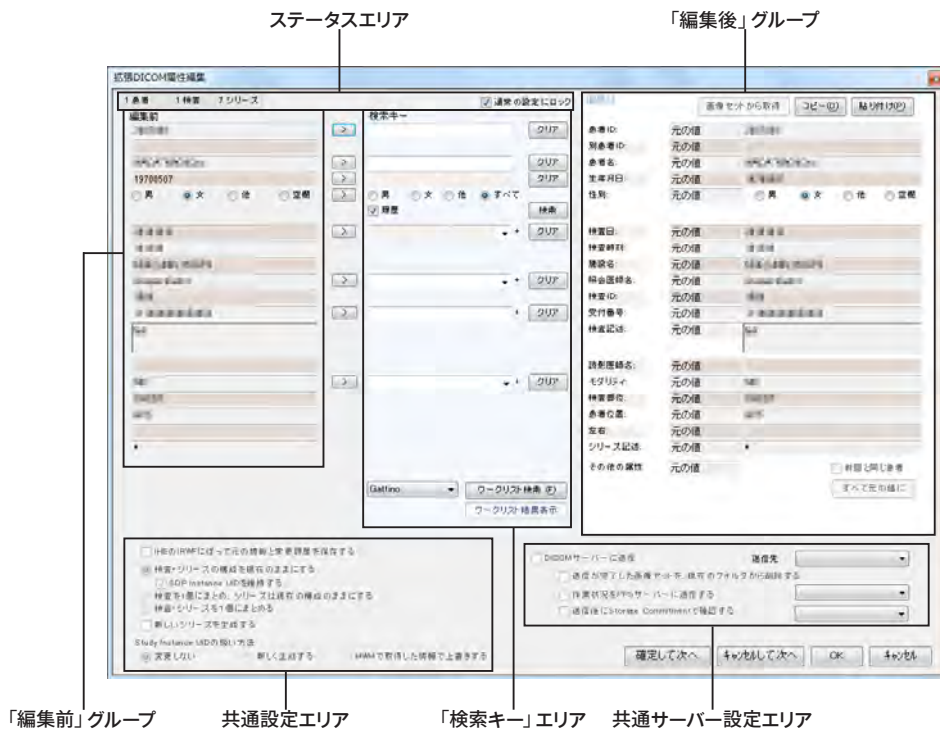
手順の概要

1 リストから、DICOM属性を編集したい画像セットを選択します。

複数の画像セットを選択すると、選択した画像セットのDICOM属性をまとめて編集できます。

2 ツールバーの「情報編集」ボタンをクリックします。

「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。



「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスは以下の各領域から構成されています。

3 画像セットの情報を編集します。

ステータスエリア

患者数や検査数など、画像の情報が表示されます。「共通の設定にロック」チェックボックス以外は変更できません。

「患者」 : 患者数が表示されます。

「検査」 : 検査数が表示されます。

「シリーズ」：シリーズ数が表示されます。

「処理済み画像セット数」：インポートフォルダ内の編集済みの画像セットの数が表示されます。

「未処理画像セット数」：インポートフォルダ内の編集していない画像セットの数が表示されます。



「通常の設定にロック」チェックボックス：チェックすると「拡張DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスで設定した内容が「編集後」グループに反映され、設定が固定されます。チェックを外すと、編集可能になります。

「編集前」グループ

画像セットを開いた直後のDICOM属性が表示されます。変更はできません。

「検索キー」グループ

ワークリストオプションをご利用の場合はワークリストから検索を行えます。検索された情報をDICOM属性にセットできます。

- コピーボタン () をクリックして、目的の「編集前」グループの属性をコピーして検索キーにできます。
- 「履歴」チェックボックスをチェックしておき、患者IDを入力して「検索」ボタンをクリックすると、入力した患者IDに一致する患者情報(「患者氏名」「生年月日」「性別」)を過去の入力内容から取得し、自動的に入力できます。
- 入力ボックスの右に「+」(プラス)マークが付いている項目は、検索に使われる検査情報の項目です。AOCは、「+」マークが付いている項目の情報をキーにして、DICOMワークリストサーバーに情報を問い合わせます。
- 検索キーとして使わない名称や値は、「クリア」ボタンをクリックして消去してください。
- ワークリスト検索を実行するときは、サーバー名が表示されているドロップダウンリストのドロップダウンボタン () をクリックしてワークリストサーバーを選択し、「ワークリスト検索」ボタンをクリックします。
- ワークリスト検索結果の詳細を表示させたい場合は、「ワークリスト結果表示」ボタンをクリックします。

「編集後」グループ

この領域に表示されている内容が新しいDICOM属性になります。

「画像セットから取得」ボタン

単一の画像を開いているときにこのボタンをクリックすると、その画像が属する画像セットのDICOM属性が自動的に入力されます。

「コピー」ボタン

クリックすると、現在の「編集後」グループの属性を一時的に記憶します。他の画像の属性編集時に「貼り付け」ボタンをクリックすることにより、記憶した属性すべてを自動的に入力できます。

「貼り付け」ボタン

クリックすると、「コピー」ボタンで一時的に記憶された属性を現在開いている各属性欄に自動的に入力します。



「インポート」フォルダ以外のフォルダ内の画像セットで「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスを開いた場合、ステータスエリアの「処理済み画像セット数」と「未処理画像セット数」は表示されません。

DICOM属性欄(「患者ID」から「その他の属性」まで)

左側の入力ボックスには現在各属性に入力されている値の状態(「ワークリスト」「元の値」など)が、右側の入力ボックスには内容が表示されます。(「性別」はラジオボタンで選択します。)

「前回と同じ患者」チェックボックス

前回編集した画像のDICOM属性のうち、患者ID、別患者ID、患者名、生年月日が現在編集している画像と一致する場合は自動的にチェックされ、これら4つの属性について前回開いた画像と同じ属性が自動的に入力されます。

また、チェックされていない状態でクリックすると、確認のダイアログボックスが表示され、「OK」をクリックするとこれらの4つの属性が自動的に入力されます。

「すべて元の値に」ボタン

クリックすると、編集中のすべての属性を「編集前」グループの内容に戻します。

「予約済みプロトコルシーケンス」のワークリストの結果」欄

予約済みプロトコルシーケンスのワークリストの結果が表示されます。

「予約済み処理手順記述」のワークリストの結果」欄

メディアの廃棄方法など予約済み処理手順記述の結果が表示されます。

共通設定エリア

各属性の保存方法など、共通の設定を行います。

「IHEのIRWFに従って元の情報と変更履歴を保存する」チェックボックス

IHEのIRWFに準拠した形式で、編集前の情報と変更履歴を保存する場合はチェックします。

「検査・シリーズの構成を現在のままにする」ラジオボタン

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの検査およびシリーズの構成を変更しないまま登録します。

「SOP Instance UIDを維持する」チェックボックス

チェックすると、画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集しても、SOP Instance UIDを維持したままにします。

「検査を1個にまとめ、シリーズは現在の構成のままにする」ラジオボタン

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの、シリーズの構成はそのままにしますが、それらを1個の検査としてまとめて登録します。

「検査・シリーズを1個にまとめる」ラジオボタン

チェックすると、DICOM属性の編集を行った画像セットの検査およびシリーズを1個にまとめて登録します。

「新しいシリーズを生成する」チェックボックス、「新しいスタディを生成する」チェックボックス

チェックすると、新しいSeries Instance UIDが付きます。チェックを外すとSeries Instance UIDは変更されません。「新しいスタディを生成する」チェックボックスをチェックすると、チェックされた状態でグレイアウトされ、Series Instance UIDも新しくなります。

DICOM サーバー設定エリア

DICOM イメージサーバー、MPPSサーバー (オプション)、Storage Commitment の設定を行います。

「DICOMサーバーに送信」チェックボックス

編集が完了した画像を自動的にDICOM イメージサーバーに送信するときはチェックします。

「送信先」ドロップダウンリスト

ドロップダウンボタン(▼) をクリックし、送信先のDICOM イメージサーバーを選択します。

「送信が完了した画像セットを、現在のフォルダから削除する」チェックボックス

チェックすると、DICOM イメージサーバーに送信された画像セットをAOCのフォルダから自動的に削除します。

「作業状況をPPSサーバーに送信する」チェックボックス

MPPSサーバーに検査の進捗を送信する場合はチェックします。

「送信後にStorage Commitmentで確認する」チェックボックス

画像を送信後、DICOM イメージサーバーが画像を受け取ったかどうかを確認するときはチェックします。

4 以下のいずれかのボタンをクリックし、編集を終了します。

「OK」 ボタン

クリックすると編集内容を保存し、このダイアログボックスを閉じます。

「確定して次へ」 ボタン

クリックすると編集内容を保存し、AOCのリストエリアにある次の画像セットを編集します。手順2からの操作を繰り返してください。

「キャンセルして次へ」 ボタン

クリックすると確認のダイアログボックスが開き、「はい」をクリックすると編集内容が破棄され、AOCのリストエリアにある次の画像セットの属性を編集します。手順2からの操作を繰り返してください。

「キャンセル」 ボタン

クリックすると確認のダイアログボックスが開き、「はい」をクリックすると編集内容が破棄され、このダイアログボックスを閉じます。

5 「OK」 ボタンをクリックします。

画像セットの検査情報(DICOM属性) が更新され、リストの表示が変わります。



編集内容の保存中は、「属性を適用しています(yyy / xxx)」というメッセージが進捗とともに表示されます。(xxxは画像の総数を、yyyは処理済みの画像数を示します。)すべての画像を処理し終わるとメッセージ表示が消えます。



DICOMサーバー設定エリアで「DICOMサーバーに送信」チェックボックスがチェックされている場合は、「送信予約しました」というメッセージが2秒間表示され、編集済みの画像セットが送信フォルダに移動します。



「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスを開き、「コピー」ボタンをクリックしても、検査情報(DICOM属性)をコピーできます。コピーしたあとは、「キャンセル」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じてください。



DICOM属性をコピーしたあとも、手でDICOM属性を編集できます。



検査/シリーズの構成を設定できます。



DICOM属性を編集した画像データを自動的にDICOMイメージサーバーに送信できます。

4.7.3 他の画像セットの検査情報(DICOM属性)をコピーして貼り付ける

- 1 リストウィンドウで、コピー元の画像セットのリストを右クリックして表示されるメニューから「DICOM属性のコピー」を選択します。
- 2 リストウィンドウでコピー先の画像セットを選択し、「情報編集」ボタンをクリックします。「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。
- 3 「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスの「貼り付け」ボタンをクリックします。表示されているDICOM属性のそれぞれの項目に、コピーした情報が貼り付けられます。
- 4 「OK」ボタンをクリックして「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスを閉じます。コピー先の画像セットの検査情報(DICOM属性)が、コピー元の検査情報(DICOM属性)の情報に書き変わります。

4.7.4 DICOMワークリストサーバーに検査の情報を問い合わせる(ワークリストオプション)

ワークリストオプションをご利用の場合は、検査情報をDICOMワークリストサーバーに問い合わせ、その情報をDICOM属性にセットできます。

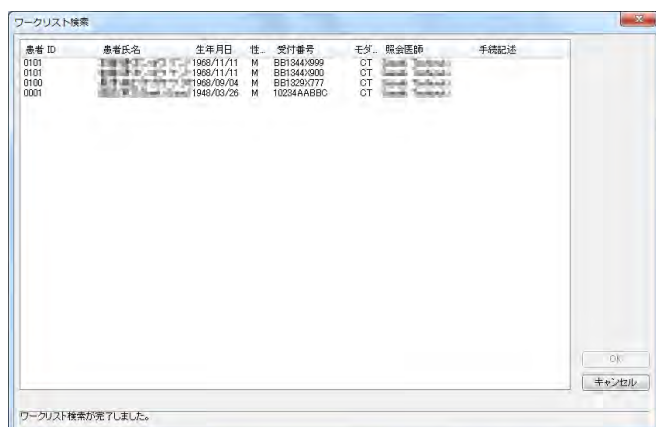
- 1 DICOM属性を変更したい画像セットを選択して「拡張DICOM属性編集」ダイアログボックスを開きます。



- 2 検索条件を設定します。
「検索キー」エリアの各入力ボックスに、検索キーとして使用する情報を登録します。
- 3 DICOMワークリストサーバーを、リストボックスから選択します。
- 4 「ワークリスト検索」ボタンをクリックします。
検索が開始され、「ワークリスト結果表示」ボタンがアクティブになります。

5 「ワークリスト結果表示」ボタンをクリックします。

「ワークリスト検索」ダイアログボックスが開き、検索結果が表示されます。



6 DICOM属性にセットしたいリストを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

「ワークリスト検索」ダイアログボックスが閉じ、「拡張DICOM属性編集の設定」の「設定値」で「ワークリスト」が選択されている項目に、選択したリストの情報がセットされます。

第5章

ビューワ (AOC View) の概要・基本操作

リストウィンドウで画像を開くと、画像を見るための専用プログラムが起動し、画像が表示されます。このプログラムをビューワといいます。ビューワでは、画像の濃淡（トーン）を調節したり表示補間方法を変更するなど、画像の表示状態を変更して詳しく見ることができます。また、角度や長さの計測などもできます。

5.1 画像を開く



選択した画像セット、または画像のみをビューワで開くことができます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアから開きたい画像セットを選択するか、プレビューエリアから開きたい画像のサムネイルを選択します。
- 2 画像セットもしくは画像を選択した状態で、以下のいずれかの操作をします。
 - ・ ツールバーの「開く」ボタンを選択する
 - ・ 選択した画像セットもしくは画像をダブルクリックする
 - ・ 「ファイル」メニューから「画像セットを開く」を選択する
 - ・ 右クリックして表示されるメニューから「画像セットを開く」を選択する
(プレビューエリアで画像単体を選択中の場合は「選択画像を開く」を選択します)
- 3 ビューワが起動し、選択した画像セット、または画像が開きます。
設定によって、AOC ViewまたはAOC Stackatoのどちらかが起動します。ここではAOC Viewについて説明します。起動するビューワの設定方法、およびAOC Stackatoについては、別冊の「AOC Stackato ユーザーズガイド」を参照してください。

5.2 複数の画像セットを一緒に開く(連結して開く)



複数の画像セットを連結し、1つのビューワ画面で開くことができます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、連結して開きたい複数の画像セットを選択します。
選択した画像セットの表示が反転します。選択を解除したい場合は、再度選択することで解除できます。
- 2 複数の画像セットを選択した状態で、以下のいずれかの操作をします。
 - ・ ツールバーの「連結して開く」ボタンを選択する
 - ・ 「ファイル」メニューから「画像セットを連結して開く」を選択する
 - ・ リストエリアで右クリックして表示されるメニューから「画像セットを連結して開く」を選択する

ビューワが起動し、複数の画像セットが連結されて1つのビューワ画面で表示されます。画像は検査ごとに分かれて表示されるので、前の検査の画像と次の検査の画像が同じ画面に混ざって表示されることはありません。



キーボードのCtrlキーを押しながら複数の画像セットをクリックすると、クリックした複数の画像セットを選択できます。Shiftキーを押しながら隣り合っていない2つの画像セットをクリックすると、選択した2つの画像セットを含む、その画像セットの間にあるすべての画像セットを選択できます。Ctrlキーを押しながらAキーを押すと、すべての画像セットが選択されます。



1度に開くことができる最大画像数は4096画像です。ただしメモリの容量によっては、これより少なくなることがあります。



この機能は「比較用を開く」でも使用できます。比較用に開きたい複数の画像セットを選択後、Shiftキーを押しながら、右クリックして表示されるメニューから「比較用を開く」を選択すると、画像セットが連結された状態で2つ目のビューポートで開かれます。(「比較用を開く」に関しては次節を参照してください。)

5.3 複数の画像を開いて比較する(ビューポート)



ビューワでは、2つの画像セット、または同じ画像セット内の2つの画像を2つのビューポートに分け、同じウィンドウで並べて表示させることができます。

開いている画像セットを別の画像セットと比較する

あらかじめ比較元の画像セットをビューワで開いておき、比較したい画像セットをリストウィンドウから選び、並べて表示させます。

- 1 比較元の画像セットがビューワで開かれている状態から、比較したい画像セットをリストエリアで選択します。
- 2 以下のいずれかの操作をします。
 - ・ ツールバーの「比較用に開く」ボタンをクリックする
 - ・ 「ファイル」メニューから「画像セットを比較用に開く」を選択する
 - ・ 右クリックして表示されるメニューから「画像セットを比較用に開く」を選択する
(画像単体を比較用に開く場合はプレビューエリアで画像を選択し「選択画像を比較用に開く」を選択します。)

ビューワが起動し、2つの画像セットが2つのビューポートに分けて、同じウィンドウ内に並んで開きます。

画像セットのなかの画像を比較する

ビューワのビューポートを2つに分け、同じ画像セットの画像を並べて表示させます。

- 1 ビューワで画像を開いている状態で、ツールバーの「比較モード」ボタンをクリックするか、または、「表示」メニューから「比較モード」を選択します。
ビューポートが開き、ビューワに表示されている画像と同じ画像が表示されます。
画像セットに複数のシリーズが含まれている場合は、セレクトタから目的の画像を選ぶことにより、同じ検査のなかの異なるシリーズを並べて比較できます。

同一患者の画像を比較する

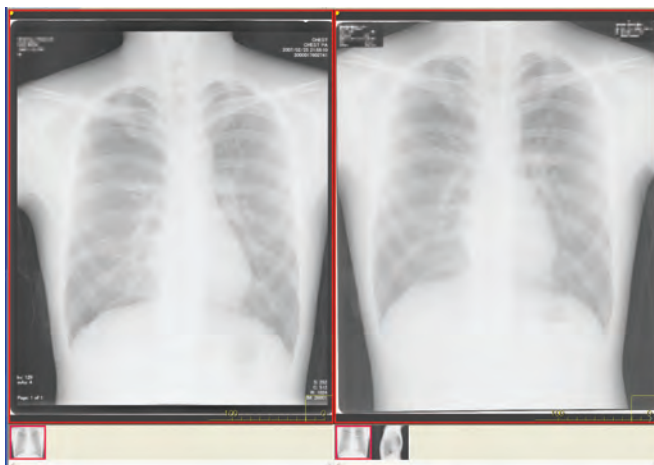
タイムライン機能を使って、同一患者で異なる検査の画像を比較することもできます。
詳しくは79ページの「5.10 タイムラインを使う」を参照してください。



ビューポートを1つに戻すには、「表示」メニューから「比較モード」を選択するか、または、ツールバーの「比較モード」をクリックします。

5.3.1 比較画像の表示位置の設定

比較用に並べて画像を開くとき、その表示位置を設定できます。



ビューワの「設定」メニューから「比較画像の位置」を選択し、サブメニューから「右」「下」のいずれかを選択します。

「右」を選択した場合、比較用画像は右側に、「下」を選択した場合、比較用画像は下側に表示されます。

5.3.2 ビューポートの連動

比較用に画像を開いたとき、ビューポート同士での操作を連動させ、一方の画像で行った操作と同じ操作をもう一方の画像に同時に行えます。

ビューワのメニューリストの「表示」から「ビューポート連動」を選択します。

「ビューポート連動」が設定されているとき、「ビューポート連動」の項にチェックが付きます。

ビューポート同士の連動を解除したい場合は、同様にメニューリストの「表示」から「ビューポート連動」を選択し、チェックを外します。

ビューポート連動以外にも、シリーズ連動があります。



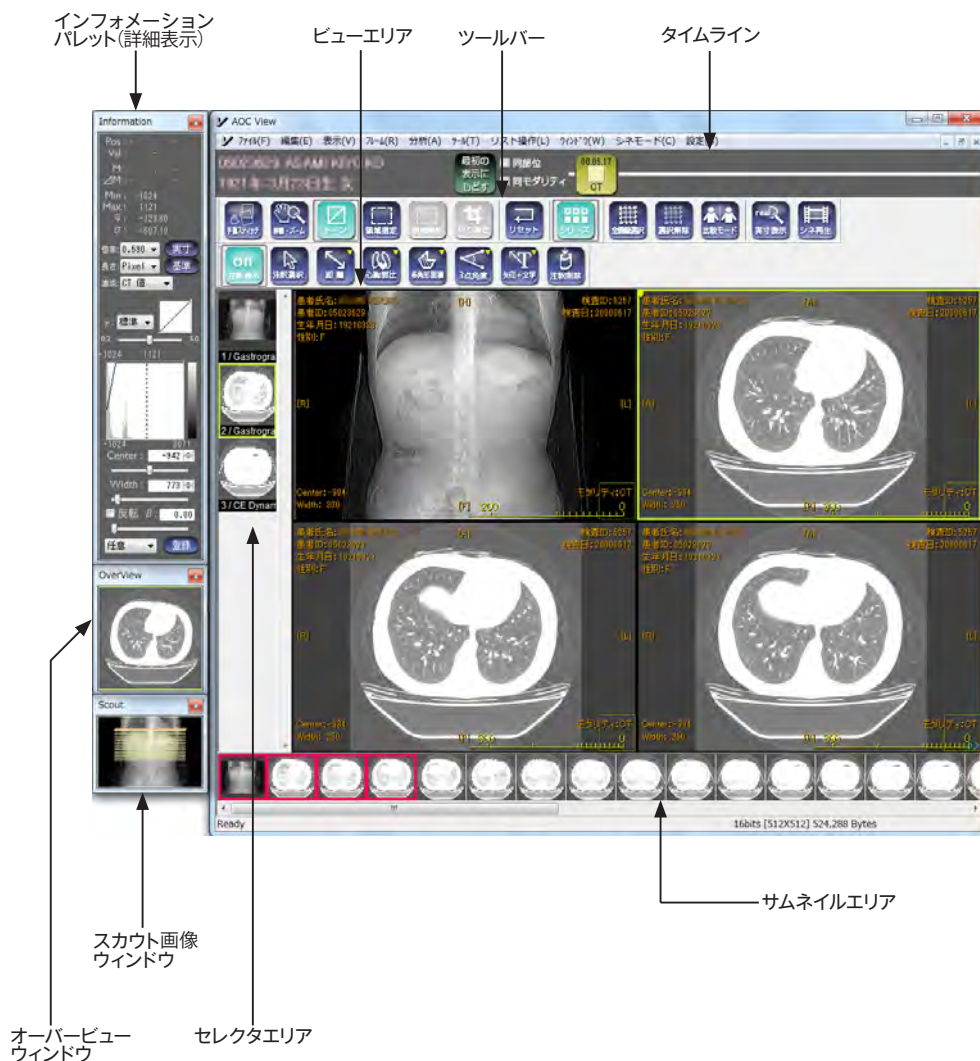
詳しくは75ページの「5.8.6 連動の操作対象の設定」を参照してください。

5.4 ビューワの概要

ビューワでは、ツールバーにあるツールを使用することで、長さや角度の計測、アノテーションの作成などができます。シネ再生を行ったり、ビューワから直接プリント操作を行うこともできます。

タイムラインを使って、同じ患者の加増を検査日に沿って整理・比較できます。

ビューエリアには、リストウィンドウで選択した画像が表示されます。サムネイルエリアには表示している画像を含む画像セットのサムネイルの一覧が表示されます。インフォメーションパレットには、位置情報や現在表示している画像のトーン情報が表示されます。インフォメーションパレットを使用することで、表示している画像のトーンを調整することもできます。



インフォメーションパレット、オーバービューウィンドウ、スカウト画像ウィンドウを移動した場合、その位置は保存されます。移動したことによって画面外に出て見えなくなってしまったときなどは、「ウィンドウ」メニューから「表示位置の整理」を選択することで、それぞれのパレットを初期位置に戻すことができます。



詳しくは96ページの「6.4 ツールバーを編集する」を参照してください。

5.4.1 ツールバー

ビューワには「移動・選択」「計測・アノテーション」「回転・反転」「トーン」「その他」の五系統のツールが用意されています。

それらのツールをまとめたものを「ツールバー」と呼びます。

ツールバーは、用途に応じてツールボタンを追加・削除したり、位置を移動することができます。



5.4.2 インフォメーションパレット

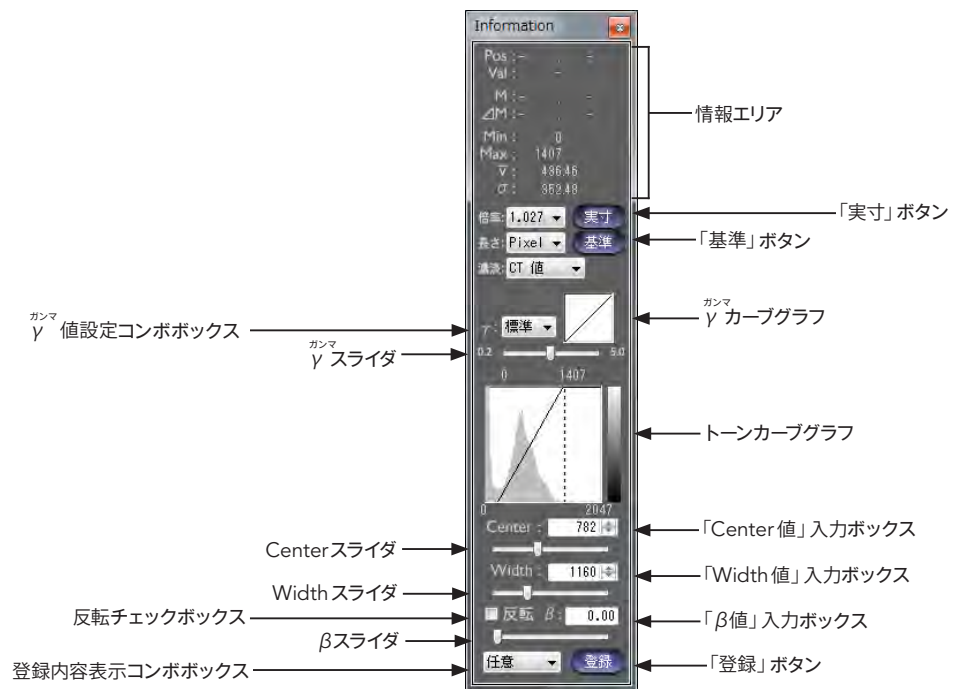
カレント画像のトーン(明るさ・コントラスト) や位置情報が表示されるパレットを「インフォメーションパレット」と呼びます。インフォメーションパレットを使用することで、画像のトーンや倍率などを調整できます(なお、ROIが作成されている場合、統計値とヒストグラムについてはROIのなかの情報が表示されます)。



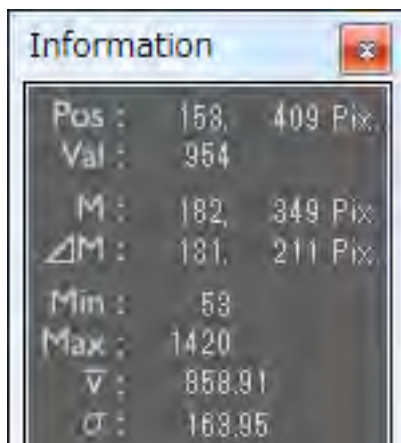
カレント画像については74ページの「5.8 操作する画像を選ぶ・他の画像も一緒に操作する(連動)」を参照してください。



ROI (対象領域)については67ページの「5.5 画像のなかのある領域を選択する・切り抜く」を参照してください。



「情報」エリア詳細



Pos カーソルのX座標、カーソルのY座標

Val カーソルのある地点のピクセル値

M 領域指定中の領域左上のX座標、Y座標

ΔM 領域指定中の領域のX軸の幅、Y軸の幅

Min 画像内のピクセルの最低濃度値(領域指定中は、指定された領域内での値)

Max 画像内のピクセルの最高濃度値(領域指定中は、指定された領域内での値)

\bar{v} 画像内のピクセル値の平均(領域指定中は、指定された領域内での値)

σ 画像内のピクセル値の標準偏差(領域指定中は、指定された領域内での値)

5.4.3 タイムライン

タイムラインには、同じ患者の画像を示すアイコンが検査日ごとに並びます。

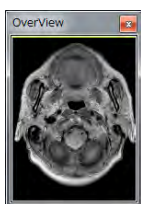
タイムラインを使うことにより、画像の経過を視覚的に確認できるほか、任意の検査日の画像セットをビューエリアに並べて表示できます。



5.4.4 オーバービューウィンドウ

選択している画像の全体像が表示されるウィンドウを「オーバービューウィンドウ」と呼びます。

表示画像の全体像や、選択画像を拡大表示している場合にどの部分を表示しているのかなどの確認ができます。

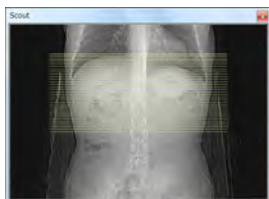




詳しくは76ページの「5.9 ビューワの表示設定」を参照してください。

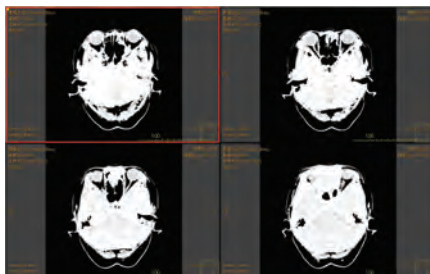
5.4.5 スカウト画像ウィンドウ

スカウト画像が表示されるウィンドウを「スカウト画像ウィンドウ」と呼びます。画像セットにスカウト画像と交差する画像がある場合は、スライズラインが表示されます。



5.4.6 ビューエリア

選択している画像が表示される領域を「ビューエリア」と呼びます。ビューエリアに表示される画像の数は、任意に変更できます。計測などの操作もビューエリア上で行います。



5.4.7 サムネイルエリア

表示している画像を含む画像セットの一覧が表示されている領域を「サムネイルエリア」と呼びます。ビューエリアに表示されている画像は、サムネイルエリアでは赤く囲まれます。サムネイルエリアで表示させたい画像を選択し、ビューエリアに表示させることもできます。



5.4.8 セレクタエリア

一つの画像セットに複数のシリーズの画像が含まれる場合、シリーズごとの先頭の画像が表示されます。



5.5 画像のなかのある領域を選択する・切り抜く

表示している画像のなかのある領域を選択したり、選択した領域を切り抜くなどの操作が行えます。

5.5.1 画像のなかのある領域を選択する(「領域指定」「全体を指定」)

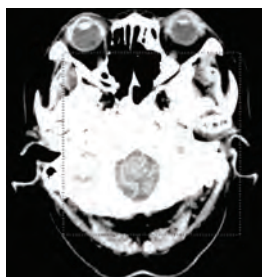
表示している画像上に対象領域(ROI)を作成できます。



- 1 ツールバーの「領域指定ツール」ボタンをクリックするか、「ツール」メニューから「領域指定ツール」を選択します。
- 2 作成したい領域の頂点の1つを選択し、そのままドラッグ&ドロップすると対象領域が作成されます。

インフォメーションパレットには、画像全体ではなく、対象領域内の統計値とヒストグラムが表示されます。

このツールを使用して作成された領域が、プロフィールや切り抜きなどの対象となります。また、対象領域を作成後、トーンカーブグラフ上でダブルクリックすると、作成した領域のトーンが自動的に最適化されます。



全体を指定

選択されている画像全体を対象領域に指定できます。



ツールバーの「全体を指定」ボタンをクリックするか、「編集」メニューから「画像全体を指定」を選択します。

画像全体が対象領域に指定されます。

5.5.2 選択した領域を解除する(「領域解除」ボタン)

選択されている画像上に作成された対象領域を解除します。

以下のいずれかで、対象領域の解除ができます。



- ・ ツールバーの「領域解除」ボタンをクリックする
- ・ 「編集」メニューから「対象領域の解除」を選択する
- ・ 右クリックして表示されるメニューから「対象領域の解除」を選択する

作成された対象領域が解除されます。



「領域指定ツール」を選択中に、ビューエリア上でダブルクリックすると、画像全体が対象領域として指定されます。すでに領域を指定している場合でも、ダブルクリックした場合は画像全体が指定されます。

5.5.3 画像の一部を切り抜く(「切り抜き」ボタン)



作成された対象領域内の画像を切り抜くことができます。

対象領域が指定されている状態で、ツールバーの「切り抜き」ボタンをクリックするか、「編集」メニューから「切り抜き」を選択します。

指定された領域の画像が切り抜かれ、切り抜かれた範囲が、画面中央に表示されます。

5.6 画像の移動・拡大・縮小

表示している画像の移動・拡大・縮小が行えます。

5.6.1 画像を移動する



ビューエリア内で画像を移動して、画像の表示位置を自由に調節できます。

- 1 ツールバーの「移動・ズーム」ボタンをクリックします。
マウスポインタが手のひらの形に変わります。

- 2 画像を選択してドラッグします。



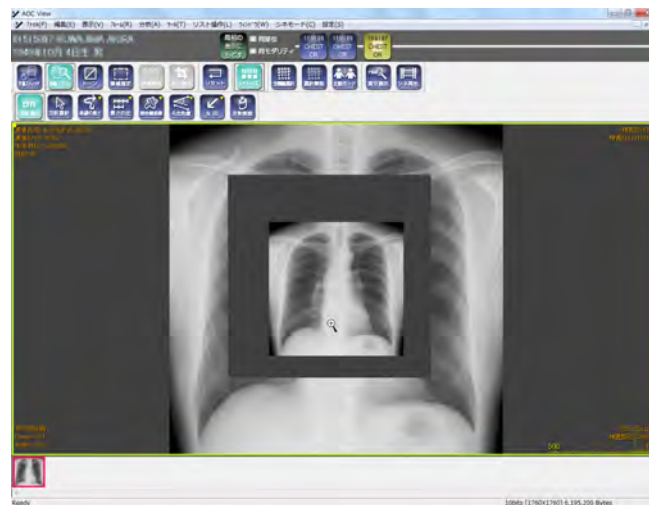
マウスの右ボタンで画像を上方方向にドラッグすると拡大、下方方向にドラッグすると縮小できます。



Shiftキーを押すと「移動・ズーム」ツールを選択している状態になり、「移動・ズーム」ボタンをクリックしなくても、Shiftキーを押し続けている間はドラッグすることで画像を移動できます。また、その状態で右ボタンでドラッグすると拡大・縮小もできます。



「移動・ズーム」ボタンで画像を移動・拡大・縮小したときは、ダブルクリックすると画像の位置と倍率が、最初に開いたときの状態に戻ります。



5.6.2 画像を拡大・縮小する

ビューエリア内で画像を拡大・縮小できます。



手動で拡大・縮小する

- 1 ツールバーの「移動・ズーム」ボタンをクリックします。
- 2 マウスをドラッグして、画像を拡大・縮小します。

拡大

「移動・ズーム」ボタン選択中

マウスの右ボタンを押し続けたまま、上方向に移動しマウスの右ボタンを離す。

縮小

「移動・ズーム」ボタン選択中

マウスの右ボタンを押し続けたまま、下方向に移動しマウスの右ボタンを離す。

ドラッグを始めた場所が中心に近づくように画像が拡大または縮小されます。

インフォメーションパレットの「倍率」リストボックスに、画像の表示倍率が表示されます。

インフォメーションパレットで倍率を変える

インフォメーションパレットで、現在表示されている画像の表示倍率を変更できます。
インフォメーションパレットの「倍率」リストボックスから、画像の表示倍率を選択します。
リストボックスから選択できる表示倍率は

「0.125」「0.250」「0.500」「1.000」「2.000」「4.000」「8.000」

です。

また、「倍率」リストボックスには表示されている画像の現在の表示倍率が表示され、「倍率」リストボックスを選択したとき、現在の表示倍率がリストの一番上に表示されます。

選択したエリアだけ拡大する(マーキー表示)

「領域指定」ツールで作成した対象領域をウィンドウ全体に拡大して表示できます。

- 1 マーキー表示したい領域を「領域指定」ツールで作成します。
- 2 「表示」メニューから「マーキー表示」を選択します。
作成した領域がウィンドウ全体に表示されます。



「ズーム」ボタンを使っても画像を拡大・縮小できます。
・拡大するときは、左ボタンを押したまま上方向に移動します。
・縮小するときは、左ボタンを押したまま下方向に移動します。画像が目的の大きさになったら、ボタンから指を離してください。



ダブルクリックすると画像の位置と倍率が、最初に開いたときの状態に戻ります。



「移動・ズーム」「ズーム」ツール
選択中にダブルクリックしても、
全体表示ができます。

画面の1ピクセルと画像データの1ピクセルと対応して表示する(1対1表示)

画面の1ピクセルと画像データの1ピクセルが対応した大きさを画像を表示します。
したがって、その大きさはディスプレイの解像度によって異なります。

「表示」メニューから「1対1表示」を選択します。

また、インフォメーションパレットの「倍率」リストボックスで「1.000」を選択すると、1対1表示と同じ状態になります。

画像全体が入るように倍率を自動調整する(全体表示)

画像全体がビューエリア全体に入る大きさに自動的に調整し画像を表示しますので、表示される画像の大きさはウィンドウの大きさによって異なります。

「表示」メニューから「全体表示」を選択します。

画像を実寸で表示する(実寸表示)

表示している画像を、ウィンドウに実寸で表示します。
以下のいずれかの操作で実寸表示できます。

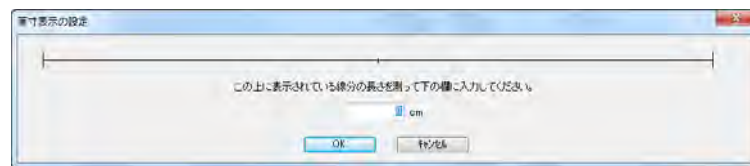
- ・ ツールバーの「実寸表示」ボタンをクリックする
- ・ 「表示」メニューから「実寸表示」を選択する
- ・ インフォメーションパレットから「実寸」ボタンをクリックする
- ・ 「倍率」コンボボックスから「実寸」を選択する

あらかじめ下記の「実寸表示の設定」を行っておいてください。

実寸表示の設定

- 1 「表示」メニューから「実寸表示の設定」を選択します。

「実寸表示の設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「実寸表示の設定」ダイアログボックス上に表示されている線分の長さを定規などで測り、その数値を入力ボックスに入力し、「OK」ボタンをクリックします。

「実寸表示の設定」ダイアログボックスが閉じ、表示中の画像が実寸で表示されます。



画像データに大きさの情報が含まれていないというエラーメッセージが表示される場合は、基準の長さを設定してください(95ページの「6.2 計測の基準となる長さの設定」参照)。

5.7 画像の明るさ・コントラスト(トーン)を変える

ビューワで表示している画像の明るさやコントラストを変えて、画像を見やすい状態にすることができます。

5.7.1 明るさ(Center 値)とコントラスト(Width 値)を変更する

以下の操作を行うことで、表示されている画像を見やすい状態に調整できます。

トーンカーブやスライダを変更することで、明るさ(Center 値)とコントラスト(Width 値)を調整します。「Center 値」で「トーンカーブ」の中心の値を、「Width 値」でトーンカーブの最大と最小の幅の値を変更します。

それらの操作を行うことで、表示されている画像を見やすい状態に調整できます。

Center 値の変更

「Center 値」入力ボックスに直接値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。「Center スライダ」をドラッグしても同じことができます。

Width 値の変更

「Width 値」入力ボックスに直接値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。「Width スライダ」をドラッグしても同じことができます。

Center 値とWidth 値は「トーンカーブ」をドラッグをすることでも変更できます。

「トーンカーブ」をドラッグした状態で、左右に動かすことでCenter 値を、上下に動かすことでWidth 値を変更できます。

5.7.2 トーンをS字にカーブさせる(β 値)

β 値を変更することで、トーンカーブをS字にカーブさせ、中間調(画像の明るいところと暗いところの間の領域)のコントラストを強調できます。

「 β スライダ」をドラッグするか、 β 値入力ボックスに直接数値を入力します。

トーンカーブは、 β 値が0で直線になり、大きくなるにつれてS字の度合いが強くなります。



一部のCRの画像など、DICOM形式がMonochrome 1の場合は、明るさが逆方向に変化するものがあります。



左ボタンを押しながら操作した場合、Center値とWidth値を同時に変更ができますが、右ボタンを押しながら操作した場合、β値、γ値は同時に変更することはできません。他方の変更を行いたいときは、いったん右ボタンを離し、再度操作を行ってください。



領域作成後に、「表示」メニューから「トーンカーブの最適化」を選択しても、最適なトーンカーブが表示されます。

5.7.3 ^{ガンマ}γ 値・^{ガンマ}γ カーブを変更する

^{ガンマ}γ 値を変更することで、^{ガンマ}γ カーブの度合いを変更できます。

γが1より小さいと暗いところのコントラストが強調され、γが1の場合、γカーブは直線になります。また、γが1より大きいと、明るいところのコントラストが強調されます。

γスライダをドラッグするか、γ値表示ドロップダウンリストボックスから選択することで、γ値の変更を行います。

γ値表示ドロップダウンリストボックスには、表示中のγ値が表示されます。

γ値ドロップダウンリストボックスから選択できるγ値は、「標準」「5.00」「2.50」「1.00」「0.50」「0.20」です。

γ値トーンカーブグラフをドラッグしても、γ値を変更できます。

5.7.4 トーンカーブを変更する・白黒反転する



トーンカーブを変更する（「トーン」ボタン）

ツールバーの「トーン」ボタンをクリックし、画像上でマウスをドラッグさせることで、トーンの変更を行います。

明るさ（Center 値）を変更する

左ボタンを押しながら、マウスを左右に移動します。左に移動すると値が小さくなり画像の明るい部分が増え、右に移動するとCenter値が大きくなり暗い部分が増えます。

コントラスト（Width 値）を変更する

左ボタンを押しながら、マウスを上下に移動します。上に移動すると値が小さくなりコントラストが強くなります。下に移動すると値が大きくなりコントラストが弱くなります。

β値を変更する

右ボタンを押しながら、マウスを上下に移動してS字カーブのかけかたを調整します。上に移動すると値が大きくなりコントラストが強くなります。下に移動すると値が小さくなりコントラストが弱くなります。Width値の変更と比べて黒つぶれや白とびが抑えられます。

γ値を変更する

右ボタンを押しながら、マウスを左右に移動します。左に移動すると値が小さくなり画像の全体が明るくなります。右に移動すると値が大きくなり画像の全体が暗くなります。

選択した領域にトーンカーブをあわせて見やすくする（最適化）

領域指定ツールで選択した領域に最適なトーンカーブに変更できます。

- 1 「領域指定」ツールで領域を作成します。
- 2 トーンカーブ上でダブルクリックします。
作成した領域に最適なトーンカーブの状態画像が表示されます。

トーンカーブを白黒反転する(「反転」ボタン)

表示している画像のトーンカーブを白黒反転できます。

以下のいずれかの操作を行います。

- ・ ツールバーの「反転」ボタンをクリックする
- ・ インフォメーションパレットの「反転」チェックボックスをチェックする
- ・ 「表示」メニューから「トーンカーブの反転」を選択する

反転を解除したい場合は、上記の操作を再度行います。

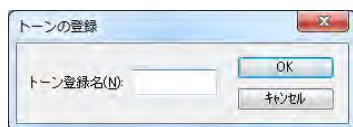
5.7.5 よく使うトーンカーブを登録する・適用する(「トーン1」から「トーン6」ボタン)

トーンカーブを登録する

調整したトーン(明るさ・コントラストなど)の状態を、登録しておくことができます。

- 1 インフォメーションパレットの「登録」ボタンをクリックします。

「トーンの登録」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「トーン登録名」入力ボックスに、登録するトーンの名称を入力します。

- 3 「OK」ボタンをクリックします。

「トーンの登録」ダイアログボックスが閉じ、トーン表示リストボックスに登録されます。

登録されたトーンのうち、6番目までに登録されたものは、それぞれツールボタンの「トーン1」から「トーン6」ボタンとして割り当てられます。

開いた画像に登録したトーンカーブを適用する

ビューワで画像を表示中に、インフォメーションパレットのトーン表示リストボックスから、登録したトーンを選択することで、表示中の画像に登録したトーンを適用できます。

ツールバーの「トーン1」から「トーン6」ボタンをクリックしても同じことができます。

登録したトーンの適用中に、トーンを手動で調整すると、リストボックスの表示は「任意」に変わります。

5.7.6 開いたときの表示状態に戻す(「リセット」ボタン)



選択されている表示画像を、最初に開いたときの表示状態に戻します。

以下のいずれかの操作を行うことで、表示状態に戻します。

- ツールバーの「リセット」ボタンをクリックする
- 「編集」メニューから「画像表示リセット」を選択する

5.8 操作する画像を選ぶ・他の画像も一緒に操作する(連動)

トーンの変更や画像の回転など、ビューワで操作する対象の画像を選びます。画像単体や同一シリーズなどを選ぶことができます。選ばれる画像には、カレント画像と選択画像の2種類があります。

- カレント画像とは、1枚の画像を操作するために選択された画像です。
領域の選択/切り抜き、トーンの調整、画像の拡大/縮小、画像の分析などができます。
- 選択画像とは、1枚だけでなく、他の画像も同時に操作するために選択された画像です。
選択画像だけをファイルに書き出すことなどができます。

5.8.1 画像を選択する

ビューエリアから選択したい画像をクリックします。
選択されている画像は、黄色い枠で囲まれます。

5.8.2 複数の画像を選択する

同時に操作を行う画像を複数選択します。画像の左上に黄色で塗りつぶされた丸いマーク(●)がある画像が選択されたカレント画像、枠が黄色で黒く塗りつぶされた丸いマークがある画像が選択画像です。

ビューエリア上で、Ctrlキーを押しながら選択したい画像をクリックします。Shiftキーを押しながら画像をクリックすると、カレント画像からその画像まで連続して選択されます。



カレント画像、選択画像については40ページの「4.5 画像の選択」を参照してください。

5.8.3 すべての画像を選択する

ビューワで表示しているすべての画像をまとめて選択するには、以下のいずれかの操作をします。



- ・ ツールバーの「全画像選択」ボタンをクリックする
- ・ 「編集」メニューから「すべてのビューの選択」を選択する

すべての画像が選択された状態になります。

5.8.4 選択を解除する

選択されている画像の選択状態を解除するには、以下のいずれかの操作をします。



- ・ ツールバーの「選択解除」ボタンをクリックする
- ・ 「編集」メニューから「すべてのビューの選択を解除」を選択する

選択されているすべての画像の選択が解除されます。
操作後はビューエリア中の最初の画像がカレント画像になります。

5.8.5 他の画像も一緒に操作する(「連動」ボタン)

同一シリーズの画像の移動・拡大・トーンなどの操作を同時に連動させて行うことができます。



連動させる画像は、選択されている必要はありません。

ツールバーの「シリーズ連動」ボタンをクリックし、表示状態を「シリーズ」に切り替えます。
同一シリーズの画像の操作が連動され、同時に行えます。

「シリーズ連動」状態のときは、「シリーズ連動」ボタンは「シリーズ」と表示されます。
「シリーズ連動」が解除されているときは、「シリーズ連動」ボタンは「画像」と表示されます。

5.8.6 連動の操作対象の設定

連動の操作の対象には、「シリーズ連動」と「ビューポート連動」の2種類があります。

「シリーズ連動」はビューワで表示されている同一シリーズの画像が、連動の操作対象となります。
「ビューポート連動」は、現在表示中のすべてのビューポートの画像が、連動の操作対象となります。

「表示」メニューから「シリーズ連動」もしくは「ビューポート連動」を選択することで、それぞれの連動を選択できます。

選択されている連動の操作対象にはチェックが付きます。



ビューポート同士で連動を行いたい場合は次節を参照してください。



「シリーズ連動」はツールバーの「シリーズ連動」ボタンをクリックすることでも選択できます。詳しくは前節を参照してください。



「フレーム」メニューにあらかじめ設定されているパターンは以下の16通りです。

1×1、1×2、1×3、2×1、2×2、
2×3、3×3、3×4、4×3、4×4、
4×5、5×4、5×5、6×6、7×7、
8×8

5.9 ビューワの表示設定

ビューワでの表示コマ数や、画像補間方法を変更できます。

5.9.1 画像の表示コマ数を変える

ビューワのビューエリアに表示する画像のコマ数を変更できます。

「フレーム」メニューから、フレーム数を選択します。

「フレーム」には、よく使われると思われる16通りのパターンがあらかじめ設定されています。

既存のパターン以外のフレーム数を指定したい場合は、「フレーム」メニューから「直接指定」を選択して「フレーム構成」ダイアログボックスを開きます。



横、縦それぞれに指定したいフレーム数を直接入力するか、数字の右側のスピンドットボタン(⇄)を操作して、フレーム数を指定してください。数値指定後「OK」ボタンを押すと、そのフレーム数が適応され、ビューエリアに表示されます。

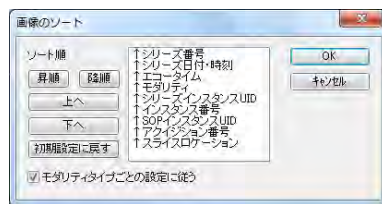
フレーム数は、縦、横ともに8コマまで指定でき、最大で64枚の画像を同時に表示できます。

5.9.2 画像の並び順を変える(ソート)

ビューワに表示される画像の並び順を変更できます。

1 「編集」メニューから「画像のソート」を選択します。

「画像のソート」ダイアログボックスが開きます。



2 並び順を指定します。

並び順の対象となっている項目を選択し、その項目が「昇順」か「降順」かを選択します。昇順の項目の先頭には↑、降順の項目の先頭には↓と表示されています。

3 選択している項目の優先順位を指定します。

リストに表示されている項目の上にあるものほど優先順位は高くなり、「上へ」「下へ」ボタンで、項目の優先順位の位置にまで移動してください。

「初期設定に戻す」ボタン

画像の並び順が、初期設定の状態に戻ります。



変更された並び順は、AOCを終了すると保存されます。次回AOCを起動したときもビューワの画像は変更後の順序で並びます。

「モダリティタイプごとの設定に従う」チェックボックス

チェックすると、「モダリティタイプごとの設定」で指定した並び順に戻ります。
並び順を任意に変更した場合、チェックは自動的に外れます。

4 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

「画像のソート」ダイアログボックスが閉じ、設定した並び順が反映されます。

5.9.3 検査情報(DICOM属性) やスケールの表示・非表示を切り替える

ビューエリアに表示されている検査情報(DICOM属性)、アノテーション、スケールの表示/非表示を切り替えることができます。

「表示」メニューから、表示したい項目を選択しチェックします。

選択できる項目は、以下のとおりです。

- アノテーションレイヤを表示
- 情報を重ねて表示
- スケールを表示

非表示にしたい場合は、チェックを外します。

5.9.4 画像の補間表示方法やビューワの表示設定を変える

画像の補間

ビューワで画像補間の設定を切り替えることができます。

1 「表示」メニューの「補間方法」を選択し、サブメニューから補間タイプを選択します。

選択できる項目は、以下のとおりです。

- ・ニアレストネーバー(最近傍:補間なし)
画像補間しません。補間の処理を行わないため、3つの方法のうち、最も動作が速くなります。
- ・バイリニア(双一次)
画像補間を線形に行います。
- ・バイキュービック(双三次)
画像補間をなだらかな曲線で行います。3つの方法のうち、最も複雑な処理を行うため、動作が比較的遅くなります。

選択した補間タイプが適用されて画像が表示されます。

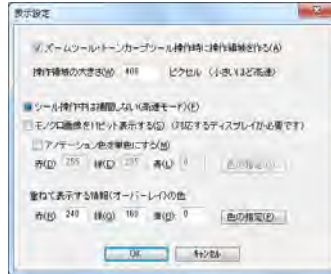


アノテーションの表示・非表示は
ツールバーの「注釈表示」ボタン
をクリックすることでも切り替え
ることができます。

ビューワの表示設定

操作領域の指定や、アノテーションの色などビューワの表示設定を変更できます。

- 1 「設定」メニューから「表示の設定」を選択して「表示設定」ダイアログボックスを開きます。



- 2 以下の項目を設定します。

「ズームツール・トーンカーブツール操作時に操作領域を作る」チェックボックス

チェックすると、ズームツール・トーンカーブツール操作時に指定した大きさの操作領域が作成され、操作中は操作領域内の表示のみ変更されます。領域内の表示状態を確認後、マウスボタンを離すと画像全体に変更が反映されます。操作領域の大きさは「操作領域の大きさ」入力ボックスにピクセル数を入力して設定します。領域が小さいほど、ツール操作時の動作は高速になります。

「ツール操作中は補間しない(高速モード)」チェックボックス

チェックすると、ビューツール操作中は画像が補間されません。そのため、動作が高速になります。

「モノクロ画像を11ビット表示する」チェックボックス

一部の11ビットモノクロ表示が可能なディスプレイを使用している場合、このチェックボックスをチェックすると、モノクロ画像を11ビット表示できます。ディスプレイがこの機能に対応していない場合は、画像の階調が正しく表示されなくなりますのでチェックを外してください。

「アノテーション色を単色にする」チェックボックス

アノテーションの色を、単色が多色に切り替えることができます。

チェックボックスをチェックすると、表示されるアノテーションの色が単色になります。チェックを外すと、表示されるアノテーションの色は多色になり、それぞれが違う色で表示されます。単色に設定した場合は、その色を指定できます。色を指定する場合は、「赤」「緑」「青」それぞれの入力ボックスに0 - 255の値を直接入力して色を指定するか、「色の指定」を選択し「色の設定」ダイアログボックスを開き、そこから選択します。

「重ねて表示する情報(オーバーレイ)の色」入力ボックス

ビューワの画像に重ねて表示されている情報(オーバーレイ)の色を設定します。

「赤」「緑」「青」それぞれの入力ボックスに0 ~ 255の値を直接入力するか、「色の指定」を選択し「色の設定」ダイアログボックスを開き、そこから選択します。

- 3 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

「表示設定」ダイアログボックスが閉じます。



モノクロのディスプレイを使用している場合などに、単色設定を使用してください。

5.10 タイムラインを使う

タイムラインを使って、以下のことができます。

- ・ 画像の経過をアイコンで確認する
- ・ タイムライン上のアイコンから検査日の異なる画像を比較する

5.10.1 画像の経過をアイコンで確認する

リストウィンドウから画像セットを開くと、その患者の画像セットを示すアイコンがタイムライン上に表示されます。



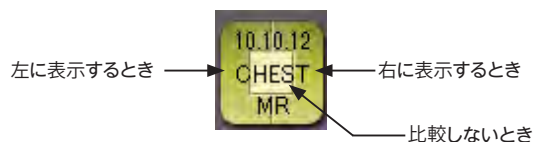
- ・ アイコンには検査日とモダリティの種類が表示されます。
- ・ 左端には最も新しい画像セットのアイコンが、右端には最も古いアイコンが表示されます。
- ・ 黄色いアイコンは、現在ビューエリアに表示されている画像セットを示します。
- ・ アイコンの数がタイムラインの表示範囲を越えている場合は、アイコンの任意の場所を左右にドラッグし、目的のアイコンが見えるようにスクロールできます。



- ・ 「同部位」または「同モダリティ」チェックボックスをチェックすると、黄色いアイコンに対応する画像セットと同じ部位またはモダリティのアイコンだけを表示できます。
- ・ 「最初の表示にもどす」ボタンをクリックすると、タイムラインの表示をビューワを開いたときと同じ状態に戻せます。

5.10.2 検査日の異なる画像セットを比較する

アイコンをクリックする位置によって、画像セットを比較する/しない、および、比較する場合は2つの画像セットの配置を指定できます。



- ・ 比較せずに1画面で見た場合は、アイコンの中央をクリックします。
- ・ 画像セットを比較したい場合は、比較したい各アイコンの右または左半分をクリックします。2画面表示になり、左または右半分に検査の画像セットが表示されます。



検査日の間隔が5年を超える場合は、タイムライン全体のスケールが自動的に調整されます。




タイムライン上に表示できるアイコンは100件までです。

5.10.3 タイムライン表示の設定をする

タイムラインの表示/非表示を切り替えるには、「ウィンドウ」メニューの「タイムライン」を選択します。
画像セットを比較するときの画像の配置を縦方向または横方向に設定するには、「設定」メニューの「比較画像の位置」から「右」または「下」を選択します。

5.11 ビューワを閉じる

右上の閉じるボタン()をクリックするか、ビューワの「ファイル」メニューから「閉じる」を選択すると、ビューワが閉じます。

第6章

ビューワ (AOC View) の機能詳細



ツールバーに「右回転」「左回転」ボタンがない場合は、「編集」メニューから「右90度回転」「左90度回転」を選択しても回転できます。



ツールバーに「左右反転」「上下反転」ボタンがない場合は、「編集」メニューから「水平反転」を選択すると「左右反転」ボタンと同じく反転し、「垂直反転」を選択すると「上下反転」ボタンと同じく反転します。

6.1 画像を分析する・アノテーション

ビューワで開いている画像の長さや角度を測定したり、矢印や注釈などを付けたりすることができます。

6.1.1 画像を回転・反転する(「右回転」「左回転」「左右反転」「上下反転」ボタン)

右回転・左回転する(「右回転」「左回転」ボタン)



「右回転」ボタンをクリックすると時計回りに、「左回転」ボタンをクリックすると反時計回りに、画像を90度回転できます。



左右反転・上下反転する(「左右反転」「上下反転」ボタン)

「左右反転」ボタンをクリックすると水平に、「上下反転」ボタンをクリックすると垂直に、画像を反転できます。



6.1.2 長さを測る(「距離」「曲線の長さ」ボタン)

2点間の距離を測る(「距離」ボタン)



画像上の任意の2点間の距離を測ることができます。

- 1 ツールバーの「距離」ボタンをクリックします。
- 2 1点目をクリックして点を打ちます。
- 3 2点目をクリックして点を打ちます。

手順2と手順3で打った点を線で結んだオブジェクトが作成され、2点間の距離が表示されます。

インフォメーションパレットの「長さ」コンボボックスで単位を変更できます。

曲線の長さを測る(「曲線の長さ」ボタン)

画像上の任意の曲線の長さを測ることができます。

- 1 ツールバーから「曲線の長さ」ボタンをクリックします。
- 2 マウスをドラッグして、長さを測りたい曲線をたどります。
- 3 たどり終わったらマウスの左ボタンを離します。

手順2から手順3でたどった場所をつないだオブジェクトが作成され、曲線の長さが表示されます。



ツールバーに「距離」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「距離ツール」を選択しても同じことができます。



表示されている数値は、「注釈選択ツール」を選択し、ドラッグすることで、任意の位置に移動させることができます。



Pixel以外の単位(mm、cm、inch)で測ったり、変換するには、Pixel Spacing情報が必要です。Pixel Spacing情報は、画像を構成する、隣りあう2つのピクセルの中心間の距離のことです。このため、画像によっては、Pixelサイズ以外では測れないことがあります。Scanオプションをご利用の場合は、フィルムをスキャンしてPixel Spacing情報を含めたDICOM画像を登録できます。詳しくはお買い上げの販売店またはアレイ株式会社にお問い合わせください。95ページの「6.2 計測の基準となる長さの設定」参照。



ツールバーに「曲線の長さ」ボタンがない場合は「ツール」メニューから「曲線の長さツール」を選択しても同じことができます。



接しない2線分の角度は、「4点角度」ボタンで測れます。



ツールバーに「3点角度」ボタンがない場合は、「ツール」メニューの「3点角度ツール」をクリックしても同じことができます。



接する2つの線分間の角度は、「3点角度」ボタンで測れます。



「ツール」メニューから「4点角度ツール」を選択しても同じことができます。

6.1.3 角度を測る(「3点角度」「4点角度」ボタン)



折線の間角度を測る(「3点角度」ボタン)

画像上の接する2つの線分間の角度を測ることができます。

- 1 ツールバーから「3点角度」ボタンをクリックします。
- 2 折線の重なる交点でクリックします。
- 3 中心点から2線分のうち片方の線分の端でクリックして、一方の辺を決めます。
- 4 角度を決めるためのもう片方の線分の端でクリックして、もう一方の辺を決めます。
手順1でクリックした場所を中心として、手順2と手順3で作成した辺のオブジェクトが作成され、2線分間の角度が表示されます。

2線分の角度を測る(「4点角度」ボタン)

画像上に線分を2つ作成し、その2つの線分がなす角度を測ることができます。

- 1 ツールバーから「4点角度」ボタンをクリックします。
- 2 2線分のうちの片方の線分の端をクリックして点を打ちます。
- 3 反対側の端の点を打ちます。
手順2と手順3で決めた端点をつなぐ線分が作られます。
- 4 もう片方の線分の端をクリックして点を打ちます。
- 5 その反対側の端点をクリックして点を打ちます
手順4と手順5で決めた端点をつなぐ線分が作られます。
手順2と手順3、手順4と手順5で作成した線分のオブジェクトが作成され、2つの線分の延長線が交わったときの角度が表示されます。

6.1.4 面積を測る(「多角形面積」「閉曲線面積」ボタン)

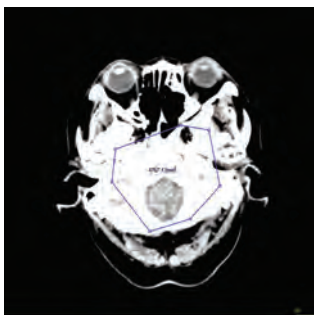
多角形の面積を測る(「多角形面積」ボタン)



多角形で閉じられた領域の面積を測ることができます。

- 1 ツールバーから「多角形面積」ボタンをクリックします。
- 2 面積を測りたい多角形の角を順次クリックします。
クリックした箇所に点が打たれ、そこが多角形の角になります。点を増やしていくと、点と点を結ぶ線分が作られます。
- 3 最後の接点で、2回クリックします。
最初の角と最後の角が線分で結ばれます。

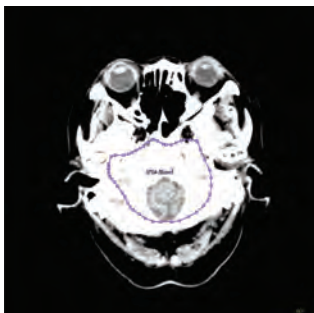
多角形のオブジェクトが作成され、面積が表示されます。



曲線で囲まれた面積を測る(「閉曲線面積」ボタン)

曲線で囲まれた領域の面積を測ることができます。

- 1 ツールバーの「閉曲線面積」ボタンをクリックします。
- 2 マウスをドラッグして、測りたい領域をたどります。
- 3 たどり終わったら、マウスボタンを離します。
最初にマウスボタンを押した場所と、最後にマウスボタンを離した場所が線分で結ばれ、閉じた曲線のオブジェクトが作成され、面積が表示されます。



ツールバーに「多角形面積」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「多角形面積ツール」を選択しても同じことができます。



ツールバーに「閉曲線面積」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「閉曲線面積ツール」を選択しても同じことができます。



ツールバーに「長さの比」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「長さの比ツール」を選択しても同じことができます。

6.1.5 長さの比を測る(「長さの比」「心胸郭比」ボタン)

2線分間の比や心胸郭比(CTR)を測ることができます。

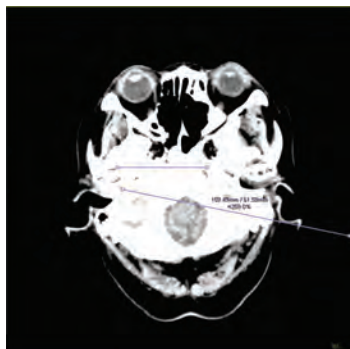


2線分の比を測る(「長さの比」ボタン)

2つの線分の長さの比を測ります。

- 1 ツールバーの「長さの比」ボタンをクリックします。
- 2 比較のもとになる線分の片方の端でクリックして点を打ちます。
- 3 反対側の端でクリックして点を打ちます。
手順2と手順3で決めた端点が線分で結ばれます。
- 4 比較するもう1つの線分の片方の端でクリックして点を打ちます。
- 5 反対側の端でクリックして点を打ちます。
手順4と手順5で決めた端点が線分で結ばれます。

手順2と手順3、手順4と手順5で作成された線分の長さの比が表示されます。



心胸郭比(CTR) を測る(「心胸郭比」ボタン)

心胸郭比(CTR) を測るには、以下の操作を行います。

- 1 ツールバーの「心胸郭比」ボタンをクリックします。
- 2 背骨の位置を決めます。背骨の上部の端点と下部の端点をクリックします。
端点が線分で結ばれます。
- 3 胸郭の幅を決めます。胸郭の両端をクリックします。
肺の幅が決まります。
- 4 心臓の幅を決めます。心臓の両端をクリックします。
心臓の幅が決まります。

心胸郭比(CTR) が表示されます。



ツールバーに「心胸郭比」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「心胸郭比ツール」を選択しても同じことができます。



矢印に注釈を追加することもできます(88ページの「6.17 注釈つき矢印を作成する(「矢印+文字」ボタン)」参照)。



ツールバーに「矢印」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「矢印ツール」を選択しても同じことができます。



矢印のみを作成することもできます(「8.1.6 矢印を作成する」参照)。



ツールバーに「矢印+文字」ボタンがない場合は、「ツール」メニューから「矢印+文字ツール」を選択しても同じことができます。



ツールバーに「注釈表示」ボタンがない場合は、「表示」メニューの「アノテーションレイヤを表示」を選択しても同じことができます。



ツールバーに「注釈削除」ボタンがない場合は、キーボードの Delete を押しても同じことができます。

6.1.6 矢印を作成する(「矢印」ボタン)

注目したい場所を指示したいときなどの矢印を作成できます。



- 1 ツールバーから「矢印」ボタンをクリックします。
- 2 矢印を作成したい場所でマウスをクリックします。
矢印のオブジェクトが作成されます。
矢印の方向を決めるには、マウスをドラッグします。そのまま続けて矢印をいくつも作成できます。

6.1.7 注釈つき矢印を作成する(「矢印+文字」ボタン)

注釈つきの矢印を作成できます。



- 1 ツールバーの「矢印+文字」ボタンをクリックします。
- 2 矢印を作成したい場所でマウスをクリックします。
矢印が作られ、矢印から線がのびます。
- 3 文字を入力したい場所でマウスをクリックします。
矢印の端点が決まり、「アノテーションテキストの入力」ダイアログボックスが開きます。
- 4 入力したい文字を入力ボックスに入力し、「OK」ボタンをクリックします。
注釈つき矢印のオブジェクトが作成されます。

6.1.8 オブジェクトを表示する/一時的に見えなくする(「注釈表示」ボタン)

作成した線分や注釈などのオブジェクトの表示/非表示を設定できます。



ツールバーの「注釈表示」ボタンをクリックして「on」「off」を切り替えます。

6.1.9 注釈などのオブジェクトを消す(「注釈削除」ボタン)

作成した注釈などのオブジェクトを削除できます。



- 1 ツールバーの「注釈削除」ボタンをクリックします。
- 2 削除したいオブジェクトをマウスでクリックして選択します。
- 3 「注釈削除」ボタンをクリックします。
選択したオブジェクトが削除されます。

続けて「注釈削除」ボタンをクリックすると、他のオブジェクトが注釈を作成した逆の順序で1つずつ削除されていきます。

6.1.10 文字や数値をコピーする・書き出す

選択したオブジェクトの文字や数値をコピーする(「計測値コピー」ボタン)



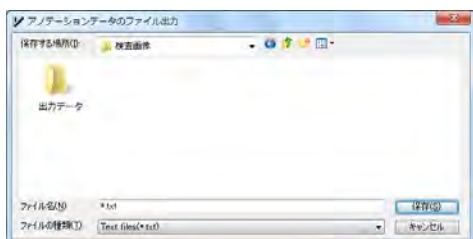
選択したオブジェクトの文字や数値をクリップボードにコピーできます。
コピーしたデータは、メモ帳などに貼り付けることができます。

- 1 ツールバーの「注釈選択」ボタンをクリックします。
- 2 コピーしたい数値や文字のついているオブジェクトを1つ選択します。
- 3 ツールバーから「計測値コピー」ボタンをクリックします。
選択したオブジェクトの数値や文字が、クリップボードにコピーされます。

選択した画像のオブジェクトの情報をテキストファイルに書き出す

画像上のオブジェクトの情報をテキストファイルに書き出すことができます。
情報はタブで区切られているので、Excelなどタブ区切りのテキストデータを開けるアプリケーションで利用することもできます。

- 1 画像上で右クリックして表示されるメニューから「アノテーションデータをファイル出力」を選択します。
「アノテーションデータのファイル出力」ダイアログボックスが開きます。



- 2 ファイルの保存場所とファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックします。
「出力しました」というメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックして閉じます。

テキストファイルは、オブジェクトの頂点の座標や計測値などの情報がタブで区切られて書き出されます。



ツールバーに「計測値コピー」ボタンがない場合は、「編集」メニューから「計測値コピー」を選択するか、画像上で右クリックして表示されるメニューから「計測値コピー」を選択しても同じことができます。



「ファイル」メニューから「アノテーションデータをファイル出力」を選択しても同じことができます。



「水平プロファイル」ウィンドウ表示中に、指定領域をドラッグすることで、分析する領域を移動したり、範囲を変更したりできます。



「垂直プロファイル」ウィンドウ表示中に、指定領域をドラッグすることで、分析する領域を移動したり、範囲を変更したりできます。



シリーズ画像のシネ表示については96ページの「6.3.2 シリーズ画像をシネ表示する」を参照してください。



シネ表示中は、ビューワの他の操作はできません。

6.1.11 対象領域の濃淡の変化をグラフで表示する(水平プロファイル・垂直プロファイル)

対象領域の濃淡の水平・垂直方向の平均値の変化をグラフで表示できます。

水平プロファイル

対象領域縦方向の濃淡の平均値の変化をグラフで表示できます。

- 1 領域指定ツールで分析したい領域を指定します。
- 2 「分析」メニューから「水平プロファイル」を選択します。
「水平プロファイル(CT値)」ウィンドウが表示されます。

垂直プロファイル

対象領域横方向の濃淡の平均値をグラフ表示します。

- 1 領域指定ツールで分析したい領域を指定します。
- 2 「分析」メニューから「垂直プロファイル」を選択します。
「垂直プロファイル(CT値)」ウィンドウが表示されます。

6.1.12 画像・動画をシネ表示する(「シネ再生」ボタン)

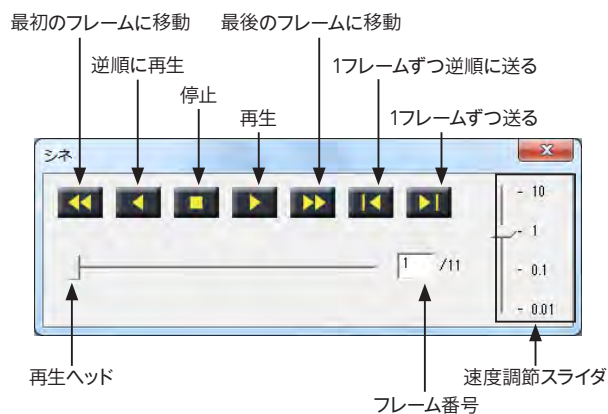


マルチフレーム画像をシネ表示できます。


マルチフレーム画像とは、1つの画像データのなかに動画のように複数のフレームが含まれている画像のことです。マルチフレーム画像については全体を1画像として表示するか1フレームずつ展開して表示するか選択できます。

1画像として表示

- 1 1フレームずつ展開表示されている場合は、任意のフレーム上でマウスボタンを右クリックして表示されるメニューから「まとめて表示する」を選択します。
画像が1フレームで表示されます。
- 2 ツールバーの「シネ再生」ボタンをクリックするか、「シネモード」メニューから「シネモード」を選択します。
シネコントロールパレットが表示され、マルチフレーム画像がシネ表示されます。



速度調節スライダの数字は、DICOMの frame time タグで指定されている速度の何倍速で再生するかを表しています。たとえば、「1」を選択した場合、frame time タグで指定されている速度どおりで再生され、「10」ならば10倍で、「0.01」ならば、100分の1倍の速度で再生します。AOCでは、frame time タグに記載のない場合、100ms (ミリ秒) を1倍として扱います。

- 3 シネ表示を終了するには、シネコントロールパレットの右上の閉じるボタン() をクリックしてシネコントロールパレットを閉じます。


1フレームずつ展開して表示

「まとめて表示する」状態のとき、画像上の任意の位置でマウスボタンを右クリックして表示されるメニューから「展開して表示する」を選択します。

マルチフレーム画像の各フレーム画像が1フレームずつ展開して表示されます。

6.1.13 簡易シネ表示

マウスのMボタン(ホイール)を使用することで、簡単にシネ表示できます。

- 1 ビューエリアもしくはサムネイルエリアから、シネ表示させたい画像を選択します。
- 2 マウスのMボタン(ホイール)を押します。
マウスポインタが  の形になります。
- 3 マウスを下方方向に移動すると正順に再生され、上方方向に移動すると逆順に再生されます。また、マウスを移動する幅によって速度の調節も行なえます。幅が大きければ再生速度は早くなり、幅が小さければ再生速度は遅くなります。

簡易シネ表示を終了するには、もう一度マウスのMボタン(ホイール)を押します。



シリーズ画像をシネ表示することもできます。詳しくは、96ページの「6.3.2 シリーズ画像をシネ表示する」を参照してください。



一回の操作でスティッチングできる画像は3枚までです。



対応していない画像でスティッチングしようとすると「画像の条件が合わないためスティッチできません」と表示され、スティッチングが行われません。
また、画像が1枚しか選択されていない状態でスティッチングしようとすると「画像が二枚以上ないためスティッチできません」と表示され、スティッチングが行われません。



スティッチングしたい画像が複数の画像セットにまたがっている場合は、画像セットを連結して開いてください(詳しくは60ページの「5.2 複数の画像セットを一緒に開く(連結して開く)」を参照)。



ツールバーに「自動スティッチ」ボタンがない場合は、「編集」メニューから「自動スティッチ」を選択してください。



「編集」メニューから「対応点位置検出」を選択すると、対応点を自動検出し、画像上に対応点が表示されます。
検出できなかった場合は、対応点は表示されません。



画像の貼り合わせの前後を変更したい場合は、画像の重なっている部分で右クリックして表示されるメニューから「貼り合わせの前後の変更」を選択してください。

6.1.14 複数枚の画像を貼り合わせる(スティッチング)



分割して撮影された複数枚の画像データを、対応点(画像の共通する部分を示す基準点)を指定することで貼り合わせて1枚の画像データにできます。

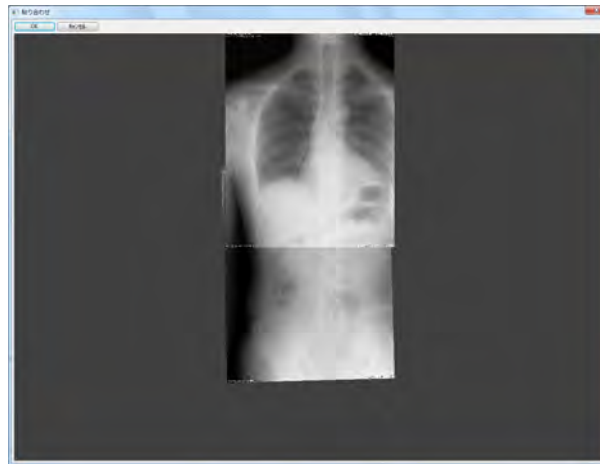
スティッチングには、自動的に対応点を検出して貼り合わせる「自動スティッチ」と、手動で対応点を指定して貼り合わせる「手動スティッチ」の2種類の方法があります。

以下の条件をすべて満たす画像のみスティッチングできます。

- MONOCHROME1, MONOCHROME2
- 符号なし
- 10-12bits/pixel

自動で対応点を検出しスティッチングする

- 1 リストウィンドウからスティッチングしたい画像を含む画像セットを選択し、ビューワを開きます。
- 2 ビューワ上でスティッチングの対象となる画像を選択します。
選択しない場合は、画像セットの先頭から3枚目までが対象となります。
- 3 ツールバーの「自動スティッチ」ボタンをクリックします。
自動的に画像データから対応点を検出し、「貼り合わせ」ウィンドウが開き、スティッチングされた画像が表示されます。
対応点を検出できなかった場合、「貼り合わせ」ウィンドウには、スティッチングされていない状態で画像が表示されます。



- 4 必要に応じて、スティッチングされた画像を修正します。
修正したい画像データ上にマウスポインタを移動すると、画像が選択され黄色い枠で囲われます。
修正の必要がない場合は、手順5に進みます。


画面の拡大・縮小

画面上でマウスの右ボタンを押したまま、上に動かすと拡大し、下に動かすと縮小します。


画面の移動

画面上でマウスの左ボタンを押し、すぐに移動したい方向にドラッグします。


画像の移動

移動したい画像上でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタがになったら、移動したい方向にドラッグします。

画像の拡大・縮小

拡大・縮小したい画像の黄色い枠上でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタがになったらドラッグします。マウスを画像の中心に近づけると縮小し、遠ざけると拡大します。

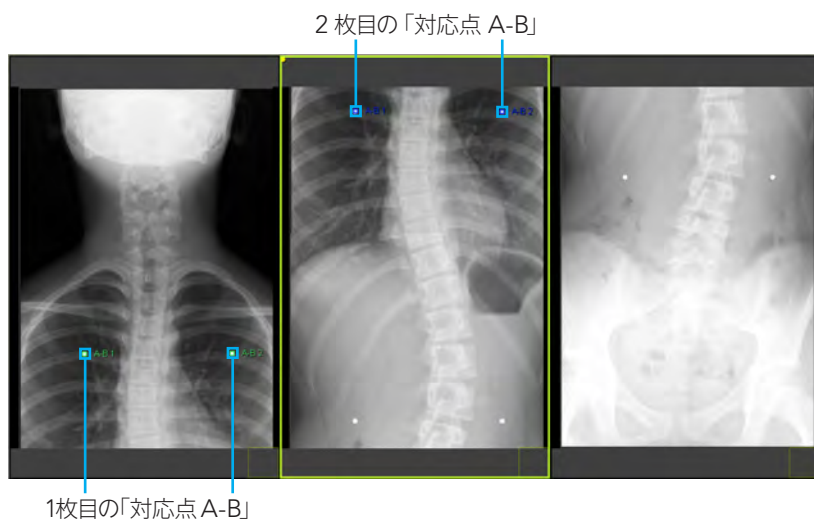
画像の回転

回転させたい画像の黄色い枠の内側でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタがになったら回転させたい方向にドラッグします。

- 5 「OK」ボタンをクリックします。
スティッチングされた画像が、画像セットに追加、または新規画像セットとして登録され、ビューワに戻ります。スティッチングの元となった画像には、対応点が注釈として表示されます。「キャンセル」ボタンをクリックすると、スティッチングは取り消され、ビューワに戻ります。

手動で対応点を指定してスティッチングする

- 1 リストウィンドウからスティッチングしたい画像を含む画像セットを選択し、ビューワを開きます。
- 2 ツールバーの「対応点 A-B」ボタンをクリックします。
- 3 対象となる1枚目の画像上で、スティッチングする2枚目の画像との対応点を2箇所、つづけてクリックして指定します。
1枚目の画像上に対応点が表示されます。
- 4 もう一度、ツールバーの「対応点 A-B」ボタンをクリックし、対象となる2枚目の画像上で、1枚目の画像で指定した対応点と同じ位置2箇所をつづけてクリックして指定します。
2枚目の画像上に対応点がマーキングされます。



拡大・縮小した画像の操作をリセットする場合は、対象となる画像上で右クリックして表示されるメニューから「拡大縮小のリセット」を選択してください。



回転した画像の操作をリセットする場合は、対象となる画像上で右クリックして表示されるメニューから「回転のリセット」を選択してください。



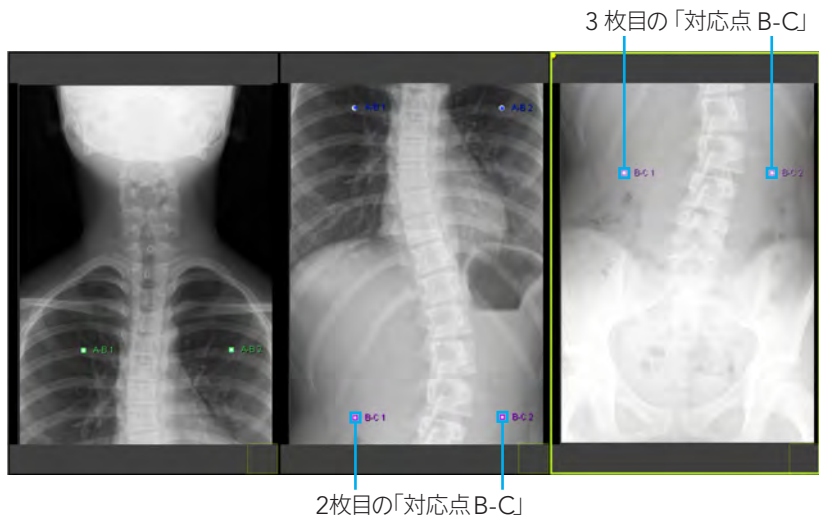
通常、スティッチングした画像データは、選択した画像セットに追加登録されます。

スティッチングの対象となる画像セットのDICOM属性がAOC上で変更されていた場合(画像セットの結合や分割など)、新規画像セットとして登録されます。



スティッチングしたい画像が複数の画像セットにまたがっている場合は、画像セットを連結して開いてください(詳しくは60ページの「5.2 複数の画像セットを一緒に開く(連結して開く)」を参照)。

- 3枚の画像をスティッチングしたい場合は、ツールバーの「対応点B-C」ボタンをクリックし、2枚目と3枚目の画像にも手順3から手順4と同様の操作を行います。



- 対応点を指定した画像を選択し、ツールバーの「手動スティッチ」ボタンをクリックします。「貼り合わせ」ウィンドウが開き、指定した対応点をもとに、スティッチングされた画像が表示されます。画像を選択しないと、対応点の有無にかかわらず、画像セットの先頭から3枚目までが対象となります。
- 必要に応じて、対象の画像をクリックして、スティッチングされた画像を修正します。選択された画像は、黄色い枠で囲まれます。修正の必要がない場合は、手順8に進みます。


画面の拡大・縮小

画面上でマウスの右ボタンを押したまま、上に動かすと拡大し、下に動かすと縮小します。


画面の移動

画面上でマウスの左ボタンを押し、すぐに移動したい方向にドラッグします。


画像の移動

移動したい画像上でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタが  になったら、移動したい方向にドラッグします。

画像の拡大・縮小

拡大・縮小したい画像の黄色い枠上でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタが  になったらドラッグします。マウスを画像の中心に近づけると縮小し、遠ざけると拡大します。

画像の回転

回転させたい画像の黄色い枠の内側でマウスの左ボタンを押し続け、マウスポインタが  になったら回転させたい方向にドラッグします。

- 画像の修正が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。スティッチングされた画像が、画像セットに追加、または、新規画像セットとして登録されます。「キャンセル」ボタンをクリックすると、スティッチングは取り消され、ビューワに戻ります。



ツールバーに「手動スティッチ」ボタンがない場合は、「編集」メニューから「手動スティッチ」を選択してください。



拡大・縮小した画像の操作をリセットする場合は、対象となる画像上で右クリックして表示されるメニューから「拡大縮小のリセット」を選択してください。



回転した画像の操作をリセットする場合は、対象となる画像上で右クリックして表示されるメニューから「回転のリセット」を選択してください。



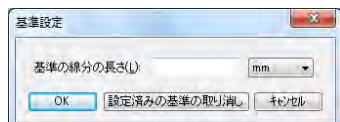
通常、スティッチングした画像データは、選択した画像セットに追加登録されます。対象となる画像セットの結合や削除などの操作を行ったことがある場合、スティッチングした画像データは新規画像セットとして登録されます。

6.2 計測の基準となる長さの設定

DICOM属性にPixel Spacing情報が設定されていない場合でも、基準となる長さを登録することで、実測値を測ることができます。

- 1 距離ツールで基準となる線分の長さを指定します。
- 2 計測後、目的の線分が選択された状態でインフォメーションパレットから「基準」ボタンをクリックします。

「基準設定」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「基準の線分の長さ」入力ボックスに選択した線分の実際の長さを入力し、右のリストボックスから長さの単位を選択します。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
設定した長さが適用され、その画像での測定は、その長さを基準として実際の長さが算出されます。

基準設定を解除する

基準の長さが設定されている状態で、インフォメーションパレットの「基準」ボタンをクリックし、「基準設定」ダイアログボックスの「設定済みの基準の取り消し」ボタンをクリックします。

6.3 マルチスライス画像を見る・スカウト画像

6.3.1 スカウト画像の設定

任意の画像をスカウト画像として設定できます。

- 1 ビューエリア上で、スカウト画像に設定したい画像を選択します。
- 2 右クリックして表示されるメニューから「この画像をスカウト画像とする」を選択します。
選択した画像がスカウト画像に設定され、スカウト画像ウィンドウに表示されます。
スライスラインが表示できる場合は、スカウト画像上に表示されます。



登録した基準の長さは、ビューワを閉じAOCを終了しても、取り消し操作を行うまで記憶されたままです。また、Pixel Spacing情報があっても、ここで設定した情報が優先されます。



マルチフレーム画像をシネ表示することもできます。詳しくは、90ページの「6.1.12 画像・動画をシネ表示する(「シネ再生」ボタン)」を参照してください。



シネコントロールパレットの操作については90ページの「6.1.12 画像・動画をシネ表示する(「シネ再生」ボタン)」を参照してください。

6.3.2 シリーズ画像をシネ表示する

同一シリーズの画像をシネ表示できます。

- 1 ビューエリアもしくはサムネイルエリアから、シネ表示させたい画像を選択します。
- 2 ツールバーの「シネ再生」ボタンをクリックするか、「シネモード」メニューから「シネモード」を選択します。
シネコントロールパレットが表示され、シネ表示されます。

6.4 ツールバーを編集する

ビューワのツールバーは4本あります。4本それぞれに任意のボタンを設定できます。

また、各ツールバーはドラッグすることで、ビューワ内の任意の位置に移動したり、ビューワの上下左右にドック(連結) できます。

- 1 「設定」メニューから「ツールバーの編集」を選択します。
「ツールバーの編集」ダイアログボックスが開かれます。



- 2 「利用できるツールバーボタン」リストから、ツールバーに追加したいボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックすると、選択したボタンが「現在のツールバーボタン」に追加されます。
- 3 現在のツールバーから削除したい項目がある場合、「現在のツールバーボタン」リストから削除したいツールバーボタンを選択し「削除」ボタンをクリックします。
削除したツールバーボタンは「利用できるツールバーボタン」リストボックス内にありますので、追加し直したい場合は手順2を行ってください。

「上へ」「下へ」ボタン

「現在のツールバーボタン」リストボックス内の、ボタンの順番を変更します。
リストボックス内の順序がツールバーでの表示順序になります。

「複合ツールの初期状態」リストボックス

複合ツールの初期状態を設定します。
リストボックスから初期状態にしたい複合ツールのツールバーボタンを選択します。選択された方のツールバーボタンが、初期表示されます。

「ボタンの大きさ」リストボックス

ボタンの大きさを以下の3種類から選択できます。

- 「小さいボタン」
- 「大きいボタン」
- 「とても大きいボタン」

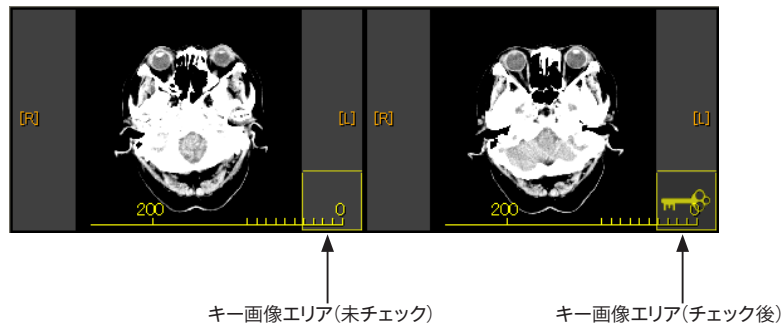
- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「ツールバーの編集」ダイアログボックスが閉じます。

6.5 特別な画像にしるしを付ける(キー画像の設定)

ビューワで開いている画像セットのなかから、特別な画像にしるしを付け「キー画像」として扱えます。キー画像として扱うことによって、特別な画像がわかりやすくなり、また、キー画像のみをプリントするなどの操作もできます。

ビューエリアの画像から、キー画像として選択したい画像の右下にある黄色く囲まれた範囲をクリックすると、鍵の絵がしるしとして付けられます。

キー画像を解除したい場合は、鍵の絵をクリックします。鍵の絵が消え、通常の画像として扱われます。



第7章

画像データの送受信

(DICOMイメージサーバーとの接続)

DICOMイメージサーバーに保存されている画像データを検索して受信したり、AOCに登録されている画像データを、DICOMイメージサーバーに送信したりできます。
また、検索して受信した画像データをそのままCD/DVDに書き込むこともできます。

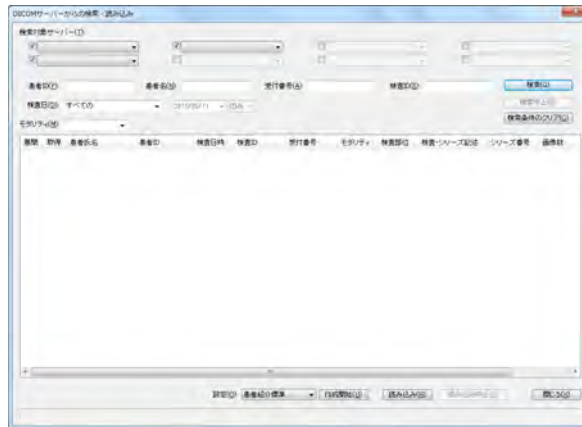
7.1 DICOMイメージサーバーから画像データを受信する(Query/Retrieve)

DICOMイメージサーバーに保存されている画像を、患者名や検査日などの情報で検索し受信します。検索して受信した画像をそのままCD/DVDに書き込みます。(CD/DVDへの書き込みは、オプションです。)



「ファイル」メニューから「DICOMサーバーから読みこみ」を選択しても開きます。

- 1 リストウィンドウの「DICOMサーバー読み込み」ボタンをクリックします。
「DICOMサーバーからの検索・読み込み」画面が開きます。



- 2 「検索対象サーバー」エリアで、同時に検索の対象とするイメージサーバーの数だけチェックボックスをチェックし、ドロップダウンリストボックスから検索の対象とするDICOMイメージサーバーを選択します。



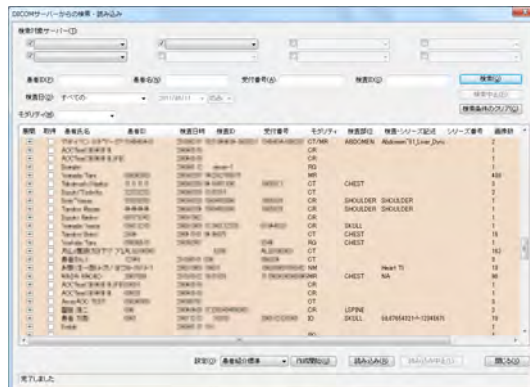
DICOMイメージサーバーに保存されている画像すべてを検索するときは、検索条件を設定せずに「検索」ボタンをクリックします。(サーバーによっては受け付けない場合があります。)また、検索条件をすべて削除するには「検索条件のクリア」ボタンをクリックします。

- 3 検索条件を設定します。
「検査日」ドロップダウンリストボックスから、検索する検査期間を選択します。
日付を具体的に指定する場合は、ドロップダウンボタン(▼)をクリックして「右欄で日付を指定」を選び、右にあるコンボボックスで日付を選択します。
日付の範囲は、「のみ」「から」「まで」「以降」のなかから選べ、「から」を選択した場合のみ右側に「日付」コンボボックスが表示されます。



途中で検索を中止するには「検索中止」ボタンをクリックします。それまでの検索結果はリスト表示に残ります。

- 4 「検索」ボタンをクリックします。
条件にあてはまる画像データが検索され、1検査ごとにリスト表示されます。



- 5 検索した画像データのなかから、CD/DVDへ書き込みたい検査またはシリーズのチェックボックスをチェックします。

リストの検査内のシリーズを展開して表示したい場合は、プラスマーク(+)をクリックします。

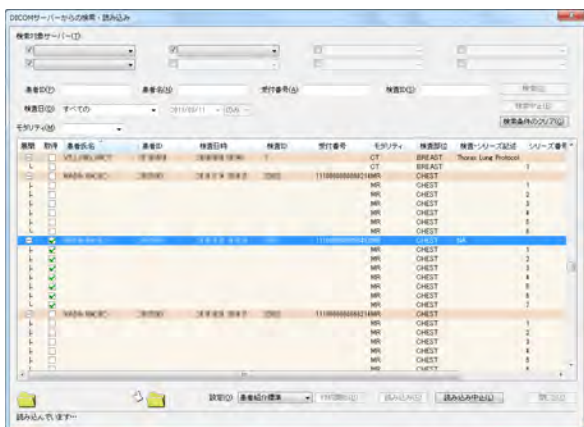
CD/DVDへの書き込みを行わずに、画像をAOCに読み込ませたい場合は、「読み込み」ボタンをクリックします。

展開	取得	患者氏名	患者ID	検査日時	検査ID	発行番号	モダリティ	検査部位	検査シリーズ記述	シリーズ番号
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	OT	BREAST	Thorax Line Protocol	1
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		1
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		2
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		3
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		4
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		5
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		6
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		7
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		8
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		9
		田中 太郎	11100000000001	2010/10/10 08:00	0001	11100000000001	MR	CHEST		10

- 6 「設定」ドロップダウンリストボックスから、CD/DVD作成に使用する設定を選択します。

- 7 「作成開始」ボタンをクリックします。(「作成開始」ボタンは、CD/DVD作成オプション、Rimageオプション、エプソンディスク作成オプションをご利用の場合のみ有効です。)

AOCへの読み込みとCD/DVDへの書き込みが開始されます。



書き込みが完了すると、AOCに選択した画像データが、新しい画像セットとして登録されます。続けて検索と受信の操作ができます。

- 8 終了するときは「閉じる」(X)ボタンをクリックします。「DICOMサーバーからの検索・読み込み」画面が閉じます。



検索中は、チェックボックスはチェックできません。



- ・項目(検査またはシリーズ)をクリックすると、項目が反転して選択状態になります。選択されている項目をクリックすると選択が解除されます。
- ・Ctrlキーを押しながら項目をクリックすると、複数の項目を選択できます。(選択されている項目をCtrlキーを押しながらクリックすると選択が解除されます。)
- ・2つ目の項目をShiftキーを押しながらクリックすると、1つ目と2つ目の項目で挟まれる(1つ目と2つ目の項目を含む)すべての項目が選択されます。スペースキーを押すと、選択されたすべての項目に(チェック)が付きます。(すでにチェックが付いている項目はチェックが外れます。)
- ・リスト上端の「展開」をクリックすることにより、リスト内のすべてのシリーズが展開されます。すべてのシリーズが展開されている状態でクリックすると、すべてのシリーズが格納されます。
- ・リスト上端の「受信」をクリックすることにより、リスト内のすべての検査およびシリーズがチェックされます。すべての検査およびシリーズがチェックされた状態でクリックすると、すべての検査およびシリーズのチェックが外れます。

展開 取得 患



キーボードを使っても検査内のシリーズを展開/格納ができます。検査を選択した状態で、+(プラス)キーを押すとシリーズが展開し、-(マイナス)キーを押すとシリーズを格納することができます。



途中で読み込みを中止するには「読み込み中止」ボタンをクリックします。



Ctrlキーを押しながら選択すると、画像セットを個々に選択できます。Shiftキーを押しながら隣り合わないふたつの画像を選択すると、選択した画像セットを含む、その間にある画像セットがすべて選択されます。Ctrlキーを押しながらAキーを押すと、すべての画像セットが選択されます。



右クリックして表示されるメニューから「ストレージサーバーへ送信」を選択しても「ストレージサーバーへ送信」ダイアログボックスが開きます。



「インポート」フォルダのなかの画像セットは、送信が完了すると削除されます。



「AOC送信状態」ダイアログボックスを手動で開くには、タスクトレイのアイコン(🔦)をクリックして表示されるメニューから「送信状態画面を表示する」を選択します。このメニューから、次のようなこともできます。

- ・「常に手前に表示する」
選択するとチェックが付き、このダイアログボックスが常に最前面に表示されるようになります。チェックが付いているときに選択するとチェックが消え、常に最前面に表示される設定が解除されます。
- ・「ログディレクトリへ」
送信状態に記録するファイルのフォルダを開きます。
- ・「プロセス情報」
送信の実行に関する情報が表示されます。
- ・「バージョン情報」
「AOC送信状態」ダイアログボックスのバージョン情報が表示されます。
- ・「終了」
このダイアログボックスを終了して閉じます。

7.2 画像データをDICOMイメージサーバーに送信する

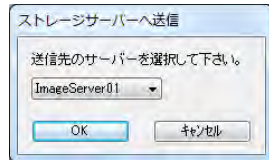
AOCで管理している画像データをDICOMイメージサーバーに送信します。

7.2.1 画像データを送信する

リストウィンドウから選択した画像セットをDICOMイメージサーバーに送信できます。

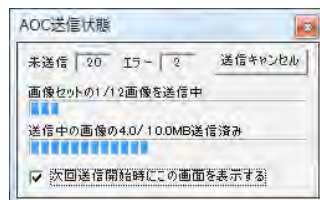
「ストレージサーバーへ送信」ダイアログボックスから送信

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、イメージサーバーに送信したい画像セットを選択します。
- 2 ツールバーから「サーバーへ送信」ボタンをクリックします。
「ストレージサーバーへ送信」ダイアログボックスが開きます。



- 3 リストボックスで送信先のDICOMイメージサーバーを選択します。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
画像データの送信が開始されます。
フォルダエリアにある送信先DICOMイメージサーバーのフォルダに、送信した画像データがリスト表示されます。

以下の「AOC送信状態」ダイアログボックスが開き、情報を表示します。



「未送信」欄

送信されていない画像セットの数が表示されます。

「エラー」欄

送信に失敗した画像セットの数が表示されます。

「送信キャンセル」ボタン

送信中、または送信予約済みの画像セットの送信をキャンセルします。クリックすると、キャンセル対象を選択するダイアログボックスが開きますので、送信をキャンセルする対象を選択してください。

「送信中の画像セット」欄

数字は、画像の送信予定枚数と送信済み枚数を示します。プログレスバーで送信の進捗を示します。

「送信中の画像」欄

数字は、MB単位で、送信中の個々の画像の容量と送信済み容量を示します。

「次回送信開始時にこの画面を表示する」チェックボックス

チェックすると、送信時に必ずこのダイアログボックスを開く設定になります。チェックを外すと送信時に開かない設定になります。

リストウィンドウでの表示

- ・「送信フォルダ」内を選択したときのリストエリアでは、「送信状態」の列が表示され、送信状態を示します。

...	属性編集	エクスポート	バックアップ	送信状態
-----	------	--------	--------	------

- ・「送信エラー」フォルダ内を選択したときのリストエリアで「送信エラー」の列が表示され、エラーコードが表示されます。また、「送信エラー」フォルダ内の画像セットを右クリックして表示されるメニューから「エラー詳細表示」をクリックすると、エラーの詳細を表示できます。

実行番号	患者ID	患者名	生年月日	検査ID	モダリティ	検査部位	検査数	性別	年齢	送信エラー
00000001	00000001	患者名	1980-12-01	00000001	CT	頭部	1	M	30歳	214-Failed to C-Store send...
00000002	00000002	患者名	1980-12-01	00000002	AS	AS	1	D	30歳	1025-Canceled by user

「送信フォルダ」から送信

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、イメージサーバーに送信したい画像セットを選択します。
- 2 リストエリアから、フォルダエリアの送信先イメージサーバーのフォルダに画像セットをドラッグ&ドロップします。

フォルダエリアの送信先イメージサーバーフォルダ内に画像セットが入り、送信が開始されます。

フォルダ	実行番号	患者ID
メインリスト	0821802...	00082886
送信フォルダ	+1	46324
インポート	1050300...	36-3519-7
ごみ箱	1110000...	2007089
送信フォルダ	1110000...	2007089
local	1110000...	2007089
AOC_M	1110000...	2007089
ImageServer	1346434-5...	1346434-5
	19	8465
	1805320	01000000
	193627	00000060

送信に成功したら

送信先DICOMイメージサーバーのフォルダから、送信した画像セットのリストが消えます。

送信した画像セットのリストの「DICOM送信」の項目に「済」と表示されます。

送信に失敗したら

送信先イメージサーバーのフォルダの下にある「送信エラー」フォルダに、送信に失敗した画像データのリストが移動します。

送信に失敗した画像データを再送信したり、削除したりできます。



265ページの「付録F エラーコード表」を参照してください。



「送信状態」「送信エラー」の列は右端にあるため、見えない場合はAOCウィンドウをリサイズするか、リストウィンドウのスクロールバーを操作してみてください。



リストに「DICOM送信」の項目がない場合は、28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照して表示させてください。



検査情報(DICOM属性)の編集の詳しい手順については、11ページの「3.4 検査情報(DICOM属性)を編集する」を参照してください。IRWFオプションをご利用の場合は、48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」を参照してください。



オプションの確認方法については3ページの「1.2 AOCのオプション」を参照してください。



AOCで保管するデータを減らし動作を快適にするためなどの理由で、データを送信した後、元の画像データをフォルダから削除したいときは、「送信が完了した画像セットを、現在のフォルダから削除する」チェックボックスをチェックします。「メインリスト」フォルダを開いているときは、画像セットのデータが削除されます。それ以外のフォルダを開いているときは、そのフォルダにある画像セットのリンクが削除されます(この場合、データ自体はメインリストに登録されたままです)。



リストに「DICOM送信」の項目がない場合は、28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照して表示させてください。

送信をキャンセル

以下のように、右クリックして送信をキャンセルすることもできます。

- 1 フォルダエリアにある送信先DICOMイメージサーバーのフォルダをクリックします。
- 2 リストエリアから送信をキャンセルしたい画像セットを右クリックして表示されるメニューから「送信をキャンセル」を選択します。
確認のダイアログボックスが表示されます。
- 3 「はい」をクリックします。
送信がキャンセルされ、送信がキャンセルされた画像セットが「送信エラー」フォルダに移動します。

7.2.2 検査情報(DICOM属性)を編集して送信する

画像セットの検査情報(DICOM属性)を編集し、編集した画像データをそのままDICOMイメージサーバーに送信できます。

- 1 リストウィンドウのリストエリアで、検査情報(DICOM属性)を編集したい画像セットを選択します。
- 2 ツールバーの「情報編集」ボタンをクリックするか、「ツール」メニューから「DICOM属性編集」を選択します。
「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。
- 3 検査情報(DICOM属性)を編集します。
- 4 「DICOM属性編集」ダイアログボックス下にある、「DICOMサーバーに送信」チェックボックスをチェックします。
「送信先」リストボックスが表示されたら、送信するDICOMイメージサーバーを選択します。
- 5 「送信」ボタンをクリックします。
画像データの送信が開始されます。
フォルダエリアにある送信先DICOMイメージサーバーのフォルダに、送信した画像セットがリスト表示されます。

送信に成功したら

送信先DICOMイメージサーバーのフォルダから、送信した画像セットのリストが消えます。送信した画像セットのリストの「DICOM送信」の項目に「済」と表示されます。

送信に失敗したら

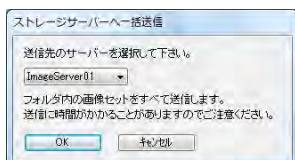
送信先イメージサーバーのフォルダの下にある、「送信エラー」フォルダに、送信に失敗した画像セットのリストが移動します。
送信に失敗した画像セットを再送信したり、削除したりできます。

7.2.3 フォルダ内の画像セットをすべて送信する(一括送信)

フォルダ内の画像セットをすべて一括で送信できます。

画像データの合計サイズが大きいたときは、送信に時間がかかるのでご注意ください。

- 1 リストウィンドウのフォルダエリアで、送信したいフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「ストレージサーバーへ一括送信」を選択します。
「ストレージサーバーへ一括送信」ダイアログボックスが開きます。



- 3 リストボックスで送信先のDICOM イメージサーバーを選択します。
- 4 「OK」ボタンをクリックします。
画像データの送信が始まります。
フォルダエリアにある送信先DICOM イメージサーバーのフォルダに、送信した画像セットがリスト表示されます。

送信に成功したら

送信先DICOM イメージサーバーのフォルダから、送信した画像セットのリストが消えます。

送信した画像セットのリストの「DICOM送信」の項目に「済」と表示されます。

送信に失敗したら

送信先DICOM イメージサーバーのフォルダの下にある「送信エラー」フォルダに、送信に失敗した画像データのリストが移動します。

送信に失敗した画像データを再送信したり、削除したりできます。



リストに「DICOM送信」の項目がない場合は、28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照して表示させてください。

7.2.4 送信に失敗したデータを再送信する・削除する

送信に失敗すると、送信先DICOMイメージサーバーのフォルダの下にある「送信エラー」フォルダに、失敗した画像セットのリストが移動します。

送信に失敗した画像データを再送信したり、削除したりできます。



再送信する

送信に失敗した画像データを再送信します。

- 1 送信先DICOMイメージサーバーのフォルダの下にある、「送信エラー」フォルダを開きます。
「送信エラー」フォルダには、送信に失敗した画像セットが管理されています。
- 2 リストエリアから再送信したい画像セットのリストを選択します。
複数選択することもできます。
- 3 選択した画像セット上で右クリックして表示されるメニューから再送信の方法を選択します。
そのまま再送信する場合は、「ストレージサーバーに再送信」を選択します。
再送信先にあわせて編集して再送信する場合は、「Private Element」の削除の可否、「Group Length」の付加/削除、セーフモードで送信するかどうかを決め、再送信方法を選択してください。

選択したリストの画像データが再送信されます。

送信に成功したら

送信先DICOMイメージサーバーのフォルダから、送信した画像セットのリストが消えます。
送信した画像セットのリストの「DICOM送信」に項目に「済」と表示されます。

送信に失敗したら

送信先DICOMイメージサーバーのフォルダの下にある「送信エラー」フォルダに、送信に失敗した画像データのリストが移動します。



セーフモードでの送信とは、画像をセカンダリキャプチャに変換して送信することです。



セーフモードで送信される画像は、撮影条件などの詳細情報が省略されます。

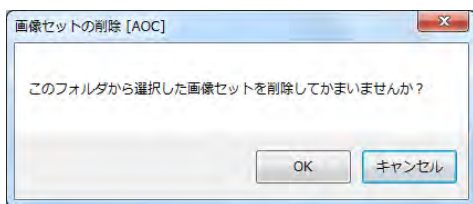


リストに「DICOM送信」の項目がない場合は、28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照して表示させてください。

削除する

送信に失敗した画像データを削除します。

- 1 送信先DICOMイメージサーバーのフォルダの下にある、「送信エラー」フォルダを開きます。
「送信エラー」フォルダでは、送信に失敗した画像セットが管理されています。
- 2 リストエリアから削除したい画像セットのリストを選択します。
複数選択することもできます。
- 3 選択した画像セット上で右クリックして表示されるメニューから「画像セットの削除」を選択します。
「画像セットの削除」ダイアログボックスが開き、確認を促すメッセージが表示されます。



選択している画像セットをAOC上のすべてのフォルダから削除したい場合は、「この画像セットを全てのフォルダから削除してごみ箱に移動する」チェックボックスをチェックします。

- 4 「OK」ボタンをクリックします。



キーボードの delete キーを押しても、「画像セットの削除」ダイアログボックスが開いて画像を削除できます。

第8章

画像ファイルの読み込み / 書き出し



オプションの確認方法については3ページの「1.2 AOCのオプション」を参照してください。

8.1 画像ファイルを読み込む

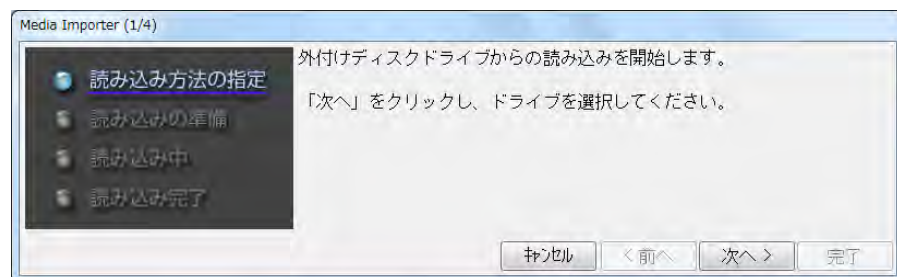
画像ファイル単体を手動で読み込み、AOCに登録できます。画像ファイルは、DICOMおよび非DICOMのいずれでも読み込めます。

画像ファイルの読み込みの手順には、まとめて読み込む方法と、選択して読み込む方法の2種類があります。

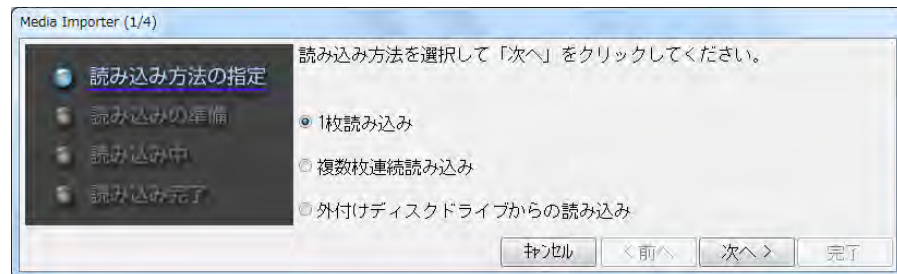
8.1.1 メディアインポーター機能オプションをご利用の場合

メディアインポーター機能を使用して、画像ファイルをまとめて読み込みます。AOCのCD/DVD作成機能で作成された、暗号化された(パスワードによって保護された)ディスクから読み込むこともできます。

- 1 リストウィンドウのツールバーから「ファイル読み込」ボタンをクリックします。
メディアインポーター画面が開きます。



Rimageオプションをご利用の場合は、以下の画面が開きます。

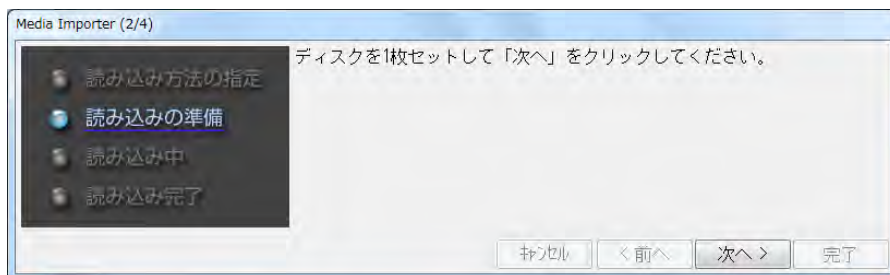


- 2 Rimageオプションをご利用の場合は、読み込み方法を選択して「次へ」ボタンをクリックします。
読み込み方法は、以下のなかから該当する項目のラジオボタンをクリックして選択します。

- ・ 1枚読み込み : サブライビンから最初の1枚だけを読み込みます。
- ・ 複数枚連続読み込み : サブライビンからすべてのディスクを読み込みます。
- ・ 外付けディスクドライブからの読み込み : 外付けディスクドライブのディスクを読み込みます。

Rimageオプションをご利用ではない場合、および、「外付けディスクドライブからの読み込み」を選択した場合は、「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きますので、お使いの外付けドライブを選んで「OK」ボタンをクリックしてください。(外付けディスクドライブの場所は、システム環境により異なります。)

ディスクのセットを促すメッセージが表示されます。(以下の画面は、「1枚読み込み」を選択した場合の例です。)

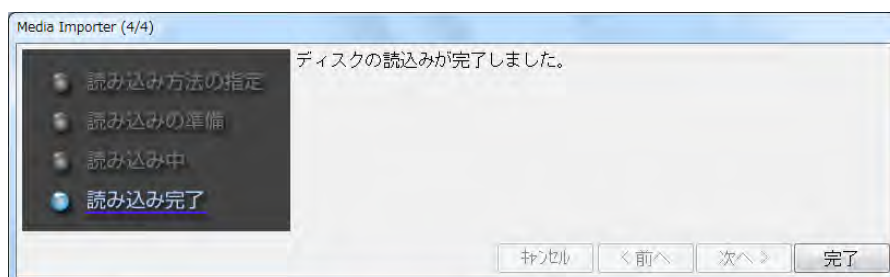


- 3 Rimageのサブライビンまたは外付けディスクドライブにディスクをセットし、「次へ」ボタンをクリックします。

セットしたディスクが暗号化されている場合は、パスワードの入力を促すダイアログボックスが開きますので、パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



ディスクの記録面には、指紋や汚れ、ほこり、傷などが付かないよう、大切に取扱ってください。データの書き込みや読み出しが正しく行われなくなる場合があります。



ディスクから画像が読み込まれ、「ディスクの読み込みが完了しました」と表示されます。

- 4 「完了」ボタンをクリックし、メディアインポーター画面を閉じます。

読み込まれた画像は、画像セットとしてAOCの「インポート」フォルダで管理されます。



「インポート」フォルダについては、22ページの「4.1 リストウィンドウの構成」を参照してください。

読み込んだ画像の患者・検査情報(DICOM属性)を編集し、DICOMイメージサーバーに送信する操作については、下記を参照してください。

- ・ IRWFオプションをご利用の場合
48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」
- ・ それ以外の場合
「4.2 画像データの管理設定」
11ページの「3.4 検査情報(DICOM属性)を編集する」



Preludioオプションを使って読み込める非DICOM画像ファイルの形式はBMP、JPEG、およびTIFFです(データの構造によっては、これらのファイル形式でも読み込めない場合があります)。




デスクトップのPreludioアイコン(P)をダブルクリックしてもPreludioを起動できます。

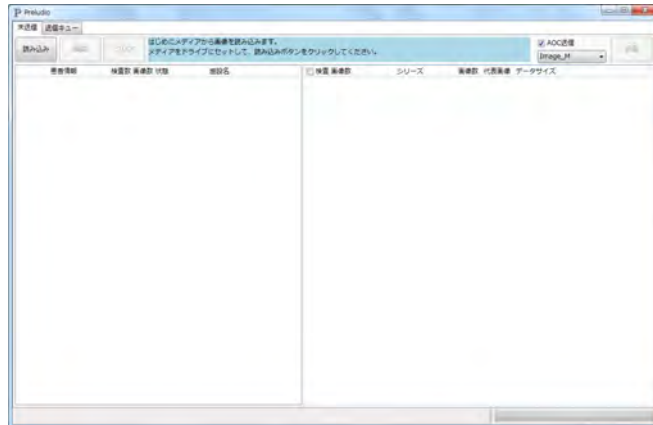


初期設定(デフォルト)として使用できるドライブまたはフォルダは変更できます。詳しくは226ページの「B.3.1 読み込みに使用するドライブやフォルダの設定」を参照してください。

8.1.2 Preludioオプションをご利用の場合

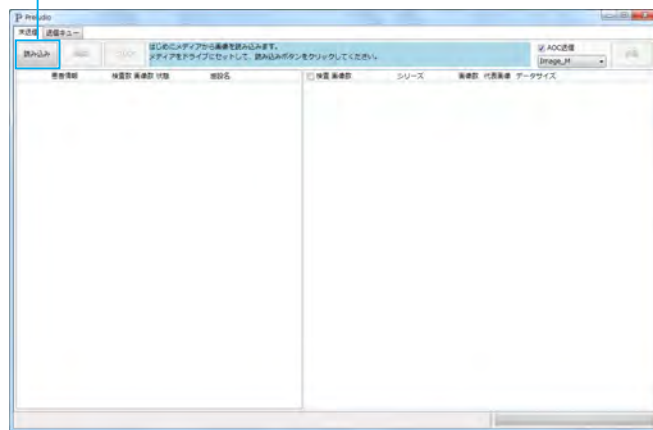
Preludioオプションを使用し、CD/DVDから画像データをインポートしてPACSへ送信するには、以下のように操作します。

- 1 リストウィンドウのツールバーから「ファイル読み」ボタン() をクリックします。Preludioが起動し、Preludio画面が開きます。

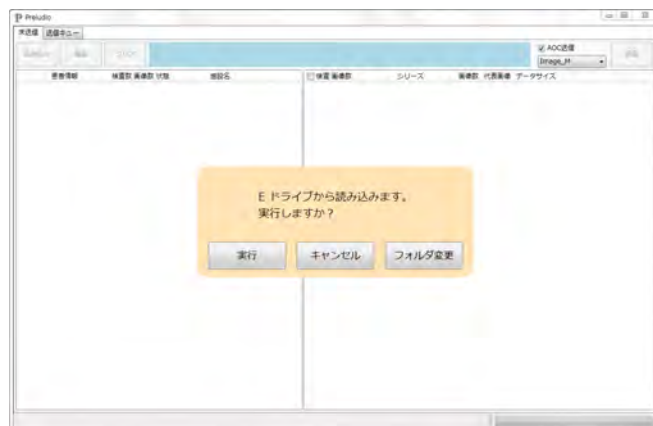


- 2 読み込むディスクをディスクドライブにセットします。
初期設定では光学ドライブ(CD/DVD)から読み込むように設定されています。CD/DVD以外のディスクやフォルダからも読み込めます。その場合、この操作は必要ありません。

- 3 「読み込み」ボタンをクリックします。
「読み込み」ボタン

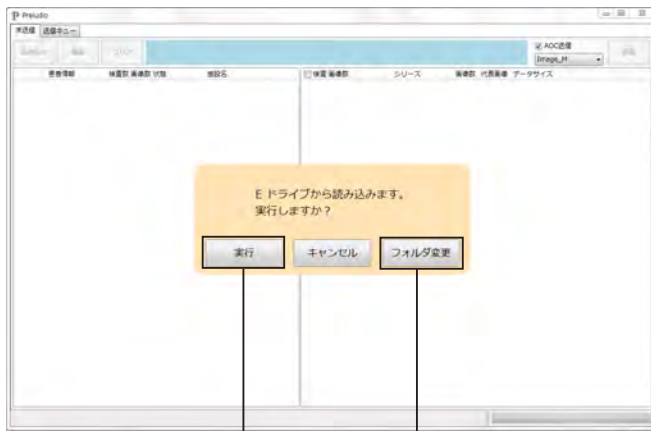


確認のメッセージが表示されます。



4 「実行」ボタンをクリックします。

通常使うドライブ以外のドライブやフォルダから読み込む場合は、「フォルダ変更」ボタンをクリック、「フォルダの参照」画面から指定します。



「実行」ボタン 「フォルダ変更」ボタン

読み込みが開始され、患者と検査の一覧が表示されます。

ディスクの読み込み中でも、編集・送信の操作は行えますので、そのまま次の手順に進んでください。ただし、ディスクアイコン表示中はディスクを取り出さないでください。読み込みが終了すると、自動的にディスクがイジェクトされます。



ディスクアイコン (表示中はディスクを取り出さないでください)

送信チェックボックス

代表画像

各シリーズの代表画像をクリックすると、「シリーズ サムネイル表示」ウィンドウが表示され、シリーズに含まれる画像のサムネイル一覧が表示されます。



「閉じる」ボタン

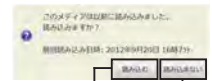
「閉じる」ボタンをクリックすると、「シリーズ サムネイル表示」ウィンドウが閉じ、Preludio 画面に戻ります。



ディスクアイコン表示中はディスクを取り出さないでください。読み込みが終了すると、自動的にディスクがイジェクトされます。



過去に読み込んだことのあるディスクを読み込もうとしている場合、確認のメッセージと、前回読み込んだ日時が表示されます。



「読み込む」ボタン

「読み込まない」ボタン

「読み込む」または「読み込まない」ボタンをクリックしてください。

「読み込む」ボタンをクリックすると、読み込みが開始され、「読み込まない」ボタンをクリックするとディスクがイジェクトされます。

読み込みに失敗したディスクや、読み込んだ画像が未送信のディスクであっても、過去に読み込まれたディスクとして認識され、メッセージが表示されます。

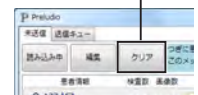
確認のメッセージは、光学ドライブを使用する場合のみ表示されます。

フォルダを指定して読み込んだり、メディアのサブフォルダを指定して読み込んだ場合は表示されません。

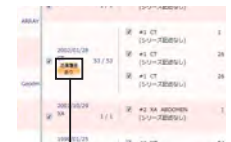


「クリア」ボタンをクリックすると、読み込んだ画像はすべてリストから削除されます。

「クリア」ボタン



過去に送信したことがある検査には送信履歴アイコンが表示されます。



送信履歴アイコン

送信履歴は検査単位で記録されるため、検査内の1つでもシリーズを送信したことがある場合は送信履歴アイコンが表示されます。



設定された枚数・容量以上の画像が含まれるシリーズのデータは、送信チェックボックスのチェックが自動的に外れています。詳しくは226ページの「B.3.1 読み込みに使用するドライブやフォルダの設定」を参照してください。



設定によっては、メディア読み込みとともに、患者情報編集パネルが自動的に開かれます。詳しくは226ページの「B.3.1 読み込みに使用するドライブやフォルダの設定」を参照してください。

5 送信したくない検査/シリーズがある場合(画像の枚数が多い、または過去に送信したことがあるなど)は、送信チェックボックスのチェックを外します。

送信チェックボックスをチェックする / チェックを外すことで、その検査またはシリーズを送信の対象にするかどうかを選択できます。

6 「編集」ボタンをクリックします(通常は患者情報を編集しますが、編集せずに送信する場合は手順9に進んでください)。



患者情報編集パネルが開きます。

7 修正後の患者情報を入力します。



「修正後」エリアで入力内容に不備がある場合は、入力ボックスが赤く表示されます。また、*(アスタリスク)の項目は必須です。何も入力されていないと赤く表示されます。入力しなくても送信は行えますが、送信時に確認のメッセージが表示されます。



「全選択」を選択すると、検査リストには、読み込んだすべての検査が表示されます。この状態で患者情報を編集すると、すべての検査が1患者の検査として扱われます。「全選択」は、複数患者の場合のみ表示され、1患者の場合は表示されません。また、患者IDと患者名の組み合わせが一致している場合を1患者と見なします。

読み込んだデータに複数患者の情報が含まれる場合は、患者情報を編集したい患者を一覧からクリックして選択してください。

「修正後」エリアに必要な情報を入力します。

ワークリストサーバーが利用可能な場合は、「患者検索」エリアに検索キーを入力して「検索」ボタンをクリックします。検索結果が複数の場合は、オーダーリストに一覧が表示され、該当する患者名をクリックすると、患者情報が反映されます。設定によって(232ページの「B.3.4 ワークリストサーバーの設定」参照)、検索結果が1件のみの場合は、自動的に患者情報が反映されます。

患者情報を編集すると編集の手段に応じて編集手段表示が「手動編集」「ワークリスト」などに切り替わります(まったく編集されていないときは「未編集」と表示されます)。複数の手段で編集した場合、最後に使用した手段が表示されます。

- 8 すべての患者情報の入力が終了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。
- 9 「送信先」リストボックスから送信するサーバーを選択し、「送信」ボタンをクリックします。
同時に AOC に取り込む場合は、「AOC 送信」チェックボックスをチェックします。



送信が開始されます。続けて画像データを読み込む場合は、手順2に戻ります。

- 10 Preludioを終了する場合は、画面右上の閉じるボタンをクリックします。



サーバーに送信せず、AOCに取り込むだけの場合は、「AOC送信」チェックボックスをチェックし、「送信先」リストボックスで「なし」を選択してください。



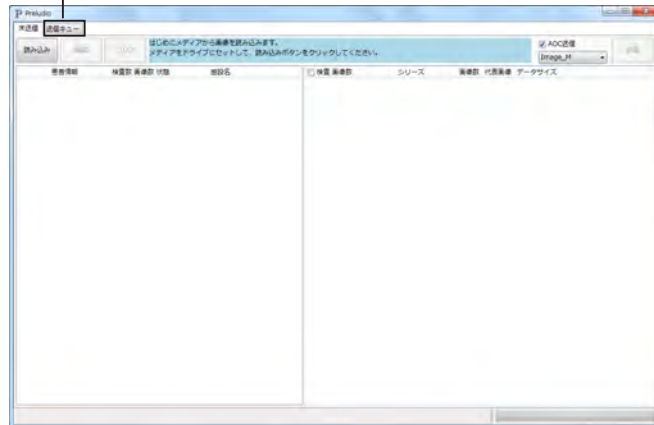
送信すると、読み込んだ画像データは送信待ちとなり、リストからすべて消えます。

送信状態の確認と送信履歴の削除

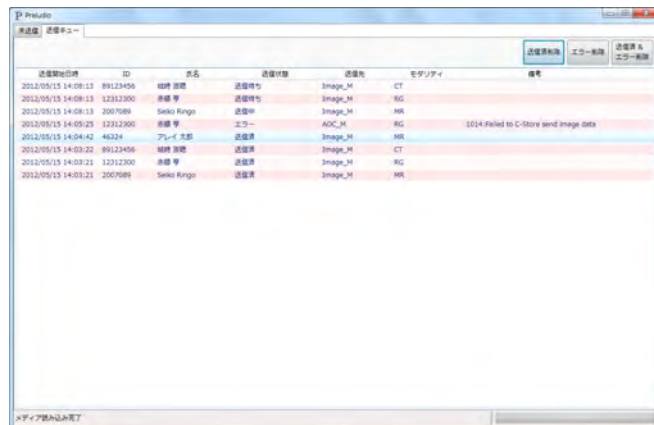
PACSへの送信状態と送信履歴を確認できます。送信済みの履歴は削除できます。

- 1 「送信キュー」タブをクリックします。

「送信キュー」タブ



送信キュー画面が表示されます。



送信キュー画面には以下の内容が表示されます。

送信開始日時

送信が開始された日時です。

ID

患者IDです。

氏名

患者氏名です。

送信状態

状態に応じて4種類のメッセージが表示されます。

- 送信済 : 送信に成功しました
- 送信中 : 現在送信中です
- 送信待ち : 送信準備中です
- エラー : 送信に失敗しました



「送信状態」欄に「エラー」と表示されている場合は、その行を右クリックして表示されるメニューから「再送信」をクリックし、送信し直してください。

送信先

送信先のイメージサーバーです。

モダリティ

画像のモダリティタイプです。

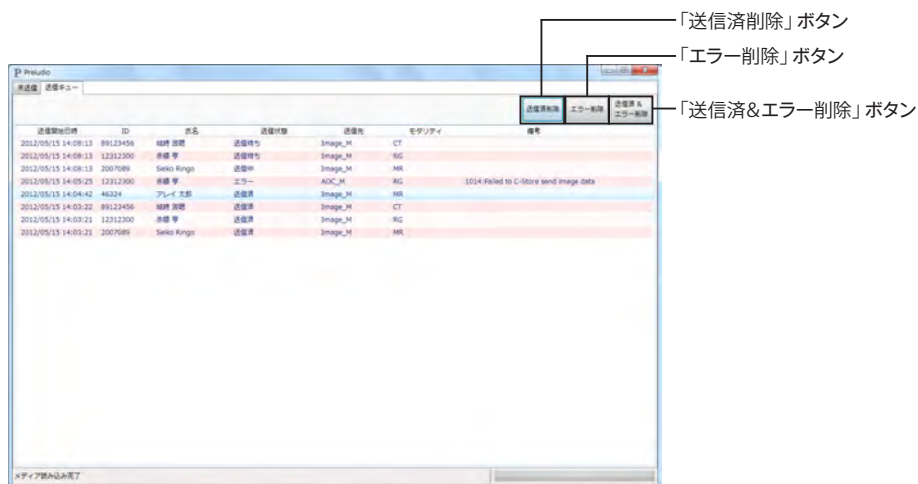
備考

送信に失敗したときなどに、エラーコードが表示されます。

エラーコードが表示されている場合は、265ページの「付録F エラーコード表」でご確認の上、システム管理者にお問い合わせください。

送信履歴を削除するには

リストから、送信が完了した履歴を削除する場合は「送信済削除」ボタンを、送信に失敗した履歴を削除する場合は「エラー削除」ボタンを、すべての履歴を削除する場合は「送信済&エラー削除」ボタンをクリックしてください。



2 元の画面に戻るときは、「未送信」タブをクリックしてください。



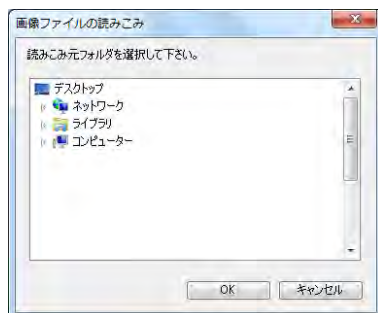
送信履歴は、設定された日数が経過すると自動的に削除されるので、通常はこの操作は必要ありません。設定については236ページの「B.3.6 送信の設定」を参照してください。



「ファイル」メニューから「DICOM
ファイルの読みこみ」を選択して
も同じことができます。

8.1.3 どちらのオプションもご利用でない場合

- 1 リストウィンドウのツールバーから「ファイル読込」ボタンをクリックします。
「DICOM ファイルの読みこみ」ダイアログボックスが開きます。



- 2 読み込みたいDICOMファイルがあるフォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、読み込みが開始されます。

読み込みが終わると「読み込みが終了しました」というメッセージが表示されます。
メッセージが表示されるまでは、読み込み動作が継続しています。

- 3 「OK」ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じます。
リストウィンドウに、ファイルの検査情報の一覧が表示されます。



「インポート」フォルダは、メディ
アインポーター機能オプションを
ご利用の場合のみ表示されます。

8.1.4 オプションに関係なく使用できる方法

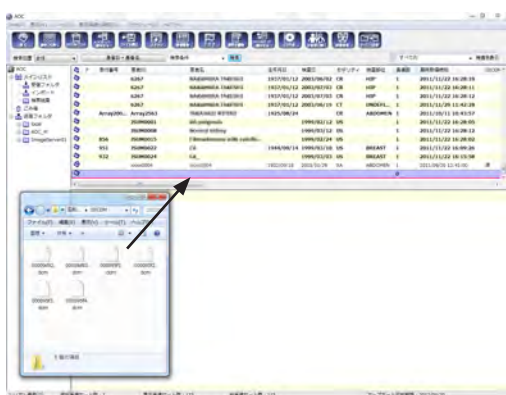
画像ファイルを選択して読み込みます。

画像ファイルを、AOCにドラッグ&ドロップして読み込みます。

AOCに読み込んだら、そのつど自動的に検査情報(DICOM属性)を編集するダイアログボックスが開き、情報を確認・変更できます。

操作に手間がかかりますが、必要なファイルだけを登録できます。

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「新規画像セットの作成」を選択するか、リストエリア上で右クリックして表示されるメニューから「新規画像セットの作成」を選択します。
リストエリアの一番下に空の画像セットの行が追加されます。
- 2 追加された空の画像セットの行に画像ファイルをドラッグ&ドロップします。



「DICOM属性編集」ダイアログボックスが開きます。



- 3 ファイルの検査情報(DICOM属性)を確認し、必要に応じて変更します。

- 4 「OK」ボタンをクリックします。

ドラッグ&ドロップしたDICOMファイルがAOCに読み込まれ、画像セットとしてAOCで管理されます。



DICOMファイルを選択して読み込むと、取得元の情報はAOCに書き込まれません。そのため、自動取得(224ページの「B.2.6 消したデータを自動的に読み込む(自動取得)参照)はできませんので、そのときは再度手動で読み込んでください。



読み込む画像全部の検査情報(DICOM属性)を同じ内容でまとめて一度に設定したい場合は、「全ての画像に適用する」チェックボックスをチェックします。チェックボックスを外した場合、検査情報(DICOM属性)をそれぞれの画像について入力してください。

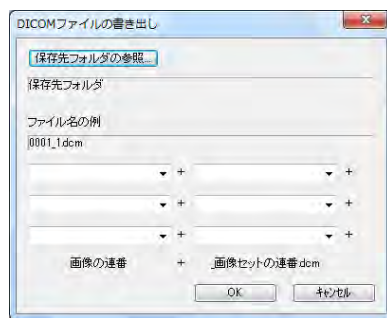
8.2 画像ファイルを書き出す

AOCに登録されている画像を、各種の画像ファイルに書き出すことができます。

8.2.1 リストウィンドウからDICOMファイルを書き出す

リストウィンドウでは、登録されている画像セットごとに、画像セットのすべての画像をDICOM形式で書き出すことができます。

- 1 リストエリアでDICOMファイルで書き出したい画像セットを選択します。
- 2 「ファイル」メニューから「DICOMファイルの書き出し」を選択するか、選択した画像セット(複数選択した場合はそのうちの1つ)を右クリックして表示されるメニューから「DICOMファイルの書



き出し」を選択します。

「DICOMファイルの書き出し」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 「保存先フォルダの参照」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。ファイルの書き出し先のフォルダを選択します。
- 4 「フォルダの参照」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じ、選択したフォルダのパスが「保存先フォルダの参照」ボタンの下に表示されます。

- 5 ファイル名として使用する項目を設定します。
設定できるのは以下の項目で、そのうち6項目まで設定できます。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ・今日の日付 | ・患者ID | ・患者名 |
| ・生年月日 | ・性別 | ・検査日 |
| ・検査時刻 | ・施設名 | ・照会医師名 |
| ・検査ID | ・受付番号 | ・検査記述 |
| ・読影医師名 | ・モダリティ | ・検査部位 |
| ・患者位置 | ・左右 | |

- 6 「OK」ボタンをクリックします。
「DICOMファイルの書き出し」ダイアログボックスが閉じ、選択したフォルダに画像ファイルが書き出されます。



ファイル名は、「(設定した項目の内容)_ファイル番号.dcm」の規則で順番に付けられます。複数の画像セットを選択した場合は、「ファイル番号」の後にセットごとの番号が順番に付きます。最初の画像に付けられるファイル名の例が画面に表示されます。

8.2.2 ビューワから書き出す

ビューワで表示されている画像を、ファイルに書き出すことができます。

- 1 「ファイル」メニューから、書き出したい画像に合わせてメニューを選択します。

「すべての画像をファイル出力」

表示されているすべての画像をファイルに書き出します。

「選択画像をファイル出力」

選択した画像をファイルに書き出します。

「カレント画像をファイル出力」

カレント画像のみをファイルに書き出します。画像を右クリックして表示されるメニューから「この画像をファイル出力」を選択しても同じことができます。

「画像のファイル出力」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「保存する場所」リストボックスから、ファイルの保存先のフォルダを選択します。

- 3 「ファイルの種類」コンボボックスでファイル形式を選択します。

選択できる画像ファイルの形式は以下のとおりです。

- TIFF
- JPEG
- JPEG2000
- BMP
- PGM
- DICOM
- RAW Windows形式
- RAW Macintosh (UNIX)形式

- 4 「ファイル名」入力ボックスにファイル名を入力します。

- 5 新規にフォルダを作成して保存する場合は、「新規フォルダを作成して保存」チェックボックスをチェックし、「新規フォルダ名」入力ボックスにフォルダ名を入力します。

- 6 8bitsを超えるピクセルビット数の画像を8bitsに変換して保存する場合は、「8bitsを超える画像は8bitsに変換して保存」チェックボックスをチェックします。
8bitsを超える画像を保存するとき、このチェックボックスをチェックしていると、元の画像の状態によっては階調が少なくなることがあります。



ShiftキーやCtrlキーを押しながら画像をクリックすると、複数の画像を選択することができます。選択画像は緑色のフレームで表示されます。



ビューワでDICOM形式で画像を書き出す場合、新規の画像データとして書き出すため、データに含まれる情報が大幅に減る場合があります。

- 7 現在のトーンカーブの状態を適用した状態で画像を保存したい場合は、「現在のトーンカーブを適用して保存」チェックボックスをチェックします。
チェックを外した場合、トーンカーブは適用されず、元の状態のまま保存されます。
- 8 「保存」ボタンをクリックします。
指定された場所に画像ファイルが書き出されます。

第9章

ビューワつきCD/DVDの作成



複数選択する場合は、キーボードのCtrlキーを押しながら複数の画像セットをクリックすると、クリックした複数の画像セットを選択できます。
Shiftキーを押しながら隣り合っていない2つの画像セットをクリックすると、2つの画像セットの間にあるすべての画像セットを選択できます。
Ctrlキーを押しながらAキーを押すと、すべての画像セットが選択されます。



「ツール」メニューの「ビューワつきCD/DVDの作成」を選択するか、選択した画像セットのリスト上で右クリックして表示されるメニューから「ビューワつきCD/DVDの作成」を選択しても同じことができます。



「書き込む画像セット」の右側には、1枚のCDまたはDVDに書き込める画像セットの容量が表示されます。
表示される値は、CD/DVD全体の容量から、ビューワなど、一緒に書き込まれるデータの容量を差し引いた値になります。



Rimageオプションをご利用の場合にRimageを書き出しに使うときは「Rimage」を選びます。
エプソンディスク作成オプションをご利用の場合にDisc producerを書き出しに使うときは、EPSON Total Disc Setupで登録したディスクパブリッシャー名を選択してください。
ディスクパブリッシャー名の登録について詳しくは、エプソンDisc producerのユーザーズガイドまたはEPSON Total Disc Setupのヘルプをご覧ください。
Primeriaオプションをご利用の場合、Primeriaを書き出しに使うときは「Disc Publisher SE」を選択してください。



「設定」に関しては、130ページの「9.21 CD/DVD書き込みの設定を登録する」を参照してください。

9.1 ビューワつきCD/DVDを作成する

AOCで登録している画像を、ビューワと一緒にCDやDVDに書き出すことができます。
ビューワがインストールされていないコンピュータでも、CD/DVD内のビューワを使用して画像を開けます。

ビューワは、書き込み時にAOC Viewの通常版、簡易版、AOC Stackatoの3種類から選択できます。
AOC Viewの通常版とAOC Stackatoは、それぞれAOCで使用できるビューワとほぼ同じ機能が使えます。

AOC Viewの簡易版では、AOC Viewでよく使われる機能が厳選され、手軽に画像を見られるように設定されています。

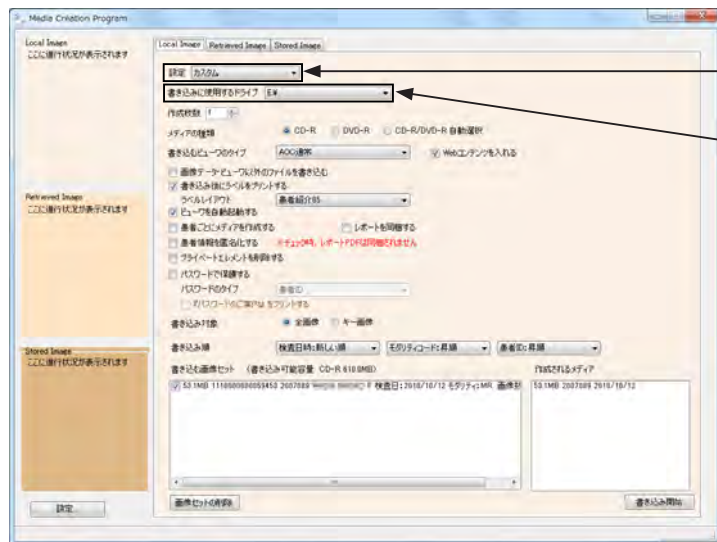
新規にAOCをインストールした場合は、書き込むビューワにはAOC Stackatoがデフォルトで選択されています。
AOCを更新した場合は、以前使用していた設定がそのまま引き継がれています。

所見や電子カルテの情報などのデータも一緒にCDやDVDに書き込みます。

9.1.1 登録されている画像データをCD/DVDに書き込む

AOCに登録されている画像をビューワと一緒にCD/DVDに書き込みます。

- 1 空のCD/DVDがセットされていることを確認します。
- 2 リストウィンドウのリストエリアで、CD/DVDに書き出したい画像セットを選択します。
- 3 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 4 「Local Image」タブを選択します。



「設定」ドロップダウンリストボックス
「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックス

- 5 「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックスから、書き出しを行うドライブを選択します。
- 6 「設定」ドロップダウンリストボックスから、使用する設定を選択します。
「カスタム」を選ぶと、「Media Creation Program」画面上で「作成枚数」や「メディアの種類」などの項目がアクティブになり、CD/DVD作成の設定ができるようになります。
「カスタム」を選んで変更された設定は、AOCを終了しても保存されます。

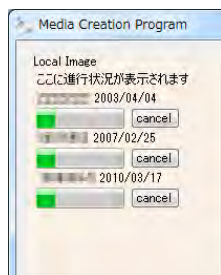
- 7 「Media Creation Program」画面の下部にある「書き込む画像セット」欄から、CD/DVDに書き込まない画像セットがある場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

「作成されるメディア」欄には、作成されるメディアごとに、容量、患者ID、検査日が表示されます。

- 8 「書き込み開始」ボタンをクリックします。

CD/DVDへの書き込みが開始されます。

書き込みの進行状況は、「Media Creation Program」画面の左側にある「local Image」エリアに表示されます。



CD/DVDへの書き込みが終了すると、進行状況の表示が消えます。

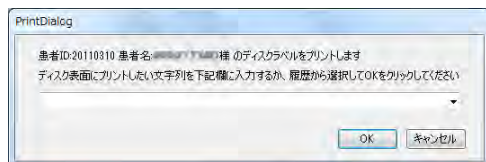
ディスクパブリッシャーをご使用の場合は、ラベル印刷が開始されます。

外部ドライブを使用している場合など、ラベル印刷が別途必要なときは、書き込み直後にCD/DVDがイジェクトされ「PrintDialog」ダイアログボックスが開きます。

以下の「ディスクパブリッシャーをご使用でない場合」を参照してください。

ディスクパブリッシャーをご使用でない場合

CD/DVD書き込み終了の直後に、CD/DVDがイジェクトされ、「PrintDialog」ダイアログボックスが開きますので、以下の操作を行ってください。



- 1 イジェクトされたCD/DVDをプリンタにセットします。
- 2 ダイアログボックスの入力ボックスに、ディスク表面に印刷したい文字列を入力します。ドロップダウンボタン(▼)をクリックすると、過去に入力した文字列の候補が表示され、選択できます。過去20件の文字列までさかのぼって選択できます。
- 3 「OK」ボタンをクリックします。ダイアログボックスが閉じ、印刷の開始画面が開きます。表示される画面は、お使いのプリンタにより異なります。詳しくは、お使いのプリンタのユーザーズガイドを参照してください。

ラベル印刷が開始されます。

「ラベルプリントの確認」ダイアログボックスが開きます。



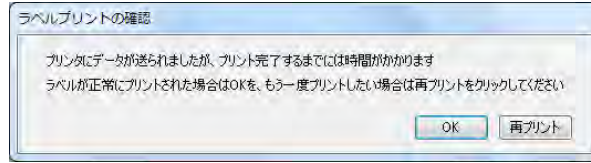
「作成されるメディア」欄と進行状況の表示に、患者IDと検査日、または患者名を表示することができます。詳しくは、139ページの「9.2.6 その他の設定をする」を参照してください。



エプソンディスク作成オプションをご利用の場合、書き込みの進行状況は実際の動作よりも速く表示されることがあります。



ラベルの印刷内容と画像データが一致するために、必ず、イジェクトされたCD/DVDをプリンタにセットしてください。



- 4 印刷を終了する場合は「OK」をクリックします。
正しく印刷されなかった場合など、印刷し直したいときは「再プリント」ボタンをクリックしてください。

9.1.2 検索した画像データをCD/DVDに書き込む

検索(Q/R)した画像データをCD/DVDに書き込みます。

自動書き込みが有効になっている場合は、書き込みの進行状況を確認できます。

- 1 空のCD/DVDがセットされていることを確認します。

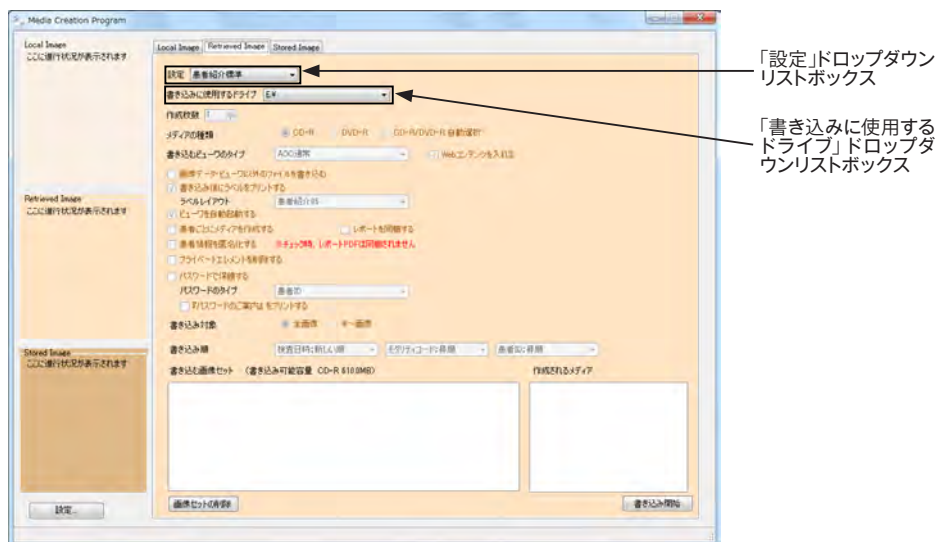
自動書き込みが有効になっている場合

書き込み開始後、自動的に「Media Creation Program」画面が開き、画面左側中段の「Retrieved Image」エリアに書き込みの進行状況が表示されます。

自動書き込みが無効になっている場合は、以降の手順に進んでください。

- 2 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。

- 3 「Retrieved Image」タブを選択します。



- 4 「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックスから、書き出しを行うドライブを選択します。
- 5 「設定」ドロップダウンリストボックスから、使用する設定を選択します。
- 6 「Media Creation Program」画面下部の「書き込む画像セット」欄に、検索(Q/R)された画像セットの一覧が表示されているので、CD/DVDに書き込まない画像セットがある場合は、チェックボックスのチェックを外してください。
「作成されるメディア」欄には、作成されるメディアごとに、容量、患者ID、検査日が表示されます。
- 7 「書き込み開始」ボタンをクリックします。
CD/DVDへの書き込みが開始されます。書き込みの進行状況は、「Media Creation Program」画面の左側中段の「Retrieved Image」エリアに表示されます。
CD/DVDへの書き込みが終了すると、進行状況の表示が消えます。

外部ドライブを使用している場合など、ラベル印刷が別途必要なことがあります。詳しくは124ページの「9.1 ビューワつきCD/DVDを作成する」を参照してください。



自動書き込みの設定については、134ページの「9.2.2 自動書き込みの設定をする」を参照してください。



検索した画像データをCD/DVDに書き込む方法については、100ページの「7.1 DICOMイメージサーバーから画像データを受信する(Query/Retrieve)」を参照してください。



「書き込む画像セット」の右側には、1枚のCDまたはDVDに書き込める画像セットの容量が表示されます。
表示される値は、CD/DVD全体の容量から、ビューワなど、一緒に書き込まれるデータの容量を差し引いた値になります。



Rimage オプションをご利用の場合にRimageを書き出しに使うときは「Rimage」を選びます。エプソンディスク作成オプションをご利用の場合にDisc producerを書き出しに使うときは、EPSON Total Disc Setupで登録したディスクパブリッシャー名を選択してください。ディスクパブリッシャー名の登録については詳しくは、エプソンDisc producerのユーザーズガイドまたはEPSON Total Disc Setupのヘルプをご覧ください。Primeriaオプションをご利用の場合、Primeriaを書き出しに使うときは「Disc Publisher SE」を選択してください。



「設定」に関しては、130ページの「9.2.1 CD/DVD書き込みの設定を登録する」を参照してください。



「作成されるメディア」欄と進行状況の表示に、患者IDと検査日、または患者名を表示することができます。
詳しくは、139ページの「9.2.6 その他の設定をする」を参照してください。



Storage SCPはオプションです。



この機能を使うには、AE (アプリケーションエンティティ) タイトル、ポート番号などの設定をします。設定に関しては198ページの「B.1 DICOM通信の設定」を参照してください。



自動書き込みの設定については、134ページの「9.2.2 自動書き込みの設定をする」を参照してください。



「書き込む画像セット」の右側には、1枚のCDまたはDVDに書き込める画像セットの容量が表示されます。表示される値は、CD/DVD全体の容量から、ビューワなど、一緒に書き込まれるデータの容量を差し引いた値になります。



Rimage オプションをご利用の場合に Rimage を書き出しに使うときは「Rimage」を選びます。エプソンディスク作成オプションをご利用の場合に Disc producer を書き出しに使うときは、EPSON Total Disc Setup で登録したディスクパブリッシャー名を選択してください。ディスクパブリッシャー名の登録について詳しくは、エプソン Disc producer のユーザーズガイドまたは EPSON Total Disc Setup のヘルプをご覧ください。Primer a オプションをご利用の場合、Primer a を書き出しに使うときは「Disc Publisher SE」を選択してください。



「設定」に関しては、130ページの「9.2.1 CD/DVD 書き込みの設定を登録する」を参照してください。



「作成されるメディア」欄と進行状況の表示に、患者IDと検査日、または患者名を表示することができます。詳しくは、139ページの「9.2.6 その他の設定をする」を参照してください。

9.1.3 受信した画像データをCD/DVDに書き込む

Storage SCPで受信した画像データをCD/DVDに書き込みます。

自動書き込みが有効になっている場合、AOCが画像データを受信すると、患者ごとにCD/DVDへ自動的に書き込みが開始され、書き込みの進行状況を確認できます。

画像データを最後に受信した時刻から設定した待ち時間までに、同じ患者IDの次の画像を受信しなかった場合、同じ患者と認識します。

- 1 空のCD/DVDがセットされていることを確認します。

自動書き込みが有効になっている場合

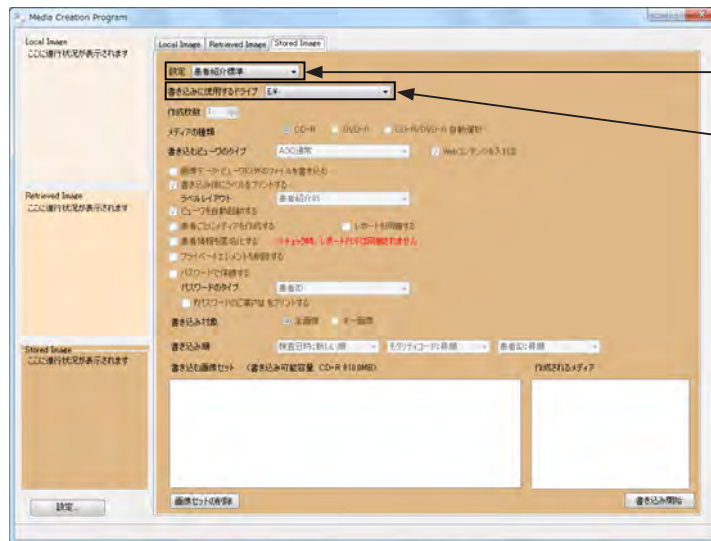
書き込み開始後、自動的に「Media Creation Program」画面が開き、画面左側下段の「Stored Image」エリアに書き込みの進行状況が表示されます。

自動書き込みが無効になっている場合は、以降の手順に進んでください。

- 2 ツールバーの「CD 作成」ボタンをクリックします。

「Media Creation Program」画面が開きます。

- 3 「Stored Image」タブを選択します。



「設定」ドロップダウンリストボックス

「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックス

- 4 「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックスから、書き出しを行うドライブを選択します。

- 5 「設定」ドロップダウンリストボックスから、使用する設定を選択します。

「カスタム」を選ぶと、「Media Creation Program」画面上で「作成枚数」や「メディアの種類」などの項目がアクティブになり、CD/DVD 作成の設定ができるようになります。

「カスタム」を選んで変更された設定は、AOCを終了しても保存されます。

- 6 「Media Creation Program」画面下部の「書き込む画像セット」欄に、受信した画像セットの一覧が表示されているので、CD/DVDに書き込まない画像セットがある場合は、チェックボックスのチェックを外してください。

「作成されるメディア」欄には、作成されるメディアごとに、容量、患者ID、検査日が表示されます。

7 「書き込み開始」ボタンをクリックします。

CD/DVDへの書き込みが開始されます。書き込みの進行状況は、「Media Creation Program」画面の左側下段の「Stored Image」エリアに表示されます。

CD/DVDへの書き込みが終了すると、進行状況の表示が消えます。

外部ドライブを使用している場合など、ラベル印刷が別途必要なことがあります。詳しくは124ページの「9.1 ビューワつきCD/DVDを作成する」を参照してください。

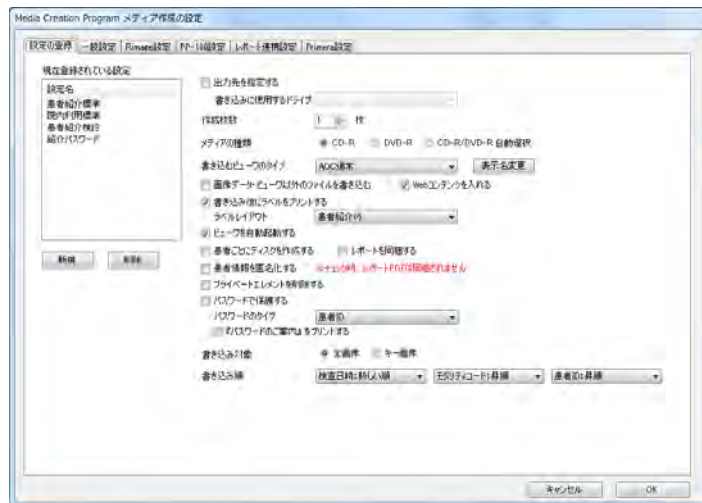
9.2 CD/DVD 作成の設定

CD/DVD への書き込みの条件や、自動書き込みの設定の登録ができます。

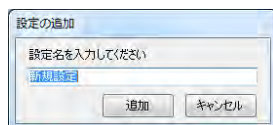
9.2.1 CD/DVD 書き込みの設定を登録する

CD/DVD に書き込むときの、メディアの種類や書き込むビューワのタイプの設定を登録できます。

- 1 ツールバーの「CD 作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「設定の登録」タブを選択します。



- 4 「設定名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定の追加」ダイアログボックスが開きます。



- 5 入力ボックスに、設定名を入力し、「追加」ボタンをクリックします。
「設定の追加」ダイアログボックスが閉じ、「設定名」リストに追加されます。
- 6 「設定名」リストで追加した設定名が選択されているのを確認し、以下の設定をします。

「出力先を指定する」チェックボックス

作成するCD/DVDの出力先を指定する場合、チェックします。

「書き込みに使用するドライブ」ドロップダウンリストボックス

CD/DVDの書き込みに使用するドライブを選択します。

「作成枚数」入力ボックス

作成するCD/DVDの枚数を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(↑↓)を操作して値を変更します。



この名前は、「Media Creation Program」画面の「設定」ドロップダウンリストボックスに表示されます。わかりやすい名前を付けることをお勧めします。



リストから設定名を選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択した設定が削除されます。

「メディアの種類」ラジオボタン

書き込むディスクの設定をします。

CD-Rに書き込む場合は「CD-R」ラジオボタン、DVD-Rに書き込む場合は「DVD-R」ラジオボタン、書き込む画像データの容量によってCD-RとDVD-Rを自動で選択する場合は「CD-R/DVD-R自動選択」ラジオボタンを選択します。

「書き込むビューワのタイプ」ドロップダウンリストボックス

ディスクに書き込むビューワの設定をします。ビューワは以下から選択できます。

- AOC通常 : AOC View とほぼ同機能のタイル型ビューワ
- AOC簡易 : AOC View からよく使われる機能を厳選した簡易版タイル型ビューワ
- AOC Stackato : AOC Stackato とほぼ同機能のスタックビューワ

ここに表示されるビューワの名前は、下の「表示名変更」ボタンで変更できます。

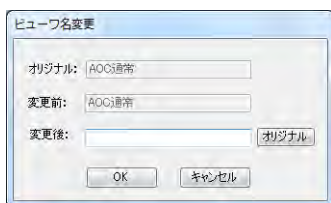
「表示名変更」ボタン

「書き込むビューワのタイプ」ドロップダウンリストボックスに表示される、ビューワの名前を変更します。

この名前は、設定内容自体には影響しませんので、わかりやすい名前を付けてください。

ビューワの表示名の変更

- 1 「表示名変更」ボタンをクリックします。
「ビューワ名変更」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「変更後:」入力ボックスに、変更後のビューワの名前を入力します。
「オリジナル:」欄には、出荷時のビューワの名前が、「変更前:」欄には変更前のビューワの名前が表示されています。
「オリジナル」ボタンをクリックすると、「変更後:」入力ボックスに「オリジナル:」欄で表示されている名前が入力されます。
- 3 「OK」ボタンをクリックします。
変更が反映されます。

「画像データ・ビューワ以外のファイルを書き込む」チェックボックス

画像データ以外のデータを一緒に書き込む場合はチェックします。

画像データ以外の一緒に書き込みたいデータはインストール時にデスクトップに作成される「追加フォルダ」のなかに置いてください。

「Web コンテンツを入れる」チェックボックス

ディスクに、Web コンテンツを入れる場合はチェックします。

チェックすると、作成したCD/DVDをセットした時、「Webブラウザで見る」ボタンが表示されるようになります。



ディスクごとに、一緒に書き込むデータが違う場合は、そのつど、フォルダのなかのデータを入れ替えてください。
また、書き込むデータは100MB以内を目安にしてください。



「ラベルレイアウト」ドロップダウンリストボックスは、「Media Creation Program」画面で書き込みに使用するドライブを「Rimage」に選んだ場合のみ設定が有効になります。



「ラベルレイアウト」に関しては、135ページの「9.2.3 ラベル印刷の設定をする」を参照してください。



患者IDと生年月日と同じ場合、同じ患者と認識されます。

「書き込み後にラベルをプリントする」チェックボックス

CD/DVD 書き込み後にラベルをプリントする場合はチェックします。

「ラベルレイアウト」ドロップダウンリストボックス

プリントするラベルのレイアウトを選択します。

「ビューワを自動起動する」チェックボックス

CD/DVD をセットしたときにビューワを自動起動させる場合はチェックします。

「患者ごとにディスクを作成する」チェックボックス

患者ごとにディスクを作成する場合はチェックします。

「レポートを同梱する」チェックボックス

ディスクに、検査に対応するレポートを同梱する場合はチェックします。

同梱するレポートデータは、PDF形式で、141ページの「9.2.7 レポート連携の設定をする」で設定したフォルダ内に置いてください。

ディスクに書き込む画像データの受付番号(アクセッションナンバー)と同じファイル名のPDFデータを自動判別し、ディスクに同梱します。

レポート連携はオプションです。

「患者情報を匿名化する」チェックボックス

患者情報を匿名化する場合はチェックします。

匿名化される項目は「患者名」「患者ID」「生年月日」です。

このチェックボックスがチェックされている場合、「レポートを同梱する」チェックボックスをチェックしても、レポートは同梱されません。

「プライベートエレメントを削除する」

ディスクに書き込む画像データからプライベートエレメント(DICOMの独自拡張タグ)を削除する場合はチェックします。

「パスワードで保護する」チェックボックス

画像その他の個人データを暗号化して書き込む場合はチェックします。

この機能によって作成されたCD/DVDを見るときは、パスワードを入力してデータを復号します。

「パスワードのタイプ」ドロップダウンリストボックス

暗号化する場合のパスワードのタイプを選択します。「自動発生」を選択した場合は、自動でパスワードが作成されます。「患者ID」を選択した場合は、患者IDがパスワードとなります。「手入力」を選択した場合は、手動でパスワードを設定できますので、リストボックスの右の入力ボックスにパスワードを入力してください。

「『パスワードのご案内』をプリントする」チェックボックス

暗号化する設定にしているとき、CD/DVD 作成と同時に、『パスワードのご案内』をプリントする場合は、チェックします。



ディスクを暗号化して作成すると、他院でインポートできないなどの問題が起こることがあります。このため、作成したディスクを他院に提供する場合は、この機能は使わないことをお勧めします。

「書き込み対象」ラジオボタン

CD/DVDに書き込む画像の対象を選択します。すべての画像を書き込む場合は、「全画像」ラジオボタン、キー画像のみを書き込む場合は「キー画像」ラジオボタンを選択します。

「書き込み順」ドロップダウンリストボックス

CD/DVDに画像を書き込むときの、画像の書き込み順を選択します。書き込み順の対象となる項目は、患者IDの昇順、降順、検査日時の古い順、新しい順、モダリティコードの昇順、降順、受付番号の昇順、降順、シリーズ番号の昇順、降順、検査記述の昇順、降順の12種類です。

リストボックスの左から順に優先されます。

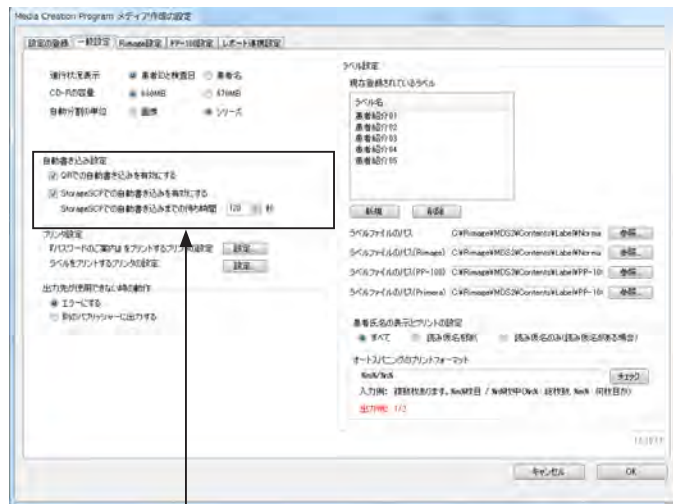
7 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。

「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.2 自動書き込みの設定をする

検索(Q/R)した画像データや、Storage SCPで受信した画像データをCD/DVDに自動的に書き込む場合の設定をしておくことができます。

- 1 ツールバーの「CD 作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「一般設定」タブを選択します。



「自動書き込み設定」エリア

- 4 「自動書き込み設定」エリアで、自動書き込みの設定をします。

「QRでの自動書き込みを有効にする」チェックボックス

チェックすると、検索(Q/R)したときの自動書き込みが有効になり、「DICOMサーバーからの検索・読み込み」画面で、「作成開始」ボタンを押すと自動的にCD/DVDに書き込まれます。

「Storage SCPでの自動書き込みを有効にする」チェックボックス

チェックすると、Storage SCPで画像データを受信したときの自動書き込みが有効になります。

「Storage SCPでの自動書き込みまでの待ち時間」入力ボックス

Storage SCPで画像データを受信して、自動書き込みが開始されるまでの待ち時間を秒単位で設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(↑↓)を操作して値を変更します。

最後に画像データを受信したときから、ここで設定した時間までの間に同一患者の次の画像を受信しないと、自動的に書き込みが開始されます。

- 5 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。



設定できる待ち時間の最大値は600秒です。



患者IDが同じ場合、同一患者と認識されます。

9.2.3 ラベル印刷の設定をする

作成したCD/DVDにプリントするラベルを設定しておくことができます。

ラベルの設定は、使用するラベルファイルを指定することで行います。

ラベルファイルは専用のツールで作成されたものが使用できます(詳しくはお買い上げの販売店またはアレイ株式会社にお問い合わせください)。

- 1 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「一般設定」タブを選択します。



「ラベル設定」エリア

- 4 「ラベル設定」エリアで、「ラベル名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定の追加」ダイアログボックスが開きます。

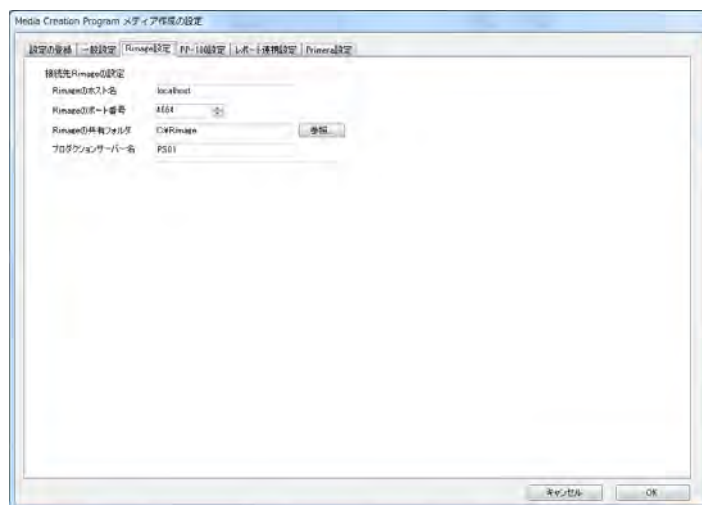


- 5 入力ボックスに、ラベル名を入力し、「追加」ボタンをクリックします。
「設定の追加」ダイアログボックスが閉じ、「ラベル名」リストに追加されます。
- 6 「ラベル名」リストで追加したラベル名が選択されていることを確認し、ご使用のオプション (Rimage など) に応じて「参照」ボタンをクリックします。オプションをご利用でない場合は、「ラベルファイルのパス」入力ボックスの隣にある「参照」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。
- 7 「フォルダの参照」ダイアログボックスから、プリントするラベルファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じ、選択したラベルファイルのパスが表示されます。
- 8 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.4 Rimageの設定をする

Rimageオプションをご利用の場合に、接続されているRimageのホスト名、ポート番号、共有フォルダ(画像、ビューワ以外のデータを書き込むときに使用するフォルダ)、プロダクションサーバー名(AOCからRimageを制御するために必要なソフトウェア)を設定します。

- 1 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」ダイアログボックスが開きます。
- 3 「Rimage設定」タブを選択します。

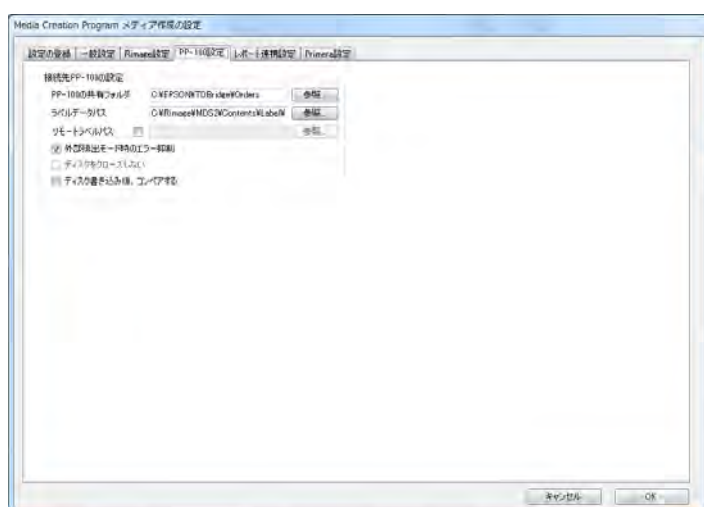


- 4 接続しているRimageの設定をします。
 - 「Rimageのホスト名」入力ボックス
Rimageのホスト名を入力します。
 - 「Rimageのポート番号」入力ボックス
Rimageのポート番号を入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(↑↓)を操作して値を変更します。
 - 「Rimageの共有フォルダ」入力ボックス
「参照」ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログボックスから、Rimageの共有フォルダを選択します。
 - 「プロダクションサーバー名」入力ボックス
プロダクションサーバー名を入力します。
- 5 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.5 エプソン Disc producer の設定をする

エプソンディスク作成オプションをご利用の場合に、接続されているエプソン Disc producer の共有フォルダ(画像、ビューワ以外のデータを書き込むときに使用するフォルダ)、ラベルデータパス(ラベル印刷用のデータが保存されている場所)、リモートラベルパス(ラベルデータパスがネットワーク上にある場合のパス情報)などを設定します。

- 1 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」ダイアログボックスが開きます。
- 3 「PP-100設定」タブを選択します。



- 4 接続しているエプソン Disc producer の設定をします。

「PP100の共有フォルダ」入力ボックス

通常、この内容を変更する必要はありません。

「参照」ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログボックスから、エプソン Disc producer の共有フォルダを選択します。

「ラベルデータパス」入力ボックス

通常、この内容を変更する必要はありません。

「参照」ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログボックスから、データを一時的に置いておくフォルダを選択します。

ネットワーク経由でCD/DVDを作成するときはPP-100が接続されているコンピュータ上のパスを入力してください。なお、このフォルダはネットワーク共有フォルダである必要があります。

たとえば、PP-100が接続されているコンピュータのラベルデータが「C:\Rimage\MDS2\Contents\Label\PP-100」に保存されている場合、「ラベルデータパス」にはこれと同じ文字列を入力します。



ネットワーク経由でCD/DVDを作成するときは

あらかじめ、PP-100が接続されているコンピュータには、TD Bridge、およびTotal Disc makerがインストールされ、書き込み可能なネットワーク共有フォルダが作成されている必要があります。
詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。



外部排出モードについて詳しくは、エプソン Disc producerのユーザーズガイドを参照してください。

「リモートラベルパス」入力ボックス

ネットワーク経由でCD/DVDを作成する場合にのみ使用します。

チェックボックスをチェックして「参照」ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログボックスからラベル印刷用データが保存されているネットワーク上のフォルダを選択します。

選択するフォルダは、PP-100が接続されたコンピュータ内にネットワーク共有フォルダとして作成されている必要があります。

「外部排出モード時のエラー抑制」チェックボックス

エプソン Disc producerを外部排出モードで使用するときにはチェックします。

外部排出モードとは、エプソン Disc producerのスタッカ1とスタッカ2を使って2種類のディスクを使い分けるモードです。外部排出モードでは、スタッカ3を取り外した状態でエプソン Disc producerを使用します。通常は、スタッカ3が取り外されるとエラーメッセージが表示されますが、このチェックボックスをチェックすることによりエラーメッセージが表示されないようにします。

「ディスクをクローズしない」チェックボックス

チェックすると、ディスク書き込み後に、ディスクのクローズ(ファイナライズ)処理を行わないようにします。

作成したディスクに他のデータを追加して書き込みたい場合などにチェックします。

「ディスク書き込み後、コンペアする」チェックボックス

チェックすると、ディスク書き込み後、元のデータと書き込んだデータを比較し検証を行います。

- 5 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.6 その他の設定をする

『パスワードのご案内』をプリントするプリンタなどの設定をします。

- 1 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「一般設定」タブを選択します。



- 4 進行状況に表示したい項目を、「患者IDと検査日」または「患者名」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
- 5 ディスクの書き込みに使用するCD-Rの容量を「630MB」または「670MB」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
ここで指定した値を元に、「Media Creation Program」画面で表示される「書き込み可能容量」が計算されます。
- 6 作成したディスクが複数枚になる場合に、自動的に分割する単位を、「画像」または「シリーズ」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
- 7 「プリンタ設定」グループで、『パスワードのご案内』および、ラベルをプリントするプリンタの設定をします。
『パスワードのご案内』をプリントするプリンタの設定の「設定」ボタンをクリックします。
「プリンタの設定」ダイアログボックスが開きます。
- 8 「プリンタ名」リストボックスでプリントに使用したいプリンタを選択します。
- 9 「OK」ボタンをクリックします。
「プリンタの設定」ダイアログボックスが閉じます。

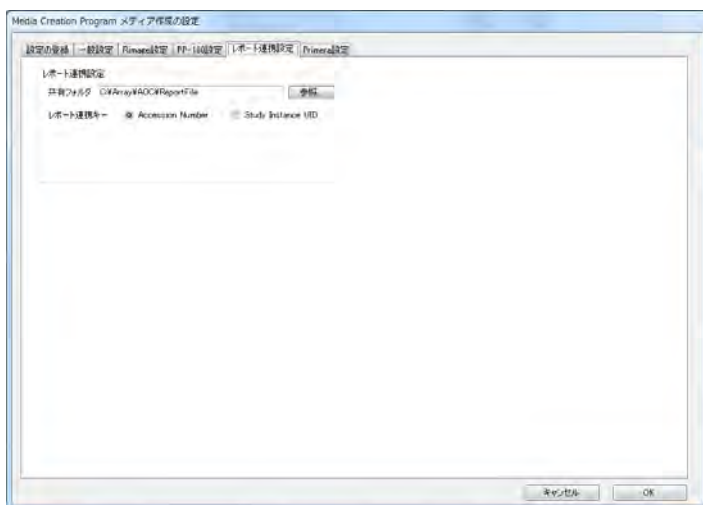
- 10 「ラベルをプリントするプリンタの設定」の「設定」ボタンをクリックします。
「CD/DVD ラベルのプリンタ設定」ダイアログボックスが開きます。
- 11 「プリンタ設定」ボタン、「マージン設定」ボタンをクリックして、ラベル印刷に使用したいプリンタ、ラベル印刷のマージンを指定します。

『パスワードのご案内』および、ラベルをプリントするプリンタの設定がすべて終わったら次の手順に進みます。
- 12 出力先に指定したパブリッシャーが使用できない場合の動作を「出力先が使用できない時の動作」グループで指定します。
 - 「エラーにする」ラジオボタン
使用できない場合に、エラーメッセージを表示させます。
 - 「別のパブリッシャーに出力する」ラジオボタン
使用できない場合に、別のパブリッシャーで出力するようにします。
- 13 「患者氏名の表示とプリントの設定」グループで、ラベルにプリントする患者氏名の内容を設定します。
 - 「すべて」ラジオボタン
患者氏名のすべてをプリントします。
 - 「読み仮名を除く」ラジオボタン
読み仮名を除いた患者氏名をプリントします。
 - 「読み仮名のみ(読み仮名がある場合)」チェックボックス
読み仮名がある場合に、読み仮名のみをプリントします。
- 14 「オートスペニングのプリントフォーマット」エリアの入力ボックスに、作成したディスクが複数枚になる場合にラベルにプリントする文章を入力します。
入力後、「チェック」ボタンをクリックすると、入力した内容が「出力例」に表示されます。
入力ボックスには以下の形式が使用できます。
 - 「%n%」 作成したディスクの総枚数
 - 「%m%」 総枚数に対して何枚目か
- 15 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.7 レポート連携の設定をする

ディスクに同梱するレポートを保存しているパスと、レポートのファイル名と画像データを連携させるためのキーを設定します。

- 1 ツールバーの「CD作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「レポート連携設定」タブを選択します。



- 4 ディスクに同梱するレポートを保存しているフォルダのパスを設定します。
「共有フォルダ」入力ボックス
「参照」ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログボックスから、ディスクに同梱するレポートが保存されているフォルダを選択します。
- 5 「レポート連携キー」ラジオボタンで、手順4で設定したフォルダ内に保存されているPDFデータのファイル名と、ディスクに書き込まれる画像を連携させるためのキーを設定します。

「Accession Number」ラジオボタン

画像データの受付番号と同じファイル名のPDFが同梱されます。

「Study Instance ID」ラジオボタン

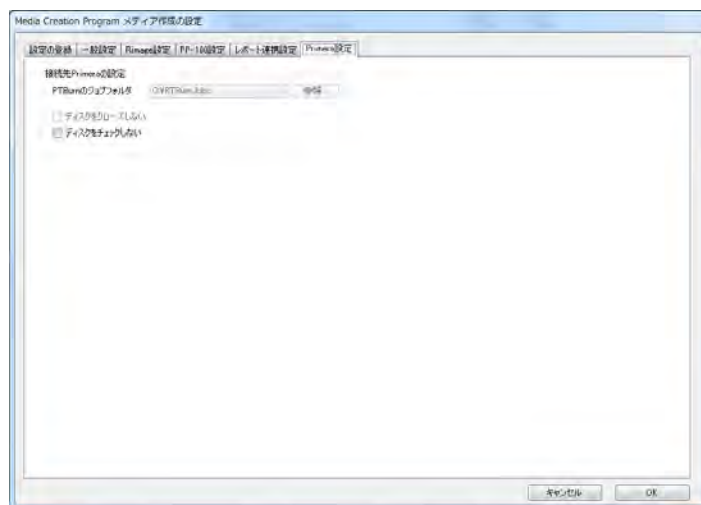
画像データの Study Instance IDと同じファイル名のPDFデータが同梱されます。

- 6 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.2.8 Primeraの設定をする

Primeraオプションをご利用の場合に、接続されているPrimeraでのディスク作成の設定をします。

- 1 ツールバーの「CD 作成」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program」画面が開きます。
- 2 「設定」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が開きます。
- 3 「Primera 設定」タブを選択します。



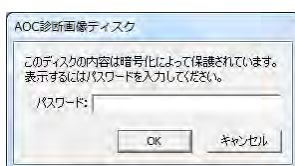
- 4 接続しているPrimeraの設定をします。
 - 「PTBurnのジョブフォルダ」欄
Primeraで使用する作業用フォルダの場所が表示されます。
この項目は変更できません。
 - 「ディスクをクローズしない」チェックボックス
チェックすると、ディスク書き込み後に、ディスクのクローズ(ファイナライズ)処理を行わないようにします。
作成したディスクに追加して他のデータを書き込みたい場合などにチェックします。
 - 「ディスクをチェックしない」チェックボックス
チェックすると、ディスク作成時にディスクの検証を行いません。通常はチェックを外しておいてください。
- 5 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「Media Creation Program メディア作成の設定」画面が閉じます。

9.3 CD/DVDに書き込まれた画像を見る

ビューワがインストールされていないコンピュータで、CD/DVD内のビューワを使用して画像を見ることができます。

9.3.1 専用ビューワで見る

- 1 CD/DVD 作成機能を使って作成したCD/DVDを、コンピュータのドライブにセットします。
暗号化されたCD/DVDをセットした場合は、パスワードを入力するダイアログボックスが開きますので、手順2に進んでください。
暗号化されていないCD/DVDをセットした場合は、自動的に「AOC 診断画像ディスク」ウィンドウが開きますので、手順3に進んでください。



- 2 「パスワード」入力ボックスにパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。この操作をやめるときは「キャンセル」ボタンをクリックします。
データが復号され、「AOC 診断画像ディスク」ウィンドウが開きます。



- 3 「専用ビューワで見る」ボタンをクリックします。
「AOC_mini」ウィンドウが開きます。



以下の画面は標準的な例です。
ご利用のディスクによっては、実際に表示されるボタンの種類などが異なる場合があります。



ビューワが自動的に起動しない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブのアイコンを開き、「VIEWER フォルダ内にある、「AFC.exe」というファイル」をダブルクリックしてください。



パスワードを入力して復号したデータは、ビューワから保存できますが、保存されたデータはパスワードで保護されません。
取り扱いには慎重に行ってください。



ディスク作成時の設定によっては、「表示」ボタンのみ表示されます。

- 4 リストから表示したい画像セットを選択します。

画像セットの詳細が下に表示されます。

- 5 「表示」もしくは「簡易表示」ボタンをクリックします。

「表示」ボタン

ディスク作成時に指定されたビューワが開きます。

「簡易表示」ボタン

AOC Viewの簡易版が開きます。

簡易版は、通常版と比べ、画像を見るのに必要な機能のみが実装され、手軽に画像を見ることができます。

ビューワが起動し、画像が表示されます。

9.3.2 Webブラウザで見る

Webブラウザを使って、患者データの概略を手早く参照できます。

ディスク作成時に、「Webコンテンツを入れる」チェックボックスがチェックされていた場合、「Webブラウザで見る」ボタンが表示されます。

- 1 CD/DVD 作成機能を使って作成したCD/DVDを、コンピュータのCD/DVDドライブにセットします。
「AOC 診断画像ディスク」ウィンドウが開きます。



- 2 「Webブラウザで見る」ボタンをクリックします。
Webブラウザが起動し、「診断画像ディスク」が開きます。



- 3 「Webブラウザで見る」をクリックします。
「検査情報」が表示されます。
- 4 患者情報一覧から、表示したい画像セットを選択します。
シリーズを選択した場合、選択したシリーズの画像が別ウィンドウまたは別タブで開きます。



レポートが含まれないCD/DVDは、「レポートを見る」ボタンは表示されません。



レポートを見るには、Adobe Readerが必要です。レポートを見るコンピュータにAdobe Readerがインストールされているかどうかあらかじめ確認しておいてください。インストールについては、アドビシステムズ社のWebサイト (<http://www.adobe.com/jp/>) をご覧ください。



手順1で、暗号化されたレポート付き診断画像ディスクをセットした場合は、パスワードを入力するダイアログボックスが開きますので、パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



手順1で、画面が自動的に開かない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブのアイコンを開き、「VIEWER」フォルダ内にある「AFC.exe」をダブルクリックしてください。



手順2で起動するブラウザは、お使いのコンピュータで標準のブラウザとして設定されているブラウザです。詳しくは、お使いのコンピュータの取扱説明書またはヘルプを参照してください。



暗号化されたレポート付き診断画像ディスクをセットした場合、手順2で「レポートを見る」ボタンをクリックすると、パスワード保護された圧縮ファイル(ZIP形式)が含まれたフォルダが開きます。レポートを見るには、圧縮時に設定したパスワードで解凍し、Adobe Readerで開きます。

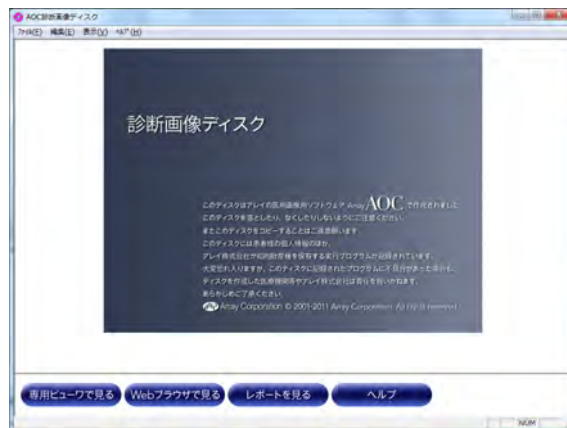
9.3.3 レポートを見る

レポート付き診断画像ディスクは、AOCで作成された従来の診断画像ディスクと同様に、ビューワがインストールされていないコンピュータでも自由に閲覧できます。

レポートを見るには、診断画像ディスクをコンピュータのドライブにセットして「レポートを見る」ボタンをクリックします。

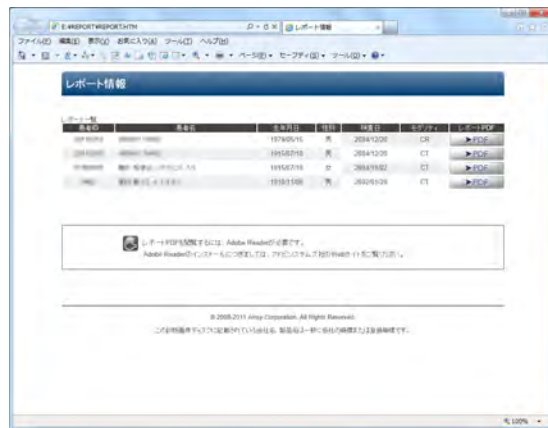
- 1 CD/DVD 作成機能を使って作成したCD/DVDを、コンピュータのCD/DVDドライブにセットします。

「AOC 診断画像ディスク」ウィンドウが開きます。



- 2 「レポートを見る」ボタンをクリックします。

Webブラウザが起動し、レポートの一覧が表示されます。



- 3 見たいレポートの「PDF」ボタンをクリックして選択します。

Adobe Reader が起動し、レポートが表示されます。

- 4 レポートを見終わるときは、Adobe Reader の「ファイル」メニューの「終了」を選択します。


Adobe Reader の画面が閉じます。

つづいてほかのレポートを見る場合は手順3からの操作を繰り返してください。

- 5 診断画像ディスクの閲覧を終了する場合は、「AOC 診断画像ディスク」ウィンドウの「ファイル」メニューから「アプリケーションの終了」をクリックします。

9.3.4 終了する

ビューワを閉じる

ビューワ右上の閉じるボタン()をクリックします。

「AOC_mini」ウィンドウを閉じる

「AOC_mini」ウィンドウ右上の閉じるボタン()をクリックするか、「ファイル」メニューから「アプリケーションの終了」を選択します。



CD/DVDを取り出す場合は、ビューワとAOC_miniを閉じてから行ってください。

第10章

画像のプリント

10.1 画像のDICOMプリント

画像をDICOMイメージャからプリントできます。

10.1.1 リストウィンドウからプリントする

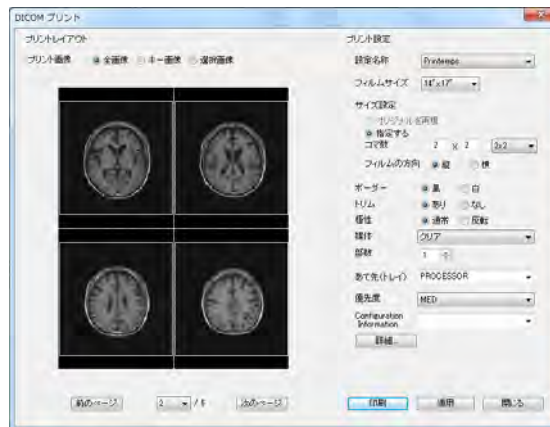
リストウィンドウで選択した画像セットの画像をDICOMイメージャでプリントできます。



複数の画像セットが選択されている場合、プリントされるのはカレント画像(赤の下線のついた画像セット)のみです。

- 1 プリントしたい画像セットをリストエリアから選択します。
- 2 画像セットを選択した状態で以下のいずれかの操作を行います。
 - ・ ツールバーの「DICOMプリント」ボタンをクリックする。
 - ・ リストウィンドウの「ファイル」メニューから「DICOMでプリント」を選択する。
 - ・ 右クリックして表示されるメニューから「DICOMでプリント」を選択する。

「DICOMプリント」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「プリントレイアウト」グループの「プリント画像」でプリントする画像を指定します。

「全画像」ラジオボタン

画像セットのすべての画像をプリントします。

「キー画像」ラジオボタン

選択した画像セットのなかのキー画像に設定した画像のみをプリントします。

「選択画像」ラジオボタン

リストウィンドウのプレビューエリアで選択されている画像のみをプリントします。プリントの対象は、選択されたカレント画像(🟡)と選択画像(🟢)です。ShiftキーやCtrlキーを押しながら画像をクリックしていくことにより、複数の画像を連続、またはとびとびに選択できます。

- 4 「プリント設定」グループで、以下の項目を設定します。

「設定名称」リストボックス

画像をプリントするDICOMイメージャを選択します。

「フィルムサイズ」リストボックス

フィルムサイズを選択します。



ミニスクリーンでは印刷される各ページのプレビューを確認できます。「前のページ」ボタン、「次のページ」ボタンをクリックしてページを切り替えるか、ページ数リストボックスからページ数を選択することで、他のページのプレビューが確認できます。



詳しくは40ページの「4.5 画像の選択」を参照してください。

「サイズ設定」

「オリジナルを再現」ラジオボタン

レーザーフィルムデジタイザーでスキャンしたデータを出力する場合、このラジオボタンを選択すると、スキャンしたフィルムと同じ大ききで出力されます。デジタイザーでスキャンしたデータをプリントする場合のみ選択できます。

「指定する」ラジオボタン

このラジオボタンを選択すると、「コマ数」と「フィルムの方向」を設定できます。

「コマ数」入力ボックス

1ページに印刷するコマ数を設定できます。(横のコマ数)×(縦のコマ数)の各入力ボックスに数値を入力します。または、右のリストボックスから選択すると、選択したコマ数が自動入力されます。

「フィルムの方向」ラジオボタン

フィルムの方向を設定します。縦長の場合は「縦」ラジオボタン、横長の場合は「横」ラジオボタンを選択します。

「ボーダー」ラジオボタン

ボーダー色(フィルム上のコマとコマの間の色)を設定します。黒の場合は「黒」ラジオボタン、白の場合は「白」ラジオボタンを選択します。

「トリム」ラジオボタン

トリム(画像の縁取り線)の有無を設定します。トリムを付ける場合は「あり」ラジオボタン、トリムを付けない場合は「なし」ラジオボタンを選択します。

「極性」ラジオボタン

プリントする画像の極性を設定します。画像データをそのままプリントする場合は「通常」ラジオボタン、階調を反転してプリントする場合は「反転」ラジオボタンを選択します。

「媒体」ドロップダウンリストボックス

プリントするフィルムの媒体を設定します。紙の場合は「紙」、クリアベースフィルムの場合は「クリア」、ブルーベースフィルムの場合は「ブルー」、マンモ用のクリアベースフィルムの場合は「クリア(マンモ用)」、マンモ用のブルーベースフィルムの場合は「ブルー(マンモ用)」を選択します。

「部数」入力ボックス

プリントするフィルムの枚数を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更します。

「あて先(トレイ)」コンボボックス

DICOMイメージャのフィルムの格納先を指定します。「MAGAZINE」はフィルムレシーブマガジンに、「PROCESSOR」は自動現像機にフィルムを排出します。その他、送信先のDICOMイメージャに固有の設定がある場合は、適切な項目を選択します。

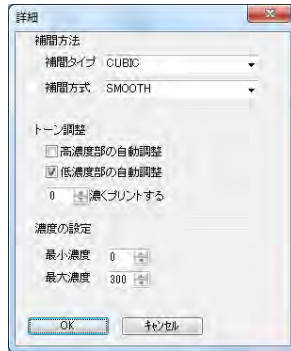
「優先度」リストボックス

DICOMイメージャ側のプリントの優先度を選択します。優先度の高い方から、HIGH→MED (Medium)→LOWの順になっています。

「Configuration Information」コンボボックス

DICOM イメージごとに適切な値を指定します。詳しくはご使用になるDICOM イメージのコンフォーマンス・ステートメントを参照してください。

- 5 詳細なプリント条件を設定する場合は、「詳細」ボタンをクリックします。
「詳細」ダイアログボックスが開きます。

**「補間方法」グループ****「補間タイプ」コンボボックス**

拡大補間の種類を選択します。

- 「CUBIC」 : 3次補間
「REPLICATE」 : 0次補間(補間なし)
「BILINEAR」 : 双1次補間
「NONE」 : 拡大なし

その他、画像をプリントするDICOM イメージに固有の設定がある場合は、適切な項目を選択します。

「補間方式」コンボボックス

「補間タイプ」で選択した項目に合わせて補間方式を設定します。画像をプリントするDICOM イメージに適切な項目を選択します。詳しくはご使用になるDICOM イメージのコンフォーマンス・ステートメントを参照してください。

「トーン調整」グループ

デジタルタイザでスキャンしたフィルムの等倍コピーを出力する場合に設定します。

「高濃度部の自動調整」チェックボックス

チェックすると、スキャンデータの濃度範囲がDICOM イメージでプリント可能な濃度範囲を超えている場合、濃度の高い部分がつぶれないように自動調整します。

「低濃度部の自動調整」チェックボックス

チェックすると、スキャンデータの濃度範囲がDICOM イメージでプリント可能な濃度範囲を超えている場合、濃度の低い部分がとばないように自動調整します。

「濃くプリントする」入力ボックス

画像全体の濃度を調節します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(⇅)を操作して値を変更します。たとえば、「10」と設定すると、画像全体の濃度が0.1濃くなり、「-10」と設定すると、画像全体の濃度が0.1薄くなります。

「濃度の設定」グループ

「最小濃度」入力ボックス

最小濃度を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(↑↓)を操作して値を変更します。たとえば、光学濃度(O.D:Optical Density) を0に設定する場合は「0」、光学濃度1.0に設定する場合は「100」と設定します。

「最大濃度」入力ボックス

最大濃度を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(↑↓)を操作して値を変更します。たとえば、光学濃度(O.D:Optical Density) を3.0に設定する場合は「300」と設定します。

- 6 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックして「詳細」ダイアログボックスを閉じます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定は変更されずに「詳細」ダイアログボックスが閉じます。
- 7 「印刷」ボタンをクリックします。
「AOC DICOM プリント ステータス」画面が開き、通信状態が表示されます。



「適用」ボタンをクリックすると、設定したプリント条件が、選択されているDICOMイメージャに対する初期設定(デフォルト)になり、「DICOM 設定」ダイアログボックスで設定した内容も更新されます(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」参照)。



エラーになったデータは、コンピュータが再起動された後、初めてAOCを起動したときに自動的に削除されます。



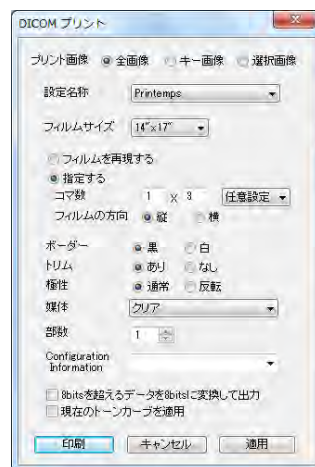
DICOMプリントした画像セットは、リストウィンドウのリストエリアの「DICOMプリント」の項目に「済」と表示されます(38ページの「4.4.10 操作したことにする/未操作に戻す(操作・未操作のステータスを変更する)」参照)。

10.1.2 ビューワからプリントする

ビューワで表示している画像をDICOMイメージャでプリントできます。

- 1 プリントしたい画像セットをビューワで開きます。
- 2 以下のいずれかの操作を行います。
 - ・ビューワのツールバーの「DICOMプリント」をクリックする。
 - ・ビューワの「ファイル」メニューから「DICOMプリント」を選択する。
 - ・ビューエリアで右クリックして表示されるメニューから「DICOMプリント」を選択する。

「DICOMプリント」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「設定名称」リストボックスで画像をプリントするDICOMイメージャを選択します。

- 4 各プリント条件を設定します。

「フィルムサイズ」リストボックス

フィルムサイズを選択します。

「フィルムを再現する」ラジオボタン

デジタイザーでスキャンした画像を出力する場合や、画像データにフィルム出力サイズの指定がある場合、このラジオボタンを選択すると指定された大きさで出力されます。画像データに出力サイズの指定がない場合はグレイアウトされます。

「指定する」ラジオボタン

このラジオボタンを選択すると、「コマ数」と「フィルムの方向」を設定できます。

「コマ数」入力ボックス

1ページに印刷するコマ数を設定できます。(横のコマ数)×(縦のコマ数)の各入力ボックスに数値を入力します。リストボックスから選択すると、選択したコマ数が自動入力されます。

「フィルムの方向」ラジオボタン

フィルムの方向を設定します。縦長の場合は「縦」ラジオボタン、横長の場合は「横」ラジオボタンを選択します。

「ボーダー」ラジオボタン

ボーダー色(フィルム上のコマとコマの間の色)を設定します。黒の場合は「黒」ラジオボタン、白の場合は「白」ラジオボタンを選択します。

「トリム」ラジオボタン

トリム(画像の縁取り線)の有無を設定します。トリムを付ける場合は「あり」ラジオボタン、トリムを付けない場合は「なし」ラジオボタンを選択します。

「極性」ラジオボタン

プリントする画像の極性を設定します。画像データをそのままプリントする場合は「通常」ラジオボタン、階調を反転してプリントする場合は「反転」ラジオボタンを選択します。極性については、次ページの「現在のトーンカーブを適用」チェックボックスの説明も参照してください。

「媒体」ドロップダウンリストボックス

プリントするフィルムの媒体を設定します。紙の場合は「紙」、クリアベースフィルムの場合は「クリア」、ブルーベースフィルムの場合は「ブルー」、マンモ用のクリアベースフィルムの場合は「クリア(マンモ用)」、マンモ用のブルーベースフィルムの場合は「ブルー(マンモ用)」を選択します。

「部数」入力ボックス

プリントするフィルムの部数を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンボタン(↑↓)を操作して値を変更します。

「Configuration Information」コンボボックス

DICOMイメージャごとに適切な値を選択します。詳しくはご使用になるDICOMイメージャのコンフォーマンス・ステートメントを参照してください。

「8bitsを超えるデータを8bitsに変換して出力」チェックボックス

画像をプリントするDICOMイメージャが8bitsを超えるデータに対応していない場合、この設定をオンにします。

「現在のトーンカーブを適用」チェックボックス

ビューワで表示されているトーンの状態での出力する場合は、この設定をオンにします。

5 プリントする対象を設定します。

「全画像」ラジオボタン

ビューワで開いているすべての画像をプリントします。

「キー画像」ラジオボタン

ビューワで開いている画像のうち、キー画像のみをプリントします。

「選択画像」ラジオボタン

選択されている画像のみをプリントします。

6 「印刷」ボタンをクリックします。

「AOC DICOMプリント ステータス」画面が開き、通信状態が表示されます。



インフォメーションパレットの「反転」チェックボックスがチェックされている状態で「現在のトーンカーブを適用」チェックボックスをチェックすると、プリントされる画像の階調も反転されます。このとき、「極性」の設定で「反転」ラジオボタンが選択されていると、プリントされる画像の階調はもう1度反転されるので、結果として階調が反転されていない状態でプリントされます。



キー画像については、40ページの「4.5 画像の選択」を参照してください。



ビューワでの画像の選択については、74ページの「5.8 操作する画像を選ぶ・他の画像も一緒に操作する(連動)」を参照してください。



「適用」ボタンをクリックすると、設定したプリント条件が、選択されているDICOMイメージャに対する初期設定(デフォルト)になり、「DICOM設定」ウィンドウで設定した内容も更新されます(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」参照)。



「AOC DICOMプリント ステータス」画面はAOCを終了しても閉じられませんので、右上の閉じるボタン(⌵)をクリックして閉じてください。



エラーになったデータは、コンピュータが再起動された後、初めてAOCを起動したときに自動的に削除されます。

10.2 画像のWindowsプリント

画像をWindowsプリンタでプリントできます。

10.2.1 リストウィンドウからプリントする

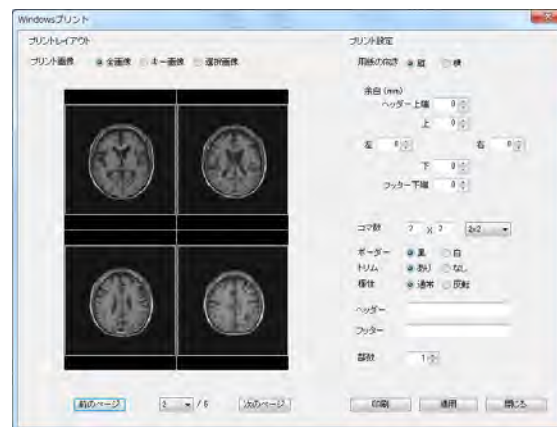
リストウィンドウで選択した画像セットの画像をWindowsプリンタでプリントできます。ご使用になるコンピュータに複数のWindowsプリンタが登録されている場合は「4.3.5 Windowsプリンタの設定」の手順に従い、プリントに使用するWindowsプリンタを選択します。



複数の画像セットが選択されている場合、リストの上位の画像セットの画像から順番にプリントされます。また、画像セットの切れ目で、ページは新規になります。

- 1 プリントしたい画像セットをリストエリアから選択します。
- 2 画像セットを選択した状態で以下のいずれかの操作を行います。
 - ・ リストウィンドウの「ファイル」メニューから「Windowsでプリント」を選択する
 - ・ 右クリックして表示されるメニューから「Windowsでプリント」を選択する

「Windowsプリント」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「プリントレイアウト」グループの「プリント画像」でプリントする画像を設定します。

「全画像」ラジオボタン

画像セットのすべての画像をプリントします。

「キー画像」ラジオボタン

選択した画像セットのなかのキー画像のみをプリントします。

「選択画像」ラジオボタン

リストウィンドウのプレビューエリアで選択されている画像のみをプリントします。プリントの対象は、選択されたカレント画像(🟩)と選択画像(🟦)です。ShiftキーやCtrlキーを押しながら画像をクリックしていくことにより、複数の画像を連続、またはとびとびに選択できます。

- 4 「プリント設定」グループで、以下の項目を設定します。

「用紙の向き」

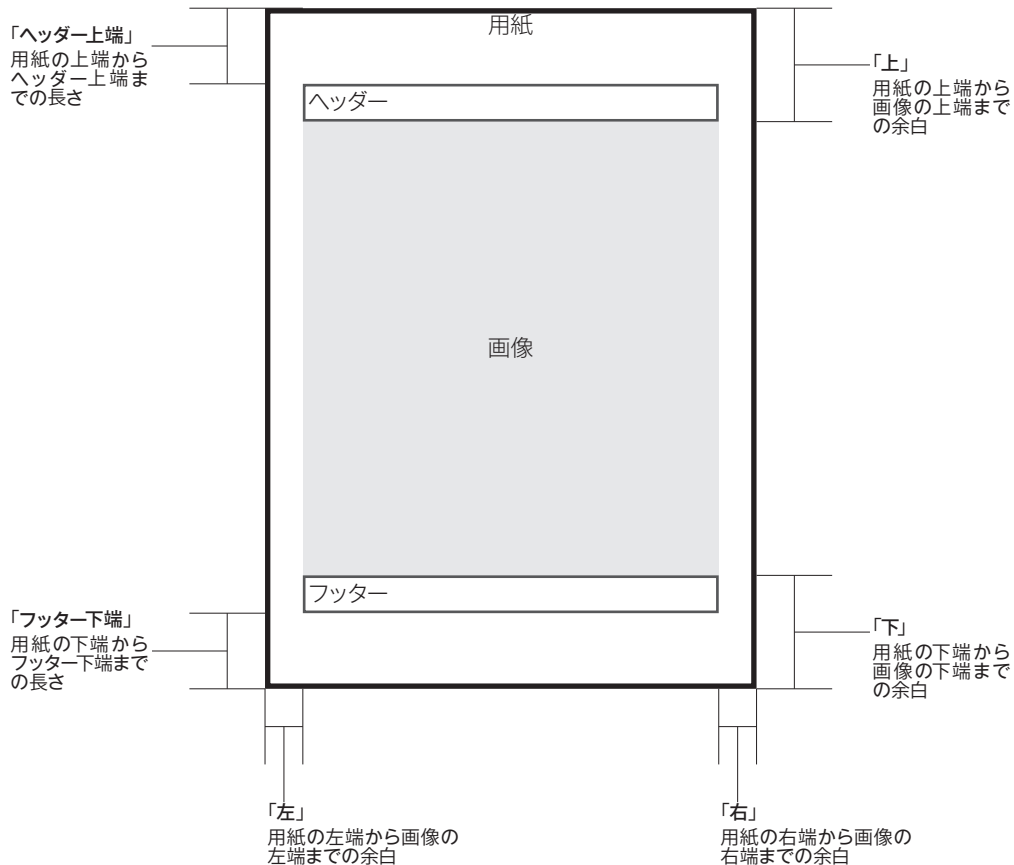
用紙の方向を設定します。縦長の場合は「縦」ラジオボタン、横長の場合は「横」ラジオボタンを選択します。



ミニスクリーンではプリントされる各ページのプレビューを確認できます。「前のページ」ボタン、「次のページ」ボタンをクリックしてページを切り替えるか、ページ数リストボックスからページ数を選択することで、他のページのプレビューが確認できます。



詳しくは40ページの「4.5 画像の選択」参照



「余白(mm)」グループ

上図に従って、余白をmmで設定します。

「ヘッダー上端」入力ボックス

用紙の上端とヘッダー部分の上端の間の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大50mmまで指定できます。

「上」入力ボックス

用紙の上端から画像の上端までの余白の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大100mmまで指定できます。

「左」入力ボックス

用紙の左端から画像の左端までの余白の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大100mmまで指定できます。

「右」入力ボックス

用紙の右端から画像の右端までの余白の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大100mmまで指定できます。

「下」入力ボックス

用紙の下端から画像の下端までの余白の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大100mmまで指定できます。

「フッター下端」入力ボックス

用紙の下端とフッター部分の下端の間の長さを指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。最大50mmまで指定できます。

「コマ数」入力ボックス

1ページに印刷するコマ数を設定できます。(横のコマ数) × (縦のコマ数) の各入力ボックスに数値を入力します。または、右のリストボックスから選択すると、選択したコマ数が自動入力されます。

「ボーダー」ラジオボタン

ボーダー色(フィルム上のコマとコマの間の色)を設定します。黒の場合は「黒」ラジオボタン、白の場合は「白」ラジオボタンを選択します。

「トリム」ラジオボタン

トリム(画像の縁取り線)の有無を設定します。トリムを付ける場合は「あり」ラジオボタン、トリムを付けない場合は「なし」ラジオボタンを選択します。

「極性」ラジオボタン

プリントする画像の極性を設定します。画像データをそのままプリントする場合は「通常」ラジオボタン、階調を反転してプリントする場合は「反転」ラジオボタンを選択します。

「ヘッダー」入力ボックス、「フッター」入力ボックス

各入力ボックスに入力された任意の文字列が、ヘッダー、フッターにプリントされます。また、以下の書式で日付けなどをプリントしたり、文字の位置を設定することができます。

「&D」 : 印刷時の日付けをプリントします。

「&P」 : ページ番号をプリントします。

「&T」 : 印刷時の時刻をプリントします。

「&L」 : 文字を左揃えにしてプリントします。

「&C」 : 文字を中央揃えにしてプリントします。

「&R」 : 文字を右揃えにしてプリントします。

「部数」入力ボックス

プリントする枚数を指定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。

5 「印刷」ボタンをクリックします。

「Windows プリント」ダイアログボックスが閉じ、プリントが開始されます。



「適用」ボタンをクリックすると、設定したプリント条件が、選択されているWindowsプリンタに対する初期設定(デフォルト)になります。



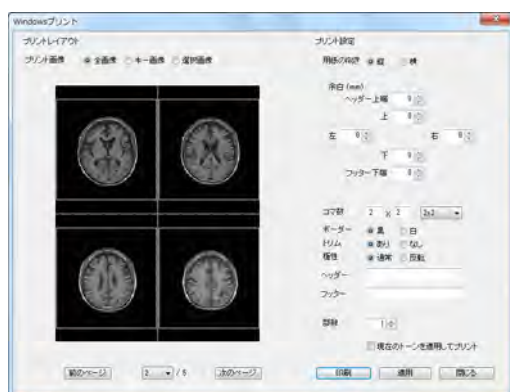
Windows プリントした画像セットは、リストウィンドウのリストエリアの「Windows プリント」の項目に「済」と表示されます(38ページの「4.4.10 操作したことにする / 未操作に戻す(操作・未操作のステータスを変更する)」参照)。

10.2.2 ビューワからプリントする

ビューワで表示している画像セットの画像をWindowsプリンタでプリントできます。

ビューワからWindowsプリントする場合は、プリント操作時の各画像のトーンの状態をそのままプリントできます。

- 1 プリントしたい画像をビューワで開きます。
- 2 ビューワの「ファイル」メニューから「Windowsプリント」を選択するか、ビューエリア上で右クリックして表示されるメニューから「Windowsプリント」を選択します。
「Windowsプリント」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「プリントレイアウト」グループでプリント画像の設定をします。
 - 「全画像」ラジオボタン
ビューワで開いているすべての画像をプリントします。
 - 「キー画像」ラジオボタン
ビューワで開いている画像のうち、キー画像のみをプリントします。
 - 「選択画像」ラジオボタン
ビューエリア内で選択されている画像のみをプリントします。
- 4 「プリント設定」グループの設定をします。
各設定項目の詳細については、156ページの「10.2.1 リストウィンドウからプリントする」の手順4を参照してください。
- 5 ビューワで表示されている各画像のトーンの状態をそのままプリントする場合は、「現在のトーンを適用してプリント」チェックボックスをチェックします。
- 6 「印刷」ボタンをクリックします。
「Windowsプリント」ダイアログボックスが閉じ、プリントが開始されます。



ご使用になるコンピュータに複数のWindowsプリンタが登録されている場合は、248ページの「B.4.5 Windowsプリンタの設定」の手順に従い、リストウィンドウでWindowsプリンタを選択します。



ビューワからWindowsプリントした場合、プリントした画像セットの、リストウィンドウのリストエリアの「Windowsプリント」の項目の表示は変更されません。



キー画像については、40ページの「4.5 画像の選択」を参照してください。



ビューワでの画像の選択については、74ページの「5.8 操作する画像を選ぶ・他の画像も一緒に操作する(連動)」を参照してください。



インフォメーションパレットの「反転」チェックボックスがチェックされている状態で「現在のトーンカーブを適用」チェックボックスをチェックすると、プリントされる画像の階調も反転されます。このとき、「極性」の設定で「反転」ラジオボタンが選択されていると、プリントされる画像の階調はもう1度反転されるので、結果として階調が反転されていない状態でプリントされます。



「適用」ボタンをクリックすると、設定したプリント条件が、選択されているWindowsプリンタに対する初期設定(デフォルト)になります。

第11章

データのバックアップ/復元

11.1 AOC内のバックアップを行う

ハードディスクの破損やコンピュータウイルスにより、保存されていたデータが利用できなくなる事態に備えて、AOCにはデータのバックアップ機能が用意されています。

バックアップを実行すると、AOCに登録されているすべての画像セットを、フォルダ構成などの関連情報と一緒にバックアップファイルとして保存します。

万が一、上記のような問題が起こったら、バックアップしたファイルを復元(リストア)することにより、AOCをバックアップ時の状態に戻し、画像データを復帰できます。

データの消失を防ぐために、定期的にバックアップを行うことをおすすめします。

11.1.1 バックアップの種類と手順

バックアップには2種類の方法があります。

フルバックアップ

AOCに登録されているすべての画像セットのバックアップを行います。

インクリメンタルバックアップ

すでに一度フルバックアップしてある状態で、そのバックアップデータに含まれていない画像データのみ、バックアップを行います。

インクリメンタルバックアップは、前回のバックアップから変化のあったデータだけを対象に行うので、フルバックアップよりもすばやくバックアップできます。

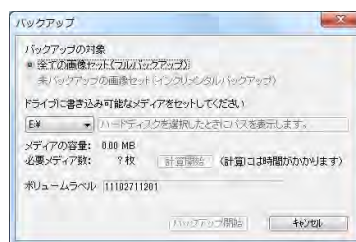
フルバックアップを定期的に行い、その間のバックアップ作業はインクリメンタルバックアップを実行する方法が一般的です。

バックアップするときは、バックアップ専用のハードディスクやリムーバブルメディアを用意し、常にバックアップデータの保存先を決めておくとう便利です。

ハードディスクにバックアップする

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「バックアップ」を選択します。

「バックアップ」ダイアログボックスが開きます。



- 2 リストボックスで保存先のドライブを選択します。「フォルダの参照」ダイアログボックスが開くので、保存する場所を指定してください。

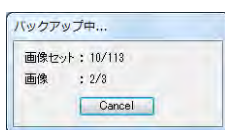


はじめてバックアップするときには、「フルバックアップ」しか選択できない状態で、「未バックアップの画像セット(インクリメンタルバックアップ)」ラジオボタンはグレイアウトしています。

- 3 「計算開始」ボタンをクリックし、指定した保存先にバックアップファイルを保存できるかどうかを、ファイル容量を見て確認します。
「メディアの容量」には、保存場所のフォルダがあるドライブの空き容量が表示されます。
「必要メディア数」に「1」と表示されていると、バックアップファイルをすべて保存できます。
2以上の数が表示されている場合、ドライブの空き容量が不足していますので、バックアップするドライブを変更してください。
変更する場合は、リストボックスで変更先のドライブを選択し、「フォルダの参照」ダイアログボックスから保存する場所を指定し直してください。

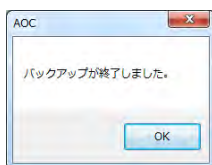
- 4 「すべての画像セット(フルバックアップ)」または「未バックアップの画像セット(インクリメンタルバックアップ)」ラジオボタンを選択します。

- 5 「バックアップ開始」ボタンをクリックします。
バックアップが開始され、進行状況が表示されます。



バックアップが終了すると、バックアップが終了した旨のメッセージボックスが開きます。

- 6 「OK」ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じます。



指定した保存先に「AOC_DATA」という名前のフォルダが作成され、そのなかにバックアップデータが保存されます。

バックアップを作成した画像セットは、リストの「バックアップ」の項目に「済」と表示されます。

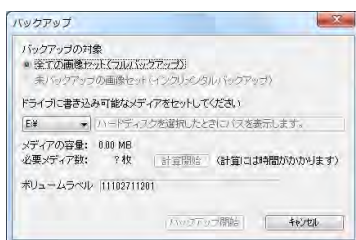
リムーバブルメディアにバックアップする

DVD-RAMなどのリムーバブルメディアにバックアップできます。

複数枚にわたる場合でも、ガイドに従って簡単な操作でバックアップできます。

バックアップ中にメディアが足りなくなった場合は、そこまでの作業内容を保持したまま、中断することもできます。

- 1 リムーバブルメディアをドライブにセットします。
- 2 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「バックアップ」を選択します。



計算には時間がかかることがあります。バックアップの操作は、「計算開始」ボタンをクリックしななくとも行えます。



リムーバブルメディアのボリュームラベルは自動的に付けられません。手動でボリュームラベルを付けたい場合は、バックアップが完了してから変更してください。



はじめてバックアップするときには、「フルバックアップ」しか選択できない状態で、「未バックアップの画像セット(インクリメンタルバックアップ)」ラジオボタンはグレイアウトしています。



計算には時間がかかることがあります。バックアップの操作は、「計算開始」ボタンをクリックしななくとも行えます。

- 3 「すべての画像セット(フルバックアップ)」か、「未バックアップの画像セット(インクリメンタルバックアップ)」どちらかのラジオボタンを選択します。
- 4 リストボックスでリムーバブルメディアのドライブを選択します。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開くので、保存する場所を指定してください。
- 5 「計算開始」ボタンをクリックし、セットしたリムーバブルメディアにバックアップファイルを保存できるかどうかを、ファイル容量を見て確認します。
「メディアの容量」には、指定したリムーバブルメディアの空き容量が表示されます。
「必要メディア数」に、バックアップファイルをすべて保存するのに必要なメディア枚数が表示されます。

あらかじめ、表示された数だけリムーバブルメディアを用意してください。バックアップ中に、次のメディアをセットする必要があります。

- 6 「バックアップ開始」ボタンをクリックします。
バックアップが開始され、進行状況が表示されます。

バックアップに 2 枚以上のメディアが必要な場合

新しいメディアにバックアップを続行するかどうかを確認するダイアログボックスが開きます。

「はい」ボタンをクリックすると、「バックアップ」ダイアログボックスが開きますので、新しいメディアをドライブにセットして「継続」ボタンをクリックします。
「いいえ」ボタンをクリックすると、バックアップが中止されます。



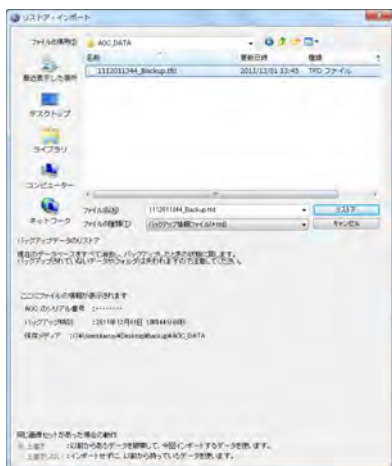
バックアップが終了すると、バックアップが終了した旨のメッセージボックスが表示されます。

- 7 「OK」ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じます。
リムーバブルメディアに「AOC_DATA」という名前のフォルダが作成され、そのなかにバックアップデータが保存されます。
バックアップを作成した画像セットは、リストの「バックアップ」の項目に「済」と表示されます。

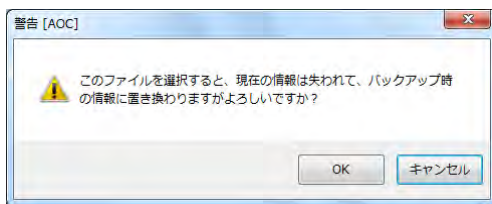
11.2 バックアップをもとにAOC内のデータを復元する(リストア)

バックアップしたデータをもとに、フォルダの分類状態などを含めて、バックアップした時点と同じ状態で復元(リストア)させることができます。

- 1 リストウインドウの「ファイル」メニューから「リストア・インポート」を選択します。
「リストア・インポート」ダイアログボックスが開きます。

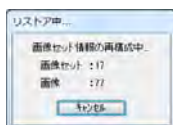


- 2 「ファイルの場所」リストボックスで復元したいバックアップデータが保存されているハードディスクの場所・リムーバブルメディアを選択します。
- 3 「ファイルの種類」リストボックスで「バックアップ情報ファイル(*.tfd)」を選択します。
- 4 エリアからバックアップ情報ファイルを選択します。
下にAOCのシリアル番号・バックアップした日時・リムーバブルメディアのボリュームラベルが表示されます。
- 5 ダイアログボックスが開き、「このファイルを選択すると、現在の情報は失われて、バックアップ時の情報に置き換わりますがよろしいですか?」と表示されます。
「OK」ボタンをクリックして閉じます。



メッセージが閉じ、「リストア・インポート」ダイアログボックスの「リストア」ボタンがアクティブになります。

- 6 「リストア」ボタンをクリックします。
選択したバックアップデータをもとに復元(リストア)が開始され、経過が表示されます。



バックアップをもとに復元(リストア)すると、復元(リストア)の操作をする前のローカルデータベース内の状態は消去され、バックアップ時のデータが完全に復元されます。したがって、バックアップを作成した後に読み込まれた画像セットは消えてしまいます。バックアップを作成した後に読み込まれた画像セットを残したいときは、インクリメンタルバックアップするなど、画像データを一度AOCの外に書き出してから復元(リストア)してください。(162ページの「11.1 AOC内のバックアップを行う」参照)。



プラグの名前はバックアップ時点のものに変わりません。リストアするAOCで最後に設定したものが使用されます。



バックアップデータが保存されている場所は、バックアップで指定したハードディスクのフォルダ・リムーバブルメディアの下の「AOC_DATA」というフォルダです。



ここで「OK」ボタンをクリックしても、後で復元(リストア)をキャンセルできます。

復元(リストア) が終了すると経過が自動的に閉じます。
バックアップで保存された画像セットの情報がAOCに登録され、バックアップ時点の状態に戻ります。

第12章

エクスポートとインポート

12.1 画像セットを関連情報と一緒に保存する(エクスポート)

12.1.1 エクスポートとは

エクスポートは、AOCのローカルデータベース内の画像セットを、フォルダ名やフラグ・説明などの情報とともにファイルとして、ハードディスクやリムーバブルメディアに保存する機能です。

エクスポートでは、DICOMデータだけが書き出されるDICOMファイルの書き出しと違い、画像セットの内容、画像セットに付けたフラグや説明、画像セットのフォルダなど、AOCが使用する関連情報も一緒に保存できます。

エクスポートしたデータは、インポートという機能を使って読み込み・再現できます。

これらの機能を使うことで、AOCの画像セットを保存したり、複数のAOCの間でAOC独自の情報を維持したまま画像セットをコピーしたりできます。

12.1.2 エクスポートの手順

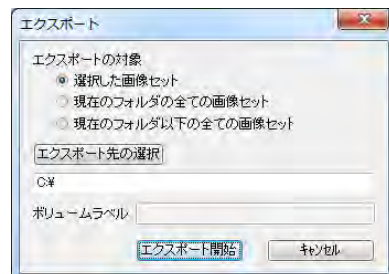
- 1 フォルダ内の画像セットを選択してエクスポートするときは、あらかじめ画像セットを選択しておきます。

複数選択することもできます。

フォルダ内の画像セットをすべてエクスポートするときは、この手順で操作する必要はありません。

- 2 リストウィンドウの「ファイル」メニューから「エクスポート」を選択します。

「エクスポート」ダイアログボックスが開きます。



- 3 エクスポートする画像セットの対象を指定します。

フォルダ内の画像セットを選択してエクスポートする

「選択した画像セット」ラジオボタンを選択します。

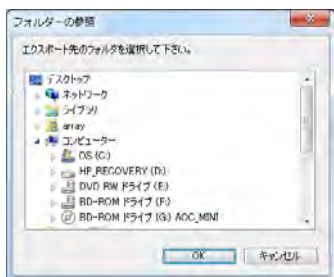
今開いているフォルダの画像セットをすべてエクスポートする

「現在のフォルダの全ての画像セット」ラジオボタンを選択します。

今開いているフォルダにある画像セットを、フォルダの下にある子フォルダも含めてすべてエクスポートする

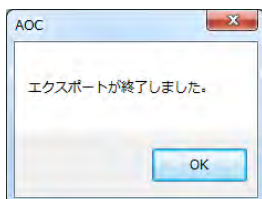
「現在のフォルダ以下の全ての画像セット」ラジオボタンを選択します。

- 4 「エクスポート先の選択」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。



- 5 エクスポートする場所を選択して「OK」ボタンをクリックします。
「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じます。
- 6 リムーバブルメディアに保存するときは、ボリュームラベルを設定します。「ボリュームラベル」テキストボックスに、ボリュームラベルを入力します。
- 7 「エクスポート開始」ボタンをクリックします。
エクスポートが開始されます。

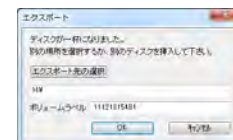
エクスポートが完了すると、「エクスポートが終了しました」というメッセージが表示されます。



- 8 「OK」ボタンをクリックしてメッセージを閉じます。



リムーバブルメディアに保存する際、容量がいっぱいになると保存先を変更するためのダイアログボックスが表示されます。そのときは、新しいメディアをセットし、以下のように操作してください。
「エクスポート先の選択」ボタンをクリックして「フォルダの参照」ダイアログボックスでエクスポート先を変更し、メッセージボックスの「OK」ボタンをクリックしてエクスポートを続行します。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、エクスポートが中止されます。



12.2 画像セットを関連情報と一緒に読み込む(インポート)

12.2.1 インポートとは

インポートは、エクスポートしたデータを読み込む機能です。

エクスポートとインポートを使うことで、AOCの画像セットを保存したり、複数のAOCの間でAOC独自の情報を維持したまま画像セットをコピーしたりできます。

エクスポートした画像セットを1回の操作ですべてインポートしたり、画像セットを個別に選択してインポートできます。

12.2.2 インポートの手順

基本のインポート(画像セットをすべてインポートする)

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから、「リストA・インポート」を選択します。
「リストA・インポート」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「ファイルの場所」リストボックスで、インポートしたいデータが保存されているハードディスクの場所、リムーバブルメディアを選択します。
- 3 「ファイルの種類」リストボックスで、「エクスポート情報ファイル(*.eif)」を選択します。
エクスポートする画像セットの情報が「リストA・インポート」ダイアログボックスの下部に表示されます。



- 4 AOCが同じ画像セットを管理している場合、これからインポートする画像セットで上書きする/しないを設定します。

「上書きする」ラジオボタン

AOCで管理している画像セットが消去され、インポートする画像セットに置き換わります。

「上書きしない」ラジオボタン

その画像セットはインポートされません。

- 5 「インポート」ボタンをクリックします。

「インポート中」ダイアログボックスが開き、インポートの経過が表示されます。

インポートが終わると、「インポート中」ダイアログボックスが閉じ、リストウィンドウのリストエリアに画像セットが追加されます。

リストエリアの「取得元」という項目に、インポートした画像セットの場所の履歴が、新しい順に表示されます。

高度なインポート(画像セットを選択してインポート)

- 1 リストウィンドウの「ファイル」メニューから、「画像セットのインポート」を選択します。

「画像セットのインポート」ダイアログボックスが開きます。

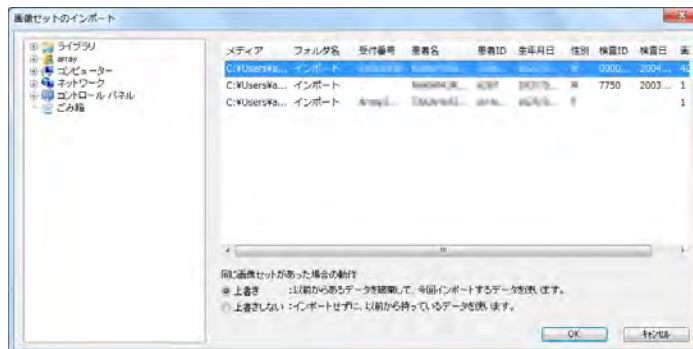


- 2 左のフォルダエリアで、インポートしたいデータが保存されているフォルダを選択します。

右のリストに選択したフォルダに保存されているエクスポートした画像セットの情報が表示されます。



「ファイルの種類」リストボックスで「画像セット情報ファイル (*.ifa)」を選択すると、画像セットを単体でインポートできます。



- 3 インポートしたい画像セットを選択します。
- 4 AOCが同じ画像セットを管理している場合、これからインポートする画像セットで上書きする/しないを設定します。

「上書きする」ラジオボタン

AOCで管理している画像セットが消去され、インポートする画像セットに置き換わります。

「上書きしない」ラジオボタン

その画像セットはインポートされません。

- 5 「インポート」ボタンをクリックします。
「インポート中」ダイアログボックスが開き、インポートの経過が表示されます。

インポートが終わると、「インポート中」ダイアログボックスが閉じ、リストウィンドウのリストエリアに画像セットが追加されます。

リストエリアの「取得元」という項目に、インポートした画像セットの場所の履歴が、新しい順に表示されます。

第13章

ユーザー認証・セキュリティの管理



出荷時の時点では、ユーザー認証は設定されていません。そのままユーザー認証の設定をせずにAOCを使用することもできます。



すでにユーザー認証を使用している場合は、アドミニストレーター（管理者）ユーザーでAOCにログインしてください。



チェックボックスのチェックを外している場合、ユーザーを追加しても、ユーザー認証の機能が有効になりません。

13.1 ユーザー認証・アカウントを管理する

ユーザー認証を設定すると、登録したユーザー以外の使用の制限や、ユーザーごとの操作ログの記録などセキュリティの管理ができます。

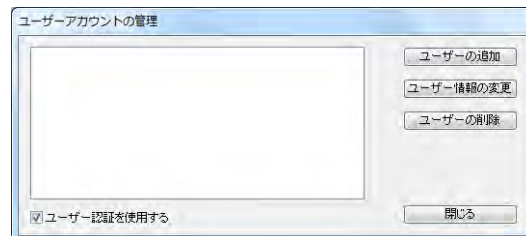
ユーザーには、通常ユーザーとアドミニストレーター（管理者）ユーザーの2種類があります。アドミニストレーター（管理者）ユーザーのみ、ユーザーのアカウントの管理や操作ログの表示など、セキュリティに関する操作ができます。

13.1.1 ユーザーを追加する

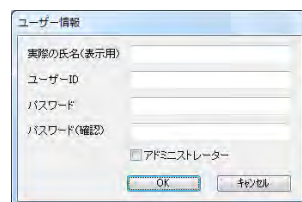
AOCを使用するユーザーを追加できます。

ユーザーを追加できるのは、アドミニストレーター（管理者）ユーザーのみです。

- 1 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「ユーザーアカウントの管理」を選択します。「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「ユーザー認証を使用する」チェックボックスをチェックします。
- 3 「ユーザーの追加」ボタンをクリックします。「ユーザー情報」ダイアログボックスが開きます。



- 4 ユーザーの情報を入力します。

「実際の氏名(表示用)」入力ボックス

操作ログに表示される名前です。

半角英数字、全角文字(ひらがな・カタカナ・漢字など)が使用できます。

操作ログを参照したときにわかりやすい名前を付けることをおすすめします。

「ユーザー ID」入力ボックス

ログイン時に入力する名前です。

半角英数字、全角文字(ひらがな・カタカナ・漢字など)が使用できます。

「パスワード」「パスワード(確認用)」入力ボックス

ユーザーのパスワードを入力します。

半角英数字が使用できます。字数は98字まで設定可能です。

「アドミニストレーター」チェックボックス

追加するユーザーを、アドミニストレーター（管理者）ユーザーにする場合は、チェックボックスをチェックします。

- 5 入力が終わったら、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。

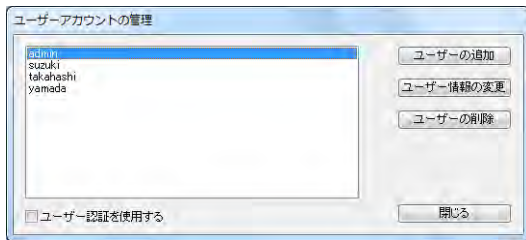
「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスに、ユーザーが追加されます。
他にもユーザーを追加したい場合は、手順3から5を繰り返してユーザーを追加します。

- 6 「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスの「閉じる」ボタンをクリックします。

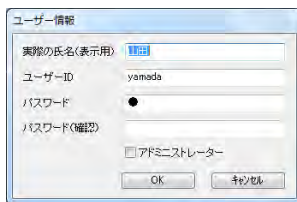
13.1.2 ユーザー情報を変更する(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)

設定したユーザーの情報を変更できます。
アドミニストレーター（管理者）ユーザーのみが行えます。

- 1 アドミニストレーター（管理者）ユーザーでAOCにログインします。
- 2 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「ユーザーアカウントの管理」を選択します。
「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスが開きます。



- 3 リストから情報を変更したいユーザーを選択し、「ユーザー情報の変更」ボタンをクリックします。
「ユーザー情報」ダイアログボックスが開きます。



- 4 ユーザーの情報を変更します。
- 5 変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

他にも情報を変更したいユーザーがいる場合は、手順3から5を繰り返して情報を変更します。

- 6 「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスの「閉じる」ボタンをクリックします。

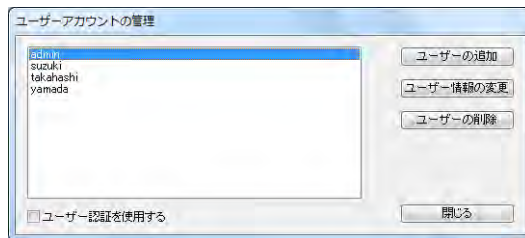


今までユーザー認証を使用していなかった場合、「ユーザー認証は次回の起動時から有効となります」と表示されます。「OK」ボタンをクリックして閉じます。

13.1.3 ユーザーを削除する(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)

登録してあるユーザを削除できます。

- 1 アドミニストレーター (管理者) ユーザーでAOCにログインします。
- 2 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「ユーザーアカウントの管理」を選択します。
「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスが開きます。

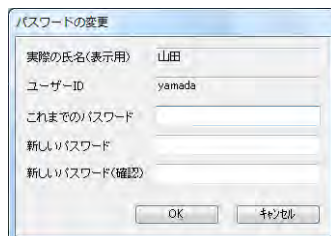


- 3 リストから削除したいユーザーを選択し、「ユーザーの削除」ボタンをクリックします。
選択したユーザーが削除されます。
- 4 「閉じる」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

13.1.4 自分のパスワードを変更する(全ユーザー)

アドミニストレーター(管理者)ユーザーだけでなく、一般ユーザーも自分のパスワードを変更できます。

- 1 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「パスワードの変更」を選択します。
「パスワードの変更」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「これまでのパスワード」入力ボックスに現在のパスワードを入力します。
「新しいパスワード」「新しいパスワード(確認)」入力ボックスに、新しいパスワードを入力します。
- 3 「OK」ボタンをクリックします。
「パスワードの変更」ダイアログボックスが閉じます。
「これまでのパスワード」が間違っていた場合や、「新しいパスワード」が一致しなかった場合は、「OK」ボタンをクリックしても、「パスワードの変更」ダイアログボックスは閉じません。再度、入力し直してください。



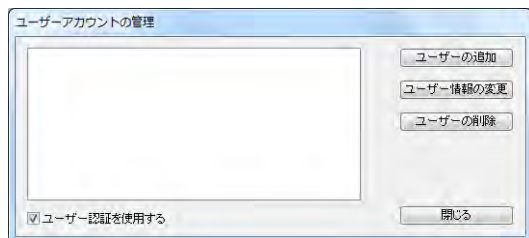
現在ログイン中のユーザーは削除できません。

13.1.5 ユーザー認証を使用する/使用しない(アドミニストレーター [管理者] ユーザー)

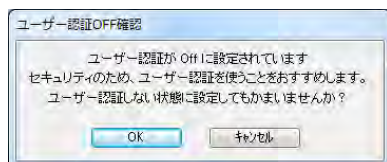
ユーザー認証を使用するかどうかを次の手順で設定できます。

一度ユーザーを登録すると、ユーザー認証をしない設定にしたときも、ユーザーの情報を残したままにできるので、次回ユーザー認証の使用を再開するときは、以前のユーザー情報をそのまま使えます。

- 1 アドミニストレーター (管理者) ユーザーでAOCにログインします。
- 2 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「ユーザーアカウントの管理」を選択します。
「ユーザーアカウントの管理」ダイアログボックスが開きます。



- 3 ユーザー認証を使用する場合は「ユーザー認証を使用する」チェックボックスをチェックします。
使用しない場合はチェックを外します。
- 4 「閉じる」ボタンをクリックします。
- 5 ユーザー認証を「使用しない」設定にすると、「ユーザー認証OFF確認」ダイアログボックスが表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。

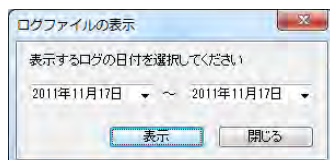


ユーザー認証をOFFにした場合は、次回起動したときから、ユーザーログインのウィンドウが開かずに、AOCが起動します。

13.2 操作ログを表示する

AOCで誰がどのような操作をしたか、操作ログで確認できます。
操作ログはテキストファイル形式で保存できます。

- 1 アドミニストレーター（管理者）ユーザーでAOCにログインします。
- 2 リストウィンドウの「アカウント」メニューから、「ログファイルの表示」を選択します。
「ログファイルの表示」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「日付」コンボボックスで、表示したいログの日付を入力するか、ドロップダウンボタン(▼)をクリックしてカレンダーを開き、日付を選択します。
日付の範囲を指定することで、その範囲の期間のログをまとめて表示することもできます。
- 4 「表示」ボタンをクリックします。
選択した日付のログが開きます。

ログには以下の操作をどのユーザーが実行したかが記録されています。

- ・ごみ箱を空にする / ごみ箱の中身を元の場所に戻す
- ・バックアップ / リストア
- ・画像セットのインポート
- ・画像セットの手動削除
- ・説明文の編集
- ・フラグ1-7のセット
- ・フラグの取り消し
- ・DICOMイメージャでプリント
- ・Windowsプリンタでプリント
- ・画像の読み込み / 書き出し
- ・DICOM属性の編集
- ・DICOMイメージサーバーへ画像を送信
- ・未操作 / 操作済みの設定
- ・ビューワつきCDの作成
- ・画像セットの分割

第14章

DICOMデータの受信 (Storage SCPオプション)

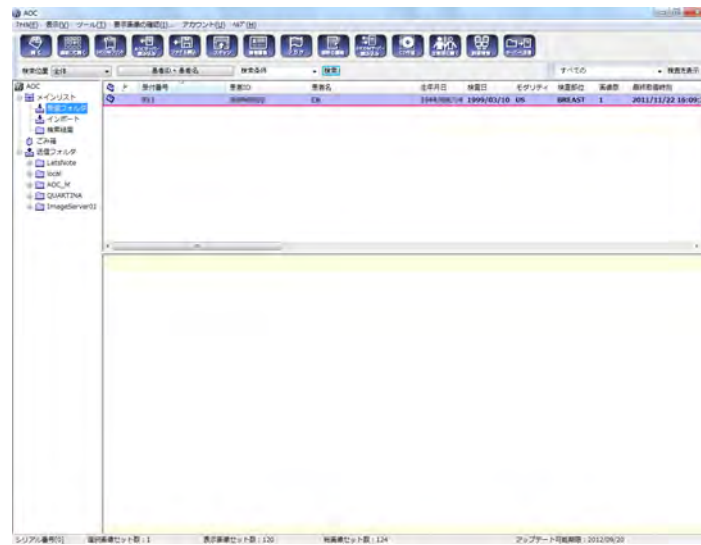


AOCのStorage SCPを使用するには、AOCのAE（アプリケーションエンティティ）タイトル、ポート番号などの設定をします。設定に関しては198ページの「B.1 DICOM通信の設定」を参照してください。

Storage SCP（ストレージ・エス・シー・ピー）とは、DICOM規格のストレージサービスクラスで送信されるデータを受け取る機能を果たすもので、DICOMイメージサーバーが画像を受信するときなどに使用します。

AOCにもオプションでStorage SCPの機能があり、モダリティからストレージサービスクラスで送信(C-Store)された画像データを受信できます。

画像データを受信すると、リストウィンドウのメインリストに画像セットが登録され、受信フォルダに画像セットのリンクが作成されます。



第15章

AOC Server (オプション)

AOC Serverは、同一ネットワーク上で動作する他のAOCのサーバーになるものです。クライアントになるAOCは、同一ネットワーク上で動作するAOC Serverに要求し、AOC Serverに保管されている画像を取得できます。

15.1 AOC Serverが動作するコンピュータの設定

クライアントになるAOCは、AOC Serverが動作するコンピュータの名前を手がかりに、AOC Serverに画像の取得を要求します。AOC Serverが動作するコンピュータでは、AOC ServerがクライアントになるAOCの要求を受けるために、データベースフォルダ(「DB」という名前のフォルダ)を共有します。



AOC ServerからAOCへのデータ転送には、Windowsのファイル共有機能を使用します。このため、設定によってはデータやデータベースのセキュリティに注意が必要です。ネットワーク管理者にお問い合わせのうえ、ファイル共有によるデータ転送が、セキュリティ上問題ないことを確認してから使用してください。

15.1.1 ユーザーの登録

クライアントのAOCがAOC Serverから画像を取得するためには、クライアントのコンピュータでAOCを動作させるときのログオン・ユーザーを、AOC Serverが動作するコンピュータに登録しておく必要があります。

- 1 Administrator権限のあるユーザーで、AOC Serverを動作させるコンピュータにログオンします。
- 2 「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが開きます。



- 3 「システムとセキュリティ」をクリックします。
「システムとセキュリティ」ウィンドウが開きます。

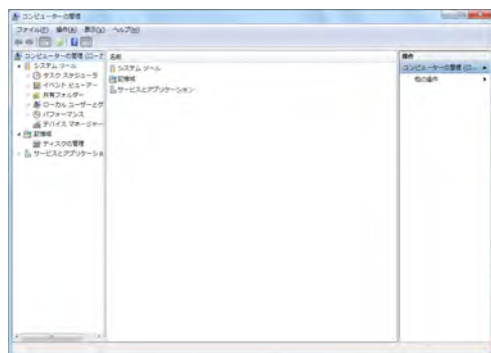


- 4 「管理ツール」をクリックします。
「管理ツール」ウィンドウが開きます。

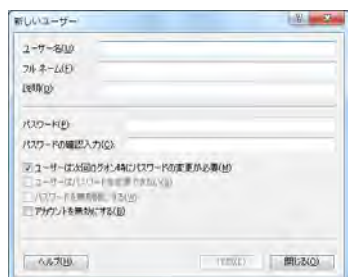



- 5 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックします。
「コンピュータの管理」ウィンドウが開きます。

- 6 左側の「ツリー」タブで「ローカルユーザーとグループ」フォルダの展開/折り畳みボタン(±)をクリックして開き、「ユーザー」フォルダをクリックして選択します。



- 7 「操作」メニューから「新しいユーザー」を選択します。



- 8 クライアントのAOCを動作させるコンピュータのログオン・ユーザーに合わせて、ユーザー名、パスワードなどを設定します。
- 9 設定が完了したら、「作成」ボタンをクリックします。
「新しいユーザー」ダイアログボックスが閉じ、「コンピュータの管理」ウィンドウの右側のリストに新しいユーザーが登録されます。
- 10 続いて他のユーザーを登録する場合は、手順6から手順8の操作を繰り返します。
- 11 すべてのユーザーの登録が完了したら、「コンピュータの管理」ウィンドウの右上の閉じるボタン()をクリックして閉じ、「管理ツール」フォルダ、「コントロールパネル」フォルダを閉じます。

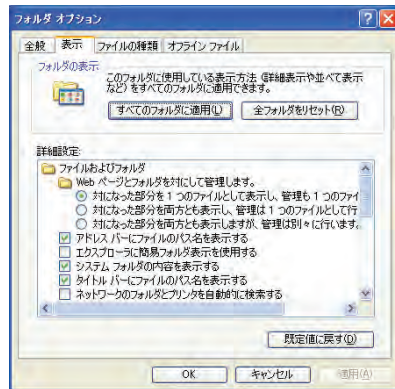


「Guest」アカウントは、とくに必要がない場合は、無効にしておくことをお勧めします。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

15.1.2 データベースフォルダの共有の設定

Windows XP の場合

- 1 Administrator権限のあるユーザーで、AOC Serverを動作させるコンピュータにログオンします。
- 2 「スタート」メニューから「マイコンピュータ」を選択して「マイコンピュータ」ウィンドウを開きます。
- 3 「ツール」メニューから「フォルダオプション」を選択し、「フォルダオプション」ダイアログボックスを開きます。
- 4 「フォルダオプション」ダイアログボックスで「表示」タブを選択します。



- 5 「簡易ファイルの共有を使用する(推奨)」チェックボックスのチェックを外します。
- 6 「OK」ボタンをクリックして「フォルダオプション」ダイアログボックスを閉じます。
- 7 デスクトップにあるAOCのショートカットアイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。

「AOCのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。



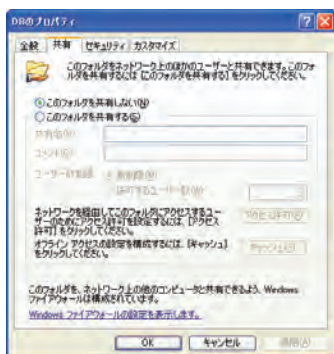
- 8 「AOCのプロパティ」ダイアログボックスの「ショートカット」タブを選択し、「リンク先を探す」ボタンをクリックします。

AOCのインストール先フォルダが開きます。

- 9 インストール先フォルダ内にある「DB」という名前のフォルダを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。

「DBのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。

10 「共有」タブを選択します。



11 「このフォルダを共有する」ラジオボタンを選択します。

12 「共有名」入力ボックスに「AOC_SVR_DB」と入力します。

13 必要に応じて、アクセス権の設定をします。

14 「OK」ボタンをクリックします。

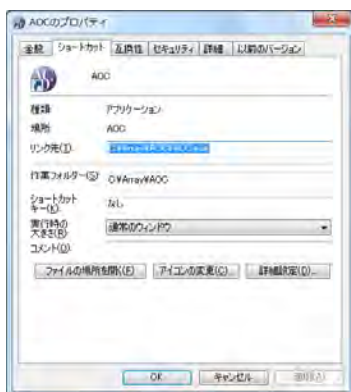
「DBのプロパティ」ダイアログボックスが閉じます。

Windows 7、Vista の場合

1 Administrator 権限のあるユーザーで、AOC Server を動作させるコンピュータにログオンします。

2 デスクトップにある AOC のショートカットアイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。

「AOCのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。



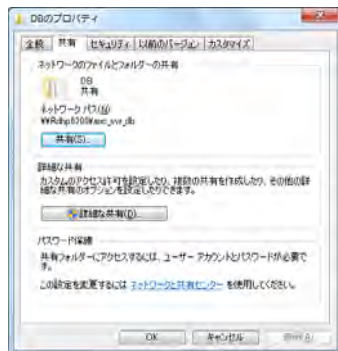
3 「AOCのプロパティ」ダイアログボックスの「ショートカット」タブを選択し、「ファイルの場所を開く」ボタンをクリックします。

AOC のインストール先フォルダが開きます。

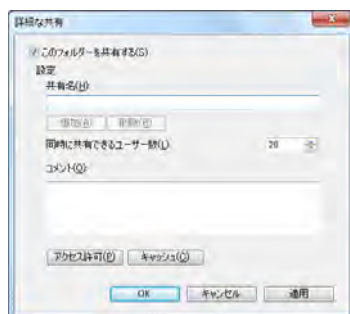
4 インストール先フォルダ内にある「DB」という名前のフォルダを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。

「DBのプロパティ」ダイアログボックスが開きます。

5 「共有」タブを選択します。



- 6 「詳細な共有」ボタンをクリックします。
「詳細な共有」ダイアログボックスが開きます。



- 7 「このフォルダーを共有する」チェックボックスをチェックします。
- 8 「共有名」入力ボックスに「AOC_SVR_DB」と入力します。
- 9 必要に応じて、アクセス権の設定をします。
- 10 「OK」ボタンをクリックします。
「詳細な共有」ダイアログボックスが閉じます。
- 11 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
「DBのプロパティ」ダイアログボックスが閉じます。

15.2 クライアントのAOCの設定

クライアントのAOCで、AOC Serverが動作するコンピュータ名、取得する画像の条件を設定します。

- 1 クライアントのAOCを起動します。
- 2 「ツール」メニューから「AOCサーバーの設定」を選択します。
「AOCサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「登録名」リストボックスの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。
- 4 「設定名称の入力」ダイアログボックスの入力ボックスに、AOC Serverの登録名を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、「登録名」リストに追加されます。
登録名は、画像の取得のためには使用されないため、わかりやすい名前を自由に登録してください。
- 5 「登録名」リストで追加したAOC Serverが選択されていることを確認し、「サーバー設定」グループの「コンピュータ名」入力ボックスに、AOC Serverが動作するコンピュータの名前を入力します。
- 6 「下記の条件に合った画像のみ取得する」チェックボックスをチェックし、取得したい画像の条件を設定します。

「モダリティ」

条件をモダリティで指定します。リストボックスでチェックしたモダリティの画像のみ取得されます。

「患者ID」

条件を患者IDで指定します。入力ボックスに入力した患者IDの画像のみ取得されます。

「検査日」

条件を検査日で指定します。真中のコンボボックスを設定して範囲を指定します。

「のみ」

検査日が、左側のコンボボックスで指定した日付けの画像のみ取得されます。

「以降」

検査日が、左側のコンボボックスで指定した日付け以降の画像のみ取得されます。



このチェックボックスのチェックを外すと、AOC Serverのローカルデータベース内にあるすべての画像を取得します。



複数の条件を指定した場合、すべての条件に合う画像のみが取得されます。

「まで」

検査日が、左側のコンボボックスで指定した日付けまでの画像のみ取得されます。

「から」

検査日が、左側のコンボボックスで指定した日付けから右側のコンボボックスで指定した日付けまでの画像のみ取得されます。

「受付番号」

条件を受付番号で指定します。入力ボックスに入力した患者IDの画像のみ取得されます。

「検査部位」

条件を検査部位で指定します。コンボボックスで選択された検査部位の画像のみ取得されます。

7 「取得時刻」グループの設定をします。

「取得時刻」グループでは、指定された条件に合う画像の、(AOC Serverでの)「最終取得時刻」によって、画像を取得する/しない、あるいは画像の登録のみ取得する設定をします。

「前回取得時刻以降」ラジオボタン

AOC Serverに登録されている画像の「最終取得時刻」が、クライアントのAOCが前回そのAOC Serverに画像取得の要求を出した時刻以降のもののみを取得します。新規に登録されたAOC Serverに初めて画像取得の要求を出すときは、「最終取得時刻」は条件に含まれません。

「すべて」ラジオボタン

指定した条件に合うすべての画像セットを取得します。設定後、1度AOC Serverに画像取得の要求を出すと、「前回取得時刻以降」ラジオボタンが自動的に選択されます。

「相対指定」ラジオボタン

画像取得の操作時点からの相対的な時間で、取得する画像の範囲をコンボボックスで指定します。

例)

「今日」以降

指定した条件に合う画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の午前0時以降の画像セットのみが取得されます。

「3日前」以降

指定した条件に合う画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の3日前以降の画像セットのみが取得されます。たとえば、操作当日が木曜日なら、その週の月曜日の午前0時以降の画像セットが対象となります。

「1週間前」以降

指定した条件に合う画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の1週間前以降の画像のみが取得されます。たとえば、操作当日が木曜日なら、その前の週の木曜日の午前0時以降の画像セットが対象となります。

「絶対取得」ラジオボタン

取得する画像セットの範囲を、年月日と時刻で指定した日時以降に設定します。コンボボックスをクリックするとカレンダーが表示されるので、指定したい年月日を選択します。時刻は、隣の入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更し、秒まで指定します。

「以下の画像はエントリのみ取得する」チェックボックス

取得する画像セットのなかで、画像データは取得せず、画像セットの登録のみ取得するものを、「最終取得時刻」の範囲で指定する場合は、チェックボックスをチェックし、以下の設定で範囲を指定します。

「すべて」ラジオボタン

AOC Serverから取得するすべての画像セットを、画像データなしで登録のみ取得します。

「相対指定」ラジオボタン

画像セット取得の操作時点からの相対的な時間で、登録のみ取得する画像セットの範囲をコンボボックスで指定します。

例)

「昨日」以前

取得する画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の前日の午後11時59分59秒以前の画像は、登録のみが取得されます。

「3日前」以前

取得する画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の3日前の午後11時59分59秒以前の画像は、登録のみが取得されます。たとえば、操作当日が木曜日なら、その週の月曜日の午後11時59分59秒以前の画像セットになります。

「1週間前」以前

取得する画像のなかで、AOC Serverでの「最終取得時刻」が、操作当日の1週間前の午後11時59分59秒以前の画像セットは、登録のみが取得されます。たとえば、操作当日が木曜日なら、その前の週の木曜日の午後11時59分59秒以前の画像になります。

- 8 「新しい画像を定期的に取得する」チェックボックスをチェックし、AOC Serverに要求を出す間隔を分で指定します。
時刻は、入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更し、時間で指定します。
- 9 続けて他のAOC Serverを登録する場合は、手順3から手順8までの操作を繰り返します。
- 10 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックし、「AOCサーバーの設定」ダイアログボックスを閉じます。
指定した条件、指定した時間の間隔で、AOC Serverに要求が出され、条件に合った画像セットがあると、クライアントのAOCのリストエリアに登録されます。



「新しい画像を定期的に取得する」チェックボックスのチェックを外した場合、AOC Serverへの要求は自動的におこなわれませんので、手動で要求します(190ページの「15.3 画像を手動で取得する(クライアント)」参照)。



AOC Serverに登録だけされている画像セット(リストエリアで、その画像を含む画像セットは斜体字で表示されます)を取得した場合や、「以下の画像はエントリのみ取得する」グループの設定で画像の登録のみ取得した場合、画像を開くなどの操作をすると、画像データが自動取得されます。ただし、自動取得するためには、クライアントのAOCが登録のみの画像を取得した後に、AOC Serverのローカルデータベース内に画像データが読み込まれている必要があります(190ページの「15.4 画像データが自動取得で要求された場合」参照)。



複数のAOC Serverが登録している場合、1回の操作で、登録してあるすべてのAOC Serverに要求します。



ネットワーク環境によっては、「コンピュータ名」の列にIPアドレスが表示されます。

15.3 画像を手動で取得する(クライアント)

クライアントのAOCは、画像の定期的取得の設定にかかわらず、AOC Serverへ手動で要求し、画像を取得できます。

手動で画像を取得するには、以下のいずれかの操作をします。

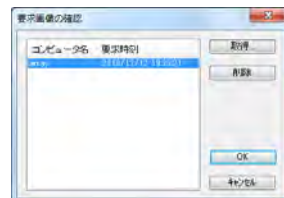
- ・「ファイル」メニューから「AOCサーバーから読みこみ」を選択する。
- ・リストウィンドウのツールバーの「AOCサーバー読み込み」ボタンをクリックする。

15.4 画像データが自動取得で要求された場合

クライアントのAOCで、AOC Serverから登録のみ取得した画像や、取得後に画像データのみ削除した画像について、開く、プリントするなど、画像データが必要な操作をすると、クライアントのAOCは取得元のAOC Serverから必要な画像データを自動的に取得します。このとき、取得元のAOC Serverに画像の登録だけが残されていて、画像データが削除されていた場合、AOC Serverでは、画像データの要求があった時刻と、要求したクライアントのAOCが動作するコンピュータが登録されます。登録画面を操作し、要求された画像データがAOC Serverのローカルデータベース内に読み込まれると、クライアントのAOCは、次に自動取得の操作をしたときに、画像データを取得できます。

登録だけの画像セットの画像データが自動取得で要求されると、AOC Serverのリストウィンドウのメニューバーの「要求画像の確認」が「画像の要求がありました」に変わります。

- 1 メニューの「画像の要求がありました」をクリックします。
「要求画像の確認」ダイアログボックスが開きます。



- 2 リストエリアで、画像データが取得できなかったクライアントのAOCが動作するコンピュータを選択します。
- 3 「取得」ボタンをクリックします。
要求された画像データを自動取得します。

自動取得に関しては、「4.2.6 消したデータを自動的に読み込む(自動取得)」を参照してください。

付録A

インストール・更新・アンインストール

A.1 AOCのインストール

AOCをインストールするには、以下の操作を行います。

お使いのハードウェアキーによって、インストールの手順が異なります。

付属のハードウェアキーをご確認の上、タイプA(表面に「HASP」の表示があるもの)をご使用の場合は「A.1.1 ハードウェアキー (タイプA) でのインストール」、タイプB (表面に「ROCKEY2」の表示があるもの)をご使用の場合は「A.1.2 ハードウェアキー (タイプB) でのインストール」の手順に従ってインストールしてください。



タイプA (「HASP」の表示)

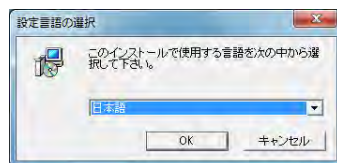


タイプB (「ROCKEY2」の表示)

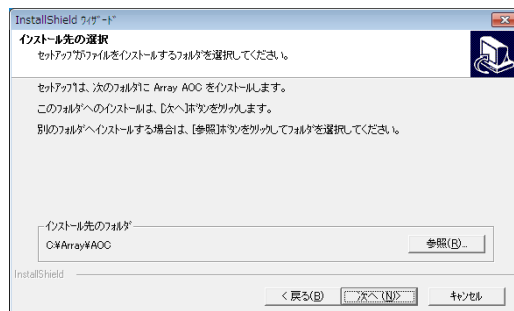
A.1.1 ハードウェアキー (タイプA) でのインストール

- 1 AOCのインストールディスクを、CD-ROMドライブにセットします。
AOCのインストーラが自動的に起動します。

インストーラで使用する言語を選ぶダイアログボックスが開きます。



- 2 ドロップダウンリストボックスから「日本語」を選択して「OK」ボタンをクリックします。
「インストール先の選択」画面が開きます。



- 3 インストール先を指定して、「次へ」ボタンをクリックします。
とくに指定がない場合は、以下のフォルダが必要に応じて作成されインストールされます。

Windows XP の場合

C:\Program Files\Array\AOC

Windows 7, Vista の場合

C:\Array\AOC

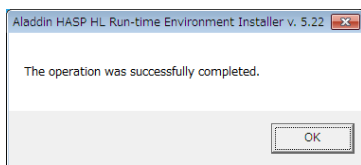
(「C:」はシステムがインストールされているドライブです。)

別のフォルダを指定する場合は「参照」ボタンをクリックしてフォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。

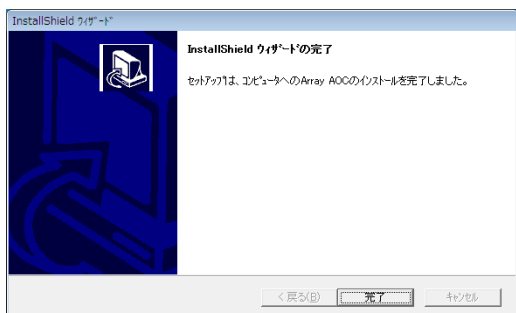


インストーラが自動的に起動しない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブのアイコンを開き、「Setup.exe」というファイルをダブルクリックしてください。

AOCのインストールが始まり、操作が終了した旨のメッセージボックスが表示されます。



- 4 「OK」ボタンをクリックします。

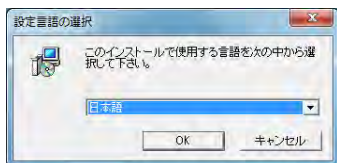


- 5 「完了」ボタンをクリックして閉じます。
インストールが完了すると、「スタート」メニューの「プログラム」にAOCが登録され、デスクトップにAOCのショートカットアイコンが作成されます。
- 6 AOCをインストールしたコンピュータのUSBポートに、付属のハードウェアキーをセットします。
セットするとタスクバーに、新しいハードウェアの使用準備ができた旨のメッセージが表示されます。

A.1.2 ハードウェアキー（タイプB）でのインストール

- 1 AOCをインストールしたコンピュータのUSBポートに、ハードウェアキーをセットします。
セットすると自動的にドライバのインストールが開始されます。
インストールが完了すると、タスクバーに、新しいハードウェアの使用準備ができた旨のメッセージが表示されます。
- 2 AOCのインストールディスクを、CD-ROMドライブにセットします。
AOCのインストーラが自動的に起動します。

インストーラで使用する言語を選ぶダイアログボックスが開きます。



- 3 ドロップダウンリストボックスから「日本語」を選択して「OK」ボタンをクリックします。
「インストール先の選択」画面が開きます。



スキャンオプションをご利用の場合は、デスクトップにスキャンオプションのショートカットアイコン（「AOC Scan」）も作成されます。



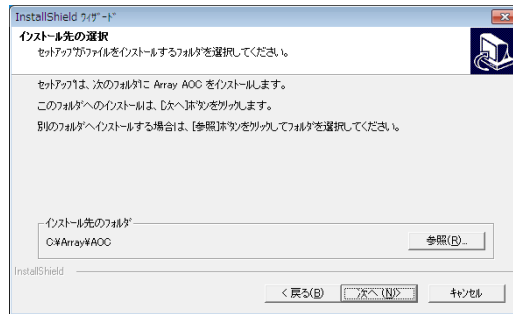
ハードウェアキーはAOCを使用するときに必要です。



ハードウェアキーはAOCを使用するときに必要です。



インストーラが自動的に起動しない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブのアイコンを開き、「Setup.exe」というファイルをダブルクリックしてください。



- 4 インストール先を指定して、「次へ」ボタンをクリックします。
とくに指定がない場合は、以下のフォルダが必要に応じて作成されインストールされます。

Windows XP の場合

C:\Program Files\Array\AOC

Windows 7、Vista の場合

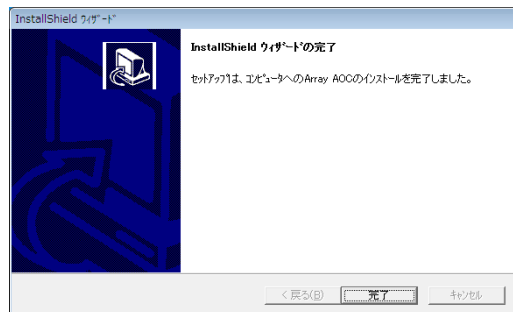
C:\Array\AOC

(「C:」はシステムがインストールされているドライブです。)

別のフォルダを指定する場合は「参照」ボタンをクリックしてフォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックしてください。

AOCのインストールが始まり、操作が終了した旨のメッセージボックスが表示されます。

- 5 「OK」ボタンをクリックします。



- 6 「完了」ボタンをクリックして閉じます。
インストールが完了すると、「スタート」メニューの「プログラム」に AOC が登録され、デスクトップに AOC のショートカットアイコンが作成されます。



スキャンオプションをご利用の場合は、デスクトップにスキャンオプションのショートカットアイコン (「AOC Scan」) も作成されます。

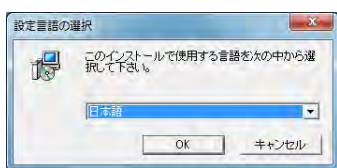
A.2 AOCの更新

AOCを更新するには、以下の操作を行います。

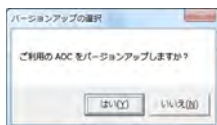
更新の際、AOCのデータのバックアップも同時に行われるため、時間がかかることがあります。

- 1 AOCが動作している場合は終了します。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 AOCのインストールディスクを、CD-ROMドライブにセットします。
AOCのインストーラが自動的に起動します。

インストーラで使用する言語を選ぶダイアログボックスが開きます。



- 4 ドロップダウンリストボックスから「日本語」を選択して「OK」ボタンをクリックします。
「バージョンアップの選択」ダイアログボックスが開き、「ご利用のAOCをバージョンアップしますか?」と表示されます。




- 5 「はい」ボタンをクリックします。
更新が始まります。
AOCのデータのバックアップが行われるため、多少時間がかかることがあります。

更新が終了するとメッセージボックスが開き、「バージョンアップが終了しました」と表示されます。

- 6 「OK」ボタンをクリックしてメッセージボックスを閉じます。



AOCを終了するには、リストウィンドウの右上の閉じるボタンをクリックします(6ページの「2.2 AOCの終了」参照)。



インストーラが自動的に起動しない場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブのアイコンを開き、「Setup.exe」というファイルをダブルクリックしてください。

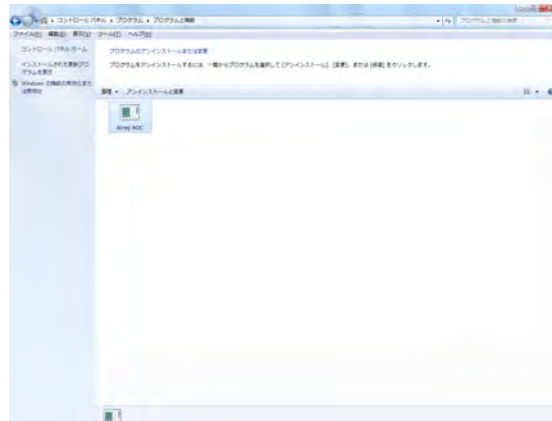
A.3 AOCのアンインストール

AOCをアンインストールするには、以下の操作を行います。

- 1 AOCが動作している場合は終了します。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 Windowsの「コントロールパネル」から「プログラムのアンインストール」をクリックします。

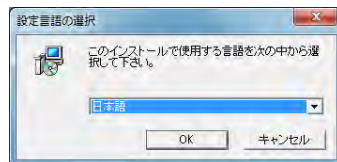


AOCを終了するには、リストウィンドウの右上の閉じるボタン(×)をクリックします(6ページの「2.2 AOCの終了」参照)。

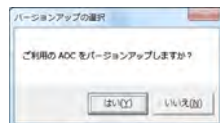


- 4 「ArrayAOC」のアイコンを右クリックして表示されるメニューから「アンインストールと変更」を選択します。

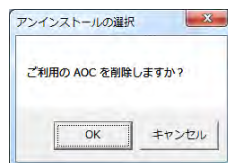
アンインストール時に使用する言語を選ぶダイアログボックスが開きます。



- 5 ドロップダウンリストボックスから「日本語」を選択して「OK」ボタンをクリックします。「バージョンアップの選択」ダイアログボックスが開き、「ご利用のAOCをバージョンアップしますか?」と表示されます。



- 6 「はい」ボタンをクリックします。「アンインストールの選択」ダイアログボックスが開き、「ご利用のAOCを削除しますか?」と表示されます。



- 7 「OK」ボタンをクリックします。AOCがアンインストールされます。
- 8 ハードウェアキーをコンピュータから抜きます。



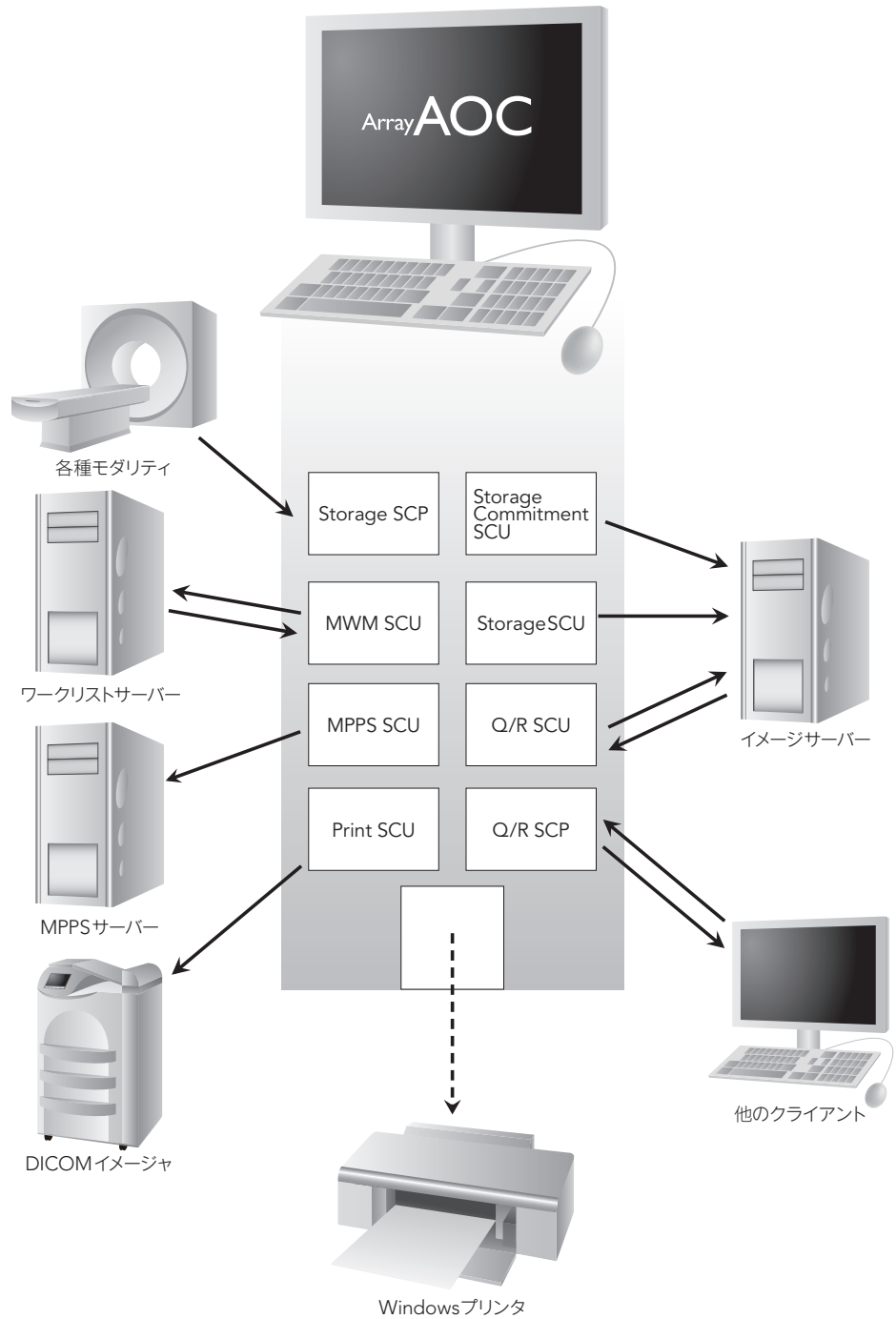
AOCをアンインストールしても、画像データは削除されません。画像データを削除したい場合は、インストール先のフォルダを手動で削除します。インストール時、とくに指定しなかった場合、AOCはWindows XPの場合 C:\Program Files\Array\AOC Windows 7、Vistaの場合 C:\Array\AOC にインストールされています。

付録B

各種設定

B.1 DICOM通信の設定

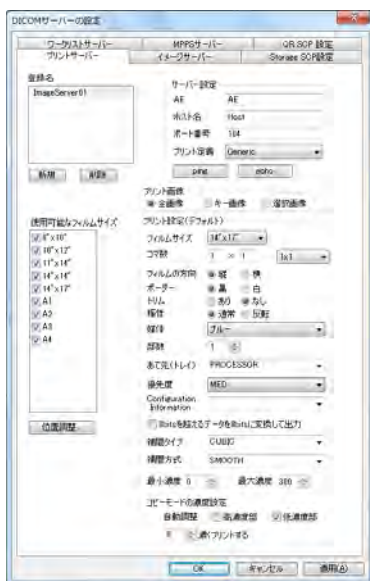
AOCに、モダリティや、DICOMイメージのプリントサーバー、DICOMイメージサーバー、ワークリストサーバーを登録することで、画像データをDICOMイメージに送信してプリントしたり、DICOMイメージサーバーから画像を取得したり、また、AOCに登録されている画像セットのデータをイメージサーバーへの送信したり、患者情報をワークリストサーバーに問い合わせることができます。また、オプションにより、画像の読み込み(インポート)時に、IRWFに準拠して、MPPSサーバーに進捗状況を送信したり、DICOMイメージサーバーに送信完了を確認したりすることができます。



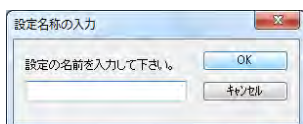
B.1.1 プリントサーバーの設定

DICOM イメージャについて、サーバープログラムの AE (アプリケーションエンティティ) タイトル、ホスト名、ポート番号、プリント条件を設定し、登録します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「プリントサーバー」タブをクリックします。



- 3 「登録名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。



- 4 入力ボックスに、AOCで印刷するDICOMイメージャを区別するための名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、入力した名称が「登録名」リストに追加されます。
- 5 「登録名」リストで追加したDICOMイメージャが選択されているのを確認し、「サーバー設定」グループの以下の設定をします。
具体的な内容については、DICOMイメージャのシステム管理者にお問い合わせください。

「AE」入力ボックス

DICOM イメージャの AE タイトルを入力します。

「ホスト名」入力ボックス

DICOM イメージャのホスト名、または IP アドレスを入力します。

「ポート番号」入力ボックス

DICOM イメージャのポート番号 (TCP/IP) を入力します。



この名前は、AOCでプリントするDICOMイメージャを選択するリストに表示されます。DICOMの設定とは関係ないので、わかりやすい名前を付けてください。



リストからDICOMイメージャを選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択したDICOMイメージャの情報が削除されます。



登録されているDICOMイメージャを選択した場合、「使用可能なフィルムサイズ」リストおよび「プリント設定(デフォルト)」グループが、選択したものにあわせて自動的に設定されます。この設定は手動で変更できません。



Firewallの設定によってはpingを返さない場合があります。通常の使用では、echoが正常ならば、pingをチェックする必要はありません。



ここで設定した内容は、DICOMプリント画面の初期設定として登録されますが、DICOMプリント画面上で指定し直すことができます。

「プリント定義」ドロップダウンリストボックス

DICOMイメージャ用のプリント設定で、製品固有の設定を行います。ご使用の製品名がリストにある場合はそれを選択してください。ご使用の製品名がなくても、同じメーカーの製品名を選択すれば、通常は利用できます。メーカー名もない場合は「Generic」を選択します。

「ping」ボタン、「echo」ボタン

「サーバー設定」グループで設定した接続先と通信できる状態にあるかどうかを確認するボタンです。

「ping」ボタンではTCP/IPの接続を、「echo」ボタンではDICOMの接続を確認することができます。

各ボタンをクリックすると、「サーバー設定」グループで設定した接続先にテスト用のメッセージを送信し、返答の有無によって正常またはエラーである旨のメッセージが表示されます。サーバーの設定によっては、echoが正常であってもpingがエラーになる場合がありますが、AOCの使用に問題はありません。

メッセージの内容について詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。

6 「プリント画像」グループでそのDICOMイメージャでのプリントの対象とする画像を指定します。

「全画像」ラジオボタン

すべての画像をプリントします。

「キー画像」ラジオボタン

選択した画像セットのなかのキー画像に設定した画像のみをプリントします。

「選択画像」ラジオボタン

対象画像のうち、プレビューエリアで選択されている画像のみをプリントします。

7 「使用可能なフィルムサイズ」リストで、使用するフィルムサイズのチェックボックスをチェックします。

ここでチェックされたフィルムサイズが、「プリント設定(デフォルト)」グループの「フィルムサイズ」ドロップダウンリストボックスで選択できるようになります。

8 プリントするときの初期条件を設定します。

DICOMイメージャでプリントするときの、初期条件を設定します。

プリントにはいろいろな条件があるので、ここで設定しておけば、実際にプリントするとき、最小限の設定で簡単にプリントできるようになります。

「登録名」リストで追加したDICOMイメージャが選択されているのを確認し、「プリント設定(デフォルト)」グループの以下の設定をします。ここで設定した内容は、プリントするときの初期設定で、プリント時に変更できます。よく使う内容を設定しておくとう便利です。

「フィルムサイズ」ドロップダウンリストボックス

フィルムサイズを選択します。

「コマ数」入力ボックス

(横のコマ数) × (縦のコマ数) の各入力ボックスに数値を入力します。入力ボックスの右側にあるドロップダウンリストボックスには、よくある組み合わせが登録されていますので、そこから選択すると、選択したコマ数が自動入力されます。

「フィルムの方角」ラジオボタン

フィルムの方角を設定します。縦長の場合は「縦」ラジオボタン、横長の場合は「横」ラジオボタンを選択します。

「ボーダー」ラジオボタン

ボーダー色(フィルム上のコマとコマの間の色)を設定します。黒の場合は「黒」ラジオボタン、白の場合は「白」ラジオボタンを選択します。

「トリム」ラジオボタン

トリム(画像の縁取り線)の有無を設定します。トリムを付ける場合は「あり」ラジオボタン、トリムを付けない場合は「なし」ラジオボタンを選択します。

「極性」ラジオボタン

プリントする画像の極性を設定します。画像データをそのままプリントする場合は「通常」ラジオボタン、階調を反転してプリントする場合は「反転」ラジオボタンを選択します。

「媒体」ドロップダウンリストボックス

プリントするフィルムの媒体を設定します。紙の場合は「紙」、クリアベースフィルムの場合は「クリア」、ブルーベースフィルムの場合は「ブルー」、マンモ用のクリアベースフィルムの場合は「クリア(マンモ用)」、マンモ用のブルーベースフィルムの場合は「ブルー(マンモ用)」を選択します。

「部数」コンボボックス

プリントするフィルムの部数を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(↑↓)を操作して値を変更します。

「あて先(トレイ)」コンボボックス

DICOM イメージャのフィルムの格納先を選択します。「MAGAZINE」はフィルムレシーブマガジンに、「PROCESSOR」は自動現像機にフィルムを排出します。その他、送信先のDICOM イメージャに固有の設定がある場合は、適切な項目を選択します。

「優先度」リストボックス

DICOM イメージャ側の出力の優先度を選択します。
優先度の高い方から、HIGH→MED (Medium)→LOWの順になっています。

「Configuration Information」コンボボックス

DICOM イメージャごとに適切な値を入力または選択します。詳しくは、ご使用になるDICOM イメージャのコンフォーマンス・ステートメントを参照してください。

「8bitsを超えるデータを8bitsに変換して出力」チェックボックス

画像をプリントするDICOM イメージャが8bitsを超えるデータに対応していない場合、チェックを付けます。

「補間タイプ」コンボボックス

拡大補間の種類を選択します。

「REPLICATE」	:	0次補間(補間なし)
「CUBIC」	:	3次補間
「BILINEAR」	:	双1次補間
「NONE」	:	拡大なし

その他、画像をプリントするDICOMイメージャに固有の設定がある場合は、適切な項目を選択します。

「補間方式」コンボボックス

「補間タイプ」で選択した項目に合わせて補間方式を設定します。DICOMイメージャごとに適切な項目を選択します。詳しくはご使用になるDICOMイメージャのコンフォーマンスステートメントを参照してください。

「最小濃度」入力ボックス

最小濃度を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。たとえば、光学濃度(O.D.:Optical Density)を0に設定する場合は「0」、光学濃度1.0に設定する場合は「100」と設定します。

「最大濃度」入力ボックス

最大濃度を設定します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。たとえば、光学濃度(O.D.:Optical Density)を3.0に設定する場合は「300」と設定します。

「コピーモードの濃度設定」

デジタイザーでスキャンしたフィルムのコピーを出力する場合に設定します。

「自動調整」チェックボックス

スキャンデータの濃度範囲がDICOMイメージャで出力可能な濃度範囲を超えている場合、濃度の高い部分がつぶれたり、濃度の低い部分がとんでしまったりしないように自動調整します。高濃度を自動調整する場合は「高濃度部」チェックボックスを、低濃度を自動調整する場合は「低濃度部」チェックボックスをそれぞれチェックします。

「濃くプリントする」入力ボックス

画像全体の濃度を調節します。入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドット(⇄)を操作して値を変更します。たとえば、「10」に設定すると、画像全体の濃度が0.1濃くなり、「-10」に設定すると、画像全体の濃度が0.1薄くなります。

9 続けて他のDICOMイメージャを登録する場合は、手順3から8の操作を繰り返します。

10 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「プリントサーバーの設定」タブをクリックし、「登録名」リストからDICOMイメージャを選択して設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

B.1.2 イメージサーバーの設定

画像データの検索・取得をしたり、画像データを送信したりするDICOMイメージサーバーについて、AE（アプリケーションエンティティ）タイトル、ホスト名、ポート番号を設定し、登録します。IRWFオプションに含まれるStorage Commitment オプションをご利用の場合は、DICOMイメージサーバーへのデータの格納を確認するかどうかを設定します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「イメージサーバー」タブをクリックします。
「通信設定」グループには、「オプション」で設定されているAOCの情報が表示されています。



- 3 「登録名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。
- 4 入力ボックスに、DICOMイメージサーバーを区別するための名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、「登録名」リストに追加されます。
- 5 「登録名」リストで追加したDICOMイメージサーバーが選択されているのを確認し、「サーバー設定」グループで以下の設定をします。
具体的な内容については、DICOMイメージサーバーのシステム管理者にお問い合わせください。
「AE」入力ボックス
DICOMイメージサーバーのAEタイトルを入力します。
「ホスト名」入力ボックス
DICOMイメージサーバーのホスト名、またはIPアドレスを入力します。



詳しくは214ページの「B.1.7 AOCのクライアント設定」を参照してください。



この名前は、DICOMイメージサーバーを選択するリストに表示されます。DICOMの設定とは関係ないので、わかりやすい名前を付けてください。



リストを選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択したイメージサーバーの情報が削除されます。



Firewallの設定によってはpingを返さない場合があります。通常の使用では、echoが正常ならば、pingをチェックする必要はありません。

「ポート番号」入力ボックス

DICOMイメージサーバーのポート番号(TCP/IP)を入力します。

「ping」ボタン、「echo」ボタン

「サーバー設定」グループで設定した接続先と通信できる状態にあるかどうかを確認するボタンです。

「ping」ボタンではTCP/IPの接続を、「echo」ボタンではDICOMの接続を確認することができます。

各ボタンをクリックすると、「サーバー設定」グループで設定した接続先にテスト用のメッセージを送信し、返答の有無によって正常またはエラーである旨のメッセージが表示されます。

サーバーの設定によっては、echoが正常であってもpingがエラーになる場合がありますが、AOCの使用に問題はありませぬ。

メッセージの内容について詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。

6 続いて「画像取得設定」グループで以下の設定をします。

「このサーバーから画像を取得する」チェックボックス

DICOMイメージサーバーを検索し、Q/Rを用いて画像を取得する場合はチェックします。チェックされたDICOMイメージサーバーは、「DICOMサーバーからの検索・読み込み」画面の「検索対象サーバー」リストボックスに登録されます。チェックを外すと、以下の項目はグレイアウトされます。

「画像のまとめ方」ラジオボタン

ここで指定したイメージサーバーから取得した画像をシリーズごとに画像セットにまとめるか、検査ごとに画像セットにまとめるかを設定します。

「シリーズ」ラジオボタンを選択すると、同じSeries Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

「検査」ラジオボタンを選択すると、同じStudy Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

7 次に「画像送信設定」グループで以下の設定をします。

「このサーバーに画像を送信する」チェックボックス

DICOMイメージサーバーに画像を送信する場合はチェックします。チェックされたDICOMイメージサーバーは、リストウィンドウのフォルダエリアの「送信トレイ」の下に新規にフォルダが作成され、「サーバーへ送信」ダイアログボックスのリストボックスに登録されます。チェックを外すと、以下の項目はグレイアウトされます。

「画像送信時このサーバーを標準にする」チェックボックス

一番よく使うサーバーでチェックしておきます。

画像を送信するとき、このサーバーが最初から選択されているので便利です。

「患者名をSYNAPSE用に変換する」チェックボックス

チェックすると、SYNAPSEに画像を送信した際、正しく患者名が表示されるように自動変換します。

「画像をTFS-7000用に変換する」チェックボックス

チェックすると、送信時に必要に応じてTFS-7000用に画像データ形式を変換します。

8 IRWFオプションに含まれるStorage Commitmentオプションをご利用の場合は、「このサーバーでStorage Commitmentを行う」をチェックすることにより、DICOMイメージサーバーへのデータ格納を確認する設定になります。

9 続けて他のDICOMイメージサーバーの設定をする場合は、手順3から8の操作を繰り返します。

10 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「イメージサーバーの設定」タブをクリックし、「登録名」リストからDICOMイメージサーバーを選択して設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



検査情報(DICOM属性)の編集について詳しくは、48ページの「4.7 検査情報(DICOM属性)を編集する(IRWFオプション)」を参照してください。

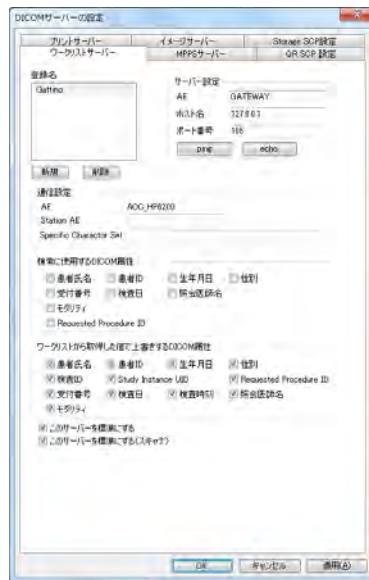


詳しくは214ページの「B.1.7 AOCのクライアント設定」を参照してください。

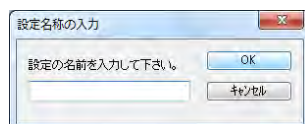
B.1.3 ワークリストサーバーの設定(オプション)

ワークリストサーバーを利用すると、検査情報(DICOM属性)を編集するときに、検査情報(DICOM属性)の入力の手間を省き、ミスを防ぐことができます。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「ワークリストサーバー」タブをクリックします。
「通信設定」グループには、「オプション」で設定されているAOCの情報が表示されています。



- 3 「登録名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。



- 4 入力ボックスに、ワークリストサーバーを区別するための名前を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、「登録名」リストに追加されます。

- 5 「登録名」リストで追加したDICOMイメージサーバーが選択されているのを確認し、「サーバー設定」グループで以下の設定をします。

具体的な内容については、DICOMイメージサーバーのシステム管理者にお問い合わせください。

「AE」入力ボックス

DICOMイメージサーバーのAEタイトルを入力します。

「ホスト名」入力ボックス

DICOMイメージサーバーのホスト名、またはIPアドレスを入力します。



この名前は、ワークリストサーバーを選択するリストに表示されます。DICOMの設定とは関係ないので、わかりやすい名前を付けてください。



リストを選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択したワークリストサーバーの情報が削除されます。

「ポート番号」入力ボックス

DICOMイメージサーバーのポート番号(TCP/IP)を入力します。

「ping」ボタン、「echo」ボタン

「サーバー設定」グループで設定した接続先と通信できる状態にあるかどうかを確認するボタンです。

「ping」ボタンではTCP/IPの接続を、「echo」ボタンではDICOMの接続を確認することができます。

各ボタンをクリックすると、「サーバー設定」グループで設定した接続先にテスト用のメッセージを送信し、返答の有無によって正常またはエラーである旨のメッセージが表示されます。

サーバーの設定によっては、echoが正常であってもpingがエラーになる場合がありますが、AOCの使用に問題はありません。

メッセージの内容について詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。

6 検査情報検索の詳しい設定をします。

「検査に使用するDICOM属性」グループ

検索条件に使用するDICOM属性のチェックボックスをチェックします。複数設定すると、使用する条件のすべてに一致する検査情報を検索します。

「ワークリストから取得した値で上書きするDICOM属性」グループ

ワークリスト検索で取得された内容に書き換えたいDICOM属性をクリックしてチェックします。チェックされたDICOM属性は、ワークリストから取得された検査情報で上書きされます。

「このサーバーを標準にする」チェックボックス

一番よく使うサーバーでチェックしておきます。

検査情報を検索するとき、このサーバーが最初から選択されているので便利です。

「このサーバーを標準にする(スキャナ)」チェックボックス(スキャンオプションのみ)

スキャンオプションをご利用の場合は、スキャンしたフィルムの検査情報を設定するとき、ワークリストサーバーから検査情報を検索して設定できます。

一番よく使うサーバーでチェックしておきます。

検査情報を検索するとき、このサーバーが最初から選択されているので便利です。

7 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「ワークリストサーバーの設定」タブをクリックし、「登録名」リストからワークリストサーバーを選択して設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



Firewallの設定によってはpingを返さない場合があります。通常の使用では、echoが正常ならば、pingをチェックする必要はありません。

B.1.4 Q/R SCPの設定(オプション)

Q/R SCP (キュー・アール・エス・シー・ピー) は、DICOM規格で、クライアントからの検索(Query クエリ) および情報を取得(Retrieve リトリリーブ) 要求に応じて指定された画像を送信・受信するための機能です。

Q/R SCPを使用して、AOCをサーバーとし、AOC内のデータを検索して、クライアントとデータのやり取りをする場合は、このAOCのAEタイトル、ポート番号を設定し、Q/R SCP接続するクライアントのAEタイトルやホスト名、ポート番号を設定してクライアントを登録します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「QR SCP 設定」タブをクリックします。



- 3 「AOCの設定」グループに、このAOCのAEタイトルとポート番号の設定をします。

「AE」入力ボックス

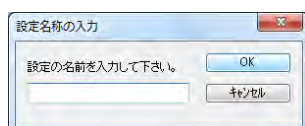
このAOCのAEタイトルを入力します。

「ポート番号」入力ボックス

AOCサーバーのポート番号(TCP/IP)を入力します。

続いて、「クライアントの設定」グループで、Q/R要求を受けつけるクライアントを登録します。

- 4 「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。



ここで設定するポート番号は、「Storage SCP設定」タブ、「Storage Commitment設定」「クライアント設定」で設定するポート番号と同じにならないようにしてください(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」、214ページの「B.1.7 AOCのクライアント設定」参照)。

-
- 5 入力ボックスにクライアント名を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、リストに追加されます。

- 6 リストから、今、登録したクライアント名を選択し、以下の設定をします。

「AE」入力ボックス

クライアントのAEタイトルを入力します。

「ホスト名」入力ボックス

クライアントのホスト名を入力します。

「ポート番号」入力ボックス

クライアントのポート番号(TCP/IP)を入力します。

- 7 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が反映され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「Q/R SCP設定」タブをクリックし、設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



クライアントを削除したい場合は、リストから削除したいクライアントを選択し、「削除」ボタンをクリックします。



AOCのStorage SCPのAEタイトル、ポート番号と、AOCのクライアント(SCU)のAEタイトル、ポート番号は、別々に設定します(214ページの「B.1.7 AOCのクライアント設定」参照)。

B.1.5 AOCのStorage SCP設定(オプション)

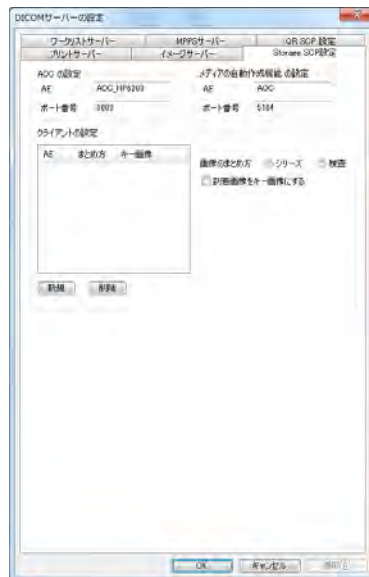
Storage SCP (ストレージ・エス・シー・ピー) とは、DICOM規格で、画像を受け取って保存する機能を果たすもので、DICOMイメージサーバーが画像を受信するときに使用します。

AOCには、Storage SCPを使用した2つの機能があります。

モダリティから送信(C-Store)された画像データを受信する機能と、Storage SCPで受信した画像データを自動的にCD/DVDに書き込む機能です。

AOCのStorage SCPを使用するには、AOCのAE (アプリケーションエンティティ) タイトル、ポート番号やクライアントのAEタイトルなどの設定をします。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「Storage SCP設定」タブを選択します。



- 3 「AOCの設定」グループで以下の設定をします。
 - 「AE」入力ボックス
このAOCのAEタイトルを入力します。
 - 「ポート番号」入力ボックス
このAOCのポート番号(TCP/IP)を入力します。
- 4 Storage SCPで受信した画像データを自動的にCD/DVDに書き込む場合は、「メディアの自動作成機能の設定」グループで以下の設定をします。
 - 「AE」入力ボックス
メディアの自動作成に使うAEタイトルを入力します。
 - 「ポート番号」入力ボックス
メディアの自動作成に使うポート番号(TCP/IP)を入力します。



ここで設定するポート番号は、「QR SCP設定」タブ、「Storage Commitment設定」「クライアント設定」で設定するポート番号と同じにならないようにしてください(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」214ページの「B.1.7 AOCのクライアント設定」参照)。



「メディアの自動作成機能の設定」グループは、CD/DVD作成オプション、Rimageオプション、エプソンディスク作成オプション、Primeraオプションをご利用の場合のみ表示されます。

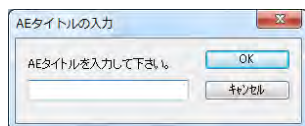


受信した画像データをCD/DVDに書き込む機能については128ページの「9.1.3 受信した画像データをCD/DVDに書き込む」を参照してください。

続いて「クライアントの設定」グループの設定をします。「クライアントの設定」グループでは、AOCに画像を送信(C-Store)してくるモダリティのAEタイトルごとに、画像をシリーズごとに画像セットにまとめるか、検査ごとに画像セットにまとめるかを設定できます。

5 「新規」ボタンをクリックします。

「AEタイトルの入力」ダイアログボックスが開きます。



6 入力ボックスに、AOCに画像を送信してくるモダリティのAEタイトルを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

「AEタイトルの入力」ダイアログボックスが閉じ、リストに追加されます。

7 リストで登録されているAEタイトルを選択し、画像のまとめかたを設定します。

初期設定では検査ごとの設定が選択されています。

「シリーズ」ラジオボタン

そのAEタイトルから送信された画像が、シリーズごとに画像セットにまとめられます。

「検査」ラジオボタン

そのAEタイトルから送信された画像が、検査ごとに画像セットにまとめられます。

各AEタイトルごとの設定内容は、リストボックスの「まとめ方」欄に表示されます。

「到着画像をキー画像にする」チェックボックス

チェックボックスをチェックすると、そのAEタイトルから送信された画像をキー画像として登録します。

8 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が反映され「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「Storage SCP 設定」タブをクリックし、設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



「クライアントの設定」グループにAEタイトルが登録されていないモダリティから画像を受信した場合、画像セットは検査ごとにまとめられます。

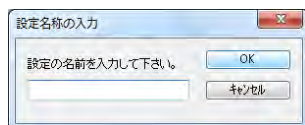
B.1.6 MPPSの設定(オプション)

MPPS (エム・ピー・ピー・エス) とは、DICOM規格で、検査の進捗状況を伝達するものことです。MPPSサーバーが検査の開始、実施中、完了、中止といった検査状況を受信するときに使用します。AOCには、MPPSサーバーに検査の進捗状況を送信する機能(MPPS SCU)があります。AOCのMPPS機能を使用するには、MPPSサーバーについて、AE (アプリケーションエンティティ) タイトル、ホスト名、ポート番号を設定し、登録します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOMサーバーの設定」を選択します。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが開きます。
「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスをすでに開いている場合は、手順2に進んでください。
- 2 「MPPSサーバー」タブを選択します。
「通信設定」グループには、「オプション」で設定されているAOCの情報が表示されています。



- 3 「登録名」リストの下にある「新規」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが開きます。



- 4 入力ボックスに、MPPSサーバーの名称を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
「設定名称の入力」ダイアログボックスが閉じ、「登録名」リストに追加されます。
- 5 「サーバー設定」グループで、MPPSサーバー名を選択し、以下の設定をします。
 - 「AE」入力ボックス
クライアントのAEタイトルを入力します。
 - 「ホスト名」入力ボックス
クライアントのホスト名を入力します。



この名前は、MPPSサーバーを選択するリストに表示されます。DICOMの設定とは関係ないので、わかりやすい名前を付けてください。

「ポート番号」入力ボックス

クライアントのポート番号(TCP/IP)を入力します。

「ping」ボタン、「echo」ボタン

「サーバー設定」グループで設定した接続先と通信できる状態にあるかどうかを確認するボタンです。

「ping」ボタンではTCP/IPの接続を、「echo」ボタンではDICOMの接続を確認することができます。

各ボタンをクリックすると、「サーバー設定」グループで設定した接続先にテスト用のメッセージを送信し、返答の有無によって正常またはエラーである旨のメッセージが表示されます。

サーバーの設定によっては、echoが正常であってもpingがエラーになる場合がありますが、AOCの使用に問題はなりません。

メッセージの内容について詳しくは、システム管理者にお問い合わせください。

6 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。

設定した内容を変更するには、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスの「MPPSサーバー」タブをクリックし、設定を変更してください。変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。設定が変更され、「DICOMサーバーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



Firewallの設定によってはpingを返さない場合があります。通常の使用では、echoが正常ならば、pingをチェックする必要はありません。



リストを選択して「削除」ボタンをクリックすると、選択したMPPSサーバーの情報が削除されます。



作業用ディレクトリは、通常は変更する必要はありません。

B.1.7 AOCのクライアント設定

AOCをクライアント(SCU)として、DICOMイメージャにデータを出力したりDICOMイメージサーバーから画像データを取得(Query & Retrieve) / 送信(C-Store) する場合は、以下の設定を行います。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。

「オプション」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「クライアント設定」グループで以下の設定をします。

「AE」入力ボックス

AOCがクライアントになるときのAEタイトルを入力します。

「ポート番号」入力ボックス

AOCがクライアントになるときのポート番号(TCP/IP)を入力します。

- 3 「Storage Commitment設定」グループで以下の設定をします。

「AE」入力ボックス

Storage Commitmentで送信完了を確認するときのAEタイトルを入力します。

「ポート番号」入力ボックス

DICOMイメージサーバーに画像を送信後、Storage Commitmentでデータの格納を確認するときのポート番号を入力します。

「タイムアウト」入力ボックス

DICOMイメージサーバーに画像を送信してからStorage Commitmentでデータの格納を確認するまでのタイムアウト時間を分単位で入力します。

- 4 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「オプション」ダイアログボックスが閉じます。



ここで設定するポート番号は、「Storage SCP設定」タブ、「QR SCP設定」タブ、「Storage Commitment設定」で設定するポート番号と同じにならないようにしてください(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」参照)。



ここで設定するポート番号は、「Storage SCP設定」「QR SCP設定」「クライアント設定」で設定するポート番号と同じにならないようにしてください(198ページの「B.1 DICOM通信の設定」参照)。



ここで設定した内容を接続先のDICOMイメージャやDICOMサーバーによっては、設定する必要があります。

B.2 画像データの管理設定

画像データのDICOM属性を編集するときの表示項目や、患者氏名の表示形式の設定、画像セットのデータの自動削除の設定など、画像データの管理に関する設定を行います。

B.2.1 「DICOM属性編集」の項目設定

画像データのDICOM属性を編集する「DICOM属性編集」ダイアログボックスの表示項目などを設定できます。DICOM属性編集については、11ページの「3.4 検査情報(DICOM属性)を編集する」を参照してください。

設定できる属性は以下のとおりです。

- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| ・患者ID | ・検査ID | ・患者氏名 | ・受付番号 |
| ・生年月日 | ・検査記述 | ・性別 | ・読影医師名 |
| ・検査日 | ・モダリティ | ・検査時刻 | ・検査部位 |
| ・施設名 | ・患者位置 | ・照会医師名 | ・左右 |

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「DICOM属性編集の設定」を選択します。
「DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 各属性の項目について、以下の内容を設定します。

「入力項目」(「患者ID」から「左右」まで)

「DICOM属性編集」ダイアログボックスに表示させる属性は、チェックボックスをチェックします。表示させない項目はチェックボックスのチェックを外します。

「施設名」「照会医師名」「読影医師名」「モダリティ」「検査部位」「患者位置」については、表示内容をあらかじめ登録しておくことができます。詳しくは、このあとの「施設名、照会医師名、読影医師名を登録するには」および「モダリティ、検査部位、患者位置を登録するには」をご覧ください。



IRWFオプションをご利用の場合は、さらに高度な設定ができます。詳しくは48ページの「4.7.1 「DICOM属性編集」の項目設定」を参照してください。



表示させない属性については、DICOM属性編集の操作をしても、画像データの内容は変更されません。

「検査・シリーズの構成を現在のままにする」ラジオボタン

選択すると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「検査・シリーズの構成を現在のままにする」ラジオボタンが選択された状態でダイアログボックスが開きます。

「SOP Instance UIDを維持する」チェックボックス

チェックすると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「SOP Instance UIDを維持する」チェックボックスがチェックされた状態でダイアログボックスが開きます。

「検査を1個にまとめ、シリーズは現在の構成のままにする」ラジオボタン

選択すると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「検査を1個にまとめ、シリーズは現在の構成のままにする」ラジオボタンが選択された状態でダイアログボックスが開きます。

「検査・シリーズを1個にまとめる」ラジオボタン

選択すると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「検査・シリーズを1個にまとめる」ラジオボタンが選択された状態でダイアログボックスが開きます。

「新しいスタディを生成する」チェックボックス

チェックすると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「新しいスタディを生成する」チェックボックスがチェックされた状態でダイアログボックスが開きます。

「新しいシリーズを生成する」チェックボックス

チェックすると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「新しいシリーズを生成する」チェックボックスがチェックされた状態でダイアログボックスが開きます。

「新しいスタディを生成する」チェックボックスをチェックされている場合、「新しいシリーズを生成する」チェックボックスは、チェックされた状態でグレイアウトされます。

「編集後DICOMサーバーに送信する」チェックボックス

チェックすると「DICOM属性編集」ダイアログボックスの「編集後DICOMサーバーに送信する」チェックボックスがチェックされた状態でダイアログボックスが開きます。

「送信が完了した画像セットを、現在のフォルダから削除する」チェックボックス

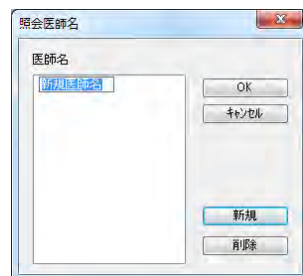
チェックすると、編集後DICOMサーバーに送信された画像をフォルダから削除します。

施設名、照会医師名、読影医師名を登録するには

「施設名」「照会医師名」「読影医師名」の3つの属性について、あらかじめ登録しておくことができます。

1 登録したい属性の右側にある「内容設定」ボタンをクリックします。

内容設定のダイアログボックスが開きます(以下の画面例は、照会医師名の場合です)。



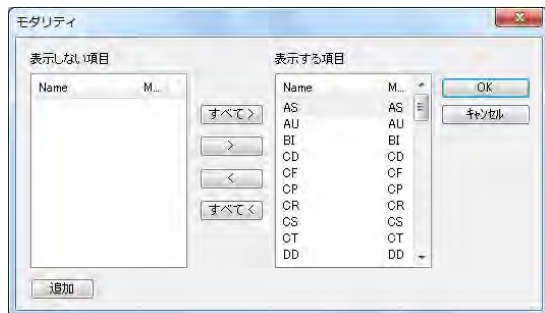
- 2 「新規」ボタンをクリックします。
リストに「新規施設名」または「新規医師名」という項目が、編集可能な状態で作成されます。
- 3 登録したい施設名、または医師名を入力し、Enterキーを押します。
入力した内容が確定します。
- 4 続けて他の施設名、医師名を登録する場合は、手順2から3を繰り返します。
登録した項目の名前を変更したい場合は、変更したい項目を右クリックして表示されるメニューから「名前の変更」を選択すると、編集可能な状態になります。
- 5 登録が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、リストボックスに登録されます。

モダリティ、検査部位、患者位置を登録するには

「モダリティ」「検査部位」「患者位置」の3つの属性については、DICOM規格で規定されている項目がすでに登録しており、それらの表示/非表示を設定できます。また、新規の項目を追加することもできます。

各属性の右側にある「内容設定」ボタンをクリックします。

内容設定のためのダイアログボックスが開きます(以下の画面例は、モダリティの場合です)。



表示 / 非表示の設定

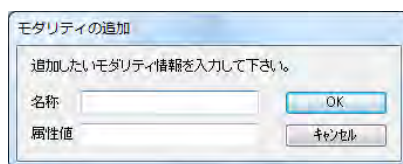
「表示する項目」リストエリアにある項目が「DICOM属性編集」ダイアログボックスに表示されます。

各リストエリアで項目を選択し、「>」「<」の各ボタンをクリックすると選択した方向のリストに移動します。「すべて>」「すべて<」の各ボタンをクリックすると、リストのすべての項目が選択した方向に移動します。

項目の追加

リストにない項目を追加できます。

- 1 「追加」ボタンをクリックします。



項目追加のためのダイアログボックスが表示されます。



リスト上で右クリックして表示されるメニューから「追加」を選択しても同じ操作ができます。



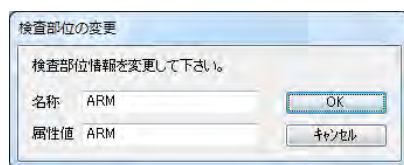
「表示する項目」リスト上では項目の変更はできないので、変更したい項目は、「表示しない項目」リストに移動してください。

- 2 「名称」「属性値」の各入力ボックスに名称と属性値を入力します。
「名称」は、AOCの各画面上に表示されるもので、業務フローにあわせてわかりやすい名称を付けてください。「属性値」は、実際のデータに含まれるもので、編集した画像データをDICOMイメージサーバーに送信する場合に、サーバーが受信できるものにする必要があります。詳しくは、サーバー管理者にお問い合わせください。
- 3 「OK」ボタンをクリックします。
項目追加ダイアログボックスが閉じ、リストに新しい項目が追加されます。

項目の変更

登録した項目の名称、属性値を変更できます。

- 1 「表示しない項目」リストで、名称、属性値を変更したい項目を右クリックし表示されるメニューから「変更」を選択します。
項目変更ダイアログボックスが表示されます。(以下の画面例は、検査部位の場合です)



- 2 「名称」「属性値」の各入力ボックスの名称と属性値を変更します。
- 3 変更したら、「OK」ボタンをクリックします。
ダイアログボックスが閉じ、「表示しない項目」リストの表示が変更された内容に変わります。

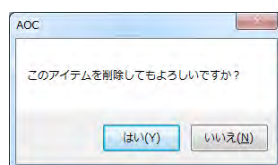
項目の削除

登録してある項目を削除できます。



「表示する項目」リスト上では項目の削除はできないので、削除したい項目は、「表示しない項目」リストに移動してください。

- 1 「表示しない項目」リストで、削除したい項目を右クリックして表示されるメニューから「削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。



- 2 「はい」ボタンをクリックします。
メッセージボックスが閉じ、「表示しない項目」のリストから項目が削除されます。
- 3 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
「DICOM属性編集の設定」ダイアログボックスが閉じます。

B.2.2 画像のまとめかたを選択する

読み込んだDICOMデータをシリーズごとに画像セットにまとめるか、検査ごとに画像セットにまとめるかを設定できます。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。

「オプション」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「画像のまとめ方」エリアで、まとめかたを設定します。

DICOM サーバーからの読み込みで、イメージサーバーの設定で指定していないモダリティを読み込んだ場合

「未設定時の標準」の項で設定します。

「シリーズ」ラジオボタンを選択すると、同じSeries Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

「検査」ラジオボタンを選択すると、同じStudy Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

DICOM ファイルの読み込みで読み込んだ場合

「DICOM 画像の読み込み」の項で設定します。

「シリーズ」ラジオボタンを選択すると、同じSeries Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

「検査」ラジオボタンを選択すると、同じStudy Instance UIDをもつ画像が1つの画像セットにまとめられます。

- 3 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

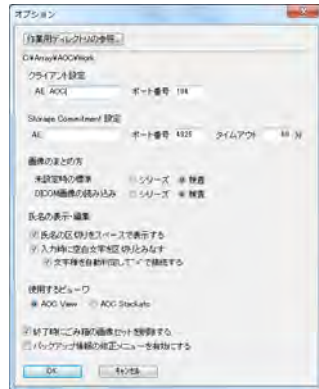
設定が有効になり、「オプション」ダイアログボックスが閉じます。

B.2.3 氏名の表記法の設定

患者氏名などについて、リストウィンドウのリストエリアの表示形式や、編集時の入力形式について設定できます。

1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。

「オプション」ダイアログボックスが開きます。



「氏名の区切りをスペースで表示する」チェックボックス

DICOM規格では、氏名の区切りを「^」で指定しますが、チェックボックスをチェックすると、リストエリアやビューで氏名を表示するときに「^」を空白に置き換えて表示します。

例) 山田^太郎→山田 太郎

「入力時に空白文字を区切りとみなす」チェックボックス

チェックボックスをチェックすると、氏名を編集するとき氏名の間に空白を入れた場合、データ内で「^」に置き換えます。

例) 山田 太郎→山田^太郎

「文字種を自動判定して"="で接続する」チェックボックス

チェックボックスをチェックすると、氏名を編集するとき、アルファベットや漢字、半角カナなどの文字種の区切りの空白を自動判定してデータ内で「=」に置き換えます。

「入力時に空白文字を区切りとみなす」チェックボックスのチェックを外している場合、この項目はグレイアウトされ選択できません。

例) 山田 太郎 やまだ たろう Yamada Taro

→Yamada^Taro=山田^太郎=やまだ^たろう

2 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「オプション」ダイアログボックスが閉じます。



DICOM規格では、日本語を含む患者氏名は、「=」（イコール）で区切られた3つのフィールドを使って、下記のように表記します。

<第1フィールド>=<第2フィールド>=<第3フィールド>

- 第1フィールドには、半角ローマ字、半角カタカナなどの1バイト文字が入ります。
- 第2フィールドには、漢字などの2バイト文字が入ります。
- 第3フィールドには、第2フィールドの読みが入ります。

B.2.4 終了時にごみ箱の画像セットを削除する

AOC終了時に、ごみ箱にある画像セットを削除するように設定できます。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。
「オプション」ダイアログボックスが開きます。



「終了時にごみ箱の画像セットを削除する」チェックボックス

チェックボックスをチェックすると、AOC終了時にごみ箱の画像セットの削除処理を行った後に、AOCが終了します。

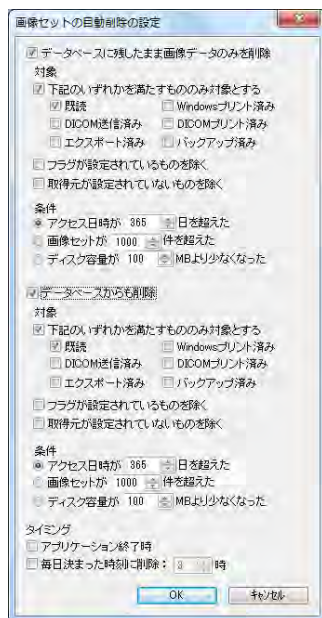
- 2 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「オプション」ダイアログボックスが閉じます。

B.2.5 ある条件で自動的にデータを消す(自動削除)

画像セットのデータや登録を自動的に削除する条件を設定できます。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「自動削除の設定」を選択します。

「画像セットの自動削除の設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 画像セットの登録は残し、画像データのみを自動削除する場合は、「データベースに残したまま画像データのみを削除」チェックボックスをチェックします。

画像セットの登録も削除する場合は、「データベースからも削除」チェックボックスをチェックします。

- 3 手順2でチェックした項目について、以下の設定をします。

「対象」グループ

自動削除の対象になる画像セットを選択します。

「下記のいずれかを満たすもののみ対象とする」チェックボックス

チェックすると、以下の項目について該当する画像セットのみを自動削除の対象に指定できます。

「既読」チェックボックス

既読の画像セットを自動削除の対象に指定します。

「DICOM送信済み」チェックボックス

DICOM送信されたことのある画像セットを自動削除の対象に指定します。

「エクスポート済み」チェックボックス

エクスポートされたことのある画像セットを自動削除の対象に指定します。

「Windowsプリント済み」チェックボックス

Windowsプリントされたことのある画像セットを自動削除の対象に指定します。

「DICOMプリント済み」チェックボックス

DICOMプリントされたことのある画像セットを自動削除の対象に指定します。



「データベースに残したまま画像データのみを削除」チェックボックスと「データベースからも削除」チェックボックスの両方をチェックし、対象として同じものを指定した場合、「データベースからも削除」チェックボックスの設定が優先されます。



「対象」グループで何も指定しなかった場合(すべてのチェックボックスのチェックを外している場合)は、すべての画像セットが自動削除の対象になります。

「バックアップ済み」チェックボックス

バックアップされたことのある画像セットを自動削除の対象に指定します。

「フラグが設定されているものを除く」チェックボックス

フラグが設定してある画像セットを自動削除の対象から除きます。

「取得元が設定されていないものを除く」チェックボックス

取得元が設定されていない画像セットを自動削除の対象から除きます。

「条件」グループ

自動削除する条件を設定します。

「アクセス日時が()日を超えた」ラジオボタン

「最終参照時刻」が設定した日数を経過すると、自動削除の対象に指定された画像セットを削除します。日数は、入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更して指定します。

「画像セットが()件を超えた」ラジオボタン

登録されている画像セットの総数が設定した件数を超えると、自動削除の対象に指定された画像セットで、「最終参照時刻」が古いものから削除します。件数は、入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更して指定します。

「ディスク容量が()MBより少なくなった」ラジオボタン

AOCがインストールされているディスクドライブの空き容量が設定した容量よりも少なくなると、自動削除の対象に指定された画像セットで、「最終参照時刻」が古いものから削除します。空き容量は、入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更し、単位はMBで指定します。

4 自動削除のタイミングを設定します。

「アプリケーション終了時」チェックボックス

チェックすると、AOCが終了するときに画像セットが自動削除されます。

「毎日決まった時刻」チェックボックス

毎日指定した時刻にAOCが起動していると、画像セットが自動削除されます。時刻は、入力ボックスに直接数値を入力するか、スピンドットボタン(⇅)を操作して値を変更し、時間で指定します。

5 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

「画像セットの自動削除の設定」ダイアログボックスが閉じます。



画像セットのデータや登録は、アクセスの古い順に削除されます。



各画像セットの取得元は、リストエリアの「取得元」の項目に最大5つまで表示されます。



探しに行く順番は、リムーバブルメディア以外の場所、リムーバブルメディアの順です。



DICOMイメージサーバーからは自動取得しませんので、100ページの「7.1 DICOMイメージサーバーから画像データを受信する(Query/Retrieve)」の手順に従って再度取得してください。



「画像が保管されているメディア」リストには、画像が読み込まれたときの、画像の取得元のボリュームラベルが表示されます。「ドライブ(ボリュームラベル)の指定」コンボボックスで選択できる項目が複数ある場合は、リストの内容を参照してください。



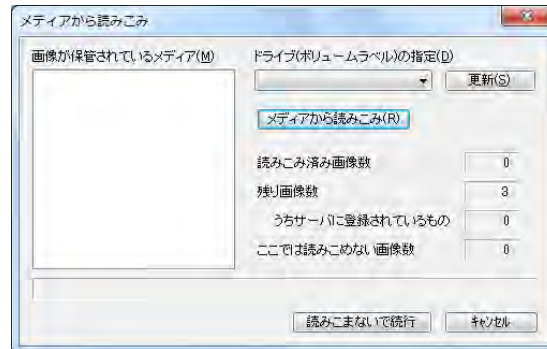
読み込もうとする画像データがすべて取得できるまで、「メディアから読み込み」ウィンドウは閉じません。すべての画像データを読み込まないで操作を続行する場合は、「読み込まないで続行」ボタンをクリックします。

B.2.6 消したデータを自動的に読み込む(自動取得)

AOCには、画像を開く、プリントするなど、画像データが必要な操作をするときに、ローカルデータベースにその画像データが存在しないと(リストウィンドウで斜体字で表示されている画像セット)、画像データの取得元に自動的に探しにいて取得する機能があります。

リムーバブルメディアから自動で読み込む

画像の自動取得の際、取得元にリムーバブルメディアが含まれる場合、画像を開くなどの操作をすると、「メディアから読みこみ」ダイアログボックスが表示されます。



- 1 「メディアから読みこみ」ダイアログボックスが表示された後に、DICOMファイルが保管されているメディアをセットした場合は、「更新」ボタンをクリックします。
「ドライブ(ボリュームラベル)の指定」リストボックスの内容が更新されます。
- 2 「ドライブ(ボリュームラベル)の指定」リストボックスで、DICOMファイルが保管されているメディアを選択します。
- 3 「メディアから読みこみ」ボタンをクリックします。
「メディアから読みこみ」ダイアログボックスが閉じ、指定したメディアから画像データが読み込まれ、操作した動作が続行されます。

「メディアから読みこみ」ウィンドウのその他の項目について

「読みこみ済み画像数」

操作対象の画像のなかで、画像データがすでにローカルデータベース内にあり、読み込み済みの画像の数を表示します。

「残り画像数」

操作対象の画像のなかで、画像データがローカルデータベース内にまだ読み込まれていない画像の数を表示します。

「うちサーバーに登録されているもの」

同一ネットワーク上にAOC Serverが動作している場合、「残りの画像数」に含まれる画像のなかで、AOC Serverに登録だけされている画像の数を表示します。

「ここでは読みこめない画像数」

取得元がリムーバブルメディア以外で、画像データを取得できなかった画像の数を表示します。

リムーバブルメディア以外の取得元からの自動取得

画像の取得元がリムーバブルメディア以外のディレクトリやAOC Serverの場合、画像を開くなどの操作をすると、取得元から自動的に画像データを読み込んで、操作した動作が続行されます。



取得元の画像データが削除されてしまった場合など、画像データの取得に失敗したときは「画像がありません」というエラーメッセージが表示されます。

B.3 Preludioの設定

Preludioオプションをご利用の場合に、Preludioの読み込みに使用するドライブやフォルダ、非DICOM画像の処理、患者情報編集パネルの処理、ワークリストサーバー・PDS、PACSへの送信条件を設定します。

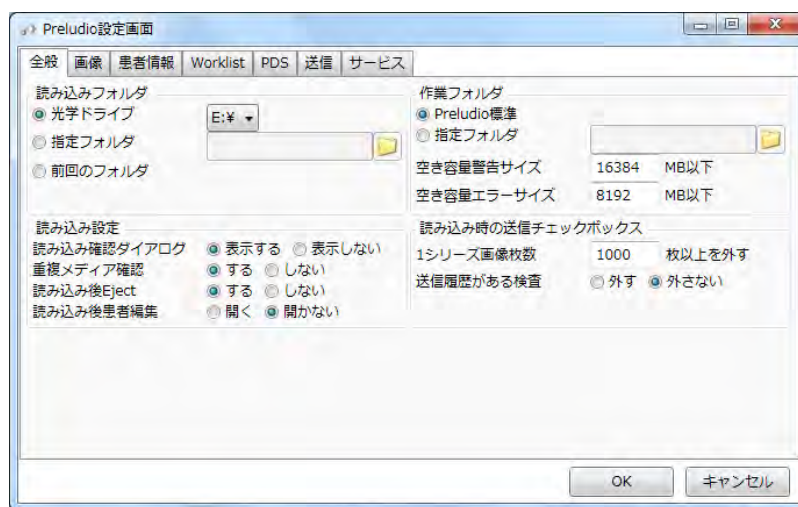
B.3.1 読み込みに使用するドライブやフォルダの設定

読み込みに使用するドライブやPreludio内部で使用する作業フォルダを設定します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。

「Preludio設定画面」が開きます。

- 2 「全般」タブをクリックします。



- 3 以下の設定をします。

「読み込みフォルダ」グループ

初期設定(デフォルト)として使用するドライブまたはフォルダを、以下のラジオボタンをクリックして選択します(インストール直後は「光学ドライブ」、「E: ¥」が指定されています)。

- 「光学ドライブ」：CD/DVDドライブを使います。ドロップダウンリストボックスから使用するドライブを選択してください。
- 「指定フォルダ」：入力ボックスに直接フォルダのパスを入力するか、「フォルダ参照ボタン」(📁)をクリックして「フォルダの参照」ダイアログボックスからフォルダを指定します。
- 「前回のフォルダ」：直前の読み込み時に開いたフォルダがデフォルトになります。前回の読み込み時にCD/DVDドライブを使った場合は、CD/DVDドライブがデフォルトになります。

「読み込み設定」グループ

読み込みを行う前後の確認やイジェクトの動作を設定します。各項目で目的のラジオボタンをクリックして選択してください。

「読み込み確認ダイアログ」

「読み込み」ボタンをクリックしたあとに、読み込みの確認のダイアログボックスを表示するかどうかを設定します。「表示しない」ラジオボタンを選択した場合は、「読み込みフォルダ」グループで指定された場所から読み込まれます。初期設定(デフォルト)は「表示する」です。

「重複メディア確認」

過去に読み込んだことのあるディスクを読み込もうとしたとき、確認のメッセージを表示するかどうかを設定します。初期設定(デフォルト)は「する」です。

「読み込み後Eject」

CD/DVDドライブから読み込みを行った場合、読み込み完了後に自動的にメディアを取り出すかどうかを設定します。初期設定(デフォルト)は「する」です。

「読み込み後患者編集」

「開く」を選択すると、読み込み後、自動的に患者情報編集パネルに切り替わるようにすることができます。初期設定(デフォルト)は「開かない」です。

「作業フォルダ」グループ

Preludio内部で一時的にデータを保存するフォルダを指定します。

標準のフォルダを指定する場合は「Preludio 標準」ラジオボタンを、任意のフォルダを使用する場合は「指定フォルダ」ラジオボタンをクリックして選択します。

「指定フォルダ」を選択した場合は、「フォルダ」入力ボックスに直接フォルダのパスを入力するか、「フォルダ参照」ボタン(📁)をクリックして「フォルダの参照」ダイアログボックスからフォルダを指定します。初期設定(デフォルト)は「標準」です。

「空き容量警告サイズ」入力ボックス

作業フォルダの空きが一定容量以下になった場合に、警告を表示するサイズを設定します。半角数字(単位はMB)で入力します。初期設定(デフォルト)は16,384MBです。

「空き容量エラーサイズ」入力ボックス

作業フォルダの空きが一定容量以下になった場合に、エラーにするサイズを設定します。半角数字(単位はMB)で入力します。初期設定(デフォルト)は8,192MBです。

「読み込み時の送信チェックボックス」グループ

画像の読み込み時にPreludioの送信チェックボックスを自動的に外すかどうかを設定できます。1シリーズに含まれる画像の枚数と、送信履歴の有無を条件として設定します。

「1シリーズ画像枚数」入力ボックス

1シリーズ内に指定した枚数以上の画像が含まれる場合、自動的に送信チェックボックスのチェックが外れ、送信の対象外になります。半角数字で枚数を入力します。初期設定(デフォルト)は1,000枚です。

「送信履歴がある検査」

「外す」をクリックして選択すると、過去に送信したことがある検査はすべて自動的に送信チェックボックスのチェックが外れ、送信の対象外になります。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。



重複メディアの確認は、光学ドライブを使用して読み込んだ場合にのみ行われます。光学ドライブ以外、または、光学ドライブを使用しているにもかかわらずフォルダを指定している場合は、重複メディアの確認は行われません。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。



送信履歴は検査単位で記録されているため、検査内の1つでもシリーズを送信したことがある場合は送信履歴があると認識されます。

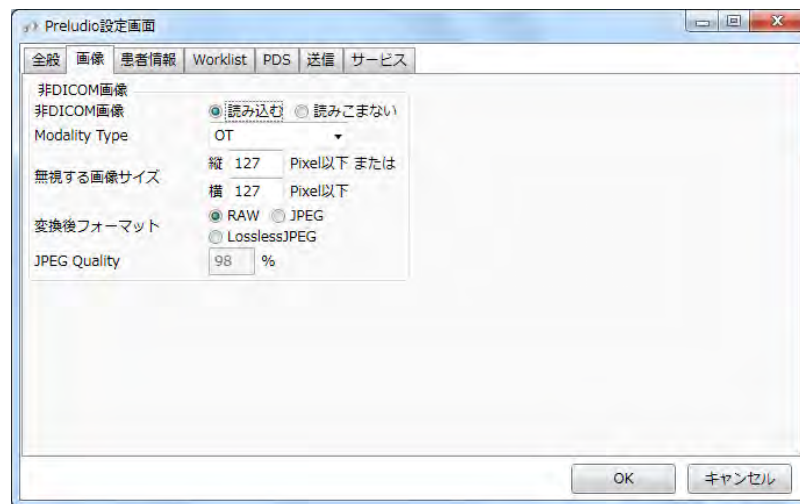


Preludio オプションを使って読み込める非DICOM画像ファイルの形式はBMP、JPEG、およびTIFFです(データの構造によっては、これらのファイル形式でも読み込めない場合があります)。

B.3.2 非DICOM画像の読み込み処理の設定

非DICOM画像を読み込むかどうか、また読み込む場合の処理方法を設定します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。
「Preludio設定画面」が開きます。
- 2 「画像」タブをクリックします。



- 3 「非DICOM画像」グループで、以下の設定をします。

「非DICOM画像」

非DICOM画像を読み込む場合は「読み込む」ラジオボタンを、読み込まない場合は「読み込まない」ラジオボタンをクリックします。初期設定(デフォルト)は「読み込む」です。

「読み込む」を選択した場合でも、下記の「無視する画像サイズ」で設定されたサイズ以下の画像は読み込まれません。また、「読み込まない」を選択した場合は、他の設定にかかわらず非DICOM画像は一切読み込まれません。

「Modality Type」コンボボックス

非DICOM画像を読み込んだとき、どのモダリティの画像として扱うかをドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択するか、または直接入力します。初期設定(デフォルト)は「OT」です。

「無視する画像サイズ」入力ボックス

ここで設定したサイズ以下の画像データを読み込まないようにします。

「縦」「横」それぞれの入力ボックスに半角数字(単位はピクセル)で入力します。

縦横どちらの値が該当しても、その画像は読み込まれません。例えば、縦横とも127ピクセルに設定されていると、画像データが縦128ピクセル以上でも、横が127ピクセル以下の場合には読み込まれません。初期設定(デフォルト)は縦、横ともに「127」です。

「変換後フォーマット」

読み込んだ画像データを変換する画像形式を「RAW」「JPEG」または「LosslessJPEG」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「RAW」です。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。



「Modality Type」コンボボックスで入力された値はDICOM属性として直接使われます。通常は、直接入力せず、ドロップダウンボタンをクリックして選択してください。

「JPEG Quality」入力ボックス

読み込んだ画像データをJPEGに変換する場合の画質を半角数字(単位は%)で入力します。

入力した値が大きいほど高画質になります。初期設定(デフォルト)は98%です。

「変換後フォーマット」で「JPEG」ラジオボタンをクリックした場合のみ有効になり、それ以外をクリックした場合はグレイアウトされます。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。

B.3.3 患者情報の設定

患者情報編集パネルで表示する項目や、必須とする入力項目を設定します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。
「Preludio設定画面」が開きます。
- 2 「患者情報」タブをクリックします。



- 3 以下の設定をします。

「必須入力項目」グループ

患者情報を編集する際に必須とする入力項目のチェックボックスをチェックします。初期設定(デフォルト)では「患者ID」と「患者名(第1パート)」がチェックされています。

「表示/使用項目」グループ

患者情報として表示/使用する項目をチェックします。

ここでチェックされた項目が、患者情報として表示されます。

また、ここでチェックが外されている項目は、「必須入力項目」チェックボックスがグレイアウトされ、必須入力の対象外となります。

初期設定(デフォルト)では「患者ID」「患者名」「生年月日」「性別」すべてがチェックされています。

「患者ID」グループ

「編集後」エリアで入力する患者IDの入力条件(桁数、前方の0の扱い、使用する文字)を設定します。

「桁数」入力ボックス

患者IDの桁数を半角数字で入力して指定します。桁数を固定したくない場合は空欄にしておいてください。初期設定(デフォルト)では空欄になっています。

「前方0削除」

患者IDの前方に「0」が含まれる場合の処理を設定します。

「0」を削除して桁を詰める場合は「する」ラジオボタンを、詰めない場合は「しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「しない」です。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。

「使用文字」

患者IDの文字に数字のみを使用する場合は「数字のみ」ラジオボタンを、数字以外も使用する場合は「指定しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「指定なし」です。

「患者名」グループ

患者名の表記ルールを指定します。

「第1パート」ドロップダウンリストボックス

「Alphabet」「半角カタカナ」「使用しない」から選択します。

初期設定(デフォルト)は「Alphabet」です。

「第2パート」ドロップダウンリストボックス

「漢字」「使用しない」から選択します。

初期設定(デフォルト)は「漢字」です。

「第3パート」ドロップダウンリストボックス

「Alphabet」「半角カタカナ」「全角ひらがな」「全角カタカナ」「使用しない」から選択します。

初期設定(デフォルト)は「全角カタカナ」です。

「Alphabet入力」チェックボックス

入力されたアルファベットを大文字に固定する場合はチェックし、大文字、小文字とも使用する場合はチェックを外します。

初期設定(デフォルト)ではチェックが外れています(大文字、小文字とも使用する設定です)。

「Specific Character Set」グループ

患者名に使用する日本語の文字集合を指定します。

初期設定(デフォルト)は「自動」です(通常はこのままにしておいてください)。

4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。



DICOM規格では、日本語を含む患者氏名は、「=」（イコール）で区切られた3つのパートを使って、下記のように表記します。

<第1パート>=<第2パート>=<第3パート>

- ・ 第1パートには、半角ローマ字、半角カタカナなどの1バイト文字が入ります。
- ・ 第2パートには、漢字などの2バイト文字が入ります。
- ・ 第3パートには、第2パートの読みが入ります。

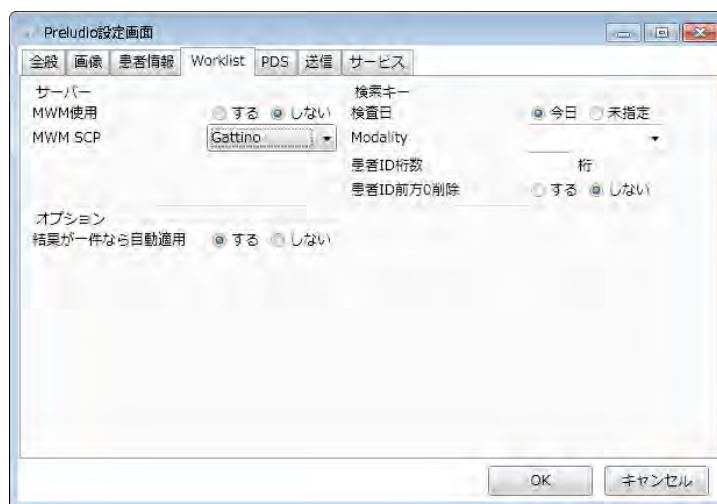


ワークリストサーバーの設定は、ワークリストオプションをご利用の場合のみ行えます。

B.3.4 ワークリストサーバーの設定

患者情報編集パネルで使用するワークリストサーバーの設定をします。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。
「Preludio設定画面」が開きます。
- 2 「Worklist」タブをクリックします。



- 3 以下の設定をします。

「サーバー」グループ

ワークリストサーバーの使用/不使用を設定します。使用する場合はワークリストサーバーを指定します。

「MWM使用」

ワークリストサーバーを使用するかどうかを、「する」または「しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「しない」です。

「MWM SCP」ドロップダウンリストボックス

使用するワークリストサーバーを指定します。

AOCの「ワークリストサーバーの設定」で登録されているサーバーがドロップダウンリストボックスに表示されます。

「検索キー」グループ

検索キーとして使用する項目や処理の方法を指定します。

「検査日」

検索キーの検査日を今日に指定する場合は「今日」ラジオボタンを、指定しない場合は「未指定」ラジオボタンをクリックして選択します。検査日は検索時に変更できます。初期設定(デフォルト)は「今日」です。

「Modality」コンボボックス

検索時にモダリティタイプを固定したいときは、検索キーとするモダリティタイプ(CT、CR、MRなど)を、ドロップダウンボタン(▼)をクリックして選択するか、または直接入力します。モダリティタイプは検索時は入力できません。検索時にモダリティタイプを固定したくない場合は、空欄にしておいてください。初期設定(デフォルト)では空欄になっています。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。

「患者ID桁数」入力ボックス

患者IDの桁数を半角数字で入力して指定します。

検索時に入力した患者IDの桁数が、指定した桁数よりも大きい場合は、入力が受け付けられません。指定した桁数よりも小さい場合は、不足する桁数分だけ先頭から「0」で埋められます。

桁数を固定したくない場合は空欄にしておいてください。初期設定(デフォルト)では空欄になっています。

「患者ID前方0削除」

患者IDの前方に「0」が含まれる場合の処理を設定します。

「0」を削除して桁を詰める場合は「する」ラジオボタンを、詰めない場合は「しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「しない」です。

「オプション」グループ

検索結果が1件のみだった場合の処理を設定します。

自動的に患者情報を適用する場合は「する」ラジオボタンを、適用しない場合は「しない」ラジオボタンをクリックします。初期設定(デフォルト)は「する」です。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。



「Modality」コンボボックスで入力された値はDICOM属性として直接使われます。通常は、直接入力せず、ドロップダウンボタンをクリックして選択してください。

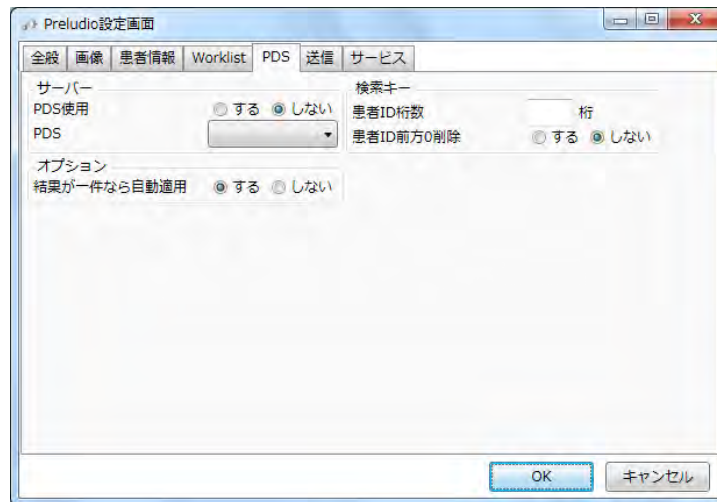


PDSの設定は、ワークリストオプションをご利用の場合のみ行えます。

B.3.5 PDSの設定

患者情報編集パネルで使用するPDSの設定をします。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。「Preludio設定画面」が開きます。
- 2 「PDS」タブをクリックします。



- 3 以下の設定をします。

サーバーグループ

PDSの使用/不使用を設定します。使用する場合はPDSを指定します。

「PDS使用」

PDSを使用するかどうかを、「する」または「しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「しない」です。

「PDS」ドロップダウンリストボックス

使用するPDSを指定します。

「検索キー」グループ

検索キーとして使用する項目や処理の方法を指定します。

「患者ID桁数」入力ボックス

患者IDの桁数を半角数字で入力して指定します。

検索時に入力した患者IDの桁数が、指定した桁数よりも大きい場合は、入力が受け付けられません。指定した桁数よりも小さい場合は、不足する桁数分だけ先頭から「0」で埋められます。

桁数を固定したくない場合は空欄にしておいてください。初期設定(デフォルト)では空欄になっています。

「患者ID前方0削除」

患者IDの前方に「0」が含まれる場合の処理を設定します。

「0」を削除して桁を詰める場合は「する」ラジオボタンを、詰めない場合は「しない」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「しない」です。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。

「オプション」グループ

検索結果が1件のみだった場合の処理を設定します。

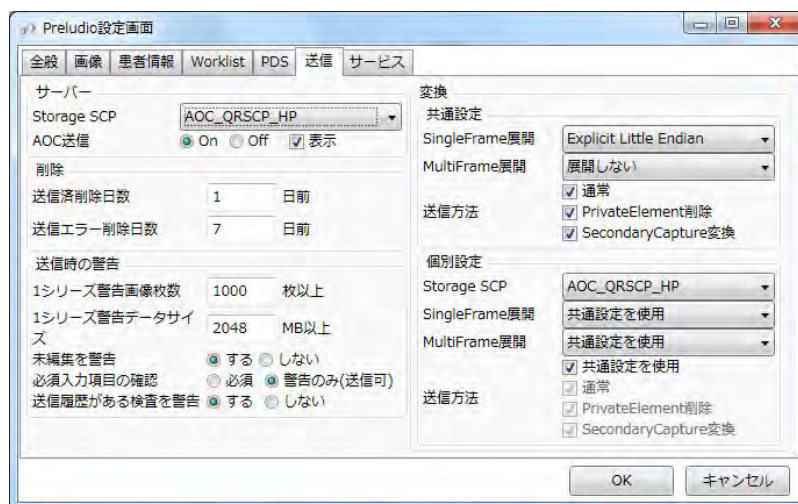
自動的に患者情報を適用する場合は「する」ラジオボタンを、適用しない場合は「しない」ラジオボタンをクリックします。初期設定(デフォルト)は「する」です。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。

B.3.6 送信の設定

読み込んだ画像データをPACSに送信するときの設定をします。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludioの設定」を選択します。
「Preludio設定画面」が開きます。
- 2 「送信」タブをクリックします。



- 3 以下の設定をします。

「サーバー」グループ

読み込んだ画像の送信先サーバーを指定します。また「AOC送信」チェックボックスの状態を設定します。

「Storage SCP」ドロップダウンリストボックス

送信先としてよく使うサーバーを選択します。ここで指定したサーバーが初期設定(デフォルト)として表示されます。

送信先は、Preludio上の「送信先」ドロップダウンリストボックスで変更できます。

「AOC送信」

「AOC送信」チェックボックスの初期設定(デフォルト)を指定します。Preludioの「AOC送信」チェックボックスがチェックされている状態を初期設定にする場合は「On」ラジオボタンを、チェックしない場合は「Off」ラジオボタンをクリックして選択してください。

また、Preludio画面に「AOC送信」チェックボックスを表示する場合は、「表示」チェックボックスをチェックしてください。「表示」チェックボックスのチェックを外すと、Preludioの画面に「AOC送信」の項目は表示されず、常にラジオボタンで選択した動作(「On」または「Off」)になります。

「削除」グループ

送信済や送信エラーになった患者情報が自動的に削除されるまでの日数を指定します。

「送信済削除日数」入力ボックス

Preludioの「送信キュー」タブで送信済になった患者情報を削除する日数を、1日から1,000日までの範囲で半角数字で入力して指定します。

初期設定(デフォルト)は「1」です。



入力内容に不備がある場合、入力ボックスが赤枠で囲まれます。

「送信エラー削除日数」入力ボックス

Preludeの「送信キュー」タブで送信エラーになった患者情報を削除する日数を、1日から1,000日までの範囲で半角数字で入力して指定します。

初期設定(デフォルト)は「7」です。

「送信時の警告」グループ

送信時に警告を表示する条件を指定します。

「1シリーズ警告画像枚数」入力ボックス

1シリーズ内に指定した枚数以上の画像が含まれる場合に警告を表示できます。半角数字で枚数を入力します。初期設定(デフォルト)は1,000枚です。

「1シリーズ警告データサイズ」入力ボックス

1シリーズの画像の合計データサイズが指定したサイズ以上の場合に警告を表示できます。半角数字(単位はMB)でデータサイズを入力します。初期設定(デフォルト)は2,048MBです。

「未編集を警告」

患者情報を編集せずに送信しようとした場合、警告を表示するかどうかを設定できます。「する」または「しない」ラジオボタンをクリックして選択してください。初期設定(デフォルト)は「する」です。

「必須入力項目の確認」

患者情報の必須入力項目に不備があった場合の対応を設定します。

警告画面を表示して送信できないようにする場合は「必須」ラジオボタンを、警告画面のみを表示して送信は可能にする場合は「警告のみ(送信可)」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「警告のみ(送信可)」です。

「送信履歴がある検査を警告」

送信履歴がある検査を送信しようとした場合に、警告を表示するかどうかを設定できます。「する」または「しない」ラジオボタンをクリックして選択してください。

初期設定(デフォルト)は「する」です。

「共通設定」グループ

送信時のシングル/マルチフレーム画像、プライベートエレメント(DICOMの独自拡張タグ)、およびセカンダリキャプチャの扱いを設定します。

「SingleFrame展開」、「MultiFrame展開」ドロップダウンリストボックス

シングルフレーム画像、マルチフレーム画像の処理方法を、「展開しない」「Implicit Little Endian」「Explicit Little Endian」のなかから選択します。

初期設定(デフォルト)は、「SingleFrame展開」が「Explicit Little Endian」、 「MultiFrame展開」が「展開しない」です。

「送信方法」

送信時に行う処理を「通常」「PrivateElement削除」「SecondaryCaputure変換」チェックボックスのなかから必要に応じてチェックします。

チェックした処理が上から順に試されます。送信に失敗すると次の送信方法で再送信されます。初期設定(デフォルト)では、すべてのチェックボックスがチェックされています。



送信履歴は検査単位で記録されているため、検査内の1つでもシリーズを送信したことがある場合は送信履歴があると認識されます。



「個別設定」グループの設定内容は、サーバーごとに記憶され、「Storage SCP」ドロップダウンリストボックスでサーバーを選択することに切り替わります。1つのサーバーの設定をすることに「OK」ボタンをクリックする必要はありません。

「個別設定」グループ

上記の「Single Frame展開」「MultiFrame展開」「送信方法」の設定を、送信するサーバーごとに登録しておくことができます。

「Storage SCP」ドロップダウンリストボックス

設定を登録したい送信先サーバーを選択します。

「SingleFrame展開」「MultiFrame展開」ドロップダウンリストボックス

シングルフレーム画像、マルチフレーム画像の処理方法を、「展開しない」「Implicit Little Endian」「Explicit Little Endian」のなかから選択します。

共通設定を使用する場合は「共通設定を使用」を選択します。

初期設定(デフォルト)では、どちらも「共通設定を使用」です。

「送信方法」

送信に使用する送信方法を「通常」「PrivateElement削除」「SecondaryCaputure変換」の各チェックボックスを必要に応じてチェックします。

共通設定を使用する場合は「共通設定を使用」を選択します。また、「共通設定を使用」を選択した場合、その他のチェックボックスはグレイアウトされず。

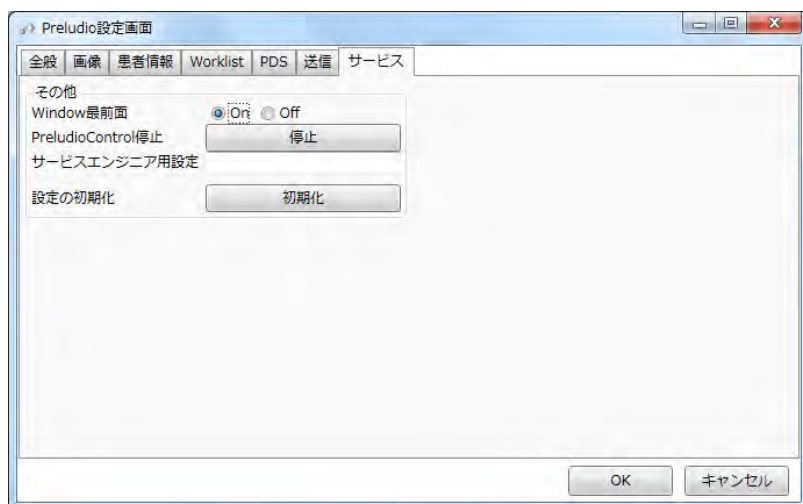
初期設定(デフォルト)は、「共通設定を使用」です。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Preludio 設定画面」が閉じます。

B.3.7 動作と画面表示の設定

Preludeの動作と画面表示を設定します。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「Preludeの設定」を選択します。
「Prelude設定画面」が開きます。
- 2 「サービス」タブをクリックします。



- 3 「その他」グループで以下の設定をします。

「Window最前面」ラジオボタン

Prelude画面を常にデスクトップの最前面に表示させる場合は「On」ラジオボタンを、最前面に表示させない場合は「Off」ラジオボタンをクリックして選択します。初期設定(デフォルト)は「On」です。

「PreludeControl停止」(「停止」) ボタン

PreludeControlを停止する場合はクリックします。
通常は使用しません。

「サービスエンジニア設定」入力ボックス

通常は使用しません。

「設定の初期化」(「初期化」) ボタン

Preludeの設定を初期化する場合はクリックします。
クリックすると、警告のダイアログボックスが表示されます。「初期化する」ボタンをクリックすると、それまでに記憶されていた設定内容が削除され、インストール直後の状態になります。

- 4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。
設定が有効になり、「Prelude設定画面」が閉じます。

B.4 その他の設定

よく使う機能をファンクションキーへ割り当てたり、モダリティタイプごとにプリントサーバーやビューワで開いたときの初期設定をすることができます。

B.4.1 よく使う機能をファンクションキーに登録する

リストウィンドウ、ビューワそれぞれ、よく使う機能をファンクションキーに割り当てることで、それらの操作をキーボードで簡単に行うことができます。

ファンクションキーとは、キーボード上部にあるF1からF12までのキーのことです。

- 1 リストウィンドウの場合は「ツール」メニューから、ビューワの場合は「設定」メニューから、それぞれ「ファンクション・キーの設定」を選択します。

「ファンクション・キーの設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「F1」から「F12」リストボックスで、各ファンクションキーに割り当てる機能を選択します。設定できる機能の詳細については「選択できる機能」を参照してください。

- 3 設定が終わったら「OK」ボタンをクリックします。

設定が有効になり、「ファンクション・キーの設定」ダイアログボックスが閉じます。



設定を出荷時に戻すには「初期化」ボタンをクリックします。

リストウィンドウで選択できる機能

DICOMでプリント

DICOM イメージャでプリントします。

Windowsでプリント

Windows プリンタでプリントします。

DICOMサーバーから読み込み

DICOM イメージサーバーのデータを検索して取得します。

新規画像セットの作成

リストエリアに新規に空の画像セットを作成します。

DICOM ファイルの読み込み

DICOM ファイル単体を読み込みます。

DICOM属性編集

選択した画像セット・画像のDICOM属性を編集します。

DICOM属性編集の設定

編集できるDICOM属性の項目の設定や、施設名・照会医師名などの選択項目の中身を設定します。

前の画像セットへ

いま操作しているリストの1つ上にあるリストの画像セットが開きます。

流れ作業でリストの画像セットを順番に開くとき、いちいち

リストを選択 -> 画像を開く

という操作を繰り返さずに、ファンクションキーを1回押すだけで操作できるので便利です。

「次の画像セットへ」と一緒に設定することをおすすめします。

初期状態では、F11キーが割り当てられています。

次の画像セットへ

いま操作しているリストの1つ下にあるリストの画像セットが開きます。

流れ作業でリストの画像セットを順番に開くとき、いちいち

リストを選択 →画像を開く

という操作を繰り返さずに、ファンクションキーを1回押すだけで操作できるので便利です。

「前の画像セットへ」と一緒に設定することをおすすめします。

初期状態では、F12キーが割り当てられています。

ビューワで選択できる機能

- | | | |
|--------------------|------------------|----------------|
| ・移動ツール | ・領域指定ツール | ・ズームツール |
| ・トーンカーブツール | ・図形選択ツール | ・距離ツール |
| ・曲線の長さツール | ・3点角度ツール | ・4点角度ツール |
| ・多角形面積ツール | ・閉曲線面積ツール | ・矢印+文字ツール |
| ・DICOMプリント | ・画像表示リセット | ・切り抜き |
| ・オブジェクトの削除 | ・画像全体を指定 | ・対象領域の解除 |
| ・全画像を選択 | ・画像選択解除 | ・画像を右90度回転 |
| ・画像を左90度回転 | ・画像を左右反転 | ・画像を上下反転 |
| ・前の画像セットへ | ・次の画像セットへ | ・計測値コピー |
| ・トーンカーブ | ・Windowsプリント | ・長さの比 |
| ・心胸郭比 | ・カレントの画像ビューのみを表示 | |
| ・多くの画像ビューを表示 | ・矢印 | ・一枚表示と多表示の切り替え |
| ・アンテーションレイヤの表示切り替え | | ・シネモード |
| ・トーンカーブの反転 | ・画像をコピー | ・実寸表示 |
| ・比較モード | ・自動スティッチ | ・手動スティッチ |
| ・対応点A-B指定ツール | ・対応点B-C指定ツール | |



「モダリティタイプごとの設定」は、ビューワからも設定することが可能です。その場合は、ビューワのメニューの「設定」から「モダリティタイプごとの設定」を選択してください。ビューワから開いた場合は、現在のモダリティと、調整した設定内容がそのまま反映されて表示されています。

B.4.2 モダリティタイプごとに、プリントやビューワで画像を開くときの初期設定を登録する

モダリティタイプごとに、プリントやビューワで画像を開くときの初期設定を登録しておくことができます。

- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「モダリティタイプごとの設定」を選択します。「モダリティタイプごとの設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「モダリティ」リストで、初期設定を登録したいモダリティを選択します。「一般」を選択して登録された設定は、登録されているモダリティタイプ以外のデータに対して適用されます。すでに登録してあるモダリティの初期設定を変更する場合は、「モダリティ」リストで変更するモダリティを選択します。
- 3 各モダリティのソート順を指定します。「ソート順」グループのなかにある項目の順で画像がソートされます。「ソート順」グループから、ソート順の優先順位を変更したい項目を選び、それぞれ「上へ」「下へ」ボタンをクリックし、変更したい位置まで移動させます。また、項目を選択した状態で「昇順」「降順」ボタンをクリックすることで、その項目の並び順を指定できます。項目の左にある矢印が↑のときは昇順で、↓のときは降順です。「初期設定に戻す」ボタンをクリックすると、ソート順は初期設定の状態に戻ります。
- 4 「フレーム構成」でビューワを開いたときのフレーム数を、横×縦の形式で設定します。設定できる数字は、それぞれ1から8までです。
「画像数が少ないときは自動調整する」チェックボックス
 チェックすると、ビューワで開いた画像の総数が設定したフレーム構成のフレーム数よりも少ない場合に、画像のないフレームができるだけ少なくなるようにフレーム構成を自動調整します。
- 5 「初期表示倍率」リストボックスで、ビューワで画像を開いたときの初期倍率を選択します。
「フレームに合わせる」
 ビューワのフレーム内に画像全体が表示されるように自動的に倍率を調節します。
「1対1表示」
 画像の表示倍率がフレームの大きさにかわりなく、「1.000」倍になります。

- 6 「画像補間」リストボックスで、ビューワで画像を表示するときの補間タイプを選択します。

選択できる補間タイプは以下の3種類です。

「ニアレストネーバー (最近傍: 補間なし)」

「バイリニア(双一次)」

「バイキュービック(双三次)」

「ツール操作中は補間しない」チェックボックス

ビューワのビューツールを操作しているときに画像を補間するかしないを設定します。チェックすると、ツール操作中に画像補間をせず、動作が高速になります。

- 7 「トーンカーブ」リストボックスで画像を開いたときに適用させるトーンを設定します。

ビューワで登録したトーンが選択可能です。リストボックスから適用させたいトーンを選択します。

「データに指定されたトーンを優先する」チェックボックス

画像データで指定されたトーンを優先的に適用します。

- 8 「ガンマ(γ)」コンボボックスで、ビューワで画像を表示するときの、ガンマ(γ) 値の初期値を設定します。コンボボックスから選択するか、直接値を入力することで設定できます。

- 9 「表示操作対象」ラジオボタンで、ビューワで画像を表示するときの、連動の有無を設定します。「シリーズ」ラジオボタンをクリックして選択すると、同一シリーズの画像セットの操作が連動されます。「画像」ラジオボタンをクリックして選択した場合は、連動されず、操作は画像単体で行われます。

- 10 「オーバーレイの設定」ボタンをクリックして「オーバーレイの設定」ダイアログボックスを開き、ビューワで表示する項目、プリント(DICOMプリント、Windowsプリント)時に画像に重ねてプリントする項目を設定します。



「一般に従う」チェックボックス

チェックすると、「一般」で設定された項目と同じになります。

「ビューワでの表示フォントサイズ(最小フォントサイズ)」

ビューワで表示される文字の大きさをピクセル単位で指定します。画像を表示するフレームが小さくなり表示項目が入り切らなくなると、最小フォントサイズで指定されたサイズまで文字が縮小されます。



γ 値については72ページの「5.7.3 γ 値・ γ カーブを変更する」を参照してください。

「プリント・ファイル保存時のフォントサイズ: 画像の縦の長さの() %」

プリント(DICOMプリント、Windowsプリント)時に画像に重ねてプリントされる文字の大きさを、画像の縦の長さに対する割合(%)で指定します。

「上下・前後・左右を表示」チェックボックス

チェックすると、患者の上(T)下(B)、前(A)後(P)、左(L)右(R)の方向を示す文字を表示します。画像データに情報がない場合は表示されません。

「左上」「右上」「左下」「左上」グループ

フレーム内の各位置に表示される項目を指定します。各グループの上の項目からリストボックスで表示内容を設定します。

「項目名」チェックボックスをチェックすると、その項目の名称も表示されます。

オーバーレイとして設定できる項目は以下のとおりです(括弧内は対応するDICOMのタグ番号です)。

PATIENT MODULE ATTRIBUTES

患者名	Patient's Name	(0010,0010)
患者ID	Patient ID	(0010,0020)
生年月日	Patient's Birth Date	(0010,0030)
性別	Patient's Sex	(0010,0040)
年齢	Patient's Age	(0010,1010)

GENERAL STUDY MODULE ATTRIBUTES

検査日	Study Date	(0008,0020)
検査時刻	Study Time	(0008,0030)
参照医師名	Referring Physician's Name	(0008,0090)
検査ID	Study ID	(0020,0010)
受付番号	Accession Number	(0008,0050)
検査記述	Study Description	(0008,1030)
担当医師名	Physician(s) of Record	(0008,1048)
読影医師名	Name of Physician(s) Reading Study	(0008,1060)

GENERAL SERIES MODULE ATTRIBUTES

モダリティ	Modality	(0008,0060)
シリーズ番号	Series Number	(0020,0011)
左右	Laterality	(0020,0060),(0020,0062)
シリーズ日付	Series Date	(0008,0021)
シリーズ時刻	Series Time	(0008,0031)
シリーズ責任医師名	Performing Physicians' Name	(0008,1050)
シリーズ記述	Series Description	(0008,103E)
検査部位	Body Part Examined	(0018,0015)

GENERAL EQUIPMENT MODULE ATTRIBUTES

製造者	Manufacturer	(0008,0070)
施設名	Institution Name	(0008,0080)
ステーション名	Station Name	(0008,1010)
診療科名	Institutional Department Name	(0008,1040)
機種名	Manufacturer's Model Name	(0008,1090)

GENERAL IMAGE MODULE ATTRIBUTES

画像番号	Instance Number	(0020,0013)
画像日付	Content Date	(0008,0023)
画像時刻	Content Time	(0008,0033)
画像タイプ	Image Type	(0008,0008)
取得番号	Acquisition Number	(0020,0012)
取得日	Acquisition Date	(0008,0022)
取得時刻	Acquisition Time	(0008,0032)
取得日・時刻	Acquisition Datetime	(0008,002A)
QC用画像	Quality Control Image	(0028,0300)

*YESのときのみ「QC用画像」と表示します。

アノテーション焼きこみ	Burned In Annotation	(0028,0301)
-------------	----------------------	-------------

*YESのときのみ「アノテーションあり」と表示します。

非可逆圧縮	Lossy Image Compression	(0028,2110)
-------	-------------------------	-------------

*非可逆圧縮画像のときのみ「非可逆圧縮」と表示します。

圧縮率	Lossy Image Compression Ratio	(0028,2112)
-----	-------------------------------	-------------

IMAGE PLANE MODULE ATTRIBUTES

ピクセル間隔	Pixel Spacing	(0028,0030)
スライス厚さ	Slice Thickness	(0018,0050)
スライス位置	Slice Location	(0020,1041)

MR Image Module

Repetition Time	(0018,0080)
Echo Time	(0018,0081)
Inversion Time	(0018,0082)

その他のモジュールに含まれるものでモダリティに共通のもの

KVP	(0018,0060)
変換タイプConversion Type	(0008,0064)

DICOM Attribute 以外の情報

フレーム番号(マルチフレーム画像のフレーム番号)
 Center (現在のCenter 値)
 Width (現在のWidth 値)

「OK」ボタンをクリックすると、「モダリティタイプごとの設定」ダイアログボックスに戻ります。

- 11 「通常使うプリントサーバー」ドロップダウンリストボックスで、そのモダリティの画像をDICOMプリントするときに通常使用するDICOMイメージャを選択します。
- 12 各設定が完了したら、「登録」ボタンをクリックします。
 「モダリティ」リストに選択したモダリティが登録されます。登録済みのモダリティを選択した場合は、設定内容が更新されます。
- 13 続けて他のモダリティを登録または変更する場合は、手順2から10までの操作を繰り返します。
- 14 モダリティの登録を削除したい場合は、「モダリティ」リストで削除したいモダリティを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
 リストから削除されます。
- 15 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。
 設定が有効になり、「モダリティタイプごとの設定」ダイアログボックスが閉じます。



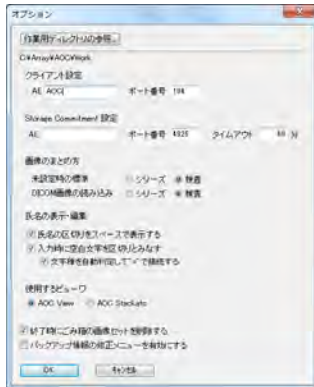
「モダリティタイプごとの設定」で登録されていないモダリティの画像に対しては、「一般」の設定が適用されます。「一般」の内容も、他のモダリティと同様の手順で変更できます。

B.4.3 作業用ディレクトリの設定

作業用ディレクトリは、AOCがローカルデータベース内に画像を取り込むときに、一時的に画像データを置いておくフォルダです。AOCはインストール先のフォルダ内にローカルデータベースの画像を置いておくため、インストールされているディスクドライブに十分な空き容量があることが望ましいですが、作業用ディレクトリを他のディスクドライブに変更する必要がある場合には、「オプション」で変更できます。

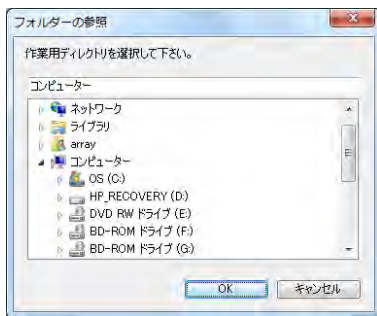
- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。

「オプション」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「作業用ディレクトリの参照」ボタンをクリックします。

「フォルダの参照」ダイアログボックスが開きます。



- 3 「フォルダの参照」ダイアログボックスから、作業用ディレクトリに指定したいフォルダを選択します。

- 4 「OK」ボタンをクリックします。

「フォルダの参照」ダイアログボックスが閉じ、「作業用ディレクトリの参照」ボタンの下に、選択したフォルダのパスが表示されます。

- 5 設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

「オプション」ダイアログボックスが閉じます。



通常は、作業用ディレクトリを変更する必要はありません。



作業用ディレクトリの変更は、「OK」ボタンをクリックし、「オプション」ダイアログボックスが閉じるとすぐに反映されます。

B.4.4 スキャンの設定

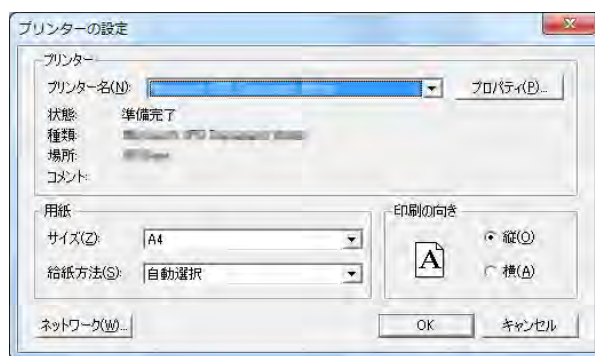
- 1 リストウィンドウの「ツール」メニューから「スキャン設定」を選択します。
「CONFIG」ダイアログボックスが開きます。
- 2 「DICOM属性」「スキャン条件」「対象フィルム」「プリント」「LUT」の各タブで、それぞれの設定を行います。

スキャンの設定に関してはAOC Scanユーザーズガイドを参照してください。

B.4.5 Windowsプリンタの設定

ご使用になるコンピュータに複数のWindowsプリンタが登録されている場合は、プリントするWindowsプリンタを選択します。

- 1 「ツール」メニューから「Windowsプリンタの設定」を選択します。
「プリンタの設定」ダイアログボックスが開きます。



- 2 「プリンタ名」リストボックスでプリントに使用したいプリンタを選択します。
- 3 「OK」ボタンをクリックします。
「プリンタの設定」ダイアログボックスが閉じます。



「プリンタの設定」ダイアログボックスは選択したプリンタによって設定内容が異なります。詳しくは、ご使用になるプリンタのマニュアルを参照してください。

B.4.6 ログファイルの保存

- 1 「ヘルプ」メニューから「ログの保存」を選択します。
「AOC Maintenance」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 「設定ファイル」チェックボックスと「ログ」チェックボックスがチェックされていることを確認し、取得期間を指定します。
ドロップダウンボタン(▼)をクリックすると、カレンダーが表示されるので、目的の日付をクリックして選択します。
- 3 「参照」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログボックスで保存先のフォルダを指定して「OK」ボタンをクリックします。
「保存先を選択してください」欄に保存先のパスが表示されます。
- 4 指定した保存先にログファイルが保存されます。
ログファイルのファイル名は、「LogBackup_YYYYMMDD_hhmmss.zip」となります。
YYYYには年、MMには月、DDには日、hhには時、mmには分、ssには秒が入ります。

付録C

CD/DVD作成ログの参照・書き出し



一覧表示される情報は以下のとおりです：
 発行日時、作成者、患者ID、患者名、検査日、モダリティ、検査UID、ディスクシリアル番号、使用プロトコル、匿名化、プライベートタグ削除、暗号化、パスワード、ディスクタイプ、Webコンテンツ、枚数、シリーズUID*、予約者。

*「表示モード」が「ディスクレベル」のときは表示されません

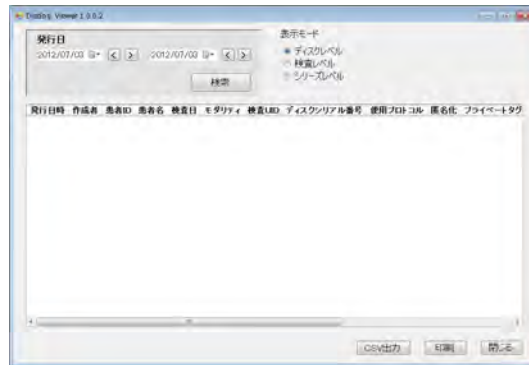
指定した期間のCD/DVD作成ログ(操作履歴)を一覧表示して確認できます。

表示の単位は、検査、ディスク、またはシリーズから選べます。

表示中の操作ログは、印刷したり、CSVファイルとして書き出したりすることもできます。

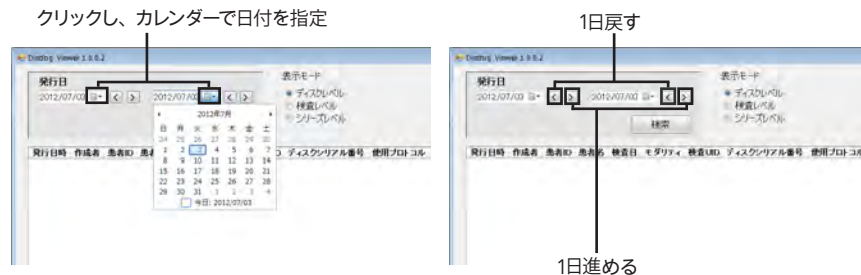
- 1 AOCが起動した状態で、リストウィンドウの「ツール」メニューから「ディスク作成ログの参照」を選択します。

Dislog Viewerが起動し、ウィンドウが開きます。

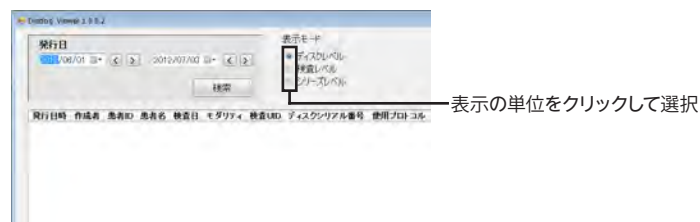


- 2 表示する期間を年月日で指定します。

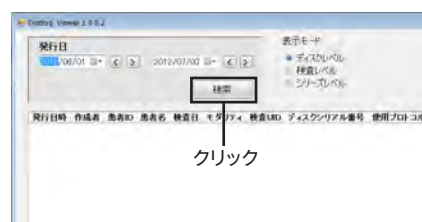
ドロップダウンボタン(▼)をクリックするとカレンダーが表示されるので、日付をクリックして指定します。また、前日ボタン(◀) / 翌日ボタン(▶)をクリックして、日付を1日ずつ戻したり進めたりすることもできます。



- 3 表示の単位を「ディスクレベル」、「検査レベル」、「シリーズレベル」の各ラジオボタンからクリックして選択します。

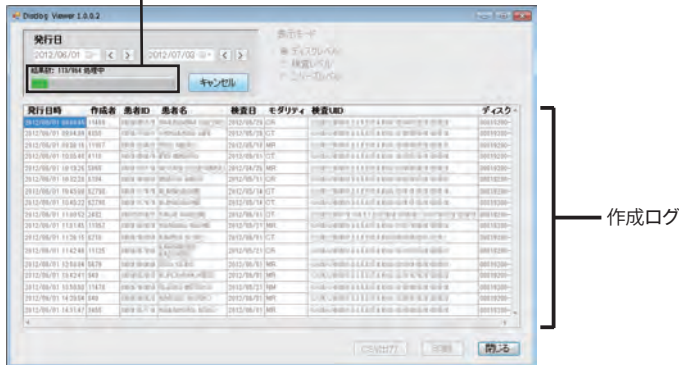


- 4 「検索」ボタンをクリックします。



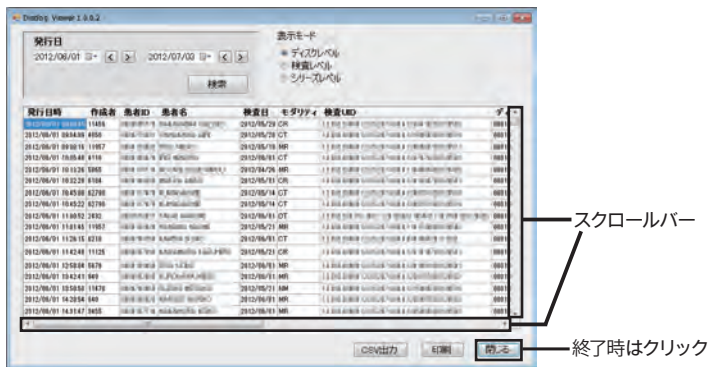
指定した期間と一致した作成ログの表示が開始され、処理中のログの件数とプログレスバーが表示されます。この処理は、ログの件数などによっては時間がかかることがあります。この処理を中止するときは「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

処理件数とプログレスバー



処理が終了すると、件数表示とプログレスバーが消えます。スクロールバーを使うと隠れている項目を確認できます。

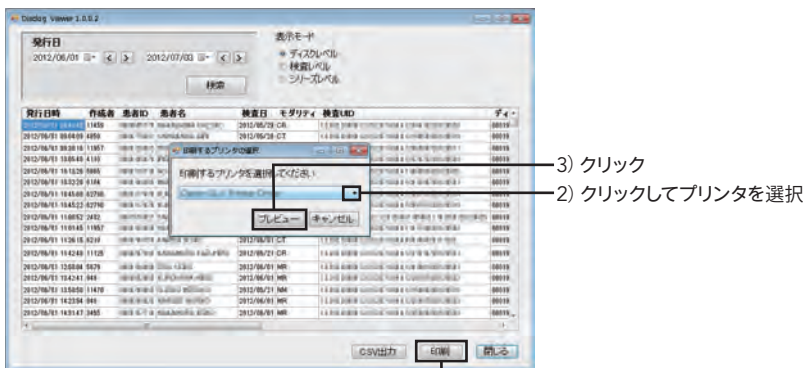
5 終了するときは「閉じる」ボタンをクリックします。



表示内容を印刷するときは

ログが一覧表示されている状態で「印刷」ボタンをクリックしてください。

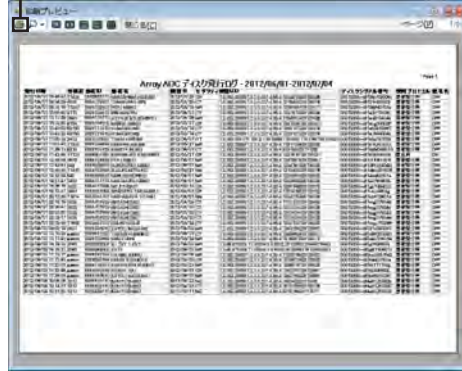
「印刷するプリンタの選択」ダイアログボックスのドロップダウンボタン (▼) をクリックして印刷するプリンタを選択し、「プレビュー」ボタンをクリックします。操作を中止する場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。



印刷イメージが表示されます。

そのまま印刷する場合は印刷ボタン(🖨️)をクリックしてください。操作を中止する場合は「閉じる」ボタンをクリックします。

クリックして印刷

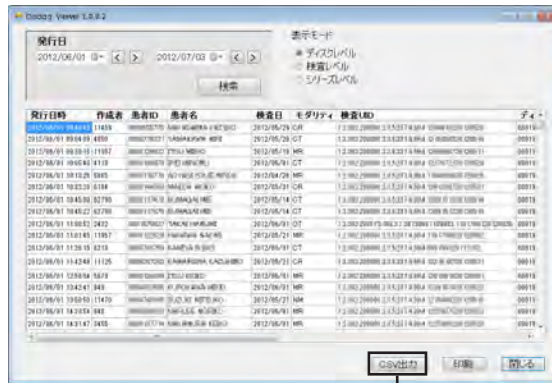


表示内容をCSVファイルで書き出すときは

ログが一覧表示されている状態で「CSV出力」ボタンをクリックしてください。

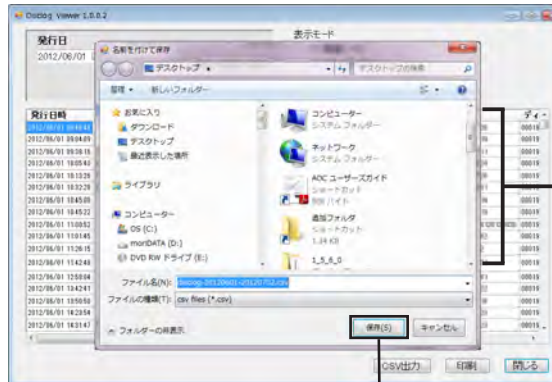


書き出されるCSVファイルのファイル名は、「disclog-YYYYMMDD-YYYYMMDD.csv」となります(YYYYには年、MMには月、DDには日が入ります)。



クリック

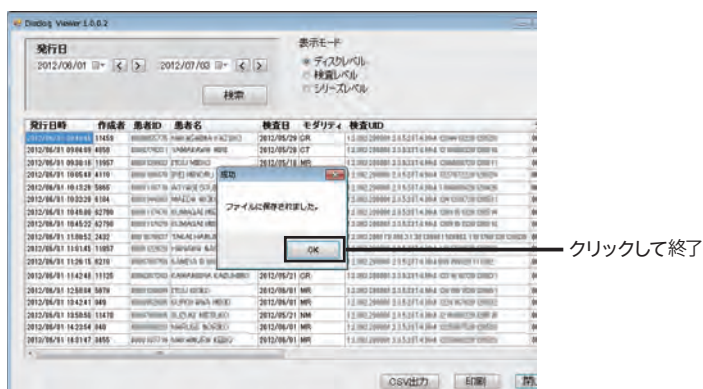
「名前を付けて保存」ダイアログボックスで書き出し先フォルダを指定し、「保存」ボタンをクリックします。操作を中止する場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。



2) クリック

指定したフォルダにログの内容が書き出され、「ファイルに保存されました」というメッセージが表示されます。

「OK」ボタンをクリックするとメッセージが閉じ、操作は終了です。



縦線

付録D

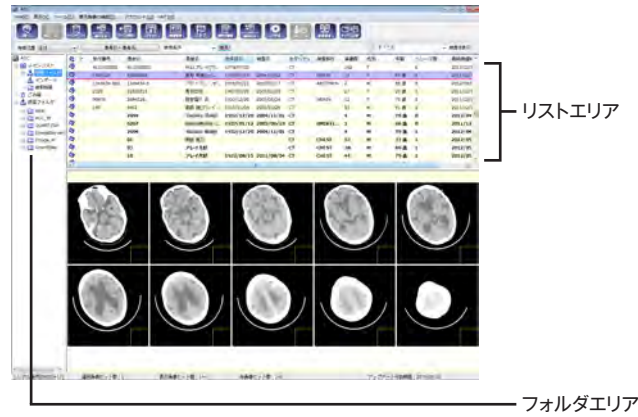
リストの書き出し・印刷



リストエリアに表示されている項目(既読/未読、患者ID、生年月日、年齢など)が、印刷またはCSV形式で書き出される項目になります。印刷または書き出される項目を変更したい場合は、28ページの「4.3.2 リストエリアで表示される検査情報の項目を整理する」を参照の上、リストエリアの表示項目を変更してください。

現在、リストとして表示されている画像セットの一覧を、表(テーブル)にしてCSV形式で書き出すことができます。表を印刷することもできます。

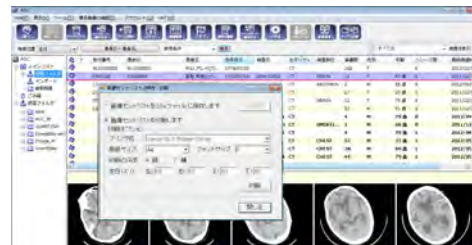
- 1 フォルダエリアから、画像セットの一覧を印刷したいフォルダを選択します。
リストエリアにそのフォルダに含まれる画像セットが表示されます。



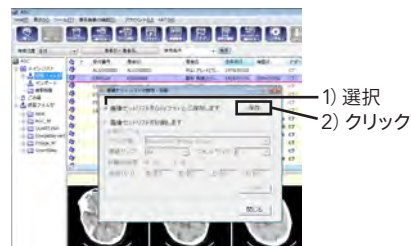
- 2 選択したフォルダ上で右クリックし、メニューから「画像セットリストの印刷」を選択します。



「画像セットリストの保存・印刷」ダイアログボックスが表示されます。

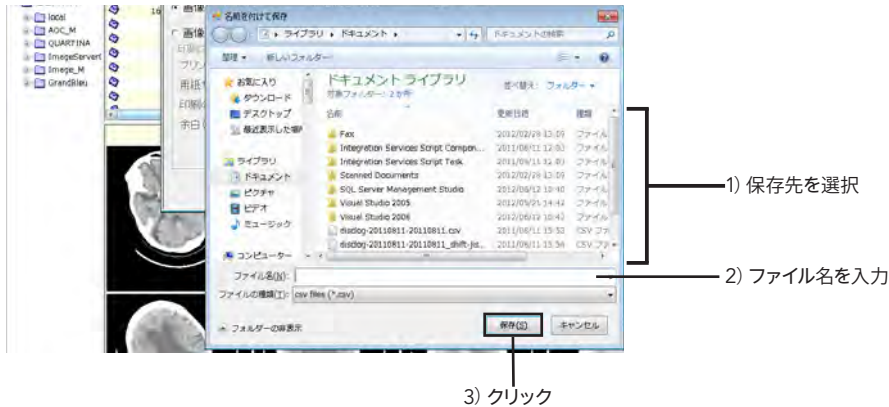


- 3 リストのデータをCSV形式のファイルとして書き出したい場合は、「画像セットリストをCSVファイルに保存します」ラジオボタンを選択し、「保存」ボタンをクリックします。
CSVファイルが不要な場合は、手順5にお進みください。



「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

- 4 CSV ファイルを保存するフォルダを指定し、ファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックします(途中でこの操作を中止するときは、「キャンセル」ボタンをクリックしてください)。



指定したフォルダに、リストエリアに表示されている項目(既読/未読、患者ID、生年月日、年齢など)がCSV形式で書き出され、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが閉じます。

- 5 印刷したい場合は、「画像セットリストを印刷します」ラジオボタンをクリックし、「プリンタ名」ドロップダウンリストボックスから印刷に使うプリンタを選択します。



- 6 印刷オプションを設定します。
「用紙サイズ」ドロップダウンリストボックス
 ドロップダウンボタン(▼)をクリックし、印刷に使う用紙のサイズを選択します。

「フォントサイズ」コンボボックス

ドロップダウンボタン(▼)をクリックし、印刷する文字の大きさを選択します。値を直接入力することもできます。

「印刷の向き」ラジオボタン

「縦」「横」のいずれかを選択します。

「余白(ミリ)」テキストボックス

「上」「下」「左」「右」の各テキストボックスに、上下左右の余白をミリ単位で入力します。

- 7 「印刷」ボタンをクリックします。
 印刷が開始されます。リストエリアに表示されている項目(既読/未読、患者ID、生年月日、年齢など)が印刷されます。

各項目の文字数に制限はありません。表の各項目の幅は、入力されている文字数に応じて、自動的に調整されます。



選択または入力できる値は、使用するプリンタにより異なります。



1行に収まりきらない場合は、折り返されず別のページに印刷されます。

表が1枚に収まりきらない場合、内容は2枚目以降に継続して印刷されます。
 項目名は、表の1行目に印刷されます。表が複数ページにまたがる場合も、項目が各ページの表の1行目に印刷されます。

項目

患者名	モダリティ	施設名	検査日	検査部位	画像数	説明
田中 太郎	CT	東京医科大学	2023-10-10	頭部	1	
山田 花子	CT	東京医科大学	2023-10-10	頭部	1	
鈴木 一郎	CT	東京医科大学	2023-10-10	頭部	1	
佐藤 美咲	CT	東京医科大学	2023-10-10	頭部	1	
高橋 健太	CT	東京医科大学	2023-10-10	頭部	1	

印刷の仕上がりイメージ

付録E

用語解説

DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine)

ダイコムと呼びます。CT、MRなどの医用画像診断装置、医用画像システム、医用画像プリンターなどの間でデジタル画像データを送信、保存、蓄積する方法を定めた国際標準規格です。

DICOMイメージサーバー

DICOMの通信手段を使って医用画像の保存・検索・取り出しなどをするサーバーのことです。

DICOM属性

DICOM規格で定義されて、患者氏名、検査ID、撮影日、画像の大きさなど、画像に付帯する情報のことです。必須のものと、そうでないものがあります。

IHE (Integrating the Healthcare Enterprise)

アイエイチイーと読みます。医療情報システム全体の統合と連携の促進を目的とし、RSNA (北米放射線学会) と HIMSS (病院情報管理システム学会) によって設立されたプロジェクトです。

IHEは、医用情報の国際規格であるDICOMとHL7を使い、医療機関が行うさまざまな業務をPDIやIRWFなどの「統合プロファイル」として整理、標準化しています。

IRWF (Import Reconciliation WorkFlow)

アイアールダブリューエフと読みます。IHEが定める統合プロファイルの一つで、他施設などから持ち込まれたCD-Rなどのポータブルメディアのデータを、自施設で使用するためにインポートし、患者情報などを編集して保存する方法について定めています。

IPアドレス

TCP/IPを使用するとき、個々のコンピュータ・周辺機器・通信機器などに割り当てる番号のこと。0.255までの数4つを「.」で区切ったものです。

MPPS (Modality Performed Procedure Step)

エムピーピーエスと読みます。モダリティによる検査の開始、終了などの情報を医療情報システムに送信することを目的としたDICOM規格の機能のことです。

O.D.

Optical Density (光学濃度) といい、フィルムや紙などにプリントされた画像の小部分の濃さを数値化したものです。

完全に透明なフィルムはO.D.0、透過率1%のフィルムはO.D.が2になるといったように、透過率(反射率)の逆数の10を底にした対数になっています。

OS (Operating System)

オーエスと読みます。コンピュータを利用するための基本的な機能を提供するソフトウェアのことです。通常、コンピュータのソフトウェアは階層的になっています。OSは階層の基礎で動作して、メモリやディスクなどの資源や、さまざまな入出力機器、同時に動くさまざまなプログラムの動作などを管理する役割を果たします。

AOCは、マイクロソフト社製OSであるWindows上で動作します。

PDI (Portable Data for Imaging)

ピーディーアイと読みます。IHEが定める統合プロファイルの一つで、DICOMデータをさまざまな医療機関で利用するためにCD-Rなどのポータブルメディアに保存する方法について定めています。

Print SCP (Print Service Class Provider)

プリント・エスシーピーと読みます。DICOM規格で画像を受け取ってプリントする機能を果たすもののことです。

DICOMイメージャ、DICOMプリントサーバーなどがこれにあたります。

Print SCPにプリントする画像データを送信してプリント機能を利用するものをPrint SCU (Service Class User) と呼びます。

Print SCU (Print Service Class User)

プリント・エスシーユーと読みます。DICOM規格でプリントする画像データを送信してプリントする機能を利用するもののことです。Print SCUから画像を受け取ってプリントする機能を果たすものをPrint SCP (Service Class Provider) と呼び、通常はイメージャが使われます。

SCP (Service Class Provider)

エスシーピーと読みます。DICOM規格で定められた、保存、検索、プリントなど、さまざまな機能を提供するもののことです。

反対に、その機能を利用するものはSCU (Service Class User) と呼びます。

SCU (Service Class User)

エスシーユーと読みます。DICOM規格で定められた、保存、検索、プリントなど、さまざまな機能を利用する機器やソフトウェアのことです。反対に、その機能を提供するものはSCP (Service Class Provider) と呼び、通常はイメージサーバーが使われます。

Storage Commitment

ストレージコミットメントと読みます。DICOMイメージサーバーに送信された情報が、確実に保存されたかどうか確認を要求するDICOM規格の機能のことです。

Storage SCU (Storage Service Class User)

ストレージ・エスシーユーと読みます。DICOM規格で、保存する画像を送信して保存機能を利用するもののことです。画像を受け取って保存する機能を果たすものはStorage SCP (Service Class Provider) と呼び、通常はイメージサーバーが使われます。

TCP/IP

データ通信方式の1つで、インターネットで使われている他、現在では、LAN、コンピュータ、周辺機器などとの間の通信に広く用いられています。

イメージャ

医用画像をフィルムにプリントする画像プリンタのことです。

クライアント


通常、コンピュータシステムは、さまざまな機能を提供する装置やプログラムと、それを利用する装置やプログラムを組み合わせで作られます。

このうち、機能を提供する装置やプログラムのことをサーバー、機能を利用する装置やプログラムのことをクライアントといいます (DICOM規格ではそれぞれSCP、SCUといいます)。

グレイアウト

画面の操作/入力部分がグレイで表示され、操作や入力ができない状態になっていることです。

コンボボックス

画面に表示され、マウスで操作するGUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェイス）要素の一種です。右端にがあり、クリックするとドロップダウンリストが表示され、リストの内容を選択して入力します。

シリーズ

DICOM規格では、診断画像は患者→検査→シリーズ→画像という順で階層的に管理されます。通常、一回の撮影で生成されるいくつかの画像をまとめたものをシリーズといいます。シリーズを特定するために固有のIDが与えられますが、それをSeries Instance UIDといいます。

ドライバ

コンピュータの周辺機器を利用するために、コンピュータ側に必要なソフトウェアです。

周辺機器に指示を出したり、周辺機器の情報を受け取るなど、周辺機器とコンピュータとのデータ転送を受け持ちます。

具体的な構造は、コンピュータやオペレーティングシステムによって異なります。

付録F

エラーコード表

AOCが正しく動作していないときに表示されるエラーコードとメッセージは、以下の表のとおりです。表にないエラーコードとメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店またはアレイ株式会社にお問い合わせください。

画像送信のエラー		
	詳細表示内容	説明
1001	Failed in C-Store association	C-Storeのアソシエーションに失敗しました
1002	Association was rejected(Result %2x Source %2x Reason %2x)	"アソシエーションが拒否されました エラーステータス (Result %2x Source %2x Reason %2x)"
1003	Association was rejected(calling-AE-title-not-recognized)	クライアントのAE Title の設定が違います
1004	Association was rejected(called-AE-title-not-recognized)	サーバーのAE Title の設定が違います
1005	C-Store reponse status error%s(%04x) errComment(%s)	"画像が送信できませんでした エラーコード(%04x), エラーコメント(%s)"
1010	Failed to open DCM file	DICOM ファイルの読み込みに失敗しました
1011	Invalid DCM file	送信するDICOM ファイルが適切ではありません
1012	Failed in DUL_InitializeNetwork	ネットワークの初期化ができません
1013	Failed in SRV_RequestServiceClass	サービスクラスの要求に失敗しました
1014	Failed to C-Store send image data	画像が送信できませんでした
1015	Failed in gethostname	ホスト名が認識できません
1029	Canceled by user	ユーザー操作によって送信がキャンセルされました
1035	N-Event-Report timeout error	N-Event-Report がタイムアウトしました
1036	Check doing before start	Check doing before start
Storage Commitmentのエラー		
3002	Failed in DUL_InitializeNetwork	ネットワークの初期化ができません
3006	Failed N-Action association	N-Action のアソシエーションに失敗しました
3009	Failed in gethostname	ホスト名が認識できません
3010	Failed in SRV_RequestServiceClass	サービスクラスの要求に失敗しました
3011	Rejected N-Action Association	N-Action のアソシエーションに失敗しました
3015	Failed to build N-Action object	N-Action のデータ作成に失敗しました
3016	NAction error response(%s)	N-Action エラー (%s)
3017	Failed to request N-Action	N-Action リクエスト失敗
3020	Received N-Event-Report with failure	N-Event-Report 失敗を受信しました
MPPSのエラー		
2013	Failed N-Create request(peer requested association release)	N-Create の要求に失敗しました (アソシエーションがリリースされた)
2014	Failed N-Create request(peer aborted association)	N-Create の要求に失敗しました (アソシエーションが中断された)
2015	Failed N-Create request(A-P-ABORT detected)	N-Create の要求に失敗しました (A-P-ABORTを受信した)
2016	Failed N-Create request	N-Create の要求に失敗しました
2017	N-CREATE-RSP contains an error status(%04x)	N-Create エラー (%04x)
2021	Failed N-Set request(peer requested association release)	N-Set の要求に失敗しました (アソシエーションがリリースされた)
2022	Failed N-Set request(peer aborted association)	N-Set の要求に失敗しました (アソシエーションが中断された)

2023	Failed N-Set request(A-P-ABORT detected)	N-Set の要求に失敗しました (A-P-ABORTを受信した)
2024	Failed N-Set request	N-Setのリクエストに失敗しました
2025	N-SET-RSP contains an error status(%04x)	N-SET-RSP エラー (%0x4)
2031	Failed in DUL_InitializeNetwork	ネットワークの初期化ができません
2032	Failed in gethostname	ホスト名が認識できません
2033	Failed N-Create association	N-Createのアソシエーションに失敗しました
2034	Failed N-Set association	N-Setのアソシエーションに失敗しました
2035	Failed to release association	アソシエーションのリリースに失敗しました

Table content (mostly blank)

付録G

索引

ダイアログボックス

AEタイトルの入力	211
AOC Maintenance	249
AOC送信状態	102
AOCのプロパティ	184, 185
AOC ユーザーログイン	6
CONFIG	248
DICOM属性編集の設定	215, 218
DICOMファイルの書き出し	18, 120
DICOMファイルの読みこみ	16, 118
アノテーションデータのファイル出力	89
アンインストールの選択	196
オーバーレイの設定	243
オプション	214, 219, 220, 221, 247
画像セットの削除	34, 35, 107
画像の削除	36
画像のソート	76
画像のファイル出力	121
実寸表示の設定	70
詳細	152
詳細検索	44
新規入力	50
ストレージサーバーへ一括送信	105
ストレージサーバーへ送信	10, 102
設定の追加	130, 135
設定名称の入力 ...	187, 199, 203, 206, 208, 212
ツールバーの編集	96
トーンの登録	73
バージョンアップの選択	195, 196
パスワードの変更	176
ビューワ名変更	131
表示設定	78
フォルダオプション	184
フォルダの参照	18, 19, 120, 135, 169, 247
フラグの設定	37
プリンタの設定	139, 248
メディアから読み込み	224
ユーザー情報	174, 175
ラベルプリントの確認	125
リストア・インポート	165, 170
ログファイルの表示	178
ワークリスト検索	15, 57

数字

1対1表示	242
3点角度ツール	84
4点角度ツール	84
8bitsを超える画像は8bitsに変換して保存	121
8bitsを超えるデータを8bitsに変換して出力	155, 201

アルファベット**A**

AE	199, 203, 206, 208-210, 212, 214
AOC_DATA	19, 163-164
AOC DICOM プリント ステータス ...	153, 155
AOC_SVR_DB	185, 186
AOCサーバーから読みこみ	23, 190
AOCサーバーの設定	187

B

BMP	31, 121
-----------	---------

C

Configuration Information	152, 155, 201
---------------------------------	---------------

D

DICOMサーバーからの検索・読み込み ...	100
DICOMサーバーから読みこみ ...	24, 100, 240
DICOMサーバーの設定	199, 203, 206, 208, 210, 212
DICOM属性のコピー	14, 56
DICOM属性の編集の設定	215
DICOM属性編集 ...	11, 14, 17, 31-33, 104, 119
DICOMサーバーに送信	13, 104, 216
DICOMファイルの読み込み	16, 118
DICOMプリント	150, 154

G

GENERAL EQUIPMENT MODULE	
ATTRIBUTES	245
GENERAL IMAGE MODULE	
ATTRIBUTES	245
GENERAL SERIES MODULE	
ATTRIBUTES	244
GENERAL STUDY MODULE	
ATTRIBUTES	244

I
IMAGE PLANE MODULE ATTRIBUTES ...
.....245

J
JPEG 31, 121
JPEG2000 31, 121

M
Media Creation Program ..20, 124, 127–128
Local Image 20, 124
Retrieved Image 127
Stored Image 128
Media Creation Program メディア作成の設定
..... 130, 134, 135, 139, 141, 142
MR Image Module 245

P
PATIENT MODULE ATTRIBUTES 244
PGM 31, 121

Q
QRでの自動書き込みを有効にする 134

R
RAW 121

S
Series Instance UID 13, 204, 219, 264
Storage SCPでの自動書き込みを有効にする
..... 134
Storage SCPでの自動書き込みまでの待ち
時間 134
Study Instance UID 13, 204, 219

T
TIFF 31, 121

W
Windowsプリンタの設定 248
Windowsプリント 9, 156, 159

かな

あ
新しい画像を定期的を取得する 189
あて先(トレイ) 151, 201
MAGAZINE 151, 201
PROCESSOR 151, 201

い
以下の画像はエントリのみ取得する 189
移動 27
移動・ズームツール 68
インフォメーションパレット 64
インポート 170

え
エクスポート 168

お
オーバーレイ 78, 243
オリジナルを再現 151

か
書き込み後にラベルをプリントする 132
ラベルレイアウト 132
書き込み順 133
書き込み対象 133
書き込むビューワのタイプ 131
拡張DICOM属性編集 52, 56
拡張DICOM属性編集の設定 48
画像セットのインポート 171
画像セットの自動削除の設定 222
画像セットを削除 34
画像送信時このサーバーを標準にする 204
画像データの削除 35–36, 36
画像データ・ビューワ以外のファイルを書き込
む 131
画像のまとめ方 204, 219
画像補間 77, 243
画像を開く 8, 60
カレント画像 40
簡易検索 42
患者ごとにメディアを作成する 132
患者情報を匿名化する 132
γ 64, 72, 243

き

キー画像	40, 97
基準設定	95
既読	38-39, 47
極性	151, 155, 158, 201
曲線の長さツール	83
距離ツール	83
切り抜きツール	68

け

計測値コピー	89
現在のトーンカーブを適用	155
現在のトーンカーブを適用して保存	122
現在のトーンを適用してプリント	159
検索アイテム	43
検索バー	24, 43
検索位置	43

こ

このサーバーから画像を取得する	204
このサーバーに画像を送信する	204
コピーモードの濃度設定	202
濃くプリントする	202
自動調整	202
コマ数	151, 154, 158, 200

さ

サーバーへ送信	10, 102, 204
最小濃度	153, 202
最大濃度	153, 202
作業用ディレクトリ	247
作成枚数	130
左右反転	82

し

実寸表示	70
自動書き込み設定	134
自動削除	222
自動取得	224-225
シネ再生	90, 96
シネ表示	
簡易シネ表示	91
受信フォルダ	22, 25
使用可能なフィルムサイズ	200
上下反転	82
初期表示倍率	242
白黒反転	72-73
新規画像セットの作成	31, 240

新規フォルダの作成	25
心胸郭比	87

す

垂直プロファイル	90
水平プロファイル	90
ズームツール・トーンカーブツール操作時に操作領域を作る	78
スティッチング	92
自動スティッチ	92
手動スティッチ	94

せ

接続先 Rimage の設定	
Rimage の共有フォルダ	136
Rimage のポート番号	136
Rimage のホスト名	136
プロダクションサーバー名	136
絶対取得	189
設定名称	150, 154
説明の編集	37
全画像	150, 155, 156, 159
全画像選択	75
全体表示	70
全体を指定	67
選択解除	75
選択画像	40
選択画像の画像データの削除	36
選択画像の削除	36
選択されていないカレント画像	40

そ

操作済みにする	38
送信フォルダ	103
相対指定	188

た

タイムライン	79-80
最初の表示にもどす	79
同部位	79
同モダリティ	79
多角形面積ツール	85

ち

注釈削除	88
注釈選択	88-89
注釈表示	88

つ

通常の設定にロック	53
ツールバー (ビューワ)	64, 96
ツールバー (リストウィンドウ)	23

て

データに指定されたトーンを優先する	243
-------------------	-----

と

トーン調整	152
高濃度部の自動調整	152
濃くプリントする	152
低濃度部の自動調整	152
トーンツール	72
トリム	151, 155, 158, 201

な

長さの比ツール	86
名前の変更	26, 217

の

濃度の設定	153
-------	-----

は

ハードウェアキー	192
媒体	151, 155, 201
パスワードで保護する	132
パスワードのご案内をプリントする	132
パスワードのタイプ	132
バックアップ	19, 162, 164

ひ

左回転	82
ビューワを自動起動する	132
表示操作対象	243
表示名変更	131

ふ

ファンクション・キーの設定	240
フィルムサイズ	150, 154, 200
フィルムの方向	151, 154, 201
フィルムを再現する	154
部数	151, 155, 158, 201
「フッター」入力ボックス	158
プリント定義	200
フルバックアップ	162
フレーム構成	76, 242

へ

閉曲線面積ツール	85
「ヘッダー」入力ボックス	158

ほ

ボーダー	151, 155, 158, 201
ポート番号	199, 204, 207, 208-209
補間タイプ	152, 202
BILINEAR	152, 202
CUBIC	152, 202
NONE	152, 202
REPLICATE	152, 202
補間方式	152, 202
補間方法	152
ホスト名	199, 203, 206

ま

マーカー表示	69
マルチフレーム画像	90

み

右回転	82
未操作にする	38-39
未読	38-39, 47

め

メインリスト	22, 25
メディアの種類	131

も

モダリティタイプごとの設定	242
---------------	-----

や

矢印ツール	88
矢印+文字ツール	88

ゆ

ユーザーアカウントの管理	174, 174-177, 175, 176, 177
AOC ユーザーログイン	6
パスワードの変更	176
優先度	151, 201

よ

要求画像の確認	190
用紙の向き	156
余白(mm)	
上	157

下.....	157
左.....	157
フッター下端.....	157
ヘッダー上端.....	157
右.....	157

リ

リストア.....	165
リストの表示項目の設定.....	28
上へ.....	29
下へ.....	29
選択された項目の幅.....	29
表示しない.....	29
表示する.....	29
フラグの設定.....	29
リセット.....	74
リムーバブルメディア.....	163, 224, 225
領域解除.....	67
領域指定.....	67
リンク.....	26, 35

れ

連動.....	62, 74-75
シリーズ連動.....	75
ビューポート連動.....	62, 75

わ

ワンキーサーチ.....	41
--------------	----